
<第3章 調査の集計結果>

第3章 調査の集計結果

1. 高齢者の保健福祉について

(1) 介護保険のあり方について

問1 介護サービスを利用する人が増えたり、1人あたりのサービス利用額が増えたりすると、各市町において、3年ごとに定める介護保険料の額は高くなる仕組みになっています。このことを踏まえたうえで、介護保険のあり方について、あなたの考え方に最も近いものを、次の中から1つだけ選んでください。

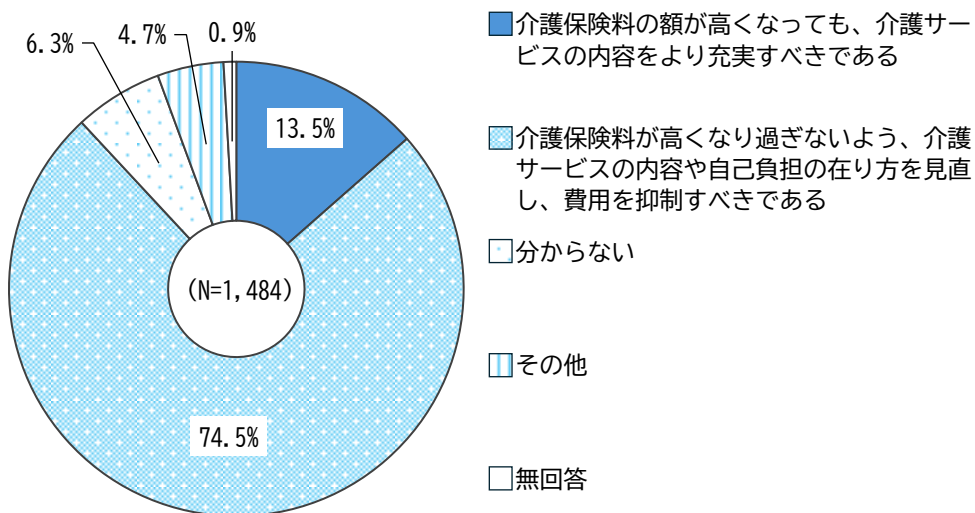
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

1 介護保険料の額が高くなっても、 介護サービスの内容をより充実すべきである	13.5%(13.4%)
2 介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や 自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである	74.5%(74.4%)
3 分からない	6.3%(6.4%)
4 その他	4.7%(4.9%)
(無回答)	0.9%(1.0%)

介護保険のあり方について、「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」74.5%が最も高く、次いで「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」13.5%、「分からない」6.3%、「その他」4.7%となっている。

図表 1- (1) -1 介護保険のあり方について



介護保険のあり方について、性別にみると、男女とも「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が最も高く、『男性』73.5%、『女性』75.4%で、これに男女とも「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」が『男性』15.3%、『女性』12.1%と続いている。

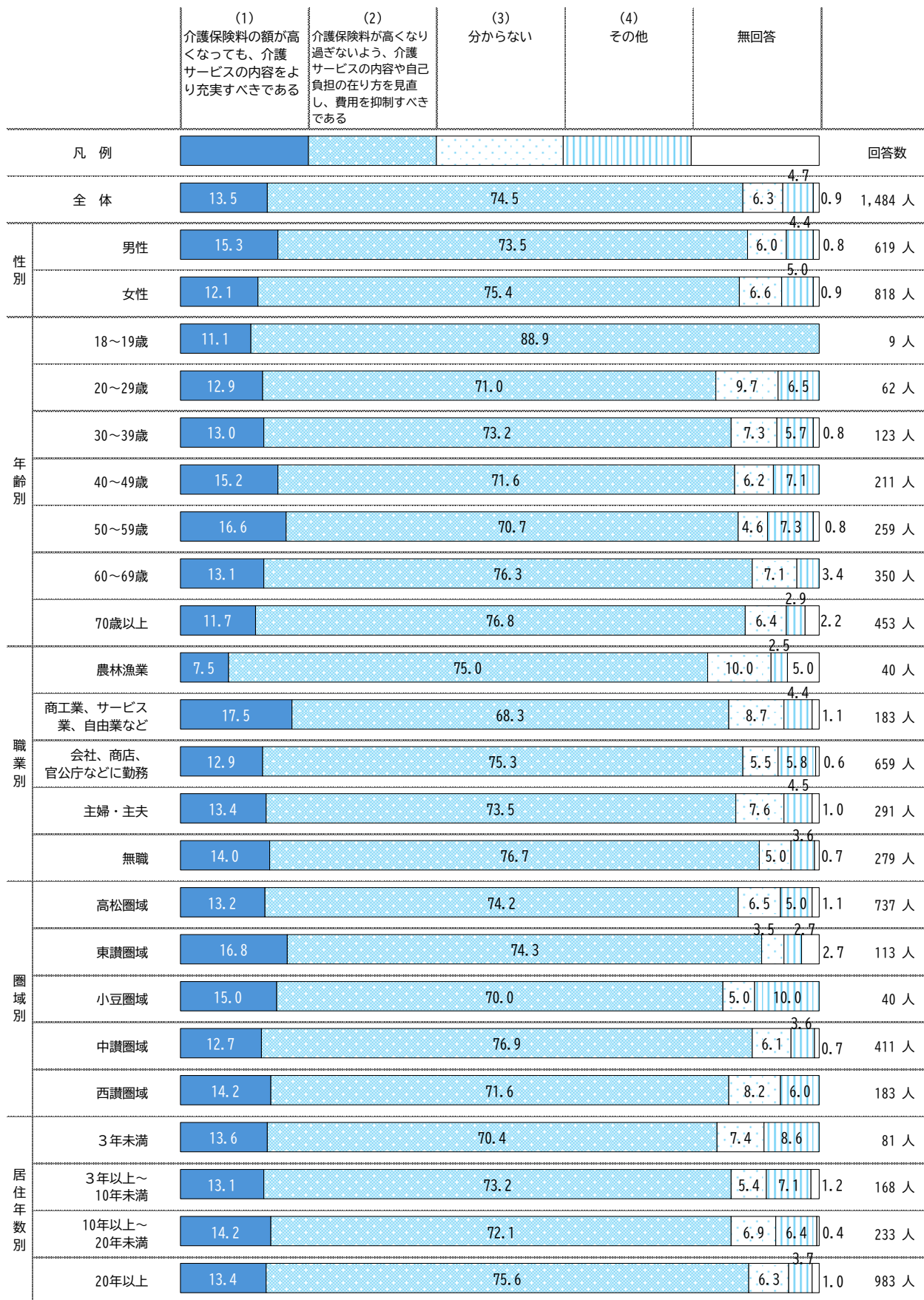
年齢別にみると、いずれも「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が7～8割台と最も高く、『18～19歳』で88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が6～7割台と最も高く、『無職』で76.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が7割台と最も高く、『中讃圏域』で76.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が7割台と最も高く、『20年以上』で75.6%と最も高くなっている。

図表1- (1) -2 【介護保険のあり方について】



グラフ単位：(%)

(2) 将来の住まいと介護サービスの利用について

問2 将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。次の中から1つだけ選んでください。

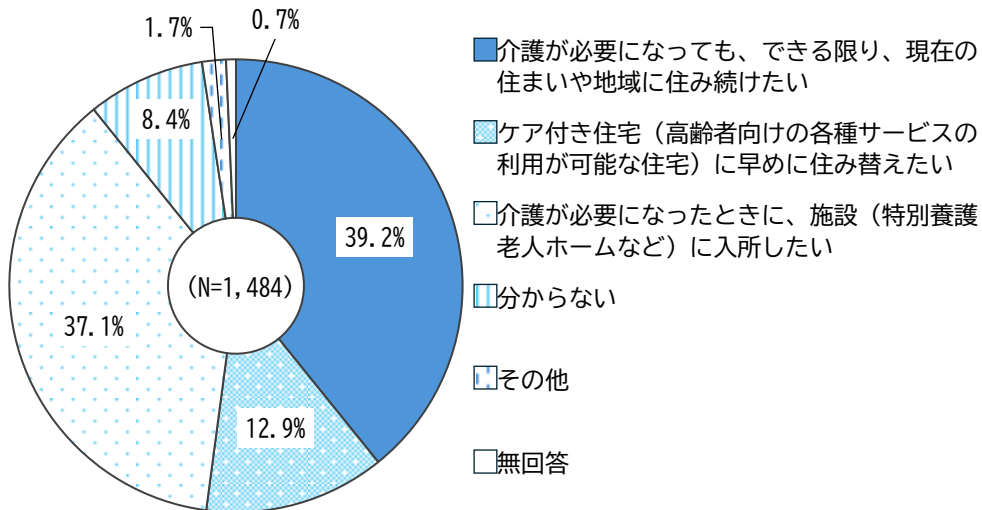
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

1 介護が必要になっても、 できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい	39.2%(38.2%)
2 ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい	12.9%(14.3%)
3 介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい	37.1%(36.0%)
4 分からない	8.4%(9.1%)
5 その他	1.7%(1.7%)
（無回答）	0.7%(0.7%)

将来の住まいと介護サービスの利用について、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」39.2%が最も高く、次いで「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」37.1%、「ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい」12.9%などとなっている。

図表1- (2) -1 将来の住まいと介護サービスの利用について



将来の住まいと介護サービスの利用について、性別にみると、『男性』では「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」45.6%が最も高く、『女性』では「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」39.9%が最も高くなっている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」、「分からない」が同率の33.3%と最も高く、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『60～69歳』では「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」が3～4割台と最も高く、『50～59歳』、『70歳以上』では「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が3～5割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『無職』では「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が4割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」が3～4割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『小豆圏域』、『中讃圏域』では「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が4割台と最も高く、『東讃圏域』、『西讃圏域』では「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」が4割台と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』を除くすべての居住年数で「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」が3割台と最も高く、『20年以上』では「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が44.2%と最も高くなっている。

図表 1- (2) -2 【将来の住まいと介護サービスの利用について】

	(1) 介護が必要になっ ても、できる限 り、現在の住まい や地域に住み続け たい	(2) ケア付き住宅（高 齢者向けの各種 サービスの利用が 可能な住宅）に早 めに住み替えたい	(3) 介護が必要になっ たときに、施設 （特別養護老人 ホームなど）に入 所したい	(4) 分からない	(5) その他	無回答	回答数	
凡 例								
全 体	39.2	12.9	37.1	8.4	1.7	0.7	1,484 人	
性別	男性	45.6	11.1	34.1	7.6	0.5	619 人	
	女性	34.7	14.5	39.9	8.2	0.7	818 人	
年齢別	18～19歳	33.3	22.2	11.1	33.3		9 人	
	20～29歳	29.0	22.6	35.5	12.9		62 人	
	30～39歳	23.6	24.4	34.1	13.0	4.1	0.8	123 人
	40～49歳	29.9	21.3	36.5	9.5	2.4	0.5	211 人
	50～59歳	38.2	17.4	32.4	8.9	1.9	1.2	259 人
	60～69歳	37.4	9.1	43.7	8.0	1.4	0.3	350 人
	70歳以上	50.8	5.3	36.4	5.5	1.1	0.9	453 人
職業別	農林漁業	45.0	5.0	35.0	12.5	2.5	40 人	
	商工業、サービス業、自由業など	41.5	13.1	32.8	8.7	2.7	1.1	183 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	34.9	16.8	38.2	7.9	1.7	0.5	659 人
	主婦・主夫	37.8	10.7	40.9	9.3	0.7	0.7	291 人
	無職	47.0	8.2	34.4	7.2	2.2	1.1	279 人
圏域別	高松圏域	40.4	13.3	35.7	7.9	1.9	0.8	737 人
	東讃圏域	31.9	15.0	41.6	8.8	1.8	0.9	113 人
	小豆圏域	40.0	12.5	37.5	7.5	2.5	40 人	
	中讃圏域	40.9	12.4	35.8	8.8	1.5	0.7	411 人
	西讃圏域	35.0	11.5	43.2	9.3	1.1	183 人	
居住年数別	3年未満	29.6	23.5	37.0	8.6	1.2	81 人	
	3年以上～10年未満	26.2	23.8	36.9	8.9	3.6	0.6	168 人
	10年以上～20年未満	30.5	17.6	36.1	13.3	2.1	0.4	233 人
	20年以上	44.2	9.4	37.3	7.0	1.3	0.8	983 人

グラフ単位：(%)

(3) 施設入所を希望される理由について

【問2で「3」と答えた方にお聞きします】

付問1 施設入所を希望される理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

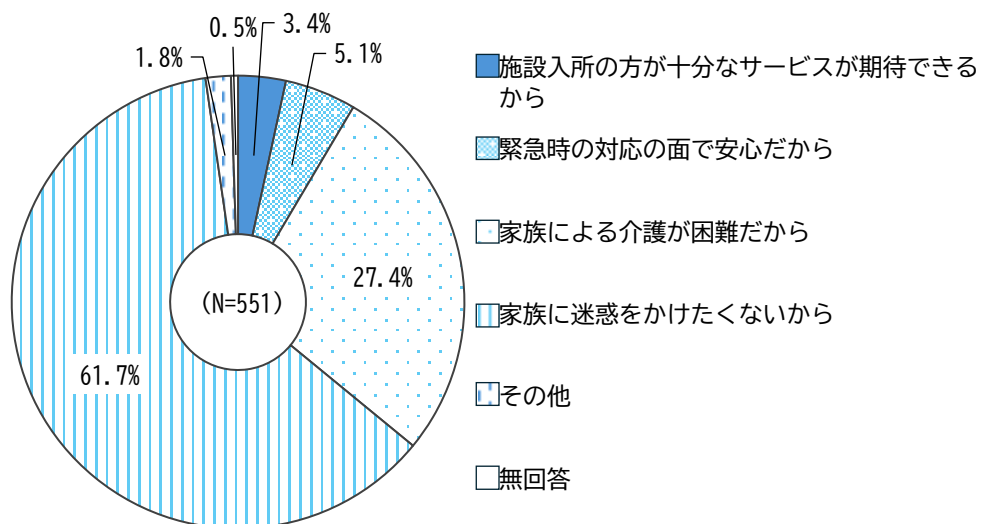
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=551】

1 施設入所の方が十分なサービスが期待できるから	3.4%(4.1%)
2 緊急時の対応の面で安心だから	5.1%(5.2%)
3 家族による介護が困難だから	27.4%(26.9%)
4 家族に迷惑をかけたくないから	61.7%(61.8%)
5 その他	1.8%(1.5%)
(無回答)	0.5%(0.5%)

施設入所を希望される理由について、「家族に迷惑をかけたくないから」61.7%が最も高く、次いで「家族による介護が困難だから」27.4%、「緊急時の対応の面で安心だから」5.1%などとなっている。

図表1- (3) -1 施設入所を希望される理由について



施設入所を希望される理由について、性別にみると、男女とも「家族に迷惑をかけたくないから」が最も高く、『男性』58.3%、『女性』63.2%となっており、これに男女とも「家族による介護が困難だから」が『男性』31.3%、『女性』25.2%と続いている。

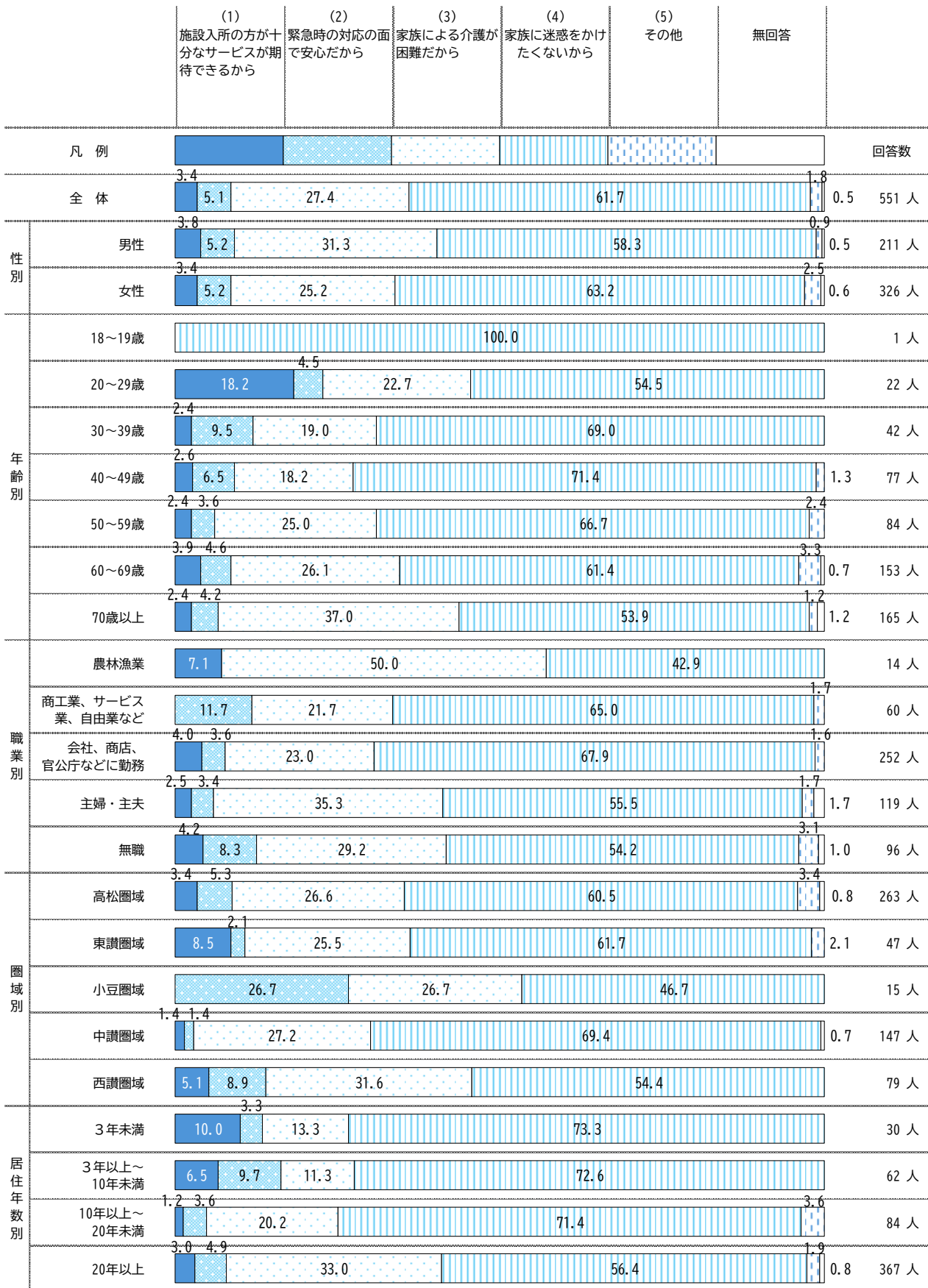
年齢別にみると、『18～19歳』の1人を除くと、いずれも「家族に迷惑をかけたくないから」が5～7割台と最も高く、『40～49歳』で71.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「家族に迷惑をかけたくないから」が5～6割台と最も高く、『農林漁業』では「家族による介護が困難だから」が50.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「家族に迷惑をかけたくないから」が4～6割台と最も高く、『中讃圏域』で69.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「家族に迷惑をかけたくないから」が5～7割台と最も高く、『3年未満』で73.3%と最も高くなっている。

図表1- (3) -2 【施設入所を希望される理由について】



グラフ単位：(%)

(4) 支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについて

問3 地域で何らかの日常生活上の支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、あなたの考え方に最も近いものはどれですか。次の中から1つだけ選んでください。

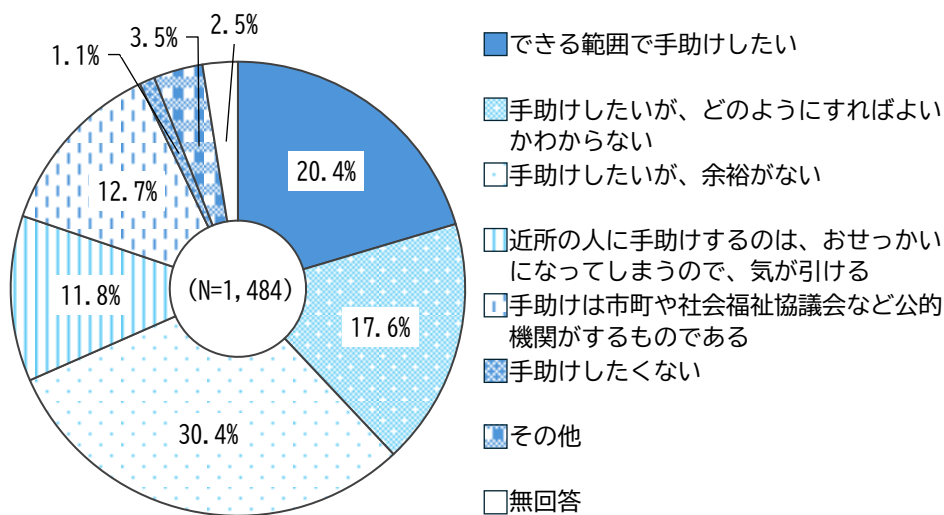
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

1	できる範囲で手助けしたい	20.4%(19.8%)
2	手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない	17.6%(17.6%)
3	手助けしたいが、余裕がない	30.4%(30.2%)
4	近所の人に手助けするのは、おせっかいになってしまうので、気が引ける	11.8%(11.8%)
5	手助けは市町や社会福祉協議会など公的機関がするものである	12.7%(12.9%)
6	手助けしたくない	1.1%(1.2%)
7	その他	3.5%(3.7%)
	(無回答)	2.5%(2.8%)

支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、「手助けしたいが、余裕がない」30.4%が最も高く、次いで「できる範囲で手助けしたい」20.4%、「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」17.6%、「手助けは市町や社会福祉協議会など公的機関がするものである」12.7%などとなっている。

図表1- (4) -1 支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについて



支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、性別にみると、男女とも「手助けしたいが、余裕がない」が最も高く、『男性』31.7%、『女性』30.0%となっており、これに男女とも「できる範囲で手助けしたい」が『男性』19.9%、『女性』20.8%と続いている。

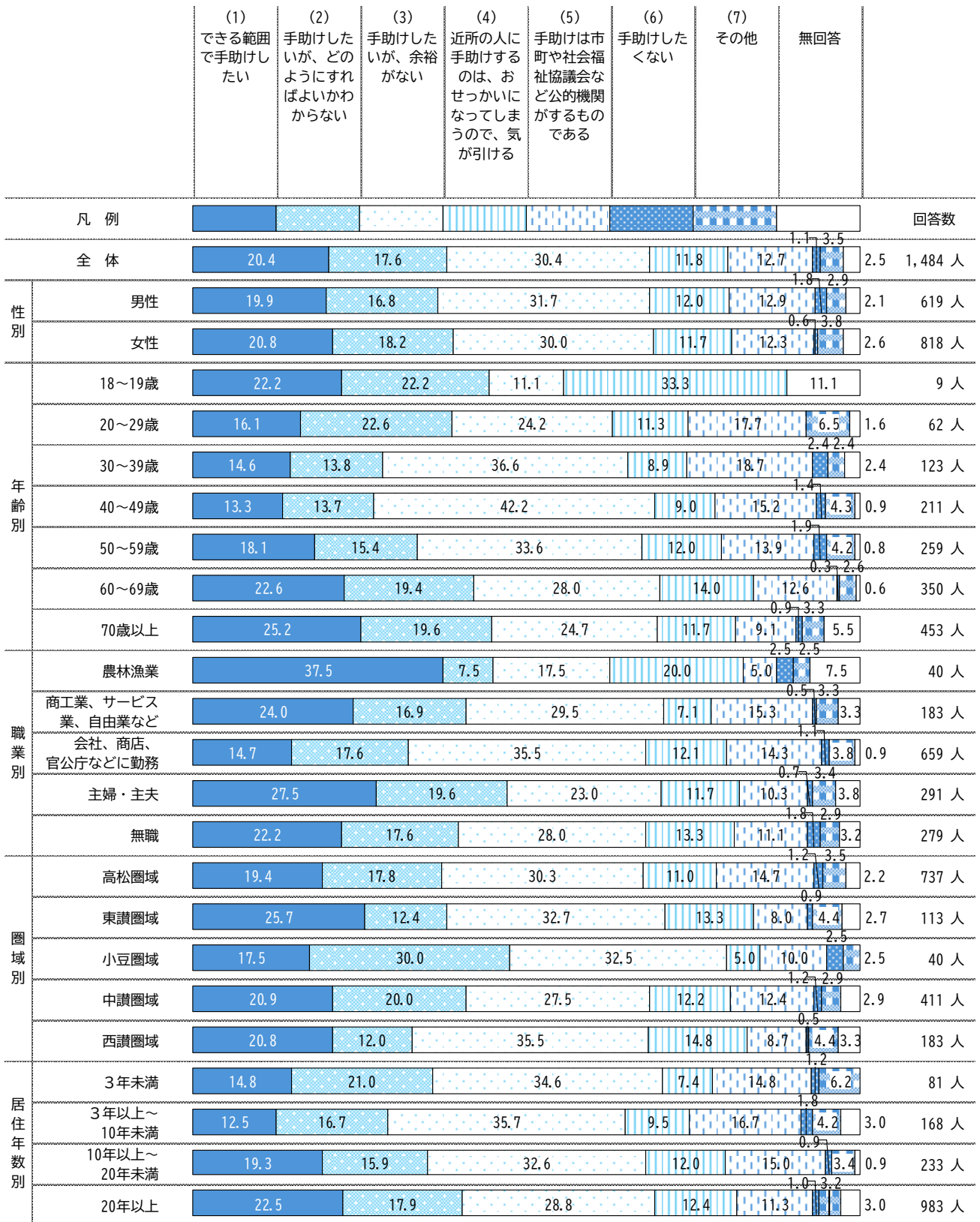
年齢別にみると、『18～19歳』では「近所の人に手助けするのは、おせっかいになってしまうので、気が引ける」が33.3%と最も高く、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』では「手助けしたいが、余裕がない」が2～4割台と最も高く、『70歳以上』では「できる範囲で手助けしたい」が25.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』では「できる範囲で手助けしたい」が2～3割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『無職』では「手助けしたいが、余裕がない」が2～3割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「手助けしたいが、余裕がない」が2～3割台と最も高く、『西讃圏域』で35.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「手助けしたいが、余裕がない」が2～3割台と最も高く、『3年以上～10年未満』で35.7%と最も高くなっている。

図表1- (4) -2 【支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについて】



グラフ単位：(%)

(5) 今後も高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策について

問4 今後も高齢化が進行していく社会において、あなたが重要と思われる方策はどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】 ※回答数の多い順に並べ替え

1 健康づくりや介護予防	58.0%(57.3%)
2 住宅や交通などの住環境の充実	54.6%(53.5%)
3 地域医療の充実	43.7%(42.7%)
4 介護サービス施設などの量的充実	42.9%(42.1%)
5 介護サービスの質の向上	41.4%(39.6%)
6 高齢者活躍の場の確保（活躍の場への誘導）	40.6%(40.0%)
7 認知症高齢者施策の推進	36.1%(35.1%)
8 地域で支え合う体制の充実	34.8%(34.0%)
9 災害時の援護体制の整備	32.5%(32.0%)
10 犯罪被害の防止	22.8%(23.0%)
11 交通安全の確保	19.3%(20.6%)
12 高齢者虐待の防止	18.1%(18.4%)
13 その他	3.4%(3.9%)
(無回答)	0.9%(1.0%)

今後も高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策について、「健康づくりや介護予防」58.0%が最も高く、次いで「住宅や交通などの住環境の充実」54.6%、「地域医療の充実」43.7%、「介護サービス施設などの量的充実」42.9%などとなっている。

図表 1- (5) -1 今後も高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策について

		回答数
全 体	100.0	1,484 人
(1) 健康づくりや介護予防	58.0	860 人
(2) 住宅や交通などの住環境の充実	54.6	810 人
(3) 地域医療の充実	43.7	648 人
(4) 介護サービス施設などの量的充実	42.9	637 人
(5) 介護サービスの質の向上	41.4	614 人
(6) 高齢者活躍の場の確保（活躍の場への誘導）	40.6	603 人
(7) 認知症高齢者施策の推進	36.1	535 人
(8) 地域で支え合う体制の充実	34.8	517 人
(9) 災害時の援護体制の整備	32.5	483 人
(10) 犯罪被害の防止	22.8	338 人
(11) 交通安全の確保	19.3	286 人
(12) 高齢者虐待の防止	18.1	269 人
(13) その他	3.4	50 人
無回答	0.9	13 人

グラフ単位：（％）

今後も高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策について、性別にみると、『男性』では「健康づくりや介護予防」が57.5%と最も高く、『女性』では「住宅や交通などの住環境の充実」が60.1%と最も高くなっている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『40～49歳』、『70歳以上』では「健康づくりや介護予防」が5～6割台と最も高く、『20～29歳』、『30～39歳』、『50～59歳』、『60～69歳』では「住宅や交通などの住環境の充実」が5～6割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』を除くすべての職業で「健康づくりや介護予防」が5～6割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「住宅や交通などの住環境の充実」が57.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「健康づくりや介護予防」が5割台と最も高く、『東讃圏域』では「住宅や交通などの住環境の充実」が63.7%と最も高く、『小豆圏域』では「健康づくりや介護予防」、「地域医療の充実」が同率の62.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「住宅や交通などの住環境の充実」が5～6割台と最も高く、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「健康づくりや介護予防」が5割台と最も高くなっている。

図表 1- (5) -2 【今後も高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策について】

	全体	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	無回答
		健康づくりや介護予防	実住宅や交通などの住環境の充	地域医療の充実	介護サービス施設などの量的	介護サービスの質の向上	の高齢者活躍の場の確保（活躍	認知症高齢者施策の推進	地域で支え合う体制の充実	災害時の援護体制の整備	犯罪被害の防止	交通安全の確保	高齢者虐待の防止	その他	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=		1位	2位												
全体	1,484	58.0	54.6	43.7	42.9	41.4	40.6	36.1	34.8	32.5	22.8	19.3	18.1	3.4	0.9
性別															
男性	619	57.5	47.5	40.4	42.5	38.1	37.8	34.7	30.4	29.7	22.0	17.9	15.5	3.7	0.5
女性	818	58.7	60.1	46.6	43.8	44.4	43.3	37.2	38.8	35.1	23.2	20.4	20.0	2.8	1.0
年齢別															
18～19歳	9	66.7	22.2	22.2	22.2	11.1	33.3	11.1	11.1	33.3	11.1	22.2	22.2	-	11.1
20～29歳	62	50.0	51.6	40.3	40.3	25.8	32.3	30.6	25.8	27.4	25.8	30.6	19.4	9.7	-
30～39歳	123	48.8	61.8	39.0	44.7	38.2	37.4	30.9	33.3	31.7	23.6	31.7	17.9	5.7	1.6
40～49歳	211	56.9	51.2	46.4	42.2	44.1	48.8	36.0	32.7	30.3	22.3	19.0	19.4	5.7	-
50～59歳	259	56.4	64.1	40.2	45.6	40.9	47.5	39.0	37.1	29.7	29.7	21.6	21.6	3.9	0.8
60～69歳	350	58.9	59.4	47.4	46.9	45.7	39.7	37.1	34.0	35.1	19.1	15.4	16.3	2.0	0.6
70歳以上	453	61.6	46.8	44.4	39.1	41.1	36.2	35.5	37.5	34.2	21.6	16.6	16.6	1.5	1.3
職業別															
農林漁業	40	55.0	50.0	35.0	37.5	27.5	30.0	30.0	45.0	35.0	22.5	17.5	12.5	-	-
商工業、サービス業、自由業など	183	57.4	56.3	35.0	41.0	43.7	41.5	33.9	35.0	29.5	30.6	19.1	20.2	5.5	1.1
会社、商店、官公庁などに勤務	659	55.4	57.8	44.2	44.9	41.9	45.8	36.9	33.2	30.5	21.5	20.3	16.2	3.9	0.5
主婦・主夫	291	61.2	58.8	52.2	43.6	46.0	38.5	38.5	41.2	37.1	22.3	21.3	22.3	1.7	1.0
無職	279	61.6	43.7	41.2	39.8	36.6	33.0	33.0	31.9	34.8	21.9	16.1	18.3	2.5	1.4
圏域別															
高松圏域	737	57.3	54.7	44.2	42.5	42.5	41.1	35.5	34.7	33.5	22.8	20.9	19.7	3.4	0.8
東讃圏域	113	54.0	63.7	46.0	39.8	43.4	38.1	32.7	44.2	37.2	21.2	15.0	15.0	0.9	0.9
小豆圏域	40	62.5	45.0	62.5	50.0	25.0	52.5	47.5	35.0	40.0	25.0	17.5	12.5	2.5	-
中讃圏域	411	59.6	52.1	40.6	42.8	39.9	40.4	38.0	33.1	26.0	23.4	17.3	16.8	3.9	1.2
西讃圏域	183	58.5	56.3	42.6	45.4	42.6	38.3	33.3	33.3	38.8	21.9	20.2	18.0	3.8	0.5
居住年数別															
3年未満	81	45.7	53.1	42.0	40.7	35.8	35.8	37.0	28.4	29.6	27.2	22.2	23.5	7.4	1.2
3年以上～10年未満	168	50.6	61.9	53.6	51.2	51.2	42.3	36.9	38.1	30.4	26.2	22.0	20.8	3.6	0.6
10年以上～20年未満	233	59.7	55.4	38.6	45.1	37.3	44.6	33.0	31.3	31.3	21.5	19.7	21.5	4.3	0.9
20年以上	983	59.8	53.7	43.7	41.2	41.3	40.0	36.2	35.9	33.6	22.3	18.6	16.5	2.7	0.9

(6) 今までに認知症の人と接したことがあるかについて

問5 あなたは今までに認知症の人と接したことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。(注：ご自身が認知症であると言われた場合にも「ある」を選んでください。)

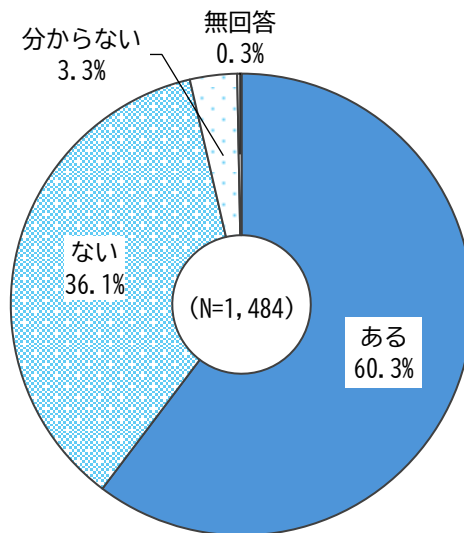
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

1 ある	60.3%(58.1%)
2 ない	36.1%(38.0%)
3 分からない	3.3%(3.4%)
(無回答)	0.3%(0.5%)

今までに認知症の人と接したことがあるかについて、「ある」60.3%、「ない」36.1%、「分からない」3.3%となっている。

図表1- (6) -1 今までに認知症の人と接したことがあるかについて



今までに認知症の人と接したことがあるかについて、性別にみると、男女とも「ある」が最も高く、『男性』56.4%、『女性』63.7%で、これに男女とも「ない」が『男性』39.1%、『女性』33.7%と続いている。

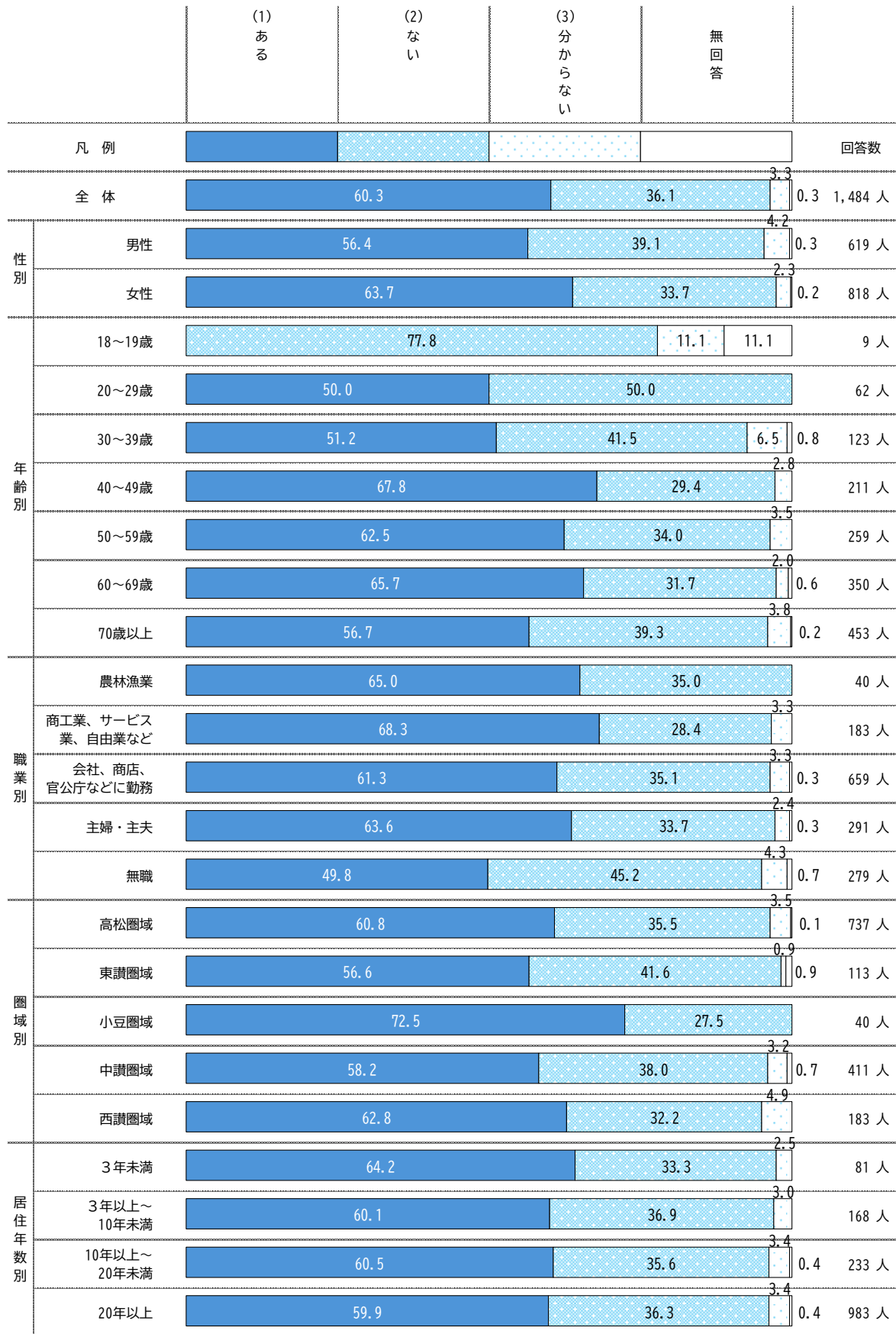
年齢別にみると、『18～19歳』では「ない」が77.8%と最も高く、『20～29歳』では「ある」、「ない」が同率の50.0%となっている。30歳以上では「ある」が5～6割台と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ある」が4～6割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』で68.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ある」が5～7割台と最も高く、『小豆圏域』で72.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「ある」が5～6割台と最も高く、『3年未満』で64.2%と最も高くなっている。

図表1-(6)-2 【今までに認知症の人と接したことがあるかについて】



グラフ単位：(%)

(7) 認知症の人と接した経験について

【問5で「1」と答えた方にお聞きします】

付問2 認知症の人と接した経験のうち、次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=895】※回答数の多い順に並べ替え

1	家族の中に認知症の人がいる (いた)	56.4%(54.5%)
2	親戚の中に認知症の人がいる (いた)	31.4%(31.3%)
3	近所付き合いの中で、認知症の人と接したことがある	25.1%(24.6%)
4	医療・介護の現場で働いている (いた) ため、認知症の人と接したことがある	19.9%(21.5%)
5	街中などで、たまたま認知症の人を見かけたことがある	9.4%(9.3%)
6	医療・介護の現場以外の仕事を通じて、認知症の人と接したことがある	8.2%(8.1%)
7	ご自身が認知症であると言われた	0.7%(0.6%)
8	その他	2.7%(2.6%)
9	分からない	0.1%(0.1%)
	(無回答)	1.0%(1.2%)

認知症の人と接した経験について、「家族の中に認知症の人がいる (いた)」56.4%が最も高く、次いで「親戚の中に認知症の人がいる (いた)」31.4%、「近所付き合いの中で、認知症の人と接したことがある」25.1%、「医療・介護の現場で働いている (いた) ため、認知症の人と接したことがある」19.9%などとなっている。

図表 1- (7) -1 認知症の人と接した経験について

		回答数
全 体	100.0	895 人
(1) 家族の中に認知症の人がいる (いた)	56.4	505 人
(2) 親戚の中に認知症の人がいる (いた)	31.4	281 人
(3) 近所付き合いの中で、認知症の人と接したことがある	25.1	225 人
(4) 医療・介護の現場で働いている (いた) ため、認知症の人と接したことがある	19.9	178 人
(5) 街中などで、たまたま認知症の人を見かけたことがある	9.4	84 人
(6) 医療・介護の現場以外の仕事を通じて、認知症の人と接したことがある	8.2	73 人
(7) ご自身が認知症であると言われた	0.7	6 人
(8) その他	2.7	24 人
(9) 分からない	0.1	1 人
無回答	1.0	9 人

グラフ単位： (%)

認知症の人と接した経験について、性別にみると、男女とも「家族の中に認知症の人がいる(いた)」が最も高く、『男性』53.6%、『女性』58.0%で、これに男女とも「親戚の中に認知症の人がいる(いた)」が『男性』33.5%、『女性』30.1%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「家族の中に認知症の人がいる(いた)」が3～6割台と最も高く、『60～69歳』で66.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「家族の中に認知症の人がいる(いた)」が5～6割台と最も高く、『農林漁業』では「家族の中に認知症の人がいる(いた)」、「親族の中に認知症の人がいる(いた)」が同率の50.0%となっている。

圏域別にみると、いずれも「家族の中に認知症の人がいる(いた)」が5～6割台と最も高く、『小豆圏域』で69.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「家族の中に認知症の人がいる(いた)」が5割台と最も高く、『10年以上～20年未満』で59.6%と最も高くなっている。

図表 1- (7) -2 【認知症の人と接した経験について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	無回答	
		家族の中に認知症の人がいる(いた)	親戚の中に認知症の人がいる(いた)	と近所付き合いの中で、認知症の人と接したことがある	め医療・介護の現場で働いている(いた)た	こ街中などで、たまたま認知症の人を見かけた	症の療・介護の現場以外の仕事を通じて、認知	ご自身が認知症であると言われた	その他	分からない		
全体		895	56.4	31.4	25.1	19.9	9.4	8.2	0.7	2.7	0.1	1.0
性別	男性	349	53.6	33.5	25.8	11.2	12.3	8.9	1.1	2.0	-	0.3
	女性	521	58.0	30.1	25.3	25.9	7.9	7.3	0.4	3.1	0.2	1.3
年齢別	18~19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20~29歳	31	45.2	29.0	9.7	38.7	9.7	3.2	-	-	-	3.2
	30~39歳	63	39.7	34.9	14.3	36.5	9.5	9.5	-	-	-	-
	40~49歳	143	60.8	27.3	14.7	28.0	8.4	9.8	0.7	2.1	-	0.7
	50~59歳	162	57.4	29.0	18.5	19.8	9.3	10.5	0.6	1.9	0.6	0.6
	60~69歳	230	66.1	32.2	20.9	17.8	10.0	7.0	0.4	1.7	-	-
	70歳以上	257	49.4	33.5	44.0	11.7	9.7	6.6	1.2	5.4	-	2.3
職業別	農林漁業	26	50.0	50.0	46.2	3.8	15.4	3.8	-	7.7	-	-
	商工業、サービス業、自由業など	125	55.2	31.2	31.2	22.4	6.4	12.0	1.6	3.2	-	0.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	404	55.0	28.0	16.6	27.2	8.9	9.9	0.2	1.0	0.2	0.5
	主婦・主夫	185	61.1	35.7	31.4	13.0	7.0	5.4	0.5	4.3	-	1.6
	無職	139	55.4	30.9	31.7	9.4	15.8	2.9	1.4	4.3	-	2.2
圏域別	高松圏域	448	54.9	35.0	24.8	19.2	8.9	9.4	1.1	2.7	0.2	0.4
	東讃圏域	64	56.3	28.1	29.7	21.9	7.8	7.8	1.6	1.6	-	-
	小豆圏域	29	69.0	24.1	37.9	20.7	10.3	13.8	-	-	-	-
	中讃圏域	239	59.4	28.0	21.8	17.6	10.5	7.1	-	3.8	-	2.1
	西讃圏域	115	53.0	27.8	27.8	26.1	9.6	4.3	-	1.7	-	1.7
居住年数別	3年未満	52	51.9	30.8	21.2	30.8	5.8	9.6	-	-	-	-
	3年以上~10年未満	101	53.5	32.7	10.9	29.7	7.9	9.9	-	1.0	-	-
	10年以上~20年未満	141	59.6	24.1	14.9	21.3	9.2	7.8	1.4	2.8	0.7	1.4
	20年以上	589	56.2	32.9	30.7	17.3	10.0	7.6	0.7	3.2	-	1.2

【表の見方】
比率(%)
網掛け=

1位
2位

(8) 認知症の人の意思が尊重され、本人が望む生活が継続できていると思うかについて

問6 地域生活の様々な場面において、認知症の人の意思が尊重され、本人が望む生活が継続できていると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

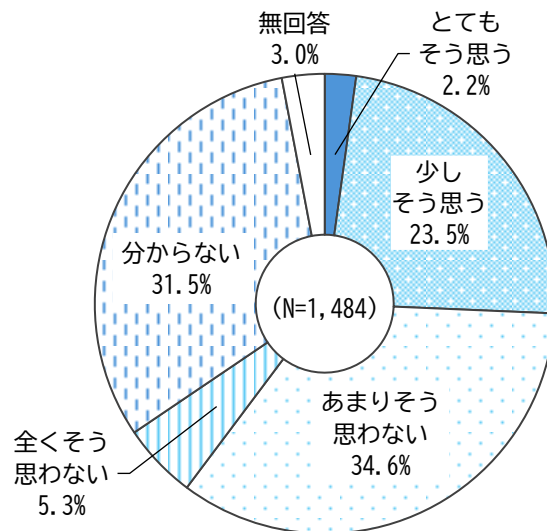
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

1 とてもそう思う	2.2%(2.5%)
2 少しそう思う	23.5%(23.5%)
3 あまりそう思わない	34.6%(34.4%)
4 全くそう思わない	5.3%(5.0%)
5 分からない	31.5%(31.5%)
(無回答)	3.0%(3.1%)

認知症の人の意思が尊重され、本人が望む生活が継続できていると思うかについて、「あまりそう思わない」34.6%が最も高く、次いで「分からない」31.5%、「少しそう思う」23.5%などとなっている。

図表1- (8) -1 認知症の人の意思が尊重され、本人が望む生活が継続できていると思うかについて



認知症の人の意思が尊重され、本人が望む生活が継続できていると思うかについて、性別にみると、「とてもそう思う」と「少しそう思う」を合わせた【そう思う】の割合は、『男性』27.9%、『女性』23.4%で、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた【そう思わない】の割合は、『男性』38.3%、『女性』41.5%となっており、男女とも【そう思わない】の割合が【そう思う】の割合を上回っている。

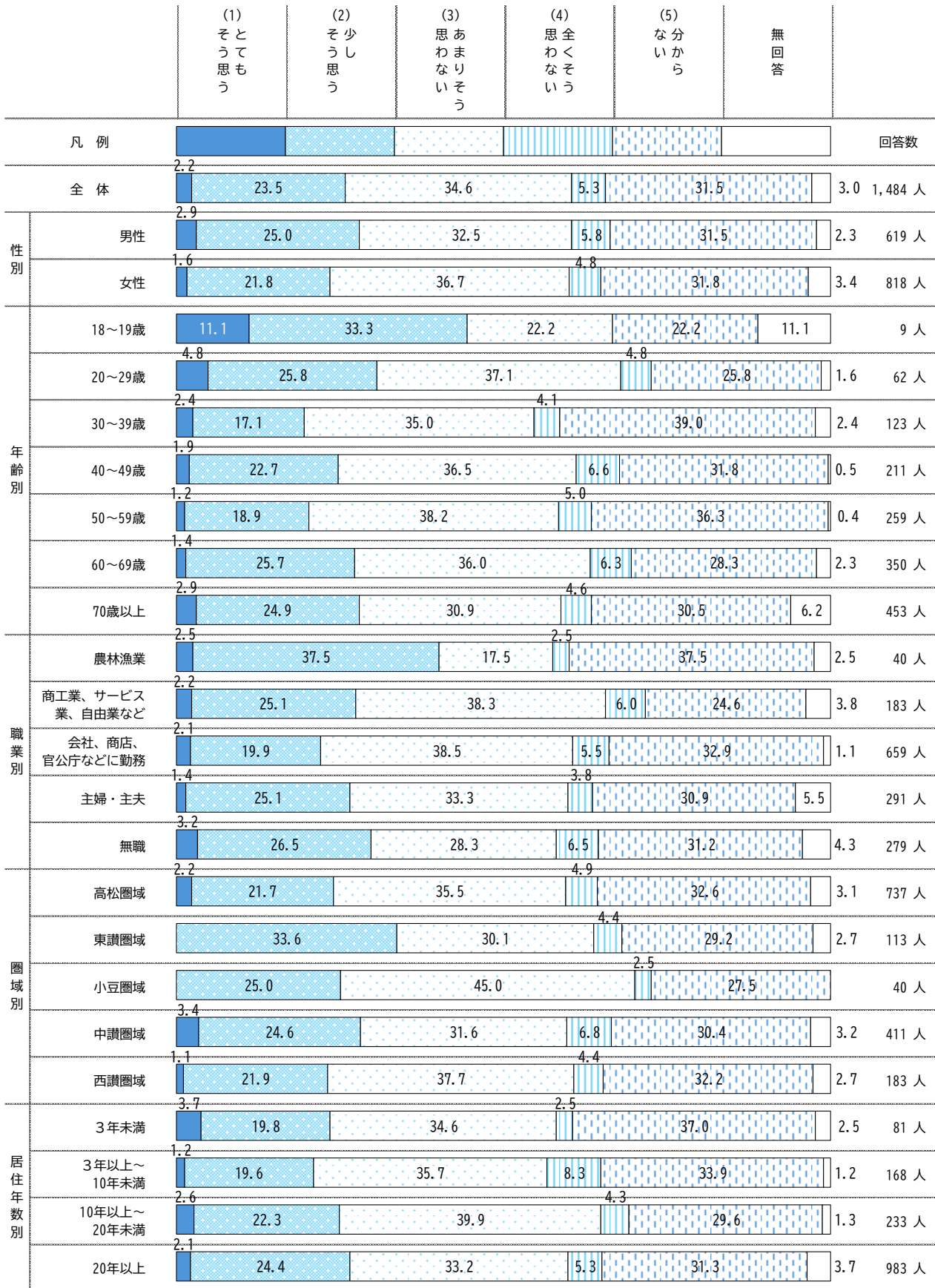
年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で【そう思わない】の割合が【そう思う】の割合を上回っており、『18～19歳』では【そう思う】の割合が【そう思わない】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で【そう思わない】の割合が【そう思う】の割合を上回っており、『農林漁業』では【そう思う】の割合が【そう思わない】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【そう思わない】の割合が【そう思う】の割合を上回っており、『小豆圏域』で47.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【そう思わない】の割合が【そう思う】の割合を上回っており、『10年以上～20年未満』で44.2%と最も高くなっている。

図表 1- (8) -2 【認知症の人の意思が尊重され、本人が望む生活が継続できていると思うかについて】



グラフ単位：(%)

(9) 認知症の人の意見が尊重されていないと感じる理由について

【問6で「3」又は「4」と答えた方にお聞きします】

付問3 「あまりそう思わない」又は「全くそう思わない」理由や、どのような経験からそう感じているのか、可能な範囲でご記入ください。なお、回答が難しい場合は、未記入で構いません。※321件中10意見を抜粋

- ・ 家族が面倒見切れなくて施設に入れる。本人は自宅で暮らしたいのかもしれない。私自身も認知症になっても自宅で暮らしたいと思う。
- ・ 認知症は本人が思う以上に周囲のサポートが大変なため、家族も働きながらサポートするのは現実的に難しいと思う。理想は本人の意思を尊重すべきだが、介護の負担が大きいのが現実。
- ・ 実家の父と母の実体験を通して認知症本人の気持ちや意向よりも、同居家族の意向や意見が重視されて、施設や病院側もその方向や考えで進めていることが多いと実感している。特に、認知症本人含めての会話時に、本人の顔を見て話さず、同行している親族のみ対話することがほとんどで認知症本人は、無視されていて、そのために存在自体ないと感じられることが多い。
- ・ 祖母が亡くなる前に認知症を発症したが、祖母本人の意思と叔父家族の意思が異なる場合が多く、尊重されていない部分もあったと感じた。家族にとっても祖母の意思は尊重したいと思っていただろうが、時間や金銭面での負担になる場合があり、どうしても許容できない部分があるのではないかと感じた。
- ・ そもそも認知症の症状がすでにあっても医療機関での適切な治療につながらず、進行した状態で受診する方がいる。内科かかりつけなどで、家族がきちんと相談すべきだがそれができていない。生活が破綻してはじめて地域包括センターや社協、警察のお世話になる方も珍しくない。高齢者が独居でも、子が介入せず、ネグレクト状態になっていることも珍しくない。
- ・ 介護施設は、とくに収容施設になると介護内容に差があり、閉鎖的な生活にならざるを得ない。まだまだ、家族の負担が多く、中間の訪問介護の充実が望まれている。ヘルパーさんの不足、経済的負担がある。
- ・ 地域の中で認知症に対する理解がない、地縁の希薄さなどにより認知症の方を迎え入れる余裕がないと思う。
- ・ 認知症の人は周りの人から冷めたくあしらわれているような気がする。
- ・ 認知症に対する意識をかえてほしい。どんな人でも伸び伸びと自信をもって過ごすことのできる世の中にしてほしい。
- ・ まだまだ「あの人は認知症だから」という目で見ているところがあり、誰もがなるものとして、自分事としてとらえていない。

(10) 認知症の人・家族等が他の人々と支え合いながら地域で安心して暮らすためには、何が必要か

問7 政府が令和6年12月に策定した「認知症施策推進基本計画」では、重点目標として「認知症の人・家族等が他の人々と支え合いながら地域で安心して暮らすことができること」が掲げられています。

あなたは、認知症の人・家族等が他の人々と支え合いながら地域で安心して暮らすためには、何が必要だと考えますか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】 ※回答数の多い順に並べ替え

1	本人や家族が相談できる窓口の充実	59.8%(60.1%)
2	保健医療サービス及び福祉サービスの充実	38.2%(37.1%)
3	認知症の人が暮らせる施設やグループホームの充実	34.6%(33.5%)
4	認知症の人が在宅で利用できる介護サービスの充実	33.3%(32.0%)
5	買い物や移動など生活関連の支援	22.2%(21.8%)
6	認知症の人が、交流できる居場所の充実	21.6%(22.0%)
7	行方不明にならないための見守りや早期発見の仕組みの充実	20.2%(20.8%)
8	「認知症になったら何も分からなくなり、できなくなる」といった社会の偏見の解消	18.9%(20.2%)
9	財産や権利が守られる仕組みの充実	14.0%(13.4%)
10	認知症の人が、個性と能力を発揮して活躍する機会	10.0%(10.2%)
11	地域におけるボランティアの支援	7.5%(6.9%)
12	その他	1.3%(1.5%)
	(無回答)	1.5%(1.7%)

認知症の人・家族等が他の人々と支え合いながら地域で安心して暮らすためには、何が必要かについて、「本人や家族が相談できる窓口の充実」59.8%が最も高く、次いで「保健医療サービス及び福祉サービスの充実」38.2%、「認知症の人が暮らせる施設やグループホームの充実」34.6%、「認知症の人が在宅で利用できる介護サービスの充実」33.3%などとなっている。

図表 1- (10) -1 認知症の人・家族等が他の人々と支え合いながら地域で安心して暮らすためには、何が必要かについて

	回答数
全体	100.0 1,484 人
(1) 本人や家族が相談できる窓口の充実	59.8 887 人
(2) 保健医療サービス及び福祉サービスの充実	38.2 567 人
(3) 認知症の人が暮らせる施設やグループホームの充実	34.6 513 人
(4) 認知症の人が在宅で利用できる介護サービスの充実	33.3 494 人
(5) 買い物や移動など生活関連の支援	22.2 329 人
(6) 認知症の人が、交流できる居場所の充実	21.6 320 人
(7) 行方不明にならないための見守りや早期発見の仕組みの充実	20.2 300 人
(8) 「認知症になったら何も分からなくなり、できなくなる」といった社会の偏見の解消	18.9 280 人
(9) 財産や権利が守られる仕組みの充実	14.0 208 人
(10) 認知症の人が、個性と能力を発揮して活躍する機会	10.0 149 人
(11) 地域におけるボランティアの支援	7.5 112 人
(12) その他	1.3 20 人
無回答	1.5 23 人

グラフ単位：(%)

認知症の人・家族等が他の人々と支え合いながら地域で安心して暮らすためには、何が必要かについて、性別にみると、男女とも「本人や家族が相談できる窓口の充実」が最も高く、『男性』58.0%、『女性』61.4%で、これに男女とも「保健医療サービス及び福祉サービスの充実」が『男性』39.6%、『女性』37.8%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「本人や家族が相談できる窓口の充実」が5～6割台と最も高く、『18～19歳』で66.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「本人や家族が相談できる窓口の充実」が5～7割台と最も高く、『農林漁業』で70.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「本人や家族が相談できる窓口の充実」が5～6割台と最も高く、『中讃圏域』で61.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「本人や家族が相談できる窓口の充実」が5～6割台と最も高く、『3年以上～10年未満』で65.5%と最も高くなっている。

図表 1- (10) -2 【認知症の人・家族等が他の人々と支え合いながら地域で安心して暮らすためには、何が必要か】について

	全体	(1) 本人や家族が相談できる窓口の充実	(2) 保健医療サービス及び福祉サービスの充実	(3) 認知症の人が暮らせる施設やグループホームの充実	(4) 認知症の人が在宅で利用できる介護サービスの充実	(5) 買い物や移動など生活関連の支援	(6) 認知症の人が、交流できる居場所の充実	(7) 行方不明にならないための見守りや早期発見の仕組みの充実	(8) 「認知症になつたら何も分からなくなり、できなくなる」といった社会の偏見の解消	(9) 財産や権利が守られる仕組みの充実	(10) 認知症の人が、個性と能力を發揮して活躍する機会	(11) 地域におけるボランティアの支援	(12) その他	無回答
		【表の見方】 比率(%) 網掛け=		1位	2位									
全体	1,484	59.8	38.2	34.6	33.3	22.2	21.6	20.2	18.9	14.0	10.0	7.5	1.3	1.5
性別														
男性	619	58.0	39.6	32.1	35.7	23.7	19.7	19.5	19.1	14.9	9.0	7.8	1.5	1.1
女性	818	61.4	37.8	36.8	31.4	20.9	22.9	20.5	18.2	13.6	10.8	7.6	1.3	1.6
年齢別														
18～19歳	9	66.7	22.2	11.1	33.3	-	33.3	22.2	44.4	-	11.1	-	-	-
20～29歳	62	58.1	30.6	32.3	16.1	24.2	22.6	22.6	32.3	8.1	16.1	1.6	1.6	3.2
30～39歳	123	58.5	43.9	30.9	25.2	22.0	18.7	29.3	20.3	14.6	3.3	8.1	3.3	1.6
40～49歳	211	66.4	37.9	39.8	30.3	22.7	18.0	22.3	12.8	17.5	9.0	5.2	2.4	1.4
50～59歳	259	56.4	38.2	36.3	34.7	24.3	19.3	22.0	13.9	14.3	11.6	8.5	2.3	0.8
60～69歳	350	57.4	44.9	39.7	34.0	23.1	18.3	17.7	16.9	14.9	9.7	9.4	0.3	0.3
70歳以上	453	60.9	33.6	29.6	37.5	20.3	27.2	17.7	23.0	12.4	10.8	7.7	0.7	2.4
職業別														
農林漁業	40	70.0	37.5	20.0	32.5	20.0	12.5	17.5	12.5	17.5	5.0	20.0	2.5	-
商工業、サービス業、自由業など	183	54.1	41.0	31.7	35.0	27.3	21.9	18.6	16.4	12.6	9.8	9.3	2.2	1.1
会社、商店、官公庁などに勤務	659	60.7	40.2	37.6	30.7	22.5	19.7	22.9	17.6	14.4	10.3	6.8	1.7	1.1
主婦・主夫	291	61.2	35.4	35.4	33.7	18.9	26.1	21.6	23.0	12.7	8.2	5.8	0.3	1.7
無職	279	58.4	35.8	30.8	36.6	22.6	21.5	14.3	19.7	15.4	12.2	8.6	1.1	2.5
圏域別														
高松圏域	737	60.5	39.2	34.5	34.6	20.8	20.4	21.2	17.6	15.5	9.6	6.6	1.1	1.8
東讃圏域	113	54.0	42.5	33.6	25.7	28.3	21.2	21.2	22.1	13.3	13.3	7.1	0.9	-
小豆圏域	40	57.5	45.0	37.5	27.5	22.5	22.5	15.0	20.0	12.5	10.0	12.5	-	2.5
中讃圏域	411	61.8	33.1	33.3	36.3	22.4	24.6	20.0	20.9	12.7	8.0	8.3	1.7	1.0
西讃圏域	183	56.3	41.5	37.7	27.3	23.5	19.7	17.5	16.9	12.0	14.2	8.7	2.2	2.7
居住年数別														
3年未満	81	53.1	38.3	34.6	34.6	32.1	12.3	25.9	19.8	14.8	3.7	11.1	1.2	-
3年以上～10年未満	168	65.5	43.5	35.1	24.4	20.2	20.8	20.8	15.5	13.7	10.1	6.0	3.6	1.8
10年以上～20年未満	233	59.2	35.2	36.5	34.8	21.5	21.9	22.7	13.7	15.0	10.3	6.9	1.3	1.7
20年以上	983	59.5	38.1	34.3	34.0	22.0	22.3	19.2	20.4	13.8	10.5	7.8	1.0	1.4

2. 動物の愛護と管理について

(1) 動物のことで迷惑を感じたことについて

問8 動物のことで迷惑を感じたことがありますか。それは、どんな動物からですか。次の中から主なものを1つだけ選んでください。

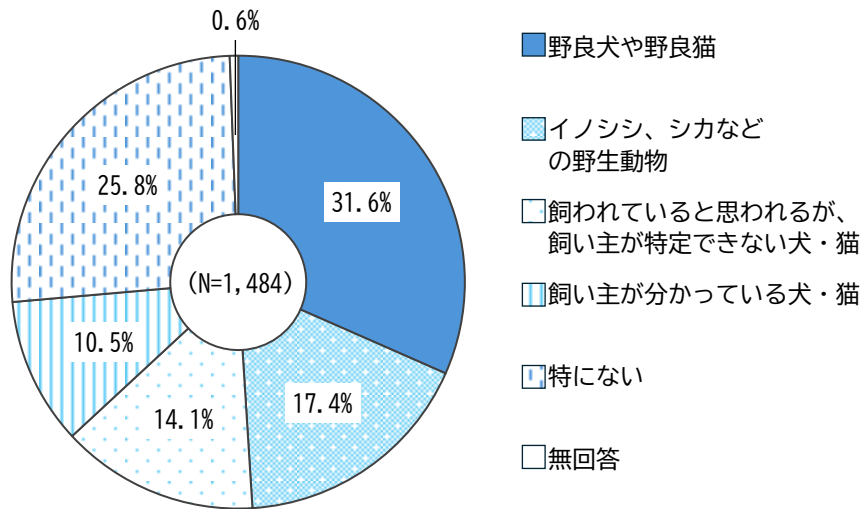
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

1 野良犬や野良猫	31.6%(31.3%)
2 イノシシ、シカなどの野生動物	17.4%(17.4%)
3 飼われていると思われるが、飼い主が特定できない犬・猫	14.1%(13.5%)
4 飼い主が分かっている犬・猫	10.5%(9.7%)
5 特にない	25.8%(27.6%)
(無回答)	0.6%(0.5%)

動物のことで迷惑を感じたことについて、「野良犬や野良猫」31.6%が最も高く、次いで「イノシシ、シカなどの野生動物」17.4%、「飼われていると思われるが、飼い主が特定できない犬・猫」14.1%などとなっている。一方で、「特にない」も25.8%と多くなっている。

図表 2- (1) -1 動物のことで迷惑を感じたことについて



動物のことで迷惑を感じたことについて、性別にみると、男女とも「野良犬や野良猫」が最も高く、『男性』28.4%、『女性』34.4%となっており、これに『男性』は「イノシシ、シカなどの野生動物」21.2%、『女性』は「飼われていると思われるが、飼い主が特定できない犬・猫」14.7%が続いている。

年齢別にみると、いずれも「野良犬や野良猫」が2～3割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「野良犬や野良猫」が2～3割台と最も高く、『農林漁業』では「イノシシ、シカなどの野生動物」50.0%が最も高くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』を除くすべての圏域で「野良犬や野良猫」が3～4割台と最も高く、『東讃圏域』では「イノシシ、シカなどの野生動物」が29.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「野良犬や野良猫」が2～3割台と最も高く、『3年以上～10年未満』で36.9%と最も高くなっている。

図表 2- (1) -2 【動物のことで迷惑を感じたことについて】

		(1) 野良犬や 野良猫	(2) イノシシ、シカな どの野生動物	(3) 飼われていると思 われるが、飼い主 が特定できない 犬・猫	(4) 飼い主が分かって いる犬・猫	(5) 特にな	無回答		
凡 例								回答数	
全 体		31.6	17.4	14.1	10.5	25.8		0.6 1,484 人	
性別	男性	28.4	21.2	12.9	11.5	25.4		0.6 619 人	
	女性	34.4	14.5	14.7	10.3	25.6		0.6 818 人	
年齢別	18～19歳	33.3	22.2			44.4		9 人	
	20～29歳	25.8	14.5	11.3	3.2	45.2		62 人	
	30～39歳	37.4	17.9	9.8	8.1	26.8		123 人	
	40～49歳	35.1	20.9	10.9	5.7	27.5		211 人	
	50～59歳	30.9	18.9	13.9	9.7	26.3		0.4 259 人	
	60～69歳	33.7	16.3	15.1	12.6	21.7		0.6 350 人	
	70歳以上	28.7	15.9	16.3	13.7	24.1		1.3 453 人	
職業別	農林漁業	22.5	50.0			10.0	7.5	10.0	40 人
	商工業、サービ ス業、自由業など	28.4	20.2	13.1	9.3	29.0		183 人	
	会社、商店、 官公庁などに勤務	34.7	17.1	12.3	8.8	26.7		0.3 659 人	
	主婦・主夫	33.7	12.4	18.6	11.3	23.4		0.7 291 人	
	無職	26.9	17.6	14.3	14.7	25.1		1.4 279 人	
圏域別	高松圏域	30.0	16.6	13.6	11.7	27.8		0.4 737 人	
	東讃圏域	23.9	29.2	16.8	7.1	20.4		2.7 113 人	
	小豆圏域	40.0	27.5		7.5	7.5	17.5	40 人	
	中讃圏域	35.8	13.9	13.4	11.4	25.1		0.5 411 人	
	西讃圏域	31.7	19.1	17.5	6.6	24.6		0.5 183 人	
居住年数別	3年未満	30.9	11.1	11.1	6.2	39.5		1.2 81 人	
	3年以上～ 10年未満	36.9	13.7	11.3	8.9	29.2		168 人	
	10年以上～ 20年未満	24.9	12.4	14.2	12.4	36.1		233 人	
	20年以上	32.7	19.6	14.6	10.8	21.5		0.8 983 人	

グラフ単位：(%)

(2) 飼い主のいない猫(いわゆる野良猫)による生活環境被害などの問題解決について

問9 飼い主のいない猫(いわゆる野良猫)による生活環境被害などの問題を解決するにはどうすればよいと考えますか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】 ※回答数の多い順に並べ替え

1 行政が飼い主のいない猫の不妊去勢手術などに補助を行う	56.6%(57.3%)
2 行政が無責任なエサやり行為などについて指導する	52.4%(52.5%)
3 行政が飼い主のいない猫対策について普及啓発を行う	42.7%(41.5%)
4 地域住民が飼い主のいない猫について関心を持ち、話し合う	23.4%(23.1%)
5 ボランティアなどが相談や助言を行う	14.6%(14.7%)
6 特にない	7.3%(7.0%)
7 その他	5.7%(6.0%)
(無回答)	0.8%(0.7%)

飼い主のいない猫(いわゆる野良猫)による生活環境被害などの問題解決について、「行政が飼い主のいない猫の不妊去勢手術などに補助を行う」56.6%が最も高く、次いで「行政が無責任なエサやり行為などについて指導する」52.4%、「行政が飼い主のいない猫対策について普及啓発を行う」42.7%などとなっている。

図表2-(2)-1 飼い主のいない猫(いわゆる野良猫)による生活環境被害などの問題解決について

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,484 人
(1) 行政が飼い主のいない猫の不妊去勢手術などに補助を行う	56.6	840 人
(2) 行政が無責任なエサやり行為などについて指導する	52.4	777 人
(3) 行政が飼い主のいない猫対策について普及啓発を行う	42.7	633 人
(4) 地域住民が飼い主のいない猫について関心を持ち、話し合う	23.4	347 人
(5) ボランティアなどが相談や助言を行う	14.6	217 人
(6) 特にない	7.3	109 人
(7) その他	5.7	85 人
無回答	0.8	12 人

グラフ単位： (%)

飼い主のいない猫（いわゆる野良猫）による生活環境被害などの問題解決について、性別にみると、『男性』では「行政が無責任なエサやり行為などについて指導する」52.8%が最も高く、『女性』では「行政が飼い主のいない猫の不妊去勢手術などに補助を行う」61.2%が最も高くなっている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『70歳以上』を除くすべての年齢で「行政が飼い主のいない猫の不妊去勢手術などに補助を行う」が5～6割台と最も高く、『18～19歳』、『70歳以上』では「行政が無責任なエサやり行為などについて指導する」が5～7割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『無職』では「行政が無責任なエサやり行為などについて指導する」が5割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「行政が飼い主のいない猫の不妊去勢手術などに補助を行う」が5～6割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「行政が飼い主のいない猫の不妊去勢手術などに補助を行う」が5割台と最も高く、『小豆圏域』では「行政が無責任なエサやり行為などについて指導する」、「行政が飼い主のいない猫の不妊去勢手術などに補助を行う」が同率の70.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』を除くすべての居住年数で「行政が飼い主のいない猫の不妊去勢手術などに補助を行う」が5割台と最も高く、『3年以上～10年未満』では「行政が無責任なエサやり行為などについて指導する」57.1%が最も高くなっている。

図表 2- (2) -2 【飼い主のいない猫（いわゆる野良猫）による生活環境被害などの問題解決について】

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	
		全体	に行政が補助を行う	導行政が無責任なエサやり行為などについて指	発行政が行う	持地域住民が話し合う	ボランティアなどが相談や助言を行う	特にな	その他	無回答
			【表の見方】 比率(%) 網掛け=							
			1位	2位						
全体		1,484	56.6	52.4	42.7	23.4	14.6	7.3	5.7	0.8
性別	男性	619	51.1	52.8	42.5	24.9	13.4	9.0	7.1	0.6
	女性	818	61.2	52.3	43.6	21.5	15.4	6.0	4.8	0.9
年齢別	18～19歳	9	55.6	77.8	22.2	22.2	44.4	-	-	-
	20～29歳	62	66.1	46.8	33.9	19.4	12.9	6.5	9.7	-
	30～39歳	123	63.4	48.0	32.5	20.3	10.6	8.1	7.3	-
	40～49歳	211	56.9	53.6	45.5	21.8	12.8	6.6	10.4	-
	50～59歳	259	55.6	47.1	42.1	25.1	17.8	6.9	6.2	1.2
	60～69歳	350	57.1	51.4	43.7	23.1	16.0	9.1	4.9	0.9
	70歳以上	453	53.4	57.0	45.7	24.5	13.2	6.4	3.3	1.3
職業別	農林漁業	40	25.0	55.0	37.5	20.0	12.5	17.5	10.0	2.5
	商工業、サービス業、自由業など	183	53.0	49.7	39.3	24.0	16.9	9.8	7.1	-
	会社、商店、官公庁などに勤務	659	60.8	51.0	41.6	23.4	13.7	7.1	6.4	0.6
	主婦・主夫	291	58.8	53.6	48.5	24.7	15.5	4.5	3.4	0.7
	無職	279	52.0	55.9	42.3	21.1	14.3	7.5	5.7	1.8
圏域別	高松圏域	737	56.9	50.9	41.2	22.7	14.2	7.6	6.1	0.9
	東讃圏域	113	57.5	50.4	51.3	24.8	15.0	8.8	1.8	0.9
	小豆圏域	40	70.0	70.0	40.0	30.0	5.0	2.5	7.5	-
	中讃圏域	411	55.7	54.3	45.5	23.6	14.8	5.4	7.1	0.5
	西讃圏域	183	54.1	51.4	37.2	23.5	17.5	10.9	3.3	1.1
居住年数別	3年未満	81	54.3	45.7	37.0	16.0	12.3	11.1	9.9	1.2
	3年以上～10年未満	168	55.4	57.1	45.8	20.8	10.7	5.4	8.9	0.6
	10年以上～20年未満	233	57.5	49.4	42.9	22.3	17.6	8.2	6.9	0.4
	20年以上	983	56.9	52.7	42.8	24.5	14.5	7.1	4.7	0.9

(3)「地域猫活動」について

問10 「地域猫活動」という活動を知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

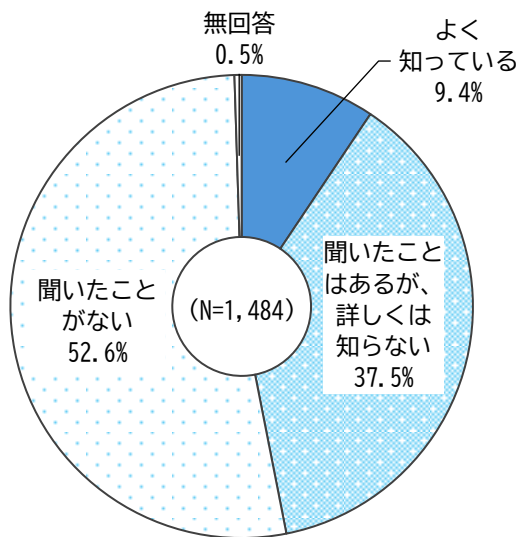
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

1 よく知っている	9.4%(9.7%)
2 聞いたことはあるが、詳しくは知らない	37.5%(37.2%)
3 聞いたことがない	52.6%(52.6%)
(無回答)	0.5%(0.5%)

「地域猫活動」について、「聞いたことがない」52.6%が最も高く、次いで「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」37.5%、「よく知っている」9.4%となっている。

図表2- (3) -1 「地域猫活動」について



「地域猫活動」について、性別にみると、男女とも「聞いたことがない」が最も高く、『男性』58.8%、『女性』48.4%で、これに男女とも「聞いたことがあるが、詳しくは知らない」が『男性』33.8%、『女性』40.0%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「聞いたことがない」が4～6割台と最も高く、『18～19歳』で66.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「聞いたことがない」が4～5割台と最も高く、『無職』で57.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「聞いたことがない」が4～5割台と最も高く、『小豆圏域』で57.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「聞いたことがない」が4～5割台と最も高く、『20年以上』で54.3%と最も高くなっている。

図表 2- (3) -2 【「地域猫活動」について】

		(1) よく知っている	(2) 聞いたことはあるが、 詳しくは知らない	(3) 聞いたことがない	無回答	回答数
凡 例						
全 体		9.4	37.5	52.6		0.5 1,484 人
性別	男性	6.8	33.8	58.8		0.6 619 人
	女性	11.2	40.0	48.4		0.4 818 人
年齢別	18～19歳		33.3	66.7		9 人
	20～29歳	9.7	38.7	51.6		62 人
	30～39歳	13.0	35.0	52.0		123 人
	40～49歳	15.2	36.5	48.3		211 人
	50～59歳	13.9	37.5	48.3	0.4	259 人
	60～69歳	5.4	39.7	54.3	0.6	350 人
	70歳以上	6.2	36.6	56.1	1.1	453 人
職業別	農林漁業	12.5	37.5	50.0		40 人
	商工業、サービス業、自由業など	7.7	35.5	55.7	1.1	183 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	11.2	36.7	51.9	0.2	659 人
	主婦・主夫	7.2	43.0	49.1	0.7	291 人
	無職	7.5	33.7	57.7	1.1	279 人
圏域別	高松圏域	9.8	36.9	52.6	0.7	737 人
	東讃圏域	8.0	42.5	47.8	1.8	113 人
	小豆圏域	5.0	37.5	57.5		40 人
	中讃圏域	9.2	38.4	52.3		411 人
	西讃圏域	9.8	34.4	55.2	0.5	183 人
居住年数別	3年未満	18.5	38.3	43.2		81 人
	3年以上～10年未満	9.5	36.9	53.6		168 人
	10年以上～20年未満	11.2	39.5	48.5	0.9	233 人
	20年以上	8.1	36.9	54.3	0.6	983 人

グラフ単位：(%)

(4)「地域猫活動」をどう思うかについて

問11 「地域猫活動」についてどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

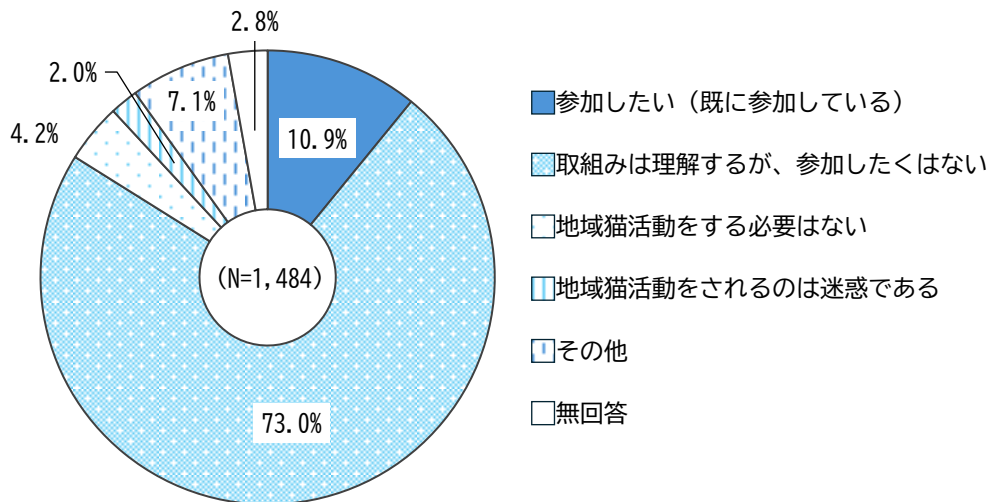
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

1 参加したい（既に参加している）	10.9%(12.0%)
2 取組みは理解するが、参加したくない	73.0%(72.3%)
3 地域猫活動をする必要はない	4.2%(3.9%)
4 地域猫活動をされるのは迷惑である	2.0%(2.0%)
5 その他	7.1%(7.1%)
(無回答)	2.8%(2.6%)

「地域猫活動」をどう思うかについて、「取組みは理解するが、参加したくない」73.0%が最も高く、次いで「参加したい（既に参加している）」10.9%、「地域猫活動をする必要はない」4.2%などとなっている。

図表 2- (4) -1 「地域猫活動」をどう思うかについて



「地域猫活動」をどう思うかについて、性別にみると、男女とも「取組みは理解するが、参加したくはない」が最も高く、同率の73.0%となっており、これに男女とも「参加したい（既に参加している）」が『男性』9.9%、『女性』12.1%と続いている。

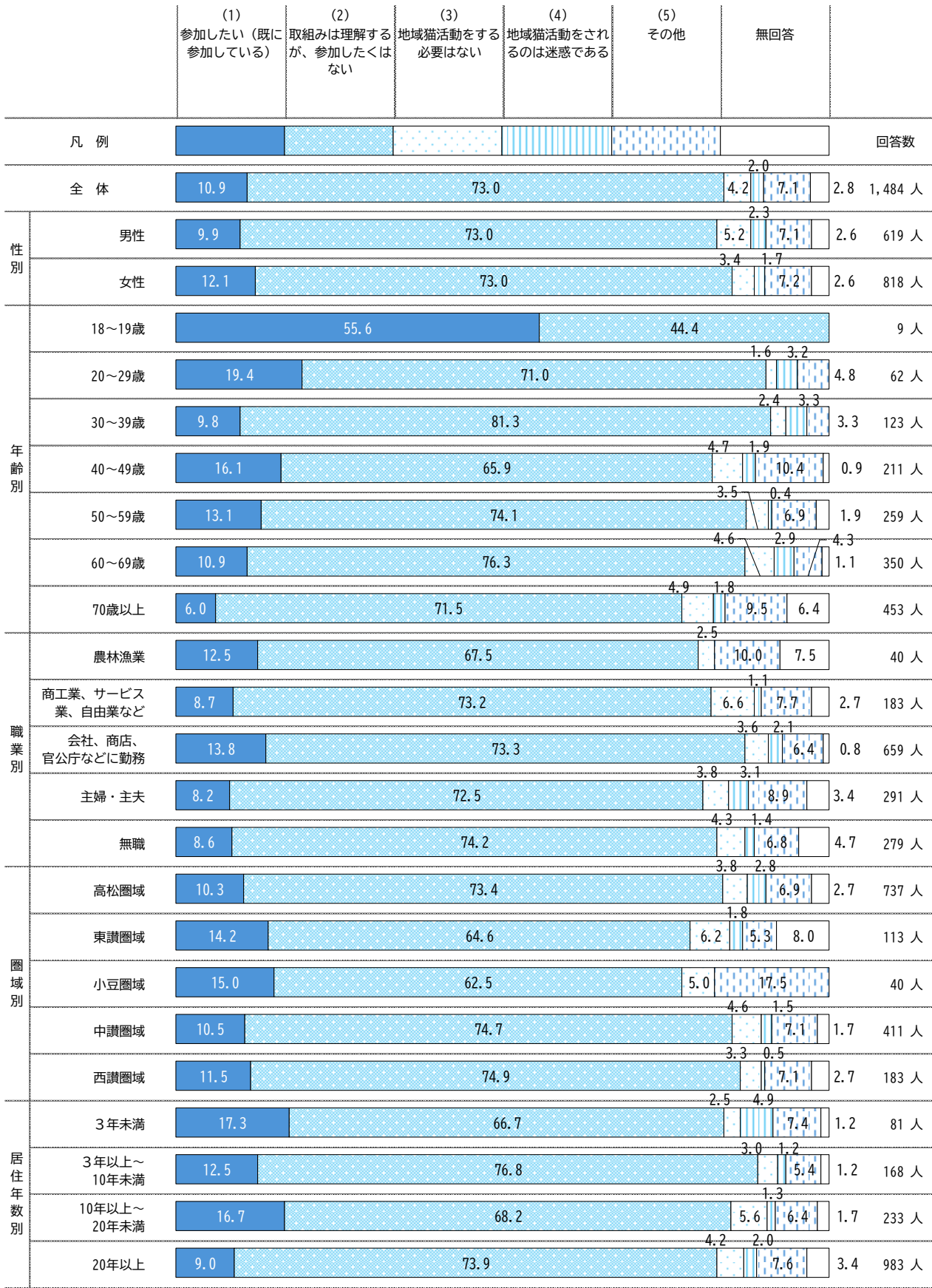
年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で「取組みは理解するが、参加したくはない」が6～8割台と最も高く、『18～19歳』では「参加したい（既に参加している）」55.6%が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「取組みは理解するが、参加したくはない」が6～7割台と最も高く、『無職』で74.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「取組みは理解するが、参加したくはない」が6～7割台と最も高く、『西讃圏域』で74.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「取組みは理解するが、参加したくはない」が6～7割台と最も高く、『3年以上～10年未満』で76.8%と最も高くなっている。

図表 2- (4) -2 【「地域猫活動」をどう思うかについて】



グラフ単位：(%)

(5) 犬・猫の殺処分数を減少させるためには、どうすればよいかについて

問12 犬・猫の殺処分数を減少させるためには、どうすればよいと考えますか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】 ※回答数の多い順に並べ替え

1 犬の放し飼いは、条例で禁止されていることを周知徹底し、猫を飼っている場合には、不妊去勢手術を実施する	61.1%(60.6%)
2 捕獲・収容した犬・猫で譲渡に適した性質がある犬・猫は、譲渡ボランティアやミルクボランティアと連携・協力して、よりいっそう譲渡を推進する	52.9%(52.7%)
3 飼い主は、最後まで責任を持って飼うべきであり、保健所に持ち込むことを禁止する	48.7%(48.2%)
4 野良犬・野良猫を増やす無責任なエサやり行為について、罰則を設けて禁止する	42.4%(42.7%)
5 一時的に殺処分数が増える可能性があるが、一度、集中的に野良犬の捕獲・収容を強化して野良犬の数そのものを減らす	21.2%(20.9%)
6 その他	4.8%(5.0%)
(無回答)	1.3%(1.3%)

犬・猫の殺処分数を減少させるためには、どうすればよいかについて、「犬の放し飼いは、条例で禁止されていることを周知徹底し、猫を飼っている場合には、不妊去勢手術を実施する」61.1%が最も高く、次いで「捕獲・収容した犬・猫で譲渡に適した性質がある犬・猫は、譲渡ボランティアやミルクボランティアと連携・協力して、よりいっそう譲渡を推進する」52.9%、「飼い主は、最後まで責任を持って飼うべきであり、保健所に持ち込むことを禁止する」48.7%などとなっている。

図表 2- (5) -1 犬・猫の殺処分数を減少させるためには、どうすればよいかについて

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,484 人
(1) 犬の放し飼いは、条例で禁止されていることを周知徹底し、猫を飼っている場合には、不妊去勢手術を実施する	61.1	906 人
(2) 捕獲・収容した犬・猫で譲渡に適した性質がある犬・猫は、譲渡ボランティアやミルクボランティアと連携・協力して、よりいっそう譲渡を推進する	52.9	785 人
(3) 飼い主は、最後まで責任を持って飼うべきであり、保健所に持ち込むことを禁止する	48.7	722 人
(4) 野良犬・野良猫を増やす無責任なエサやり行為について、罰則を設けて禁止する	42.4	629 人
(5) 一時的に殺処分数が増える可能性があるが、一度、集中的に野良犬の捕獲・収容を強化して野良犬の数そのものを減らす	21.2	314 人
(6) その他	4.8	71 人
無回答	1.3	19 人

グラフ単位： (%)

犬・猫の殺処分数を減少させるためには、どうすればよいかについて、性別にみると、男女とも「犬の放し飼いは、条例で禁止されていることを周知徹底し、猫を飼っている場合には、不妊去勢手術を実施する」が最も高く、『男性』58.3%、『女性』63.7%で、これに男女とも「捕獲・収容した犬・猫で譲渡に適した性質がある犬・猫は、譲渡ボランティアやミルクボランティアと連携・協力して、よりいっそう譲渡を推進する」が『男性』44.9%、『女性』59.0%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』、『40～49歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「犬の放し飼いは、条例で禁止されていることを周知徹底し、猫を飼っている場合には、不妊去勢手術を実施する」が5～6割台と最も高く、『30～39歳』、『50～59歳』では「捕獲・収容した犬・猫で譲渡に適した性質がある犬・猫は、譲渡ボランティアやミルクボランティアと連携・協力して、よりいっそう譲渡を推進する」が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「犬の放し飼いは、条例で禁止されていることを周知徹底し、猫を飼っている場合には、不妊去勢手術を実施する」が5～6割台と最も高く、『主婦・主夫』で67.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「犬の放し飼いは、条例で禁止されていることを周知徹底し、猫を飼っている場合には、不妊去勢手術を実施する」が5～6割台と最も高く、『小豆圏域』では「野良犬・野良猫を増やす無責任なエサやり行為について、罰則を設けて禁止する」65.0%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『10年以上～20年未満』では「捕獲・収容した犬・猫で譲渡に適した性質がある犬・猫は、譲渡ボランティアやミルクボランティアと連携・協力して、よりいっそう譲渡を推進する」が5割台と最も高く、『3年以上～10年未満』、『20年以上』では「犬の放し飼いは、条例で禁止されていることを周知徹底し、猫を飼っている場合には、不妊去勢手術を実施する」が6割台と最も高くなっている。

図表 2- (5) -2 【犬・猫の殺処分数を減少させるためには、どうすればよいかについて】

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)			
		全体	し犬の放し飼いは、条例で禁止されていないこと、手術を実施する	力は、譲渡、より譲渡を推進する	捕獲・収容した犬・猫で譲渡に適した性質がある犬・猫	所に主は、最後まで責任を持つて飼うべきであり、保健	て、良犬・野良猫を増やす無責任な工サやり行為について	を減らす	的・野的に殺処分数が増える可能性があるが、一度、集中	その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=											
			1位	2位							
全体		1,484	61.1	52.9	48.7	42.4	21.2	4.8	1.3		
性別	男性	619	58.3	44.9	44.4	44.1	27.8	3.7	1.1		
	女性	818	63.7	59.0	51.7	41.4	16.5	5.5	1.2		
年齢別	18~19歳	9	55.6	44.4	33.3	44.4	33.3	-	-		
	20~29歳	62	56.5	50.0	45.2	46.8	19.4	6.5	-		
	30~39歳	123	61.0	61.8	52.0	44.7	17.9	4.9	-		
	40~49歳	211	56.4	55.9	38.9	45.5	21.8	8.1	-		
	50~59歳	259	55.6	57.9	45.2	42.1	15.8	8.5	1.5		
	60~69歳	350	63.1	54.6	49.1	43.4	24.3	2.9	-		
	70歳以上	453	66.0	45.5	54.5	39.7	21.9	2.4	3.1		
職業別	農林漁業	40	57.5	37.5	52.5	30.0	22.5	-	2.5		
	商工業、サービス業、自由業など	183	61.7	45.9	48.1	44.3	25.1	6.0	1.6		
	会社、商店、官公庁などに勤務	659	59.6	57.8	47.5	42.5	19.7	6.1	0.6		
	主婦・主夫	291	67.4	52.9	49.1	44.0	17.5	2.1	1.4		
	無職	279	58.4	48.7	49.8	43.0	24.4	4.3	1.8		
圏域別	高松圏域	737	60.9	52.1	48.8	43.6	21.2	4.7	1.4		
	東讃圏域	113	69.0	50.4	41.6	40.7	25.7	0.9	3.5		
	小豆圏域	40	47.5	55.0	55.0	65.0	25.0	2.5	-		
	中讃圏域	411	59.4	57.2	47.7	39.9	19.0	6.8	1.2		
	西讃圏域	183	63.4	47.5	53.0	39.3	22.4	3.3	-		
居住年数別	3年未満	81	48.1	51.9	50.6	39.5	21.0	11.1	-		
	3年以上~10年未満	168	62.5	57.7	41.1	46.4	21.4	7.1	1.2		
	10年以上~20年未満	233	56.2	58.8	42.9	42.9	21.9	5.2	1.3		
	20年以上	983	63.3	50.7	51.2	42.2	20.8	3.8	1.3		

(6)ペットを飼っているかについて

問13 あなたは、ペットを飼っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

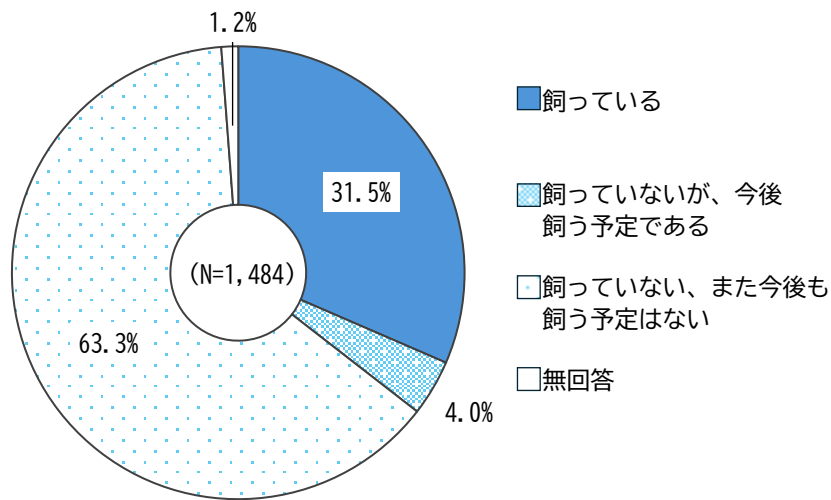
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

1 飼っている	31.5%(31.5%)
2 飼っていないが、今後飼う予定である	4.0%(4.9%)
3 飼っていない、また今後も飼う予定はない (無回答)	63.3%(62.5%) 1.2%(1.1%)

ペットを飼っているかについて、「飼っていない、また今後も飼う予定はない」63.3%が最も高く、次いで「飼っている」31.5%、「飼っていないが、今後飼う予定である」4.0%となっている。

図表 2- (6) -1 ペットを飼っているかについて



ペットを飼っているかについて、性別にみると、男女とも「飼っていない、また今後も飼う予定はない」が最も高く、『男性』64.3%、『女性』62.3%で、これに男女とも「飼っている」が『男性』30.9%、『女性』32.3%と続いている。

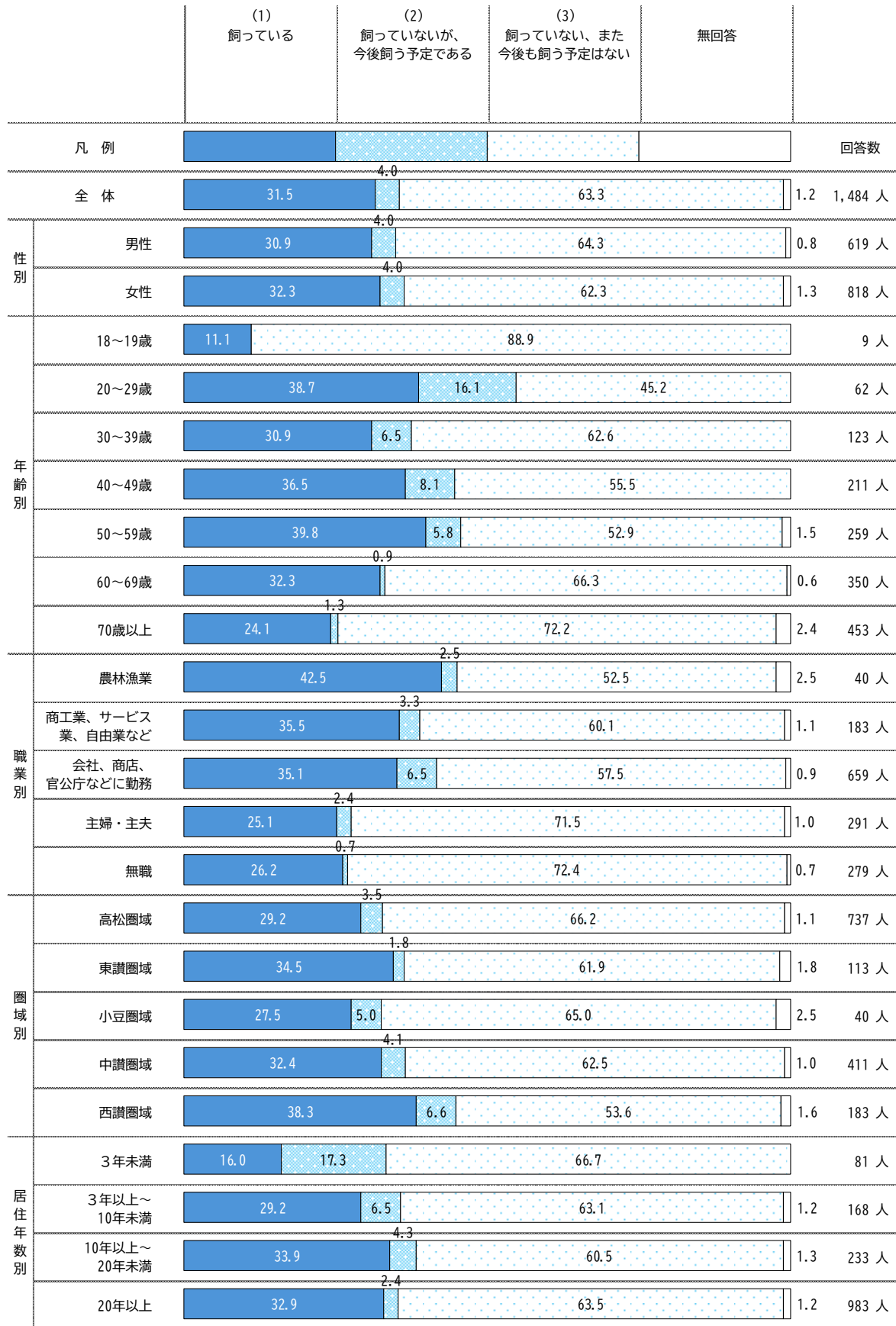
年齢別にみると、いずれも「飼っていない、また今後も飼う予定はない」が4～8割台と最も高く、『18～19歳』で88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「飼っていない、また今後も飼う予定はない」が5～7割台と最も高く、『無職』で72.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「飼っていない、また今後も飼う予定はない」が5～6割台と最も高く、『高松圏域』で66.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「飼っていない、また今後も飼う予定はない」が6割台と最も高く、『3年未満』で66.7%と最も高くなっている。

図表2-(6)-2 【ペットを飼っているかについて】



グラフ単位：(%)

(7) どんなペットを飼っているかについて

【問13で「1」と答えた方にお聞きします】

付問4 あなたは、どんなペットを飼っていますか。
次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=468】 ※回答数の多い順に並べ替え

1 犬	54.7%(54.1%)
2 猫	41.5%(41.1%)
3 魚類	15.4%(15.3%)
4 爬虫類 (カメなど)	6.4%(6.0%)
5 哺乳類 (犬、猫を除く)	3.2%(4.6%)
6 鳥類	3.2%(3.2%)
7 その他	0.9%(0.9%)
(無回答)	0.6%(0.6%)

どんなペットを飼っているかについて、「犬」54.7%が最も高く、次いで「猫」41.5%、「魚類」15.4%、「爬虫類 (カメなど)」6.4%などとなっている。

図表2- (7) -1 どんなペットを飼っているかについて

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	468 人
(1) 犬	54.7	256 人
(2) 猫	41.5	194 人
(3) 魚類	15.4	72 人
(4) 爬虫類 (カメなど)	6.4	30 人
(5) 哺乳類 (犬、猫を除く)	3.2	15 人
(6) 鳥類	3.2	15 人
(7) その他	0.9	4 人
無回答	0.6	3 人

グラフ単位： (%)

どんなペットを飼っているかについて、性別にみると、男女とも「犬」が最も高く、『男性』55.5%、『女性』53.8%で、これに男女とも「猫」が『男性』39.8%、『女性』42.8%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』の1人を除くと、いずれも「犬」が4～6割台と最も高く、『70歳以上』で68.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「犬」が5～6割台と最も高く、『農林漁業』で64.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「犬」が5～8割台と最も高く、『小豆圏域』で81.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』を除くすべての居住年数で「犬」が4～5割台と最も高く、『3年未満』では「猫」61.5%が最も高くなっている。

図表 2- (7) -2 【どんなペットを飼っているかについて】

		全体	(1) 犬	(2) 猫	(3) 魚類	(4) 爬虫類 (カメなど)	(5) 哺乳類 (犬、猫を除く)	(6) 鳥類	(7) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=			1位	2位						
全体		468	54.7	41.5	15.4	6.4	3.2	3.2	0.9	0.6
性別	男性	191	55.5	39.8	18.8	5.2	1.6	3.1	0.5	0.5
	女性	264	53.8	42.8	12.5	7.2	4.2	3.4	1.1	0.8
年齢別	18~19歳	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	20~29歳	24	45.8	41.7	8.3	8.3	20.8	-	-	-
	30~39歳	38	44.7	42.1	18.4	2.6	2.6	5.3	2.6	-
	40~49歳	77	49.4	45.5	20.8	7.8	6.5	3.9	1.3	-
	50~59歳	103	46.6	45.6	15.5	2.9	1.9	3.9	-	-
	60~69歳	113	55.8	43.4	11.5	11.5	0.9	0.9	-	0.9
	70歳以上	109	68.8	33.9	14.7	3.7	0.9	4.6	1.8	1.8
職業別	農林漁業	17	64.7	52.9	17.6	5.9	-	5.9	-	-
	商工業、サービス業、自由業など	65	61.5	36.9	18.5	6.2	3.1	3.1	1.5	-
	会社、商店、官公庁などに勤務	231	52.4	42.9	14.3	3.9	3.5	2.6	-	-
	主婦・主夫	73	52.1	39.7	19.2	13.7	1.4	5.5	2.7	2.7
	無職	73	56.2	41.1	11.0	6.8	5.5	2.7	1.4	-
圏域別	高松圏域	215	50.2	44.7	15.8	8.8	3.3	3.7	0.5	0.5
	東讃圏域	39	53.8	43.6	10.3	5.1	-	2.6	2.6	2.6
	小豆圏域	11	81.8	27.3	18.2	-	-	9.1	-	-
	中讃圏域	133	54.9	39.1	15.8	6.0	5.3	3.0	1.5	0.8
	西讃圏域	70	64.3	37.1	15.7	1.4	1.4	1.4	-	-
居住年数別	3年未満	13	38.5	61.5	46.2	-	-	-	-	-
	3年以上~10年未満	49	53.1	34.7	18.4	4.1	4.1	10.2	2.0	-
	10年以上~20年未満	79	45.6	39.2	17.7	7.6	8.9	3.8	2.5	-
	20年以上	323	57.6	42.7	12.4	6.5	1.5	2.2	0.3	0.9

(8)ペットの入手方法について

付問5 ペットの入手方法について、次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=468】 ※回答数の多い順に並べ替え

1	ペットショップやブリーダーから購入した	43.8%(44.7%)
2	知人から譲り受けた	32.7%(33.2%)
3	拾った	22.6%(22.9%)
4	譲渡会や新聞・情報誌を利用して譲り受けた	13.0%(12.9%)
5	保健所等の行政機関から譲り受けた	3.6%(3.2%)
6	その他	6.6%(6.2%)
	(無回答)	0.4%(0.3%)

ペットの入手方法について、「ペットショップやブリーダーから購入した」43.8%が最も高く、次いで「知人から譲り受けた」32.7%、「拾った」22.6%、「譲渡会や新聞・情報誌を利用して譲り受けた」13.0%などとなっている。

図表 2- (8) -1 ペットの入手方法について

	割合 (%)	回答数
全 体	100.0	468 人
(1) ペットショップやブリーダーから購入した	43.8	205 人
(2) 知人から譲り受けた	32.7	153 人
(3) 拾った	22.6	106 人
(4) 譲渡会や新聞・情報誌を利用して譲り受けた	13.0	61 人
(5) 保健所等の行政機関から譲り受けた	3.6	17 人
(6) その他	6.6	31 人
無回答	0.4	2 人

グラフ単位： (%)

ペットの入手方法について、性別にみると、男女とも「ペットショップやブリーダーから購入した」が最も高く、『男性』45.0%、『女性』42.0%で、これに男女とも「知人から譲り受けた」が『男性』31.4%、『女性』34.1%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』の1人を除くと、いずれも「ペットショップやブリーダーから購入した」が3～5割台と最も高く、『20～29歳』で54.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「ペットショップやブリーダーから購入した」が3～4割台と最も高く、『農林漁業』では「知人から譲り受けた」47.1%が最も高くなっている。

圏域別にみると、『西讃圏域』を除くすべての圏域で「ペットショップやブリーダーから購入した」が3～5割台と最も高く、『西讃圏域』では「知人から譲り受けた」45.7%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』を除くすべての居住年数で「ペットショップやブリーダーから購入した」が3～6割台と最も高く、『3年未満』では「ペットショップやブリーダーから購入した」、「知人から譲り受けた」が同率の46.2%と最も高くなっている。

図表 2- (8) -2 【ペットの入手方法について】

		全体	(1) ペットショップやブリーダーから購入した	(2) 知人から譲り受けた	(3) 拾った	(4) 譲渡会や新聞・情報誌を利用して譲り受けた	(5) 保健所等の行政機関から譲り受けた	(6) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=			1位	2位					
全体		468	43.8	32.7	22.6	13.0	3.6	6.6	0.4
性別	男性	191	45.0	31.4	19.4	9.9	4.2	4.7	-
	女性	264	42.0	34.1	25.8	15.2	3.4	8.0	0.8
年齢別	18～19歳	1	100.0	-	-	-	-	-	-
	20～29歳	24	54.2	41.7	25.0	8.3	4.2	4.2	-
	30～39歳	38	39.5	28.9	26.3	15.8	-	5.3	-
	40～49歳	77	42.9	36.4	20.8	20.8	1.3	7.8	-
	50～59歳	103	48.5	28.2	23.3	12.6	1.9	5.8	-
	60～69歳	113	42.5	31.9	21.2	11.5	7.1	8.8	0.9
	70歳以上	109	39.4	34.9	23.9	10.1	4.6	5.5	0.9
職業別	農林漁業	17	23.5	47.1	23.5	17.6	11.8	23.5	5.9
	商工業、サービス業、自由業など	65	47.7	29.2	21.5	12.3	1.5	6.2	-
	会社、商店、官公庁などに勤務	231	46.3	33.8	22.1	13.9	3.5	5.2	-
	主婦・主夫	73	42.5	31.5	20.5	12.3	4.1	12.3	1.4
	無職	73	39.7	31.5	26.0	9.6	4.1	2.7	-
圏域別	高松圏域	215	46.0	29.3	23.3	14.9	5.6	4.7	-
	東讃圏域	39	33.3	30.8	23.1	10.3	2.6	10.3	2.6
	小豆圏域	11	54.5	45.5	27.3	9.1	-	9.1	-
	中讃圏域	133	47.4	30.8	21.8	14.3	1.5	6.8	-
	西讃圏域	70	34.3	45.7	21.4	7.1	2.9	10.0	1.4
居住年数別	3年未満	13	46.2	46.2	23.1	-	-	23.1	-
	3年以上～10年未満	49	65.3	14.3	14.3	18.4	-	4.1	-
	10年以上～20年未満	79	50.6	36.7	21.5	16.5	1.3	2.5	-
	20年以上	323	38.4	34.1	24.5	12.1	5.0	7.4	0.6

(9)日ごろからペットの災害時の対策を講じているかについて

付問6 あなたは、日ごろからペットの災害時の対策を講じていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=468】※回答の多い順に並べ替え

1 ペットの脱走防止	41.2%(42.3%)
2 何もしていない	38.5%(38.4%)
3 ペットと一緒に避難するためのペット用品の確保	30.3%(30.4%)
4 名札などの装着	17.1%(17.2%)
5 動物の避難場所の想定	9.8%(10.5%)
6 その他	3.4%(3.2%)
(無回答)	0.6%(0.6%)

日ごろからペットの災害時の対策を講じているかについて、「ペットの脱走防止」41.2%が最も高く、次いで「何もしていない」38.5%、「ペットと一緒に避難するためのペット用品の確保」30.3%、「名札などの装着」17.1%などとなっている。

図表2-(9)-1 日ごろからペットの災害時の対策を講じているかについて

		回答数
全体	100.0	468 人
(1) ペットの脱走防止	41.2	193 人
(2) 何もしていない	38.5	180 人
(3) ペットと一緒に避難するためのペット用品の確保	30.3	142 人
(4) 名札などの装着	17.1	80 人
(5) 動物の避難場所の想定	9.8	46 人
(6) その他	3.4	16 人
無回答	0.6	3 人

グラフ単位：(%)

日ごろからペットの災害時の対策を講じているかについて、性別にみると、『男性』では「何もしていない」が40.8%と最も高く、『女性』では「ペットの脱走防止」が43.2%と最も高くなっており、これに『男性』は「ペットの脱走防止」38.2%、『女性』は「何もしていない」37.9%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』の1人を除くと、『20～29歳』、『40～49歳』、『50～59歳』では「ペットの脱走防止」が4～5割台と最も高く、『30～39歳』では「ペットの脱走防止」、「何もしていない」が同率の42.1%と最も高く、『60～69歳』、『70歳以上』では「何もしていない」が4割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『無職』では「何もしていない」が4～6割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「ペットの脱走防止」が4割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『小豆圏域』、『西讃圏域』では「ペットの脱走防止」が4割台と最も高く、『東讃圏域』では「何もしていない」が43.6%と最も高く、『中讃圏域』では「ペットの脱走防止」、「何もしていない」が同率の38.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』を除くすべての居住年数で「ペットの脱走防止」が4～5割台と最も高く、『3年以上～10年未満』では「何もしていない」が38.8%と最も高くなっている。

図表 2- (9) -2 【日ごろからペットの災害時の対策を講じているかについて】

		全体	(1) ペットの脱走防止	(2) 何もしていない	(3) 確保 ペットと一緒に避難するためのペット用品の	(4) 名札などの装着	(5) 動物の避難場所の想定	(6) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=									
			1位						
			2位						
全体		468	41.2	38.5	30.3	17.1	9.8	3.4	0.6
性別	男性	191	38.2	40.8	25.7	18.8	5.8	2.1	0.5
	女性	264	43.2	37.9	32.6	14.8	11.4	4.2	0.8
年齢別	18～19歳	1	100.0	-	-	100.0	100.0	-	-
	20～29歳	24	50.0	41.7	37.5	12.5	12.5	4.2	-
	30～39歳	38	42.1	42.1	28.9	10.5	5.3	-	-
	40～49歳	77	44.2	41.6	27.3	11.7	7.8	2.6	1.3
	50～59歳	103	42.7	29.1	34.0	15.5	13.6	5.8	-
	60～69歳	113	39.8	42.5	31.9	15.0	8.0	4.4	0.9
	70歳以上	109	36.7	40.4	26.6	26.6	8.3	1.8	0.9
職業別	農林漁業	17	17.6	64.7	17.6	17.6	5.9	-	5.9
	商工業、サービス業、自由業など	65	40.0	38.5	20.0	18.5	9.2	6.2	1.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	231	44.2	35.9	32.9	13.4	9.5	3.9	-
	主婦・主夫	73	45.2	37.0	41.1	23.3	11.0	2.7	1.4
	無職	73	35.6	45.2	24.7	19.2	6.8	1.4	-
圏域別	高松圏域	215	43.7	38.1	33.5	14.9	9.3	3.3	-
	東讃圏域	39	38.5	43.6	20.5	12.8	2.6	-	2.6
	小豆圏域	11	45.5	27.3	36.4	36.4	9.1	-	-
	中讃圏域	133	38.3	38.3	25.6	17.3	6.0	6.0	0.8
	西讃圏域	70	40.0	38.6	34.3	22.9	22.9	1.4	1.4
居住年数別	3年未満	13	53.8	38.5	15.4	15.4	7.7	-	-
	3年以上～10年未満	49	34.7	38.8	36.7	22.4	10.2	2.0	-
	10年以上～20年未満	79	48.1	34.2	30.4	19.0	13.9	1.3	-
	20年以上	323	40.2	39.9	30.0	15.8	8.4	4.3	0.6

(10) 災害時にペットに関する一番不安なことについて

【全員にお聞きます】

付問7 災害時にペットに関することで、一番不安なことは何ですか。次の中から主なものを1つだけ選んでください。

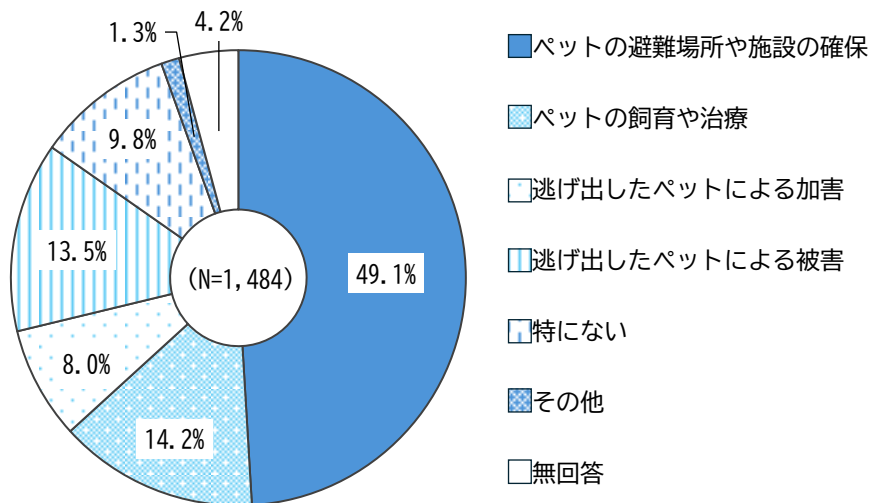
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

1 ペットの避難場所や施設の確保	49.1%(50.5%)
2 ペットの飼育や治療	14.2%(13.8%)
3 逃げ出したペットによる加害	8.0%(7.8%)
4 逃げ出したペットによる被害	13.5%(13.0%)
5 特にない	9.8%(9.7%)
6 その他	1.3%(1.3%)
(無回答)	4.2%(3.9%)

災害時にペットに関する一番不安なことについて、「ペットの避難場所や施設の確保」49.1%が最も高く、次いで「ペットの飼育や治療」14.2%、「逃げ出したペットによる被害」13.5%、「逃げ出したペットによる加害」8.0%となっている。

図表 2- (10) -1 災害時にペットに関する一番不安なことについて



災害時にペットに関する一番不安なことについて、性別にみると、男女とも「ペットの避難場所や施設の確保」が最も高く、『男性』39.6%、『女性』56.6%で、これに『男性』は「ペットの飼育や治療」17.1%、『女性』は「逃げ出したペットによる被害」12.7%と続いている。

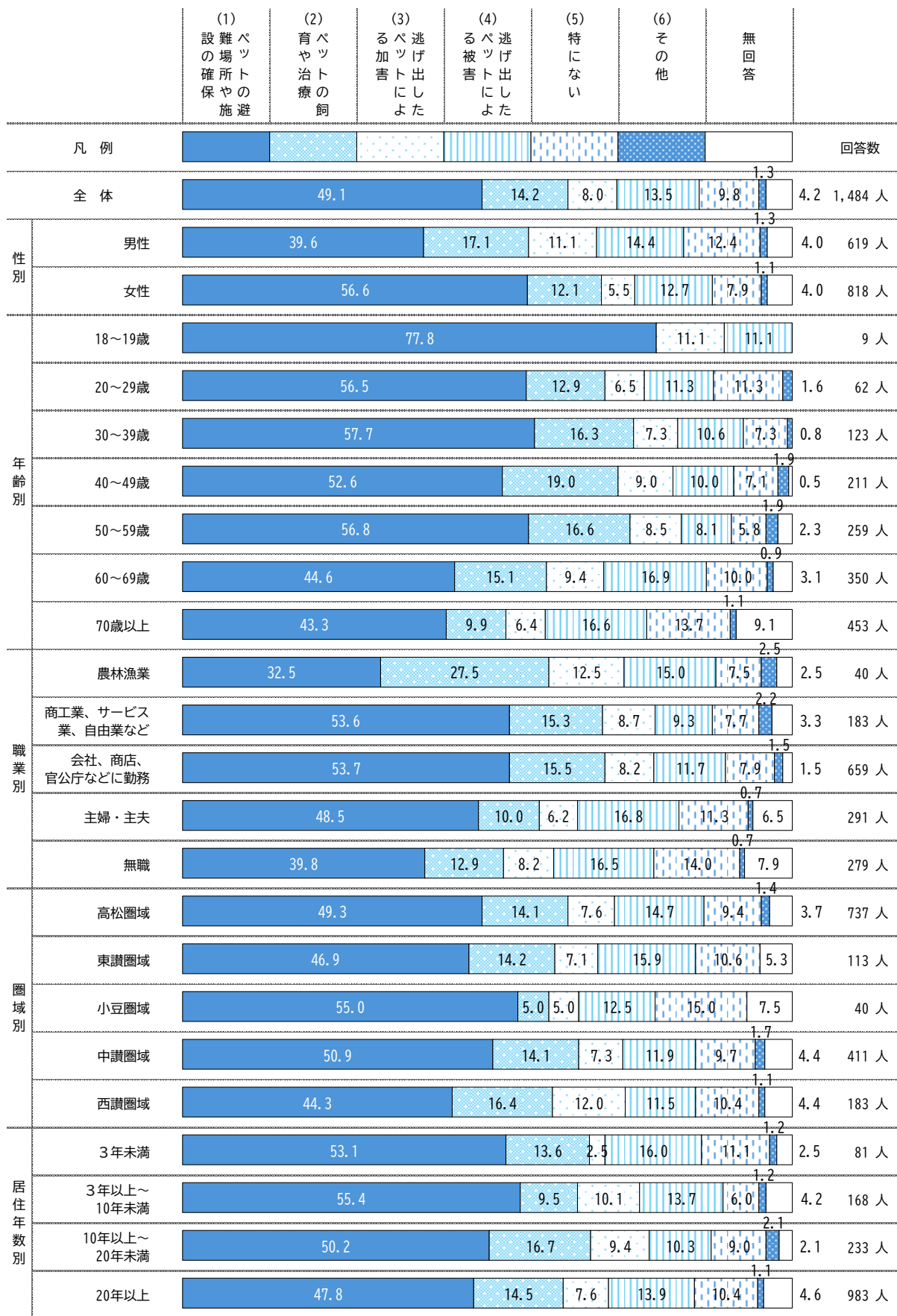
年齢別にみると、いずれも「ペットの避難場所や施設の確保」が4～7割台と最も高く、『18～19歳』で77.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ペットの避難場所や施設の確保」が3～5割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』で53.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ペットの避難場所や施設の確保」が4～5割台と最も高く、『小豆圏域』で55.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「ペットの避難場所や施設の確保」が4～5割台と最も高く、『3年以上～10年未満』で55.4%と最も高くなっている。

図表 2- (10) -2 【災害時にペットに関する一番不安なことについて】



グラフ単位：(%)

(11) 飼っている犬が迷子になったときの対策について

【犬を飼っている方にお聞きします】

付問8 飼っている犬が迷子になったときの対策をしていますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=256】※回答の多い順に並べ替え

1	首輪等をつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない	37.1%(36.8%)
2	マイクロチップを挿入している	28.1%(29.4%)
3	飼い主と連絡が取れる措置 (迷子札や犬の鑑札などの装着、首輪への連絡先記入など)	21.5%(21.9%)
4	何もしていない	21.1%(20.1%)
5	その他	3.1%(2.8%)
	(無回答)	1.6%(1.5%)

飼っている犬が迷子になったときの対策について、「首輪等をつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」37.1%が最も高く、次いで「マイクロチップを挿入している」28.1%、「飼い主と連絡が取れる措置（迷子札や犬の鑑札などの装着、首輪への連絡先記入など）」21.5%などとなっている。

図表 2- (11) -1 飼っている犬が迷子になったときの対策について

		回答数
全体	100.0	256 人
(1) 首輪等をつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない	37.1	95 人
(2) マイクロチップを挿入している	28.1	72 人
(3) 飼い主と連絡が取れる措置（迷子札や犬の鑑札などの装着、首輪への連絡先記入など）	21.5	55 人
(4) 何もしていない	21.1	54 人
(5) その他	3.1	8 人
無回答	1.6	4 人

グラフ単位：(%)

飼っている犬が迷子になったときの対策について、性別にみると、男女とも「首輪等をつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が最も高く、『男性』40.6%、『女性』35.9%で、これに男女とも「マイクロチップを挿入している」が『男性』25.5%、『女性』28.2%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』の1人を除くと、『20～29歳』では「マイクロチップを挿入している」45.5%が最も高く、『30～39歳』、『40～49歳』では「マイクロチップを挿入している」、「首輪等をつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が同率で最も高く、『50～59歳』では「何もしていない」33.3%が最も高く、『60～69歳』、『70歳以上』では「首輪等をつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「首輪等をつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が3～4割台と最も高く、『農林漁業』で45.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「首輪等をつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が3～5割台と最も高く、『東讃圏域』で57.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「マイクロチップを挿入している」、「首輪等をつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が同率40.0%と最も高く、『3年以上～10年未満』では「マイクロチップを挿入している」61.5%が最も高く、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「首輪等をつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が最も高くなっている。

図表 2- (11) -2 【飼っている犬が迷子になったときの対策について】

		全体	(1) 首輪等をつけていないが、飼い主と連絡が取れる措置はしている	(2) マイクロチップを挿入している	(3) 札などの装着、首輪への措置（迷子札や犬の鑑	(4) 何もしていない	(5) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=			1位	2位				
全体		256	37.1	28.1	21.5	21.1	3.1	1.6
性別	男性	106	40.6	25.5	21.7	18.9	-	1.9
	女性	142	35.9	28.2	21.1	22.5	5.6	1.4
年齢別	18～19歳	1	-	-	100.0	-	-	-
	20～29歳	11	27.3	45.5	18.2	18.2	-	-
	30～39歳	17	47.1	47.1	17.6	11.8	-	-
	40～49歳	38	36.8	36.8	23.7	21.1	-	2.6
	50～59歳	48	31.3	29.2	20.8	33.3	4.2	-
	60～69歳	63	33.3	27.0	22.2	23.8	3.2	1.6
	70歳以上	75	44.0	16.0	21.3	14.7	5.3	2.7
職業別	農林漁業	11	45.5	9.1	18.2	18.2	9.1	-
	商工業、サービス業、自由業など	40	40.0	35.0	22.5	10.0	-	2.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	121	34.7	33.1	21.5	24.0	1.7	0.8
	主婦・主夫	38	31.6	23.7	23.7	21.1	13.2	2.6
	無職	41	43.9	14.6	19.5	26.8	-	2.4
圏域別	高松圏域	108	31.5	29.6	23.1	23.1	2.8	2.8
	東讃圏域	21	57.1	19.0	19.0	4.8	9.5	-
	小豆圏域	9	55.6	33.3	11.1	11.1	-	-
	中讃圏域	73	34.2	32.9	21.9	21.9	4.1	1.4
	西讃圏域	45	42.2	20.0	20.0	24.4	-	-
居住年数別	3年未満	5	40.0	40.0	20.0	-	-	-
	3年以上～10年未満	26	23.1	61.5	30.8	11.5	-	-
	10年以上～20年未満	36	30.6	27.8	22.2	27.8	-	2.8
	20年以上	186	40.3	22.6	20.4	22.0	4.3	1.6

(12) 犬の不妊・去勢手術をしているかについて

付問9 犬の不妊・去勢手術をしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

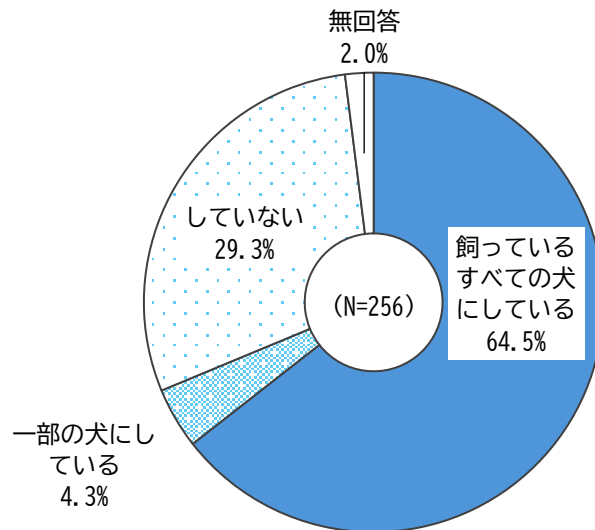
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=256】

1 飼っているすべての犬にしている	64.5%(65.2%)
2 一部の犬にしている	4.3%(4.8%)
3 していない	29.3%(28.1%)
(無回答)	2.0%(1.9%)

犬の不妊・去勢手術をしているかについて、「飼っているすべての犬にしている」64.5%が最も高く、次いで「していない」29.3%、「一部の犬にしている」4.3%となっている。

図表2- (12) -1 犬の不妊・去勢手術をしているかについて



犬の不妊・去勢手術をしているかについて、性別にみると、男女とも「飼っているすべての犬にしている」が最も高く、『男性』66.0%、『女性』62.0%で、これに男女とも「していない」が『男性』30.2%、『女性』29.6%と続いている。

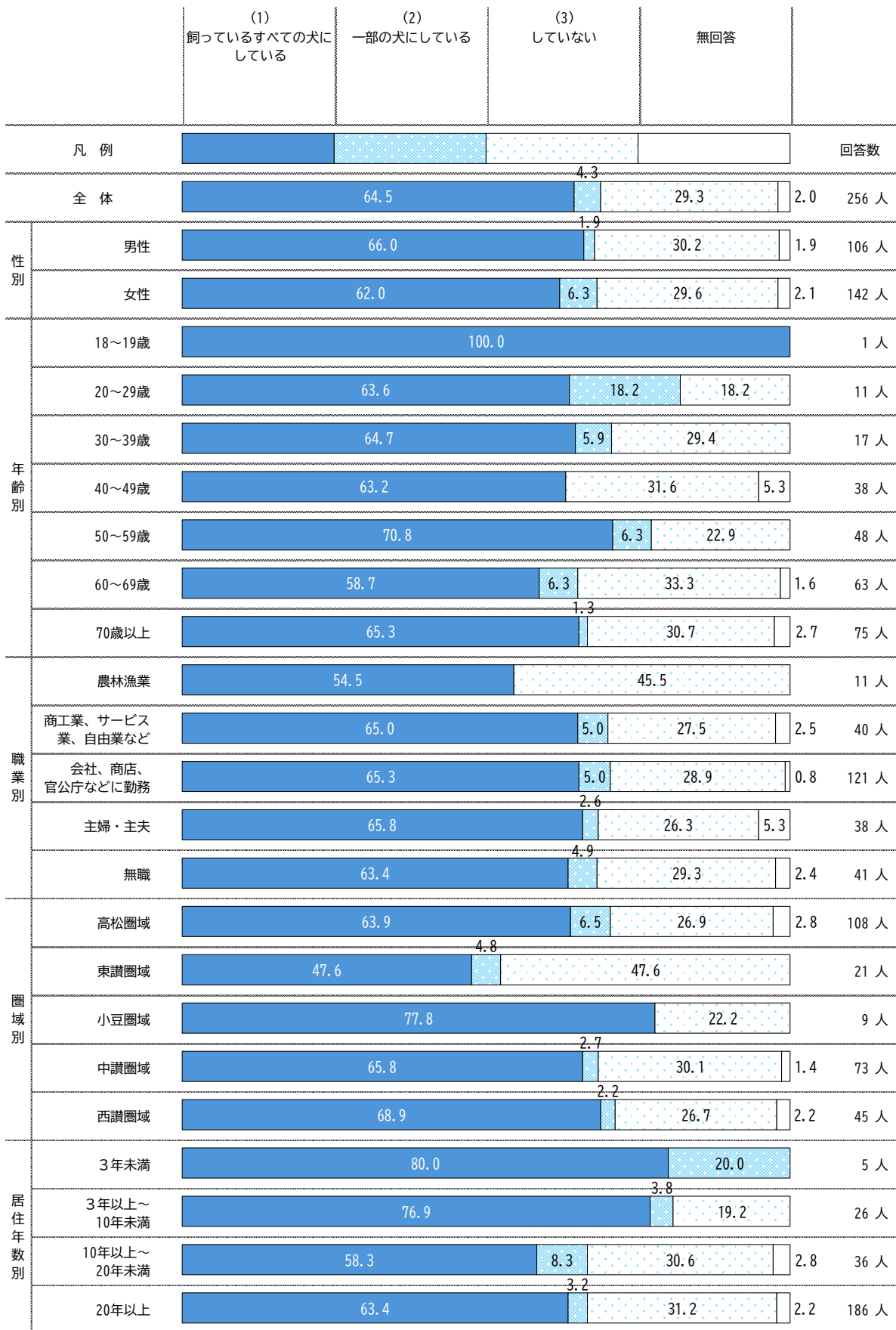
年齢別にみると、『18～19歳』の1人を除くと、いずれも「飼っているすべての犬にしている」が5～7割台と最も高く、『50～59歳』で70.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「飼っているすべての犬にしている」が5～6割台と最も高く、『主婦・主夫』で65.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』を除くすべての圏域で「飼っているすべての犬にしている」が6～7割台と最も高く、『東讃圏域』では「飼っているすべての犬にしている」、「していない」が同率の47.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「飼っているすべての犬にしている」が5～8割台と最も高く、『3年未満』で80.0%と最も高くなっている。

図表 2- (12) -2 【犬の不妊・去勢手術をしているかについて】



グラフ単位：(%)

(13) 飼っている猫が迷子になったときの対策について

【猫を飼っている方にお聞きします】

付問10 飼っている猫が迷子になったときの対策をしていますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=194】※回答の多い順に並べ替え

1 何もしていない	44.8%(44.5%)
2 首輪等をつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない	26.8%(25.4%)
3 マイクロチップを挿入している	13.4%(13.8%)
4 飼い主と連絡が取れる措置 (迷子札などの装着、首輪への連絡先記入など)	10.8%(13.0%)
5 その他	5.2%(5.0%)
(無回答)	3.1%(2.5%)

飼っている猫が迷子になったときの対策について、「何もしていない」44.8%が最も高く、次いで「首輪等をつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」26.8%、「マイクロチップを挿入している」13.4%などとなっている。

図表 2- (13) -1 飼っている猫が迷子になったときの対策について

	割合 (%)	回答数
全 体	100.0	194 人
(1) 何もしていない	44.8	87 人
(2) 首輪等をつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない	26.8	52 人
(3) マイクロチップを挿入している	13.4	26 人
(4) 飼い主と連絡が取れる措置 (迷子札などの装着、首輪への連絡先記入など)	10.8	21 人
(5) その他	5.2	10 人
無回答	3.1	6 人

グラフ単位： (%)

飼っている猫が迷子になったときの対策について、性別にみると、男女とも「何もしていない」が最も高く、『男性』43.4%、『女性』46.0%で、これに男女とも「首輪等をつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が『男性』31.6%、『女性』23.9%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「何もしていない」が4～5割台と最も高く、『70歳以上』で54.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』を除くすべての職業で「何もしていない」が4～5割台と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「首輪等をつけているが、飼い主と連絡が取れる措置はしていない」が41.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「何もしていない」が3～6割台と最も高く、『小豆圏域』で66.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』を除くすべての居住年数で「何もしていない」が3～5割台と最も高く、『3年以上～10年未満』では「マイクロチップを挿入している」が41.2%と最も高くなっている。

図表 2- (13) -2 【飼っている猫が迷子になったときの対策について】

		全体	(1) 何もし ていな い	(2) 首輪等 はして いてい るが、 飼い主 と連絡 が取れ ない	(3) マイク ロチッ プを挿 入して いる	(4) 飼い主 と連絡 が取れ る措置 （迷子 札など の装 着、首 輪への 連絡先 記入な ど）	(5) その他	無回 答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=			1位	2位				
全体		194	44.8	26.8	13.4	10.8	5.2	3.1
性別	男性	76	43.4	31.6	13.2	14.5	1.3	2.6
	女性	113	46.0	23.9	12.4	8.8	7.1	3.5
年齢別	18～19歳	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳	10	40.0	10.0	20.0	30.0	-	-
	30～39歳	16	43.8	25.0	18.8	18.8	6.3	-
	40～49歳	35	42.9	28.6	11.4	14.3	8.6	-
	50～59歳	47	40.4	27.7	19.1	12.8	4.3	2.1
	60～69歳	49	44.9	28.6	14.3	4.1	4.1	6.1
	70歳以上	37	54.1	27.0	2.7	5.4	5.4	5.4
職業別	農林漁業	9	44.4	33.3	11.1	11.1	-	-
	商工業、サービス業、自由業など	24	29.2	41.7	12.5	4.2	4.2	8.3
	会社、商店、官公庁などに勤務	99	43.4	28.3	17.2	12.1	5.1	-
	主婦・主夫	29	51.7	13.8	17.2	10.3	6.9	6.9
	無職	30	56.7	20.0	-	13.3	3.3	6.7
圏域別	高松圏域	96	41.7	31.3	18.8	7.3	4.2	2.1
	東讃圏域	17	52.9	23.5	5.9	17.6	-	-
	小豆圏域	3	66.7	33.3	-	-	-	-
	中讃圏域	52	50.0	23.1	7.7	11.5	5.8	5.8
	西讃圏域	26	38.5	19.2	11.5	19.2	11.5	3.8
居住年数別	3年未満	8	50.0	37.5	-	12.5	-	-
	3年以上～10年未満	17	29.4	11.8	41.2	29.4	17.6	-
	10年以上～20年未満	31	38.7	32.3	9.7	12.9	6.5	-
	20年以上	138	47.8	26.8	11.6	8.0	3.6	4.3

(14)猫の不妊・去勢手術をしているかについて

付問11 猫の不妊・去勢手術をしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

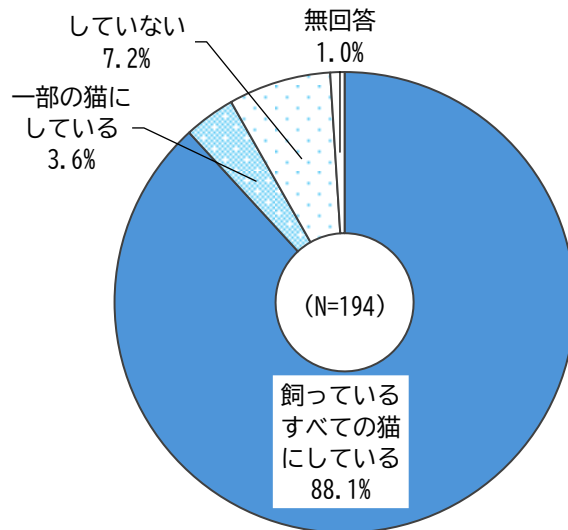
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=194】

1 飼っているすべての猫にしている	88.1%(87.8%)
2 一部の猫にしている	3.6%(4.3%)
3 していない	7.2%(7.2%)
(無回答)	1.0%(0.6%)

猫の不妊・去勢手術をしているかについて、「飼っているすべての猫にしている」88.1%が最も高く、次いで「していない」7.2%、「一部の猫にしている」3.6%となっている。

図表 2- (14) -1 猫の不妊・去勢手術をしているかについて



猫の不妊・去勢手術をしているかについて、性別にみると、男女とも「飼っているすべての猫にしている」が『男性』86.8%、『女性』88.5%と最も高く、これに男女とも「していない」が『男性』9.2%、『女性』6.2%と続いている。

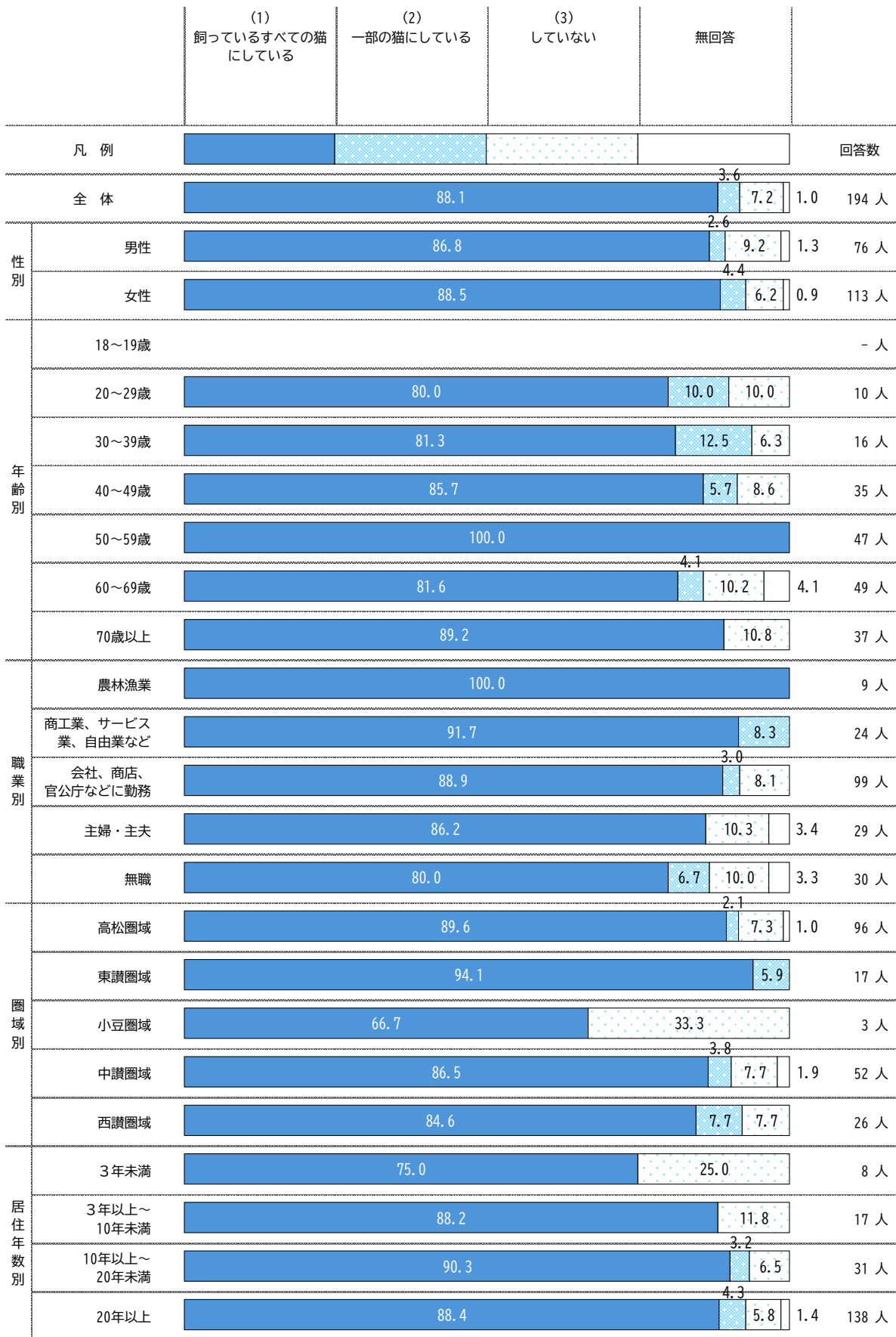
年齢別にみると、いずれも「飼っているすべての猫にしている」が8割以上と最も高く、『50～59歳』で100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「飼っているすべての猫にしている」が8割以上と最も高く、『農林漁業』で100.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「飼っているすべての猫にしている」が6～9割台と最も高く、『東讃圏域』で94.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「飼っているすべての猫にしている」が7～9割台と最も高く、『10年以上～20年未満』で90.3%と最も高くなっている。

図表 2- (14) -2 【猫の不妊・去勢手術をしているかについて】



グラフ単位：(%)

(15)どのようにして猫を飼っているかについて

付問12 どのようにして猫を飼っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

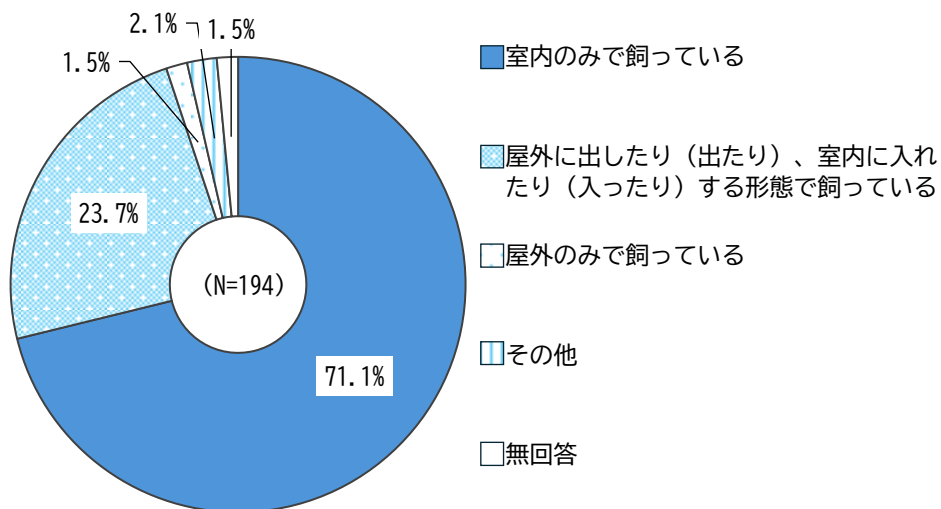
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=194】

1 室内のみで飼っている	71.1%(74.6%)
2 屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている	23.7%(21.0%)
3 屋外のみで飼っている	1.5%(1.2%)
4 その他	2.1%(2.1%)
(無回答)	1.5%(1.1%)

どのようにして猫を飼っているかについて、「室内のみで飼っている」71.1%が最も高く、次いで「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」23.7%、「屋外のみで飼っている」1.5%となっている。

図表2- (15) -1 どのようにして猫を飼っているかについて



どのようにして猫を飼っているかについて、性別にみると、男女とも「室内のみで飼っている」が最も高く、『男性』71.1%、『女性』69.9%で、これに男女とも「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が『男性』23.7%、『女性』24.8%と続いている。

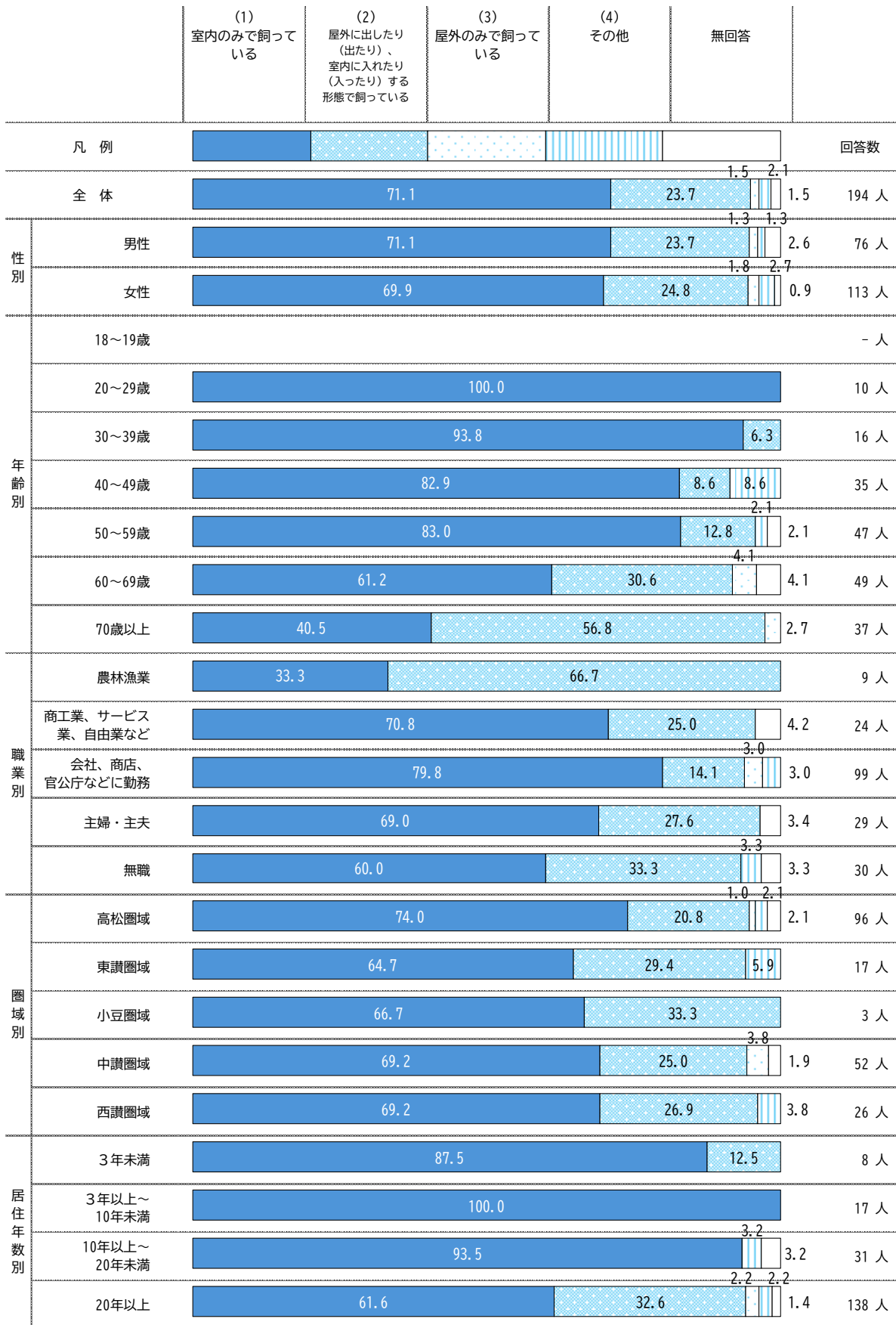
年齢別にみると、『70歳以上』を除くすべての年齢で「室内のみで飼っている」が6～10割台と最も高く、『70歳以上』では「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が56.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「室内のみで飼っている」が6～7割台と最も高く、『農林漁業』では「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が66.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「室内のみで飼っている」が6～7割台と最も高く、『高松圏域』で74.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「室内のみで飼っている」が6～10割台と最も高く、『3年以上～10年未満』で100.0%と最も高くなっている。

図表 2- (15) -2 【どのようにして猫を飼っているかについて】



グラフ単位：(%)

(16)「さぬき動物愛護センターしっぽの森」を知っているかについて

【全員にお聞きします】

問14 平成31年3月、高松市東植田町に開所した「さぬき動物愛護センターしっぽの森」のことを知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

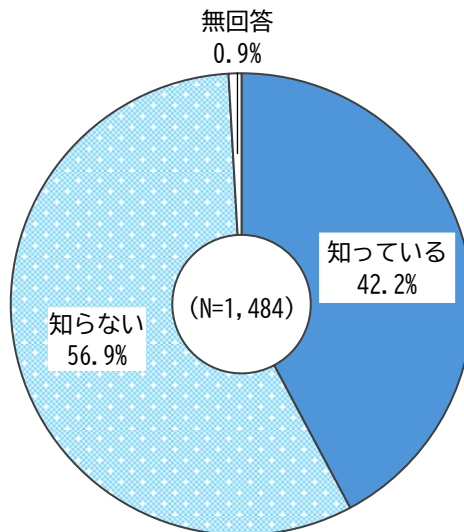
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

1 知っている	42.2%(40.5%)
2 知らない	56.9%(58.5%)
(無回答)	0.9%(1.0%)

「さぬき動物愛護センターしっぽの森」を知っているかについて、「知っている」42.2%、「知らない」56.9%となっている。

図表 2- (16) -1 「さぬき動物愛護センターしっぽの森」を知っているかについて



「さぬき動物愛護センターしっぽの森」を知っているかについて、性別にみると、「知っている」が『男性』36.8%、『女性』45.8%となっており、「知らない」が『男性』66.2%、『女性』53.3%となっている。

年齢別にみると、『40～49歳』を除くすべての年齢で「知らない」の割合が5～8割台と「知っている」より高く、『40～49歳』では「知っている」が50.2%と「知らない」より高くなっている。

職業別にみると、いずれも「知らない」の割合が5～6割台と「知っている」の割合より高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』を除くすべての圏域で「知らない」が4～7割台と「知っている」の割合より高く、『高松圏域』では「知っている」が52.0%と「知らない」の割合より高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「知らない」が5～6割台と「知っている」の割合より高くなっている。

図表2-(16)-2 【さぬき動物愛護センターしっぽの森】を知っているかについて

	(1) 知っている	(2) 知らない	無回答	回答数	
凡例					
全体	42.2	56.9	0.9	1,484人	
性別	男性	36.8	62.2	1.0	619人
	女性	45.8	53.3	0.9	818人
年齢別	18～19歳	11.1	88.9		9人
	20～29歳	27.4	72.6		62人
	30～39歳	42.3	56.9	0.8	123人
	40～49歳	50.2	49.8		211人
	50～59歳	48.3	51.0	0.8	259人
	60～69歳	46.3	53.7		350人
	70歳以上	34.9	62.9	2.2	453人
職業別	農林漁業	42.5	57.5		40人
	商工業、サービス業、自由業など	42.1	56.3	1.6	183人
	会社、商店、官公庁などに勤務	44.6	55.4		659人
	主婦・主夫	44.7	54.6	0.7	291人
	無職	34.8	63.1	2.2	279人
圏域別	高松圏域	52.0	47.4	0.7	737人
	東讃圏域	48.7	49.6	1.8	113人
	小豆圏域	20.0	77.5	2.5	40人
	中讃圏域	32.4	66.2	1.5	411人
	西讃圏域	25.7	74.3		183人
居住年数別	3年未満	33.3	66.7		81人
	3年以上～10年未満	39.3	60.1	0.6	168人
	10年以上～20年未満	46.4	52.8	0.9	233人
	20年以上	42.7	56.3	1.0	983人

グラフ単位：(%)

3. 教育について

(1)教育の現状について

問15 幼児期の教育、小学校教育、中学校教育、高等学校教育、特別支援教育の現状についてそれぞれどう思いますか。それぞれ1～6のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

(単位：%)

項目	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	分からない	無回答
[1]幼児期の教育	13.3 (14.5)	21.4 (21.5)	19.9 (19.3)	3.8 (4.4)	2.0 (2.0)	32.3 (31.3)	7.3 (6.9)
[2]小学校教育	11.2 (12.1)	22.0 (22.6)	20.1 (19.6)	5.5 (5.7)	3.1 (3.3)	31.3 (30.3)	6.9 (6.5)
[3]中学校教育	9.0 (9.9)	16.9 (17.1)	22.2 (21.8)	6.3 (6.7)	3.4 (3.6)	35.2 (34.3)	7.0 (6.6)
[4]高等学校教育	8.2 (9.1)	16.1 (16.6)	23.5 (23.1)	4.7 (5.2)	2.4 (2.3)	37.6 (36.7)	7.4 (7.0)
[5]特別支援教育	5.3 (5.4)	9.8 (9.8)	21.5 (21.2)	3.1 (3.2)	2.2 (2.2)	49.5 (49.8)	8.6 (8.4)

幼児期の教育の現状について、「分からない」32.3%が最も高く、次いで「やや満足している」21.4%、「どちらともいえない」19.9%、「満足している」13.3%などとなっている。

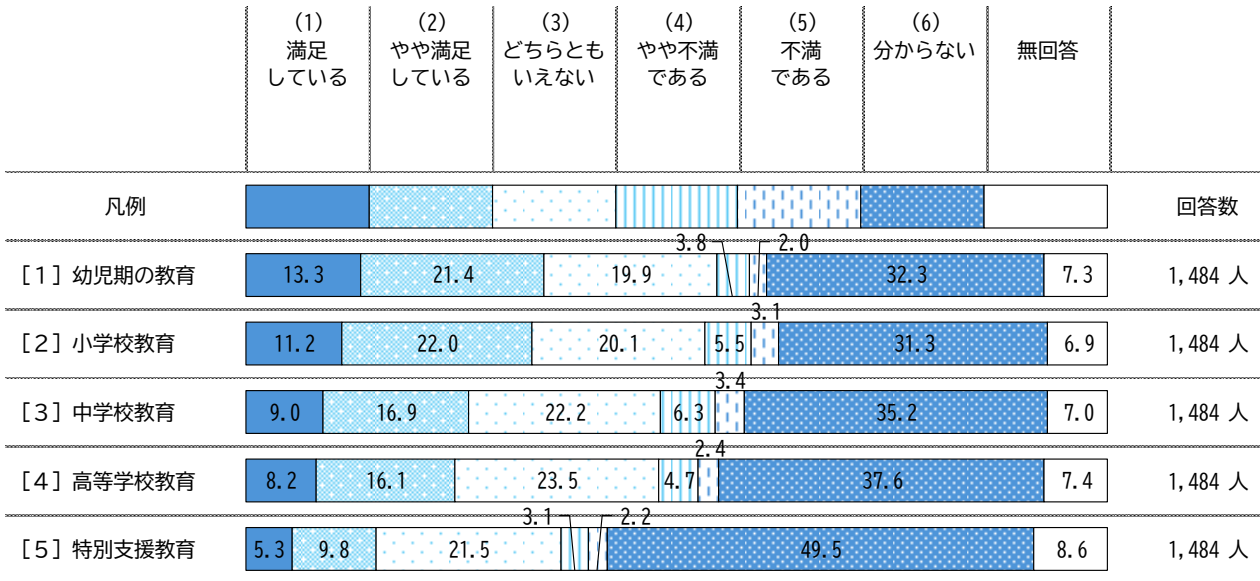
小学校教育の現状について、「分からない」31.3%が最も高く、次いで「やや満足している」22.0%、「どちらともいえない」20.1%、「満足している」11.2%などとなっている。

中学校教育の現状について、「分からない」35.2%が最も高く、次いで「どちらともいえない」22.2%、「やや満足している」16.9%、「満足している」9.0%などとなっている。

高等学校教育の現状について、「分からない」37.6%が最も高く、次いで「どちらともいえない」23.5%、「やや満足している」16.1%、「満足している」8.2%などとなっている。

特別支援教育の現状について、「分からない」49.5%が最も高く、次いで「どちらともいえない」21.5%、「やや満足している」9.8%、「満足している」5.3%などとなっている。

図表 3- (1) -1 教育の現状について



グラフ単位： (%)

幼児期の教育について、

性別にみると、「満足している」と「やや満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』33.3%、『女性』36.2%となっている。

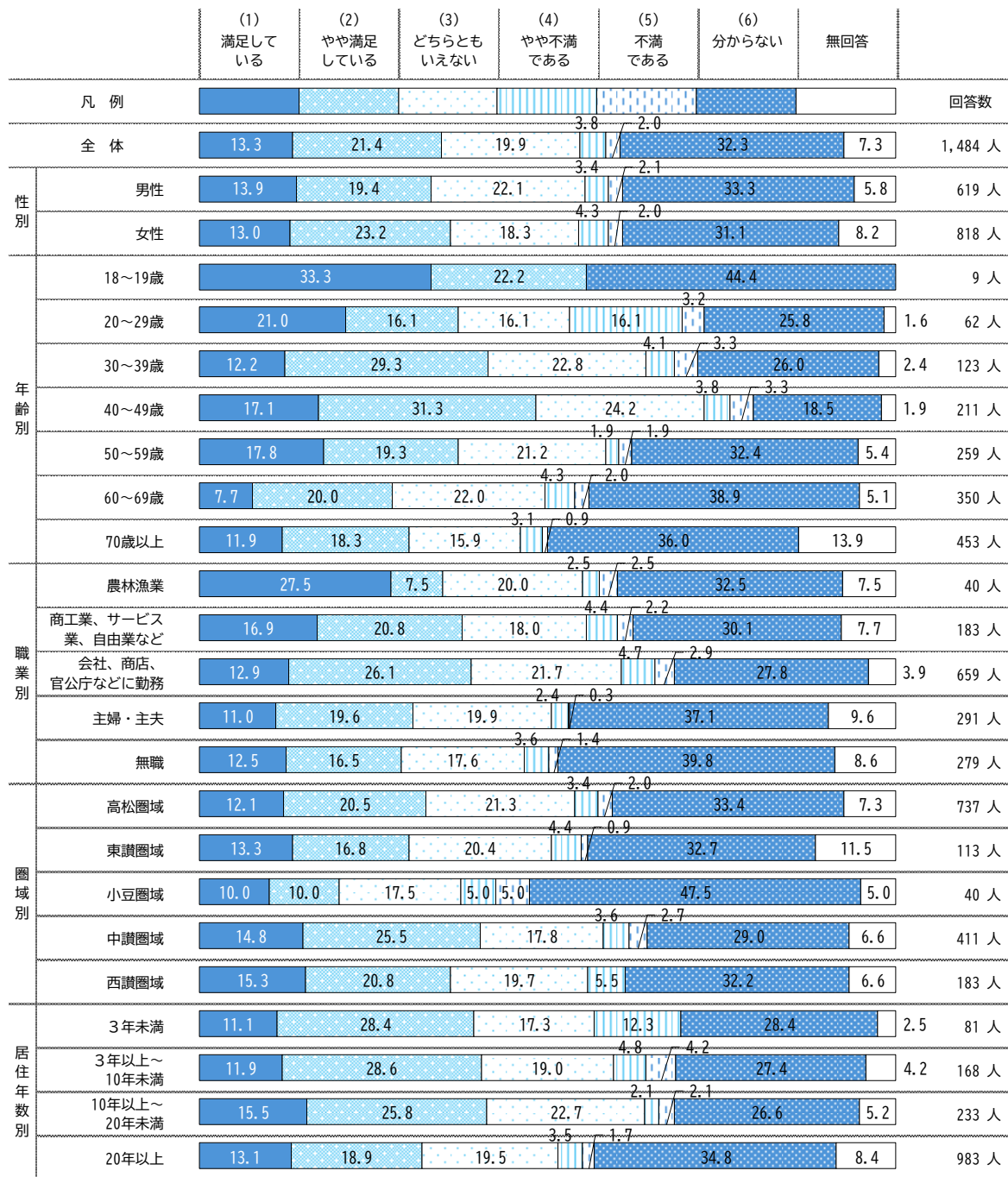
年齢別にみると、【満足している】の割合は、『18～19歳』が55.5%と最も高く、次いで『40～49歳』48.4%、『30～39歳』41.5%などとなっている。

職業別にみると、【満足している】の割合は、『会社、商店、官公庁などに勤務』が39.0%と最も高く、次いで『商工業、サービス業、自由業など』37.7%、『農林漁業』35.0%などとなっている。

圏域別にみると、【満足している】の割合は、『中讃圏域』が40.3%と最も高く、次いで『西讃圏域』36.1%、『高松圏域』32.6%などとなっている。

居住年数別にみると、【満足している】の割合は、『10年以上～20年未満』が41.3%と最も高く、次いで『3年以上～10年未満』40.5%、『3年未満』39.5%などとなっている。

図表3- (1) -2 【幼児期の教育について】



グラフ単位：(%)

小学校教育について、

性別にみると、「満足している」と「やや満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』33.8%、『女性』33.2%となっている。

年齢別にみると、【満足している】の割合は、『18～19歳』が66.6%と最も高く、次いで『40～49歳』47.4%、『20～29歳』38.8%などとなっている。

職業別にみると、【満足している】の割合は、『商工業、サービス業、自由業など』が38.8%と最も高く、次いで『会社、商店、官公庁などに勤務』36.0%、『農林漁業』35.0%などとなっている。

圏域別にみると、【満足している】の割合は、『中讃圏域』が36.7%と最も高く、次いで『西讃圏域』36.1%、『東讃圏域』31.8%などとなっている。

居住年数別にみると、【満足している】の割合は、『10年以上～20年未満』が42.5%と最も高く、次いで『3年以上～10年未満』32.2%、『20年以上』31.6%などとなっている。

図表3- (1) -3 【小学校教育について】

		(1) 満足して いる	(2) やや満足 している	(3) どちらとも いえない	(4) やや不満 である	(5) 不満 である	(6) 分からない	無回答	
凡 例									回答数
全 体		11.2	22.0	20.1	5.5	3.1	31.3	6.9	1,484 人
性 別	男性	12.3	21.5	21.8	4.8	3.1	30.7	5.8	619 人
	女性	10.5	22.7	18.9	5.6	3.2	31.4	7.6	818 人
年 齢 別	18～19歳	22.2	44.4				33.3		9 人
	20～29歳	19.4	19.4	19.4	8.1	6.5	25.8		1.6 62 人
	30～39歳	8.1	22.0	25.2	8.9	4.9	30.1	0.8	123 人
	40～49歳	10.9	36.5		21.3	8.1	17.1	4.7	1.4 211 人
	50～59歳	16.2	19.3	20.5	5.8	3.1	30.1	5.0	259 人
	60～69歳	6.6	19.4	23.4	4.6	2.9	37.7	5.4	350 人
	70歳以上	11.3	19.2	15.7	3.8	1.8	34.9	13.5	453 人
職 業 別	農林漁業	17.5	17.5	22.5	2.5	2.5	32.5	5.0	40 人
	商工業、サービス業、自由業など	12.6	26.2	14.2	6.6	4.4	28.4	7.7	183 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	11.7	24.3	22.8	6.2	3.9	27.6	3.5	659 人
	主婦・主夫	7.9	19.2	20.3	4.8	1.7	36.8	9.3	291 人
	無職	11.8	18.6	17.2	4.7	2.2	36.9	8.6	279 人
圏 域 別	高松圏域	10.0	21.4	20.8	5.0	3.1	32.8	6.8	737 人
	東讃圏域	10.6	21.2	21.2	3.5	2.7	29.2	11.5	113 人
	小豆圏域	10.0	7.5	17.5	10.0	2.5	47.5	5.0	40 人
	中讃圏域	11.9	24.8	18.7	5.8	3.9	28.0	6.8	411 人
	西讃圏域	14.8	21.3	20.2	6.6	1.6	30.1	5.5	183 人
居 住 年 数 別	3年未満	4.9	24.7	18.5	14.8	3.7	32.1	1.2	81 人
	3年以上～10年未満	5.4	26.8	22.0	9.5	5.4	28.0	3.0	168 人
	10年以上～20年未満	15.0	27.5	20.6	4.7	3.4	23.6	5.2	233 人
	20年以上	11.7	19.9	19.7	4.2	2.6	33.7	8.1	983 人

グラフ単位：(%)

中学校教育について、

性別にみると、「満足している」と「やや満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』26.7%、『女性』25.8%となっている。

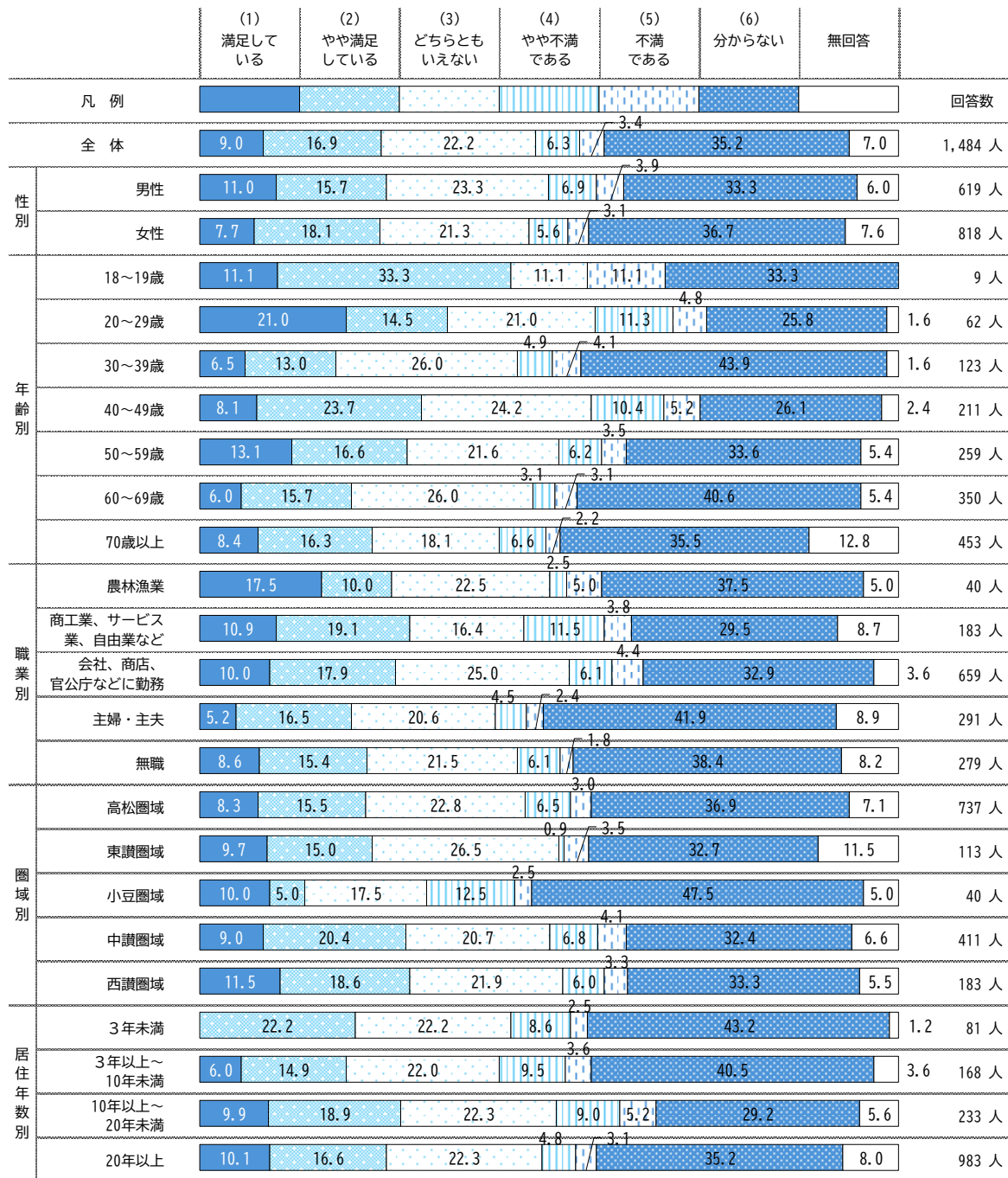
年齢別にみると、【満足している】の割合は、『18～19歳』が44.4%と最も高く、次いで『20～29歳』35.5%、『40～49歳』31.8%などとなっている。

職業別にみると、【満足している】の割合は、『商工業、サービス業、自由業など』が30.0%と最も高く、次いで『会社、商店、官公庁などに勤務』27.9%、『農林漁業』27.5%などとなっている。

圏域別にみると、【満足している】の割合は、『西讃圏域』が30.1%と最も高く、次いで『中讃圏域』29.4%、『東讃圏域』24.7%などとなっている。

居住年数別にみると、【満足している】の割合は、『10年以上～20年未満』が28.8%と最も高く、次いで『20年以上』26.7%、『3年未満』22.2%などとなっている。

図表3- (1) -4 【中学校教育について】



グラフ単位：(%)

高等学校教育について、

性別にみると、「満足している」と「やや満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』26.7%、『女性』23.3%となっている。

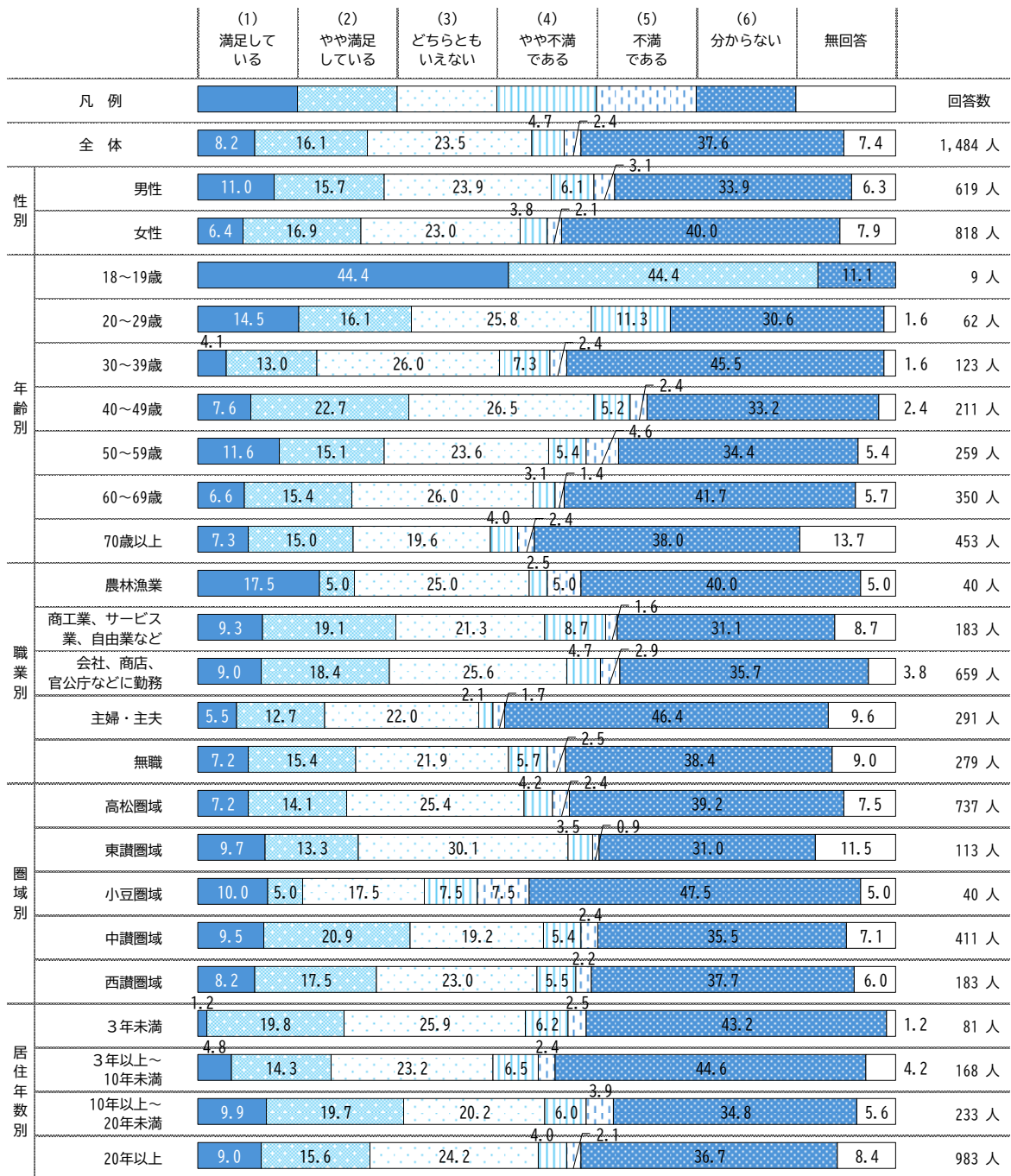
年齢別にみると、【満足している】の割合は、『18～19歳』が88.8%と最も高く、次いで『20～29歳』30.6%、『40～49歳』30.3%などとなっている。

職業別にみると、【満足している】の割合は、『商工業、サービス業、自由業など』が28.4%と最も高く、次いで『会社、商店、官公庁などに勤務』27.4%、『無職』22.6%などとなっている。

圏域別にみると、【満足している】の割合は、『中讃圏域』が30.4%と最も高く、次いで『西讃圏域』25.7%、『東讃圏域』23.0%などとなっている。

居住年数別にみると、【満足している】の割合は、『10年以上～20年未満』が29.6%と最も高く、次いで『20年以上』24.6%、『3年未満』21.0%などとなっている。

図表3- (1) -5 【高等学校教育について】



グラフ単位：(%)

特別支援教育について、

性別にみると、「満足している」と「やや満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』16.5%、『女性』14.4%となっている。

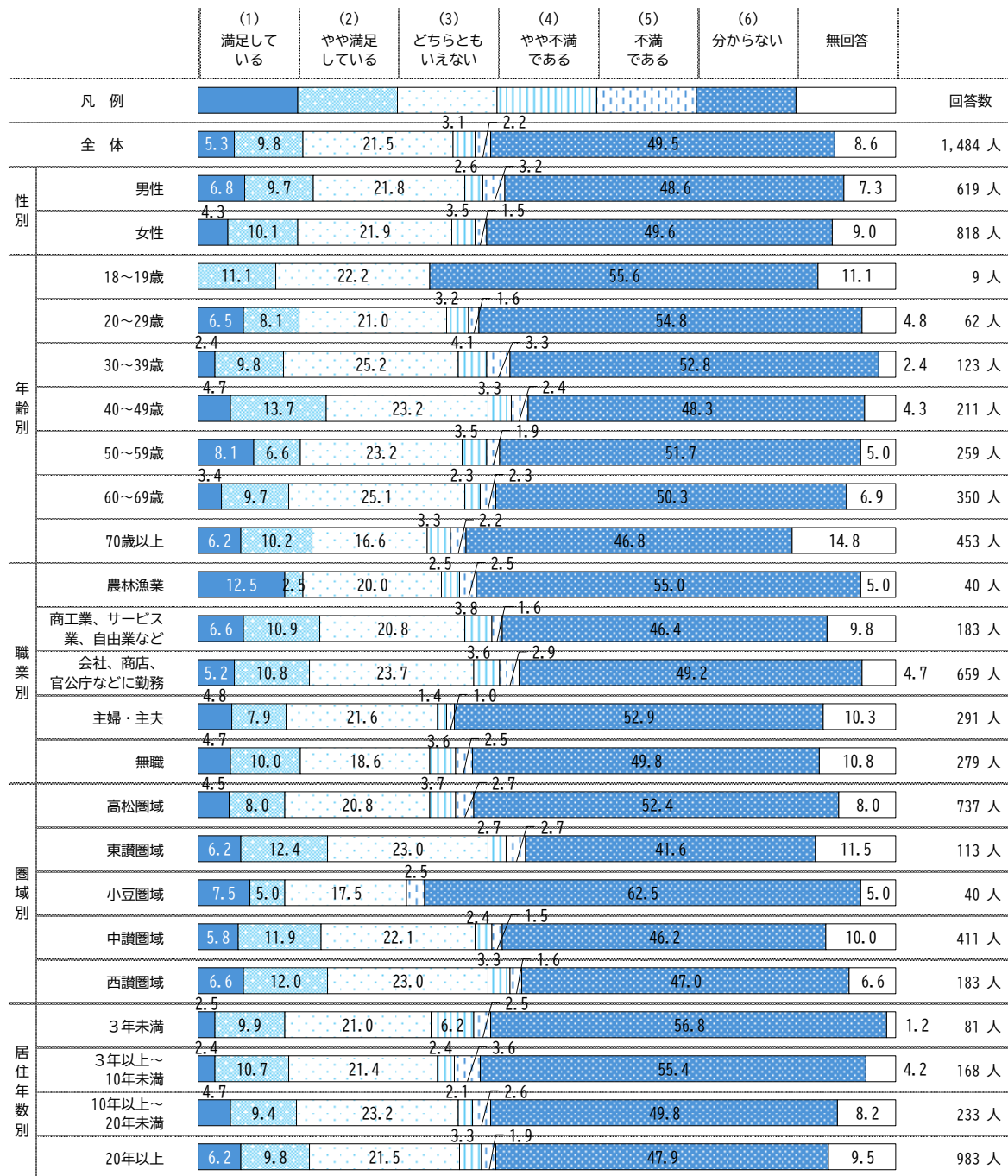
年齢別にみると、【満足している】の割合は、『40～49歳』が18.4%と最も高く、次いで『70歳以上』16.4%、『50～59歳』14.7%などとなっている。

職業別にみると、【満足している】の割合は、『商工業、サービス業、自由業など』が17.5%と最も高く、次いで『会社、商店、官公庁などに勤務』16.0%、『農林漁業』15.0%などとなっている。

圏域別にみると、【満足している】の割合は、『東讃圏域』、『西讃圏域』が同率の18.6%と最も高く、次いで『中讃圏域』17.7%、『高松圏域』、『小豆圏域』が同率の12.5%となっている。

居住年数別にみると、【満足している】の割合は、『20年以上』が16.0%と最も高く、次いで『10年以上～20年未満』14.1%、『3年以上～10年未満』13.1%などとなっている。

図表 3- (1) -6 【特別支援教育について】



グラフ単位：(%)

(2) 幼児期の教育で力を入れてほしいことについて

問16 幼児期の教育では、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】 ※回答数の多い順に並び替え

1	遊びを中心としたさまざまな経験を積ませること	59.9%(61.2%)
2	道徳心や社会性を育てること	41.0%(40.8%)
3	「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」の望ましい生活習慣を身に付けること	40.4%(40.1%)
4	きちんとした「しつけ」を行うこと	34.8%(33.7%)
5	地域の自然に触れたり、地域住民と交流したりすること	27.2%(26.6%)
6	情操・感性を育てること	23.4%(22.8%)
7	創造力を育てること	20.8%(21.0%)
8	文字の読み方や数の数え方などに関する興味や関心を養うこと	19.2%(20.3%)
9	体力をつけ、たくましさを養うこと	17.1%(17.4%)
10	その他	1.2%(1.3%)
	(無回答)	1.2%(1.2%)

幼児期の教育で力を入れてほしいことについて、「遊びを中心としたさまざまな経験を積ませること」59.9%が最も高く、次いで「道徳心や社会性を育てること」41.0%、「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」の望ましい生活習慣を身に付けること」40.4%、「きちんとした「しつけ」を行うこと」34.8%などとなっている。

図表 3- (2) -1 幼児期の教育で力を入れてほしいことについて

		回答数
全体	100.0	1,484 人
(1) 遊びを中心としたさまざまな経験を積ませること	59.9	889 人
(2) 道徳心や社会性を育てること	41.0	609 人
(3) 「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」の望ましい生活習慣を身に付けること	40.4	600 人
(4) きちんとした「しつけ」を行うこと	34.8	516 人
(5) 地域の自然に触れたり、地域住民と交流したりすること	27.2	404 人
(6) 情操・感性を育てること	23.4	347 人
(7) 創造力を育てること	20.8	309 人
(8) 文字の読み方や数の数え方などに関する興味や関心を養うこと	19.2	285 人
(9) 体力をつけ、たくましさを養うこと	17.1	254 人
(10) その他	1.2	18 人
無回答	1.2	18 人

グラフ単位：(%)

幼児期の教育で力を入れてほしいことについて、性別にみると、男女とも「遊びを中心としたさまざまな経験を積ませること」が最も高く、『男性』55.9%、『女性』63.4%で、これに『男性』は「きちんとした「しつけ」を行うこと」42.2%、『女性』は「早寝早起き朝ごはん」「運動・外遊び」の望ましい生活習慣を身に付けること」45.6%が続いている。

年齢別にみると、いずれも「遊びを中心としたさまざまな経験を積ませること」が5～6割台と最も高く、『30～39歳』では69.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「遊びを中心としたさまざまな経験を積ませること」が5～6割台と最も高く、『主婦・主夫』では61.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「遊びを中心としたさまざまな経験を積ませること」が5～6割台と最も高く、『西讃圏域』では65.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「遊びを中心としたさまざまな経験を積ませること」が5～6割台と最も高く、『10年以上～20年未満』では66.1%と最も高くなっている。

図表3- (2) -2 【幼児期の教育で力を入れてほしいことについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
		遊びを中心としたさまざまな経験を積ませる	道徳心や社会性を育てること	望ましい生活習慣を身に付けること 「早寝早起朝ごはん」「運動・外遊び」の	きちんとした「しつけ」を行うこと	地域の自然に触れたり、地域住民と交流したりすること	情操・感性を育てること	創造力を育てること	や文字の読み方や数の数え方などに関する興味や関心を養うこと	体力をつけ、たくましさやたくましさやたくましさ	その他	無回答	
全体		1,484	59.9	41.0	40.4	34.8	27.2	23.4	20.8	19.2	17.1	1.2	1.2
性別	男性	619	55.9	41.5	34.4	42.2	25.0	20.4	21.3	24.1	17.1	1.3	1.1
	女性	818	63.4	40.1	45.6	29.1	29.0	25.7	20.8	15.5	17.5	1.1	1.0
年齢別	18～19歳	9	66.7	33.3	44.4	22.2	22.2	22.2	22.2	33.3	22.2	-	-
	20～29歳	62	64.5	53.2	32.3	29.0	22.6	17.7	21.0	27.4	17.7	3.2	-
	30～39歳	123	69.9	43.1	31.7	29.3	25.2	24.4	18.7	29.3	20.3	-	-
	40～49歳	211	65.4	38.4	39.8	27.5	22.3	29.4	24.2	19.4	18.0	3.3	-
	50～59歳	259	59.8	40.2	40.5	35.9	23.2	23.9	22.8	22.0	17.8	1.2	-
	60～69歳	350	53.4	49.7	37.7	38.6	29.4	27.1	18.9	16.9	15.7	0.6	0.6
	70歳以上	453	59.6	34.4	45.9	36.6	31.3	18.5	20.8	15.2	16.6	0.9	2.9
職業別	農林漁業	40	60.0	42.5	32.5	45.0	35.0	17.5	15.0	17.5	20.0	2.5	-
	商工業、サービス業、自由業など	183	59.6	38.8	39.3	38.8	24.0	19.7	18.6	21.9	20.8	3.3	1.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	659	60.7	43.6	37.8	34.0	23.7	25.9	23.1	21.2	17.0	0.9	0.3
	主婦・主夫	291	61.9	36.8	48.8	28.2	32.0	25.4	20.6	16.2	16.5	1.4	0.7
	無職	279	58.4	41.2	39.4	37.6	33.0	20.1	18.6	16.5	16.1	-	2.5
圏域別	高松圏域	737	59.6	41.7	41.5	34.1	25.6	22.5	20.4	21.2	16.7	0.9	1.5
	東讃圏域	113	56.6	42.5	38.1	30.1	23.0	24.8	22.1	17.7	15.9	0.9	3.5
	小豆圏域	40	60.0	42.5	45.0	35.0	40.0	20.0	17.5	5.0	25.0	5.0	-
	中讃圏域	411	59.1	39.7	37.7	38.2	28.0	27.0	21.4	18.2	17.5	1.2	0.5
	西讃圏域	183	65.0	40.4	42.6	32.8	31.7	18.6	21.3	17.5	16.9	1.6	0.5
居住年数別	3年未満	81	61.7	45.7	30.9	30.9	21.0	27.2	24.7	23.5	21.0	3.7	-
	3年以上～10年未満	168	63.1	41.7	35.7	33.3	21.4	29.8	26.2	19.0	17.3	1.2	0.6
	10年以上～20年未満	233	66.1	37.8	44.6	25.8	23.6	25.8	21.5	21.9	18.5	2.1	0.9
	20年以上	983	58.0	41.5	41.0	37.3	29.7	21.8	19.5	18.2	16.6	0.8	1.2

【表の見方】
比率(%)
網掛け=

1位
2位

(3) 小学校教育、中学校教育、高等学校教育で力を入れてほしいことについて

問17 小学校教育、中学校教育、高等学校教育では、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。1～16の選択肢の中からそれぞれ3つ選んで番号を記入してください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

(単位：%)

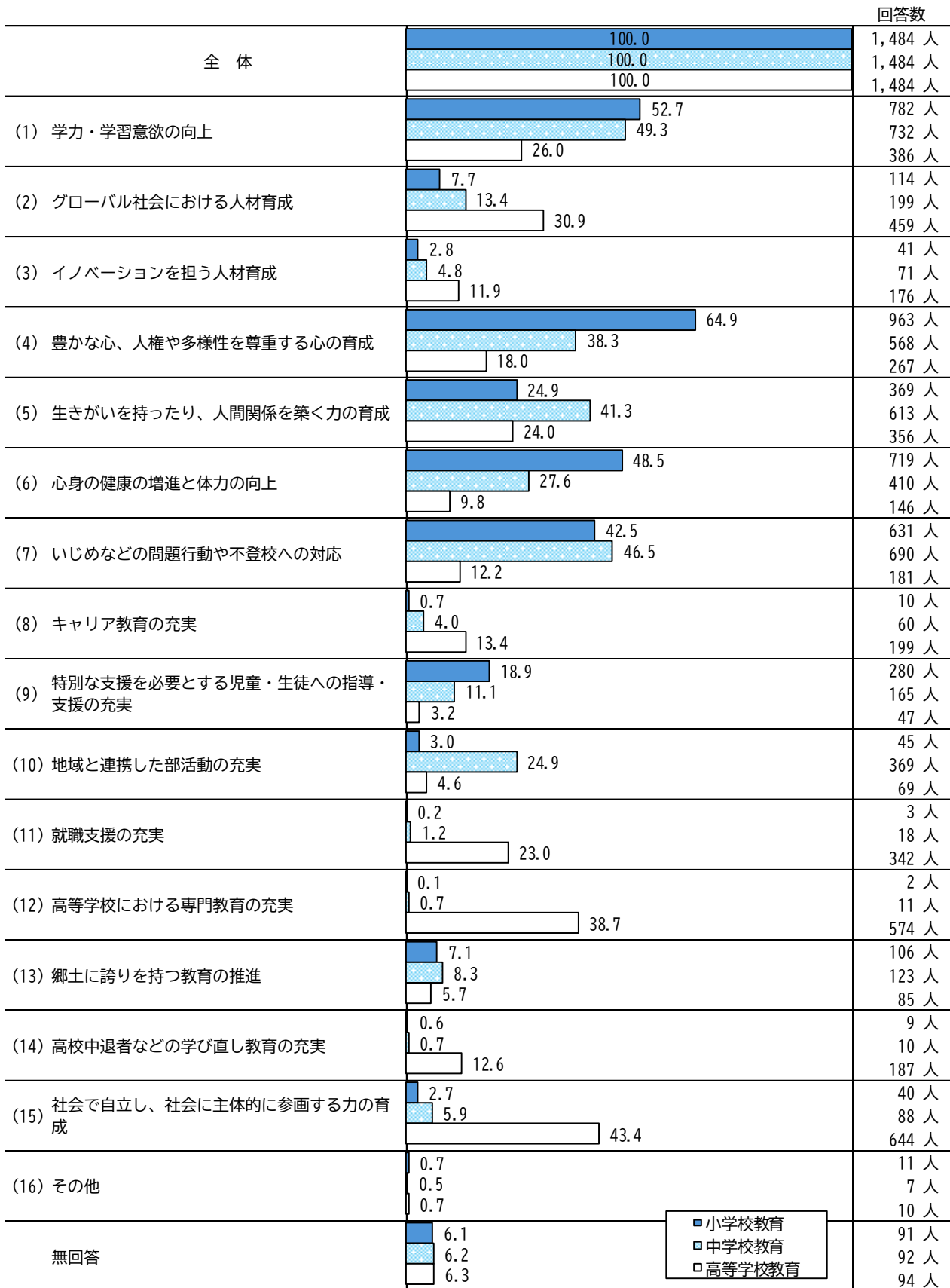
項目	小学校（特別支援学校の小学部を含む）教育	中学校（特別支援学校の中学部を含む）教育	高等学校（特別支援学校の高等部を含む）教育
1 学力・学習意欲の向上	52.7(52.5)	49.3(50.3)	26.0(26.7)
2 グローバル社会における人材育成	7.7(8.2)	13.4(13.9)	30.9(31.1)
3 イノベーションを担う人材育成	2.8(2.8)	4.8(4.9)	11.9(12.0)
4 豊かな心、人権や多様性を尊重する心の育成	64.9(65.7)	38.3(37.3)	18.0(17.9)
5 生きがいを持ったり、人間関係を築く力の育成	24.9(26.3)	41.3(40.9)	24.0(24.3)
6 心身の健康の増進と体力の向上	48.5(48.0)	27.6(27.8)	9.8(9.9)
7 いじめなどの問題行動や不登校への対応	42.5(41.7)	46.5(47.0)	12.2(12.1)
8 キャリア教育の充実	0.7(0.9)	4.0(4.6)	13.4(14.4)
9 特別な支援を必要とする児童・生徒への指導・支援の充実	18.9(17.8)	11.1(10.8)	3.2(2.9)
10 地域と連携した部活動の充実	3.0(3.1)	24.9(24.1)	4.6(4.9)
11 就職支援の充実	0.2(0.2)	1.2(1.2)	23.0(24.0)
12 高等学校における専門教育の充実	0.1(0.2)	0.7(1.2)	38.7(37.8)
13 郷土に誇りを持つ教育の推進	7.1(7.4)	8.3(8.2)	5.7(5.3)
14 高校中退者などの学び直し教育の充実	0.6(0.6)	0.7(0.8)	12.6(12.0)
15 社会で自立し、社会に主体的に参画する力の育成	2.7(3.2)	5.9(6.5)	43.4(43.2)
16 その他	0.7(0.9)	0.5(0.6)	0.7(0.9)
(無回答)	6.1(5.7)	6.2(5.8)	6.3(5.9)

小学校教育で力を入れてほしいことについて、「豊かな心、人権や多様性を尊重する心の育成」64.9%が最も高く、次いで「学力・学習意欲の向上」52.7%、「心身の健康の増進と体力の向上」48.5%、「いじめなどの問題行動や不登校への対応」42.5%などとなっている。

中学校教育で力を入れてほしいことについて、「学力・学習意欲の向上」49.3%が最も高く、次いで「いじめなどの問題行動や不登校への対応」46.5%、「生きがいを持ったり、人間関係を築く力の育成」41.3%、「豊かな心、人権や多様性を尊重する心の育成」38.3%などとなっている。

高等学校教育で力を入れてほしいことについて、「社会で自立し、社会に主体的に参画する力の育成」43.4%が最も高く、次いで「高等学校における専門教育の充実」38.7%、「グローバル社会における人材育成」30.9%、「学力・学習意欲の向上」26.0%などとなっている。

図表3- (3) -1 小学校教育、中学校教育、高等学校教育で力を入れてほしいことについて



グラフ単位：(%)

小学校教育で力を入れてほしいことについて、性別にみると、男女とも「豊かな心、人権や多様性を尊重する心の育成」が最も高く、『男性』60.7%、『女性』67.7%で、これに男女とも「学力・学習意欲の向上」が『男性』53.3%、『女性』52.8%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「豊かな心、人権や多様性を尊重する心の育成」が5～7割台と最も高く、『20～29歳』で75.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「豊かな心、人権や多様性を尊重する心の育成」が5～7割台と最も高く、『農林漁業』で70.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「豊かな心、人権や多様性を尊重する心の育成」が5～6割台と最も高く、『高松圏域』で66.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「豊かな心、人権や多様性を尊重する心の育成」が6～7割台と最も高く、『10年以上～20年未満』で70.4%と最も高くなっている。

図表3- (3) -2 【小学校教育で力を入れてほしいことについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)		
	全体	豊かな心、人権や多様性を尊重する心の育成	学力・学習意欲の向上	心身の健康の増進と体力の向上	いじめなどの問題行動や不登校への対応	生きがいを持ち、人間関係を築く力の育成	特別な支援を必要とする児童・生徒への指導・支援の充実	グローバル社会における人材育成	郷土に誇りを持つ教育の推進	地域と連携した部活動の充実	イノベーションを担う人材育成	社会で自立し、社会に主体的に参画する力の育成	キャリア教育の充実	高校中退者などの学び直し教育の充実	就職支援の充実	高等学校における専門教育の充実	その他	無回答	
	全体	1,484	64.9	52.7	48.5	42.5	24.9	18.9	7.7	7.1	3.0	2.8	2.7	0.7	0.6	0.2	0.1	0.7	6.1
性別	男性	619	60.7	53.3	47.5	42.2	27.0	14.4	9.2	9.4	4.2	3.6	3.1	0.6	0.3	-	0.3	1.1	6.3
	女性	818	67.7	52.8	49.5	43.3	23.5	21.9	6.2	5.5	2.3	1.8	2.6	0.5	0.9	0.4	-	0.5	5.9
年齢別	18～19歳	9	66.7	55.6	44.4	55.6	22.2	11.1	11.1	-	-	11.1	11.1	-	-	-	-	-	-
	20～29歳	62	75.8	48.4	50.0	38.7	37.1	9.7	11.3	14.5	4.8	1.6	6.5	-	-	-	-	1.6	-
	30～39歳	123	70.7	52.0	48.0	38.2	35.0	12.2	14.6	4.9	3.3	2.4	7.3	1.6	2.4	-	0.8	1.6	0.8
	40～49歳	211	70.1	54.5	55.5	36.5	34.1	16.1	10.0	6.6	1.4	2.4	2.4	1.9	0.5	0.9	-	2.8	0.9
	50～59歳	259	65.6	53.7	54.4	42.9	28.2	14.3	9.3	9.3	3.1	4.2	2.3	1.2	-	0.4	0.4	0.8	2.7
	60～69歳	350	64.9	52.6	53.4	49.7	19.4	22.3	6.9	6.9	3.1	2.6	2.0	-	0.9	-	-	-	4.3
70歳以上	453	58.9	52.3	38.4	41.7	19.0	23.4	4.0	6.2	3.5	2.4	1.8	-	0.4	-	-	-	13.7	
職業別	農林漁業	40	70.0	55.0	50.0	35.0	17.5	7.5	7.5	10.0	10.0	2.5	2.5	-	-	-	-	-	7.5
	商工業、サービス業、自由業など	183	61.7	53.0	45.4	43.2	27.3	15.3	12.0	6.6	2.7	3.3	4.9	2.7	0.5	-	0.5	2.2	4.4
	会社、商店、官公庁などに勤務	659	67.7	53.4	52.7	42.8	29.7	16.1	8.3	7.4	2.7	2.3	2.9	0.6	0.8	0.5	0.2	0.9	3.2
	主婦・主夫	291	66.0	54.6	45.7	42.3	20.3	27.5	5.2	5.2	4.1	2.7	2.4	-	0.7	-	-	0.3	6.5
無職	279	59.9	49.5	45.5	43.0	19.4	20.8	6.5	8.2	2.2	3.9	1.4	0.4	0.4	-	-	-	11.5	
圏域別	高松圏域	737	66.6	53.3	48.8	42.3	25.0	17.4	8.5	6.2	2.6	3.1	3.0	0.8	0.4	0.3	0.1	0.5	5.8
	東讃圏域	113	59.3	47.8	47.8	40.7	24.8	21.2	6.2	8.8	1.8	5.3	2.7	-	0.9	-	-	0.9	9.7
	小豆圏域	40	65.0	55.0	37.5	25.0	27.5	30.0	7.5	5.0	7.5	5.0	2.5	-	-	-	-	-	10.0
	中讃圏域	411	63.7	53.0	48.9	44.5	21.7	20.4	6.6	9.2	3.2	0.7	2.7	0.5	1.0	0.2	0.2	0.7	6.3
西讃圏域	183	63.9	51.9	48.6	43.7	31.1	17.5	7.7	5.5	4.4	3.8	1.6	1.1	0.5	-	-	1.6	3.8	
居住年数別	3年未満	81	69.1	58.0	54.3	44.4	25.9	12.3	8.6	8.6	-	2.5	1.2	2.5	1.2	-	-	2.5	2.5
	3年以上～10年未満	168	65.5	48.2	48.2	34.5	36.9	16.1	14.9	6.5	3.6	4.8	6.0	1.2	1.2	-	0.6	1.8	2.4
	10年以上～20年未満	233	70.4	54.9	53.2	42.5	27.0	17.6	7.3	5.6	2.1	1.3	3.0	0.9	0.9	0.4	0.4	0.9	3.0
	20年以上	983	63.1	52.5	47.1	44.2	22.5	20.2	6.4	7.5	3.5	2.8	2.2	0.4	0.4	0.2	-	0.4	7.5

中学校教育で力を入れてほしいことについて、性別にみると、男女とも「学力・学習意欲の向上」が最も高く、『男性』50.9%、『女性』48.7%で、これに男女とも「いじめなどの問題行動や不登校への対応」が『男性』47.0%、『女性』46.1%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』では「学力・学習意欲の向上」が5～6割台と最も高く、『20～29歳』では「学力・学習意欲の向上」、「いじめなどの問題行動や不登校への対応」が同率の56.5%、『60～69歳』、『70歳以上』では「いじめなどの問題行動や不登校への対応」が4割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「学力・学習意欲の向上」、「生きがいを持ったり、人間関係を築く力の育成」が同率の47.5%と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「学力・学習意欲の向上」が4～5割台と最も高く、『無職』では「いじめなどの問題行動や不登校への対応」が47.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』、『西讃圏域』では「学力・学習意欲の向上」が4～5割台と最も高く、『小豆圏域』では「学力・学習意欲の向上」、「豊かな心、人権や多様性を尊重する心の育成」が同率の45.0%と最も高く、『中讃圏域』では「いじめなどの問題行動や不登校への対応」が51.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「学力・学習意欲の向上」が4～6割台と最も高く、『3年未満』で60.5%と最も高くなっている。

図表3- (3) -3 【中学校教育で力を入れてほしいことについて】

	全体	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)		
		学力・学習意欲の向上	いじめなどの問題行動や不登校への対応	生きがいを持ったり、人間関係を築く力の育成	豊かな心、人権や多様性を尊重する心の育成	心身の健康の増進と体力の向上	地域と連携した部活動の充実	グローバル社会における人材育成	特別な支援を必要とする児童・生徒への指導・支援の充実	郷土に誇りを持つ教育の推進	社会で自立し、社会に主体的に参画する力の育成	イノベーションを担う人材育成	キャリア教育の充実	就職支援の充実	高等学校における専門教育の充実	高校中退者などの学び直し教育の充実	その他	無回答	
	1484	49.3	46.5	41.3	38.3	27.6	24.9	13.4	11.1	8.3	5.9	4.8	4.0	1.2	0.7	0.7	0.5	6.2	
性別	男性	619	50.9	47.0	37.5	38.1	26.8	23.7	13.7	10.0	9.4	6.1	5.8	4.4	1.9	0.8	1.0	0.8	6.3
	女性	818	48.7	46.1	44.4	38.6	29.2	25.7	13.0	11.1	7.5	5.9	3.3	3.9	0.7	0.7	0.5	0.2	6.0
年齢別	18～19歳	9	66.7	55.6	-	22.2	22.2	11.1	22.2	-	33.3	11.1	11.1	22.2	-	22.2	-	-	-
	20～29歳	62	56.5	56.5	45.2	33.9	32.3	22.6	16.1	4.8	4.8	12.9	6.5	3.2	1.6	-	1.6	1.6	-
	30～39歳	123	54.5	47.2	48.8	31.7	22.0	21.1	20.3	16.3	6.5	9.8	4.1	8.9	1.6	2.4	1.6	0.8	0.8
	40～49歳	211	56.4	45.0	44.1	41.7	25.1	27.5	19.0	9.0	4.3	6.6	6.6	5.2	0.9	1.9	-	1.4	1.4
	50～59歳	259	56.4	47.5	46.3	39.8	27.0	23.9	12.4	9.7	10.8	3.9	5.4	3.9	1.9	-	0.4	0.4	2.7
	60～69歳	350	47.4	48.3	42.9	42.0	25.7	28.3	14.3	10.6	10.0	6.3	5.4	2.6	1.4	-	-	0.3	4.3
	70歳以上	453	41.1	43.3	34.9	36.6	32.2	22.7	8.8	12.4	7.9	4.6	2.9	3.3	0.7	0.4	1.3	-	13.7
職業別	農林漁業	40	47.5	42.5	47.5	37.5	25.0	22.5	22.5	10.0	7.5	2.5	5.0	2.5	2.5	-	-	-	7.5
	商工業、サービス業、自由業など	183	45.9	44.3	36.6	41.5	22.4	24.6	16.4	15.8	8.2	9.3	5.5	7.7	2.2	0.5	0.5	1.1	4.4
	会社、商店、官公庁などに勤務	659	54.6	47.8	46.3	38.8	26.9	24.7	14.4	10.2	6.7	6.2	5.0	4.1	1.5	0.9	0.6	0.6	3.0
	主婦・主夫	291	47.4	46.0	42.3	39.2	28.2	30.9	10.3	8.6	8.9	6.5	3.8	2.1	1.0	0.7	1.0	-	6.9
	無職	279	42.7	47.0	31.9	36.6	33.3	20.1	11.8	11.8	12.2	3.6	4.7	3.6	-	0.7	0.7	0.4	11.5
圏域別	高松圏域	737	51.6	45.2	43.3	39.3	26.7	22.4	13.8	11.8	6.1	6.8	5.2	4.2	1.5	0.7	0.4	0.4	6.0
	東讃圏域	113	44.2	38.9	42.5	30.1	28.3	26.5	9.7	11.5	14.2	6.2	5.3	6.2	1.8	-	-	0.9	9.7
	小豆圏域	40	45.0	32.5	35.0	45.0	27.5	32.5	12.5	7.5	15.0	7.5	2.5	2.5	2.5	-	-	-	10.0
	中讃圏域	411	47.2	51.3	38.9	37.5	28.7	25.8	12.9	10.7	10.5	4.4	4.1	3.2	0.5	1.2	1.5	0.5	6.3
	西讃圏域	183	49.2	48.6	39.3	39.3	28.4	30.1	15.3	9.8	7.1	5.5	4.9	4.4	1.1	0.5	0.5	0.5	3.8
居住年数別	3年未満	81	60.5	45.7	37.0	37.0	29.6	19.8	13.6	12.3	7.4	8.6	6.2	8.6	1.2	2.5	1.2	1.2	2.5
	3年以上～10年未満	168	48.2	42.9	47.0	47.6	24.4	16.7	19.6	13.7	6.0	10.7	6.0	4.8	1.2	1.2	0.6	0.6	2.4
	10年以上～20年未満	233	54.9	45.9	42.9	39.5	27.5	21.0	14.6	15.0	7.7	6.4	4.7	4.7	1.3	0.9	0.9	-	3.4
	20年以上	983	47.6	47.2	40.5	37.0	28.4	27.4	12.1	9.4	9.0	4.8	4.5	3.5	1.2	0.5	0.6	0.5	7.5

高等学校教育で力を入れてほしいことについて、性別にみると、男女とも「社会で自立し、社会に主体的に参画する力の育成」が最も高く、『男性』36.8%、『女性』48.7%で、これに男女とも「高等学校における専門教育の充実」が『男性』36.7%、『女性』40.5%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で「社会で自立し、社会に主体的に参画する力の育成」が4割台と最も高く、『18～19歳』では「学力・学習意欲の向上」が55.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『無職』では「高等学校における専門教育の充実」が最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「社会で自立し、社会に主体的に参画する力の育成」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』を除くすべての圏域で「社会で自立し、社会に主体的に参画する力の育成」が4割台と最も高く、『東讃圏域』では「高等学校における専門教育の充実」が47.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『10年以上～20年未満』を除くすべての居住年数で「社会で自立し、社会に主体的に参画する力の育成」が4割台と最も高く、『10年以上～20年未満』では「高等学校における専門教育の充実」が39.5%と最も高くなっている。

図表3- (3) -4 【高等学校教育で力を入れてほしいことについて】

	全体	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	無回答	
		社会で自立し、社会に主体的に参画する力の育成	高等学校における専門教育の充実	グローバル社会における人材育成	学力・学習意欲の向上	生きがいを持ち、人間関係を築く力の育成	就職支援の充実	豊かな心、人権や多様性を尊重する心の育成	キャリア教育の充実	高校中退者などの学び直し教育の充実	いじめなどの問題行動や不登校への対応	イノベーションを担う人材育成	心身の健康の増進と体力の向上	郷土に誇りを持つ教育の推進	地域と連携した部活動の充実	特別な支援を必要とする児童・生徒への指導・支援の充実	その他		
全体	1,484	43.4	38.7	30.9	26.0	24.0	23.0	18.0	13.4	12.6	12.2	11.9	9.8	5.7	4.6	3.2	0.7	6.3	
性別	男性	619	36.8	36.7	31.5	30.0	22.1	22.6	17.9	13.4	10.5	12.4	15.2	10.5	8.1	5.8	2.9	1.3	6.3
	女性	818	48.7	40.5	29.8	23.7	25.8	23.5	18.2	13.6	13.2	11.9	9.2	9.8	3.9	3.8	3.4	0.2	6.2
年齢別	18～19歳	9	22.2	22.2	33.3	55.6	22.2	33.3	22.2	33.3	11.1	22.2	11.1	11.1	-	-	-	-	-
	20～29歳	62	45.2	38.7	29.0	22.6	30.6	37.1	17.7	24.2	8.1	11.3	11.3	9.7	1.6	8.1	-	4.8	-
	30～39歳	123	46.3	25.2	39.0	34.1	27.6	27.6	19.5	17.1	9.8	15.4	12.2	11.4	2.4	5.7	4.1	-	0.8
	40～49歳	211	45.0	38.4	38.9	31.8	22.7	19.0	19.9	11.8	11.8	12.8	18.0	12.8	4.7	4.3	0.9	0.9	1.4
	50～59歳	259	42.5	38.2	32.4	31.7	23.6	25.9	19.3	13.5	10.8	14.7	12.0	10.4	4.2	4.6	4.6	0.8	2.7
	60～69歳	350	44.6	42.0	30.9	24.0	25.1	22.9	19.7	13.7	15.1	14.9	10.3	10.3	5.7	3.4	3.4	-	4.3
	70歳以上	453	41.9	40.8	24.3	19.9	22.7	20.3	15.0	11.3	12.8	7.5	10.6	7.7	8.2	5.3	3.5	0.7	14.1
職業別	農林漁業	40	45.0	47.5	27.5	25.0	25.0	25.0	20.0	5.0	7.5	7.5	10.0	15.0	10.0	2.5	2.5	-	7.5
	商工業、サービス業、自由業など	183	48.6	39.3	32.8	27.3	26.2	21.3	18.6	10.4	14.8	9.8	9.8	7.7	7.7	6.0	3.8	0.5	4.9
	会社、商店、官公庁などに勤務	659	42.5	35.2	34.1	29.4	26.4	23.1	20.0	15.5	9.9	14.9	12.3	12.0	4.7	5.2	2.6	0.9	3.0
	主婦・主夫	291	48.8	43.6	30.2	22.0	22.7	23.4	16.2	12.0	16.8	11.0	10.3	6.5	4.5	4.1	4.5	-	6.9
	無職	279	38.0	39.8	24.4	22.6	20.1	24.0	14.7	13.6	12.5	10.0	15.1	10.0	7.2	3.9	3.2	1.1	11.8
圏域別	高松圏域	737	42.6	37.9	32.6	28.0	25.9	22.1	17.8	14.4	12.6	12.6	11.9	10.3	4.6	3.1	2.6	0.5	6.0
	東讃圏域	113	35.4	47.8	24.8	15.0	14.2	31.9	15.0	14.2	16.8	14.2	11.5	8.0	6.2	6.2	4.4	0.9	9.7
	小豆圏域	40	45.0	27.5	35.0	25.0	22.5	17.5	22.5	10.0	5.0	10.0	12.5	10.0	7.5	12.5	2.5	-	10.0
	中讃圏域	411	45.5	38.9	30.9	25.8	22.4	20.9	19.0	11.2	12.4	12.4	10.9	10.7	6.8	5.6	3.4	1.0	6.6
	西讃圏域	183	46.4	38.3	27.3	25.7	26.2	27.3	17.5	14.8	12.0	9.3	13.7	7.1	7.1	6.0	4.4	0.5	4.4
居住年数別	3年未満	81	40.7	29.6	37.0	29.6	25.9	25.9	23.5	23.5	8.6	9.9	17.3	8.6	3.7	2.5	2.5	3.7	2.5
	3年以上～10年未満	168	47.6	29.2	38.7	30.4	21.4	19.6	22.0	17.9	10.1	11.9	15.5	12.5	6.5	5.4	3.6	-	2.4
	10年以上～20年未満	233	37.3	39.5	36.5	31.8	24.0	21.5	18.5	13.3	13.3	14.6	12.4	13.7	2.6	5.6	2.1	0.4	3.4
	20年以上	983	44.4	41.1	27.8	23.9	24.4	23.8	17.0	12.0	12.8	11.9	10.9	8.7	6.3	4.6	3.5	0.6	7.7

(4) 特別支援教育の充実に必要なものについて

問18 特別支援教育の充実に、必要だと思うものを3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】 ※回答数の多い順に並び替え

1	特別支援教育に関する正しい理解が広まるよう努めること	57.1%(57.4%)
2	障害の状態などに応じた施設設備など教育環境の整備の充実	43.4%(42.0%)
3	特別支援教育に関する教職員の専門性の向上	38.8%(39.1%)
4	医療、保健、福祉、労働等関係機関や専門家との連携の推進	37.3%(37.4%)
5	進級時や進学時における適切な引継ぎ等による一貫した指導・支援の充実	31.8%(31.4%)
6	障害のない児童生徒との交流及び共同学習の推進	27.5%(26.2%)
7	教育相談体制の整備と充実	26.4%(27.7%)
8	その他	1.5%(1.7%)
	(無回答)	4.5%(4.3%)

特別支援教育の充実に必要なものについて、「特別支援教育に関する正しい理解が広まるよう努めること」57.1%が最も高く、次いで「障害の状態などに応じた施設設備など教育環境の整備の充実」43.4%、「特別支援教育に関する教職員の専門性の向上」38.8%、「医療、保健、福祉、労働等関係機関や専門家との連携の推進」37.3%などとなっている。

図表 3- (4) -1 特別支援教育の充実に必要なものについて

		回答数
全体	100.0	1,484 人
(1) 特別支援教育に関する正しい理解が広まるよう努めること	57.1	848 人
(2) 障害の状態などに応じた施設設備など教育環境の整備の充実	43.4	644 人
(3) 特別支援教育に関する教職員の専門性の向上	38.8	576 人
(4) 医療、保健、福祉、労働等関係機関や専門家との連携の推進	37.3	553 人
(5) 進級時や進学時における適切な引継ぎ等による一貫した指導・支援の充実	31.8	472 人
(6) 障害のない児童生徒との交流及び共同学習の推進	27.5	408 人
(7) 教育相談体制の整備と充実	26.4	392 人
(8) その他	1.5	22 人
無回答	4.5	67 人

グラフ単位：(%)

特別支援教育の充実に必要なものについて、性別にみると、男女とも「特別支援教育に関する正しい理解が広まるよう努めること」が最も高く、『男性』60.4%、『女性』55.4%で、これに『男性』は「障害の状態などに応じた施設設備など教育環境の整備の充実」45.4%、『女性』は「特別支援教育に関する教職員の専門性の向上」43.0%が続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で「特別支援教育に関する正しい理解が広まるよう努めること」が5～6割台と最も高く、『18～19歳』では「教育相談体制の整備と充実」が66.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「特別支援教育に関する正しい理解が広まるよう努めること」が4～6割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』で60.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「特別支援教育に関する正しい理解が広まるよう努めること」、「医療、保健、福祉、労働等関係機関や専門家との連携の推進」が同率の55.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「特別支援教育に関する正しい理解が広まるよう努めること」が5～6割台と最も高く、『3年未満』では60.5%と最も高くなっている。

図表3-(4)-2 【特別支援教育の充実に必要なものについて】

		全体	(1) 広まるよう努めること	(2) 障害の状態などに 応じた施設設備の 充実	(3) 特別支援教育に 関する教職員の 専門性の向上	(4) 医療、保健、福祉、 労働等関係機関 との連携の推進	(5) 進級時や進学時 における適切な 支援の充実	(6) 障害のない児童 生徒との交流及 び共同学習の 推進	(7) 教育相談体制の 整備と充実	(8) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=			1位	2位							
全体		1,484	57.1	43.4	38.8	37.3	31.8	27.5	26.4	1.5	4.5
性別	男性	619	60.4	45.4	33.1	35.4	28.6	26.7	25.2	1.8	5.0
	女性	818	55.4	41.7	43.0	38.9	34.4	28.5	27.3	1.2	3.9
年齢別	18～19歳	9	44.4	22.2	44.4	11.1	33.3	22.2	66.7	11.1	-
	20～29歳	62	69.4	37.1	35.5	46.8	24.2	12.9	35.5	1.6	-
	30～39歳	123	60.2	33.3	48.0	41.5	40.7	17.1	31.7	1.6	1.6
	40～49歳	211	60.7	44.1	45.0	42.7	34.6	18.5	25.6	1.9	-
	50～59歳	259	56.0	40.9	33.6	44.0	27.0	31.7	26.6	2.7	1.2
	60～69歳	350	60.6	49.1	38.6	38.3	35.1	27.4	26.0	0.3	2.9
	70歳以上	453	52.1	43.9	37.3	28.0	29.8	34.7	23.6	1.3	10.6
職業別	農林漁業	40	47.5	40.0	30.0	27.5	35.0	27.5	20.0	2.5	7.5
	商工業、サービス業、自由業など	183	58.5	44.8	41.5	36.1	24.0	34.4	21.9	2.2	3.3
	会社、商店、官公庁などに勤務	659	60.7	42.0	37.6	41.6	34.0	24.0	29.6	1.5	1.8
	主婦・主夫	291	51.9	44.7	44.3	34.4	34.0	32.3	26.5	0.3	4.1
	無職	279	56.6	45.2	36.9	32.3	29.7	27.2	23.7	2.2	9.3
圏域別	高松圏域	737	56.6	44.4	39.1	39.1	31.9	25.5	24.0	1.5	4.6
	東讃圏域	113	54.9	49.6	33.6	28.3	36.3	31.9	24.8	1.8	4.4
	小豆圏域	40	55.0	37.5	37.5	55.0	25.0	27.5	27.5	-	5.0
	中讃圏域	411	57.4	41.6	38.9	34.5	32.4	30.7	27.5	1.5	5.1
	西讃圏域	183	60.7	41.0	41.0	37.7	29.0	25.7	34.4	1.6	2.7
居住年数別	3年未満	81	60.5	44.4	42.0	37.0	33.3	13.6	34.6	2.5	1.2
	3年以上～10年未満	168	59.5	40.5	44.0	40.5	34.5	28.0	27.4	0.6	2.4
	10年以上～20年未満	233	54.9	41.2	42.1	42.5	32.2	24.0	24.5	2.6	2.6
	20年以上	983	57.4	44.4	37.0	35.4	31.4	29.4	26.0	1.3	5.3

(5) 家庭での教育状況について

問19 家庭での教育（基本的な生活習慣、倫理観や社会的なマナー等）が十分にできていると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

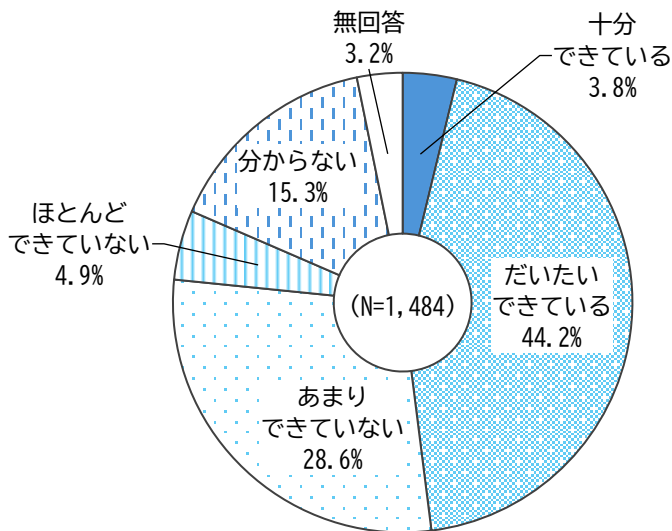
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

1 十分できている	3.8%(5.1%)
2 だいたいできている	44.2%(44.7%)
3 あまりできていない	28.6%(26.9%)
4 ほとんどできていない	4.9%(4.5%)
5 分からない	15.3%(15.6%)
(無回答)	3.2%(3.1%)

家庭での教育状況について、「だいたいできている」44.2%が最も高く、次いで「あまりできていない」28.6%、「分からない」15.3%、「ほとんどできていない」4.9%などとなっている。

図表 3- (5) -1 家庭での教育状況について



家庭での教育状況について、性別にみると、「十分できている」と「だいたいできている」を合わせた【できている】の割合は『男性』42.4%、『女性』52.4%で、「あまりできていない」と「ほとんどできていない」を合わせた【できていない】の割合は『男性』38.6%、『女性』30.0%となっており、男女とも【できている】の割合が【できていない】の割合を上回っている。

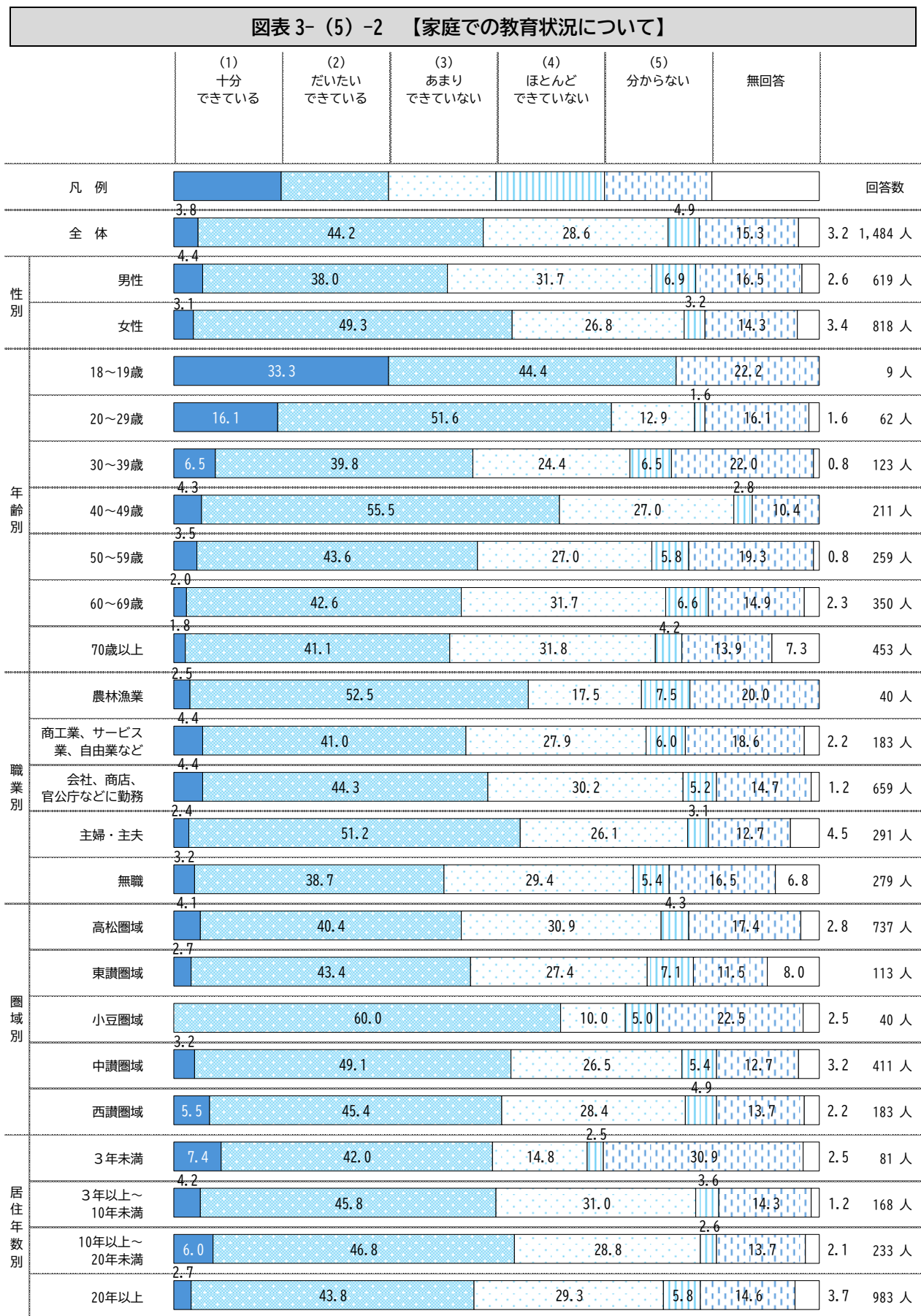
年齢別にみると、いずれも【できている】の割合が【できていない】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【できている】の割合が【できていない】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【できている】の割合が【できていない】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【できている】の割合が【できていない】の割合を上回っている。

図表 3- (5) -2 【家庭での教育状況について】



グラフ単位：(%)

(6)家庭教育の充実に必要なものについて

問20 家庭での教育を充実させるために、必要だと思うものを2つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】 ※回答数の多い順に並び替え

1 親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善	50.5%(52.2%)
2 親の子どもへの積極的な関わり	45.8%(46.6%)
3 子どもが体験活動を行う機会の提供	31.0%(31.7%)
4 家庭教育の重要性についての啓発	20.4%(19.0%)
5 子どもや親同士が交流できる機会の提供	19.8%(19.3%)
6 家庭教育に関する相談体制の充実	14.9%(14.1%)
7 その他	1.4%(1.4%)
(無回答)	3.1%(2.9%)

家庭教育の充実に必要なものについて、「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」50.5%が最も高く、次いで「親の子どもへの積極的な関わり」45.8%、「子どもが体験活動を行う機会の提供」31.0%、「家庭教育の重要性についての啓発」20.4%などとなっている。

図表3-(6)-1 家庭教育の充実に必要なものについて

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,484 人
(1) 親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善	50.5	750 人
(2) 親の子どもへの積極的な関わり	45.8	680 人
(3) 子どもが体験活動を行う機会の提供	31.0	460 人
(4) 家庭教育の重要性についての啓発	20.4	303 人
(5) 子どもや親同士が交流できる機会の提供	19.8	294 人
(6) 家庭教育に関する相談体制の充実	14.9	221 人
(7) その他	1.4	21 人
無回答	3.1	46 人

グラフ単位：(%)

家庭教育の充実に必要なものについて、性別にみると、『男性』では「親の子どもへの積極的な関わり」46.8%が最も高く、『女性』では「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」53.7%が最も高くなっている。

年齢別にみると、『50～59歳』を除くすべての年齢で「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が4～6割台と最も高くなっており、『50～59歳』では「親の子どもへの積極的な関わり」が52.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が4～5割台と最も高く、『農林漁業』では「親の子どもへの積極的な関わり」が45.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が4～5割台と最も高くなっており、『西讃圏域』で55.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」が4～5割台と最も高くなっており、『3年以上～10年未満』で59.5%と最も高くなっている。

図表 3- (6) -2 【家庭教育の充実に必要なものについて】

		全体	(1) 就親が 環境子ども の改善と過 ごす時間 を十分にと るための	(2) 親の子 どもへの 積極的な 関わり	(3) 子ども が体験活 動を行う 機会の提 供	(4) 家庭教 育の重要 性につい ての啓発	(5) 子ども や親同士 が交流で きる機 会の提供	(6) 家庭教 育に関す る相談体 制の充実	(7) その他	無 回 答
			【表の見方】 比率(%) 網掛け= 1位 2位							
全 体		1,484	50.5	45.8	31.0	20.4	19.8	14.9	1.4	3.1
性 別	男性	619	45.2	46.8	32.1	19.1	23.7	13.7	1.9	2.9
	女性	818	53.7	46.0	30.3	21.8	17.2	15.4	1.0	3.1
年 齢 別	18～19歳	9	55.6	33.3	33.3	11.1	44.4	11.1	-	-
	20～29歳	62	64.5	58.1	37.1	11.3	8.1	8.1	1.6	-
	30～39歳	123	68.3	56.1	36.6	8.1	13.0	8.1	0.8	0.8
	40～49歳	211	57.8	48.3	32.2	17.1	11.8	20.9	2.4	-
	50～59歳	259	51.0	52.1	33.2	17.4	18.1	12.7	1.5	0.8
	60～69歳	350	47.7	44.6	29.1	24.9	20.3	17.7	1.1	2.0
	70歳以上	453	42.8	38.4	27.8	25.2	27.2	14.1	1.3	7.3
職 業 別	農林漁業	40	42.5	45.0	32.5	15.0	37.5	2.5	2.5	7.5
	商工業、サービス業、自由業など	183	48.1	46.4	36.6	18.0	20.2	12.6	2.2	2.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	659	55.7	50.5	32.8	16.8	17.9	14.1	1.2	0.9
	主婦・主夫	291	48.1	42.6	27.5	27.5	17.5	18.6	0.7	3.8
	無職	279	44.4	40.5	25.8	23.3	24.0	16.5	2.2	6.5
圏 域 別	高松圏域	737	49.1	44.4	32.3	21.8	18.6	15.6	1.4	3.1
	東讃圏域	113	50.4	46.0	24.8	18.6	23.0	14.2	0.9	4.4
	小豆圏域	40	50.0	32.5	22.5	15.0	32.5	22.5	-	7.5
	中讃圏域	411	51.1	46.7	31.6	21.2	19.5	14.4	1.5	2.9
	西讃圏域	183	55.2	52.5	30.1	15.3	20.8	12.0	2.2	1.6
居 住 年 数 別	3年未満	81	58.0	51.9	35.8	16.0	12.3	12.3	1.2	1.2
	3年以上～10年未満	168	59.5	48.8	36.9	13.1	16.7	11.3	3.0	1.2
	10年以上～20年未満	233	57.5	44.2	32.6	18.5	17.2	15.0	-	1.7
	20年以上	983	47.1	45.5	29.0	22.5	21.7	15.8	1.5	3.7

(7) 地域における大人と子どもとの関わりについて

問21 地域における大人と子どもとの関わりについて思うものを1つだけ選んでください。

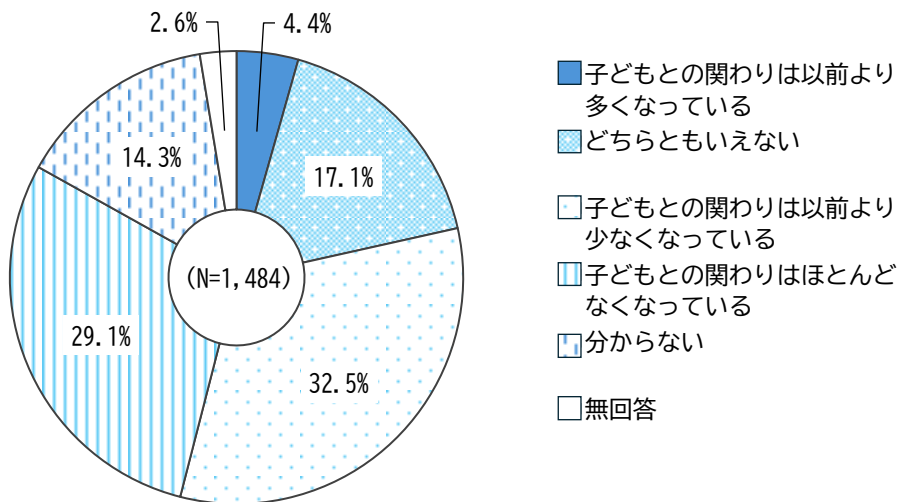
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

1 子どもとの関わりは以前より多くなっている	4.4%(5.1%)
2 どちらともいえない	17.1%(16.9%)
3 子どもとの関わりは以前より少なくなっている	32.5%(32.5%)
4 子どもとの関わりはほとんどなくなっている	29.1%(28.3%)
5 分からない	14.3%(14.8%)
(無回答)	2.6%(2.4%)

地域における大人と子どもとの関わりについて、「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」32.5%が最も高く、次いで「子どもとの関わりはほとんどなくなっている」29.1%、「どちらともいえない」17.1%、「分からない」14.3%などとなっている。

図表3- (7) -1 地域における大人と子どもとの関わりについて



地域における大人と子どもとの関わりについて、性別にみると、男女とも「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が最も高く、『男性』32.5%、『女性』33.1%となっている。

年齢別にみると、『50～59歳』を除くすべての年齢で「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が3～4割台と最も高くなっており、『50～59歳』では「子どもとの関わりはほとんどなくなっている」が33.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』を除くすべての職業で「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が3割台と最も高くなっており、『農林漁業』では「子どもとの関わりはほとんどなくなっている」が40.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が3割台と最も高くなっており、『小豆圏域』では「どちらともいえない」、「分からない」が同率の27.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」が2～3割台と最も高くなっており、『10年以上～20年未満』では37.8%と最も高くなっている。

図表3-(7)-2 【地域における大人と子どもとの関わりについて】

		(1) 子どもとの関わり は以前より多 くなっている	(2) どちらともい えない	(3) 子どもとの関わり は以前より少 なくなっている	(4) 子どもとの関わり はほとんどな くなっている	(5) 分からない	無回答			
凡例								回答数		
全体	4.4	17.1	32.5	29.1	14.3		2.6	1,484人		
性別	男性	6.3	17.8	32.5	27.8	13.1		2.6	619人	
	女性	3.1	16.6	33.1	30.0	14.9		2.3	818人	
年齢別	18～19歳	11.1	44.4		33.3	11.1			9人	
	20～29歳	9.7	11.3	32.3	24.2	22.6			62人	
	30～39歳	4.9	23.6	30.9	22.0	17.9		0.8	123人	
	40～49歳	3.8	22.7	36.0	24.6	12.8			211人	
	50～59歳	3.5	16.6	30.9	33.2	15.1		0.8	259人	
	60～69歳	2.0	15.4	34.0	33.1	14.0			1.4	350人
	70歳以上		6.2	15.2	31.6	28.5	12.6	6.0		453人
職業別	農林漁業		5.0	12.5	37.5	40.0	2.5		2.5	40人
	商工業、サービス業、自由業など		6.0	18.6	30.6	29.5	13.1		2.2	183人
	会社、商店、官公庁などに勤務		3.6	16.8	34.0	29.6	15.2		0.8	659人
	主婦・主夫		4.1	18.6	32.3	30.6	11.3		3.1	291人
	無職		6.1	15.8	30.1	25.1	17.6	5.4		279人
圏域別	高松圏域		5.2	14.9	32.0	29.6	16.0		2.3	737人
	東讃圏域	1.8	21.2	31.9	30.1	10.6			4.4	113人
	小豆圏域	2.5	27.5	15.0	25.0	27.5			2.5	40人
	中讃圏域	4.4	17.0	34.8	29.4	11.7			2.7	411人
	西讃圏域	3.8	21.3	33.3	26.8	12.6			2.2	183人
居住年数別	3年未満		7.4	17.3	29.6	27.2	18.5			81人
	3年以上～10年未満	3.6	22.0	34.5	20.8	17.9			1.2	168人
	10年以上～20年未満	3.9	20.2	37.8	26.2	10.7			1.3	233人
	20年以上	4.6	15.5	31.5	31.2	14.1			3.1	983人

グラフ単位：(%)

(8)子どもへの教育的活動で携わりたいものについて

問22 あなたが地域社会で子どもへの教育的活動を実践するとしたら、携わっていききたいと思うものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】 ※回答数の多い順に並び替え

1	登下校の見守りなど安心・安全確保への支援	52.0%(50.9%)
2	学習・スポーツ（部活動、運動会）・文化活動（文化祭など）への支援	31.0%(31.8%)
3	児童・生徒が地域の大人とともに地域課題に取り組む試み	29.8%(29.3%)
4	学校の授業や行事等の参観	28.6%(31.6%)
5	学校や地域の施設を活用した交流活動	26.4%(25.1%)
6	花壇の整備や学校図書館の蔵書整理など学校環境整備への支援	21.6%(21.5%)
7	子育てに関する保護者向けの学習会などへの支援	15.0%(14.9%)
8	学校運営の基本方針や学校の教育活動を評価する委員会への参加	7.1%(7.7%)
9	その他	4.4%(4.3%)
	(無回答)	5.8%(5.4%)

子どもへの教育的活動で携わりたいものについて、「登下校の見守りなど安心・安全確保への支援」52.0%が最も高く、次いで「学習・スポーツ（部活動、運動会）・文化活動（文化祭など）への支援」31.0%、「児童・生徒が地域の大人とともに地域課題に取り組む試み」29.8%、「学校の授業や行事等の参観」28.6%などとなっている。

図表 3- (8) -1 子どもへの教育的活動で携わりたいものについて

		回答数
全 体	100.0	1,484 人
(1) 登下校の見守りなど安心・安全確保への支援	52.0	772 人
(2) 学習・スポーツ（部活動、運動会）・文化活動（文化祭など）への支援	31.0	460 人
(3) 児童・生徒が地域の大人とともに地域課題に取り組む試み	29.8	442 人
(4) 学校の授業や行事等の参観	28.6	425 人
(5) 学校や地域の施設を活用した交流活動	26.4	392 人
(6) 花壇の整備や学校図書館の蔵書整理など学校環境整備への支援	21.6	321 人
(7) 子育てに関する保護者向けの学習会などへの支援	15.0	222 人
(8) 学校運営の基本方針や学校の教育活動を評価する委員会への参加	7.1	106 人
(9) その他	4.4	65 人
無回答	5.8	86 人

グラフ単位：（％）

子どもへの教育的活動で携わりたいものについて、性別にみると、男女とも「登下校の見守りなど安心・安全確保への支援」が最も高く、『男性』51.4%、『女性』53.5%で、これに『男性』は「学習・スポーツ（部活動、運動会など）・文化活動（文化祭など）への支援」38.9%、『女性』は「学校の授業や行事等の参観」30.4%が続いている。

年齢別にみると、「登下校の見守りなど安心・安全確保への支援」が、『18～19歳』、『30～39歳』、『40～49歳』を除くすべての年齢で4～5割台と最も高く、『18～19歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「学校の授業や行事等の参観」が4～5割台と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「登下校の見守りなど安心・安全確保への支援」が4～6割台と最も高くなっており、『農林漁業』で67.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「登下校の見守りなど安心・安全確保への支援」が4～5割台と最も高く、『小豆圏域』では「登下校の見守りなど安心・安全確保への支援」、「児童・生徒が地域の大人とともに地域課題に取り組む試み」が同率の42.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「登下校の見守りなど安心・安全確保への支援」が4～5割台と最も高くなっており、『20年以上』で53.9%と最も高くなっている。

図表 3- (8) -2 【子どもへの教育的活動で携わりたいものについて】

		全体	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	無回答
			登下校の見守りなど安心・安全確保への支援	学習活動・スポーツ(文化祭など)への支援	児童・生徒が地域の大人とともに地域課題に取り組む試み	学校の授業や行事等の参観	学校や地域の施設を活用した交流活動	花壇の整備や学校図書館の蔵書整理など学校環境整備への支援	子育てに関する保護者向けの学習会などへの支援	学校運営の基本方針や学校の教育活動を評価する委員会への参加	その他	
全体		1,484	52.0	31.0	29.8	28.6	26.4	21.6	15.0	7.1	4.4	5.8
性別	男性	619	51.4	38.9	30.5	26.5	25.7	16.6	13.2	10.0	4.5	4.4
	女性	818	53.5	25.8	29.0	30.4	27.5	25.7	16.1	4.8	4.0	6.5
年齢別	18～19歳	9	11.1	33.3	11.1	44.4	11.1	22.2	-	11.1	11.1	-
	20～29歳	62	46.8	41.9	27.4	43.5	17.7	24.2	19.4	12.9	1.6	-
	30～39歳	123	51.2	32.5	25.2	52.0	24.4	14.6	13.8	7.3	3.3	2.4
	40～49歳	211	47.9	37.9	26.1	50.2	25.6	22.7	12.3	10.4	3.3	0.9
	50～59歳	259	51.7	28.6	25.1	25.1	21.6	24.7	13.9	6.2	6.2	4.2
	60～69歳	350	53.7	30.0	30.0	16.9	33.1	22.3	14.9	5.7	4.6	4.3
	70歳以上	453	55.0	28.5	35.5	21.2	26.9	20.5	16.8	6.2	4.2	11.3
職業別	農林漁業	40	67.5	27.5	27.5	15.0	32.5	12.5	10.0	-	2.5	10.0
	商工業、サービス業、自由業など	183	50.3	35.5	32.8	24.6	24.6	13.7	16.9	12.0	5.5	4.4
	会社、商店、官公庁などに勤務	659	52.4	33.2	27.8	34.7	28.2	21.5	13.7	7.0	3.5	2.6
	主婦・主夫	291	55.0	24.4	31.6	28.2	26.8	27.8	19.6	4.5	4.5	6.9
	無職	279	47.7	31.2	30.8	21.1	23.7	22.9	12.9	7.9	6.1	10.4
圏域別	高松圏域	737	52.4	31.1	29.4	28.8	27.0	22.3	16.1	6.2	5.3	5.8
	東讃圏域	113	46.9	28.3	31.0	21.2	25.7	29.2	15.9	5.3	3.5	7.1
	小豆圏域	40	42.5	32.5	42.5	30.0	17.5	25.0	20.0	10.0	-	10.0
	中讃圏域	411	54.5	30.9	26.5	29.7	24.3	18.5	12.2	8.3	4.1	6.1
	西讃圏域	183	50.3	32.2	35.0	30.1	31.1	20.8	14.8	8.7	2.7	3.3
居住年数別	3年未満	81	50.6	34.6	28.4	37.0	24.7	18.5	18.5	12.3	6.2	1.2
	3年以上～10年未満	168	45.8	33.9	30.4	41.7	28.6	19.6	13.1	6.5	2.4	4.2
	10年以上～20年未満	233	50.2	30.9	21.5	35.2	24.5	22.7	15.9	5.6	4.7	6.0
	20年以上	983	53.9	30.6	31.7	24.3	27.0	22.2	14.6	7.2	4.4	6.1

【表の見方】
比率(%)
網掛け=

1位
2位

(9)子どもたちに必要な資質・能力について

問23 これからの子どもたちに、必要だと思う資質・能力を3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】 ※回答数の多い順に並び替え

1	自分の考えを的確に相手に伝える力などの コミュニケーション能力	51.5%(51.3%)
2	自ら考え判断する力	47.8%(47.2%)
3	豊かな心、人権や多様性を尊重する心	46.4%(45.9%)
4	自分と異なる考え方を理解し受け入れる態度	33.9%(33.9%)
5	健康と体力	30.1%(29.9%)
6	読み・書き・計算などの基礎的な学力	28.4%(28.6%)
7	国際感覚や語学力	20.1%(20.2%)
8	豊かな創造性、新しい価値を生み出す力	13.7%(13.6%)
9	主体的に学習に取り組む態度	6.9%(7.6%)
10	情報活用能力	6.4%(7.2%)
11	郷土への理解、郷土愛	4.7%(4.7%)
12	その他	0.5%(0.6%)
	(無回答)	1.6%(1.5%)

子どもたちに必要な資質・能力について、「自分の考えを的確に相手に伝える力などのコミュニケーション能力」51.5%が最も高く、次いで「自ら考え判断する力」47.8%、「豊かな心、人権や多様性を尊重する心」46.4%、「自分と異なる考え方を理解し受け入れる態度」33.9%などとなっている。

図表 3- (9) -1 子どもたちに必要な資質・能力について

		回答数
全体	100.0	1,484 人
(1) 自分の考えを的確に相手に伝える力などのコミュニケーション能力	51.5	765 人
(2) 自ら考え判断する力	47.8	710 人
(3) 豊かな心、人権や多様性を尊重する心	46.4	688 人
(4) 自分と異なる考え方を理解し受け入れる態度	33.9	503 人
(5) 健康と体力	30.1	446 人
(6) 読み・書き・計算などの基礎的な学力	28.4	422 人
(7) 国際感覚や語学力	20.1	298 人
(8) 豊かな創造性、新しい価値を生み出す力	13.7	203 人
(9) 主体的に学習に取り組む態度	6.9	103 人
(10) 情報活用能力	6.4	95 人
(11) 郷土への理解、郷土愛	4.7	70 人
(12) その他	0.5	8 人
無回答	1.6	24 人

グラフ単位：(%)

子どもたちに必要な資質・能力について、性別にみると、男女とも「自分の考えを的確に相手に伝える力などのコミュニケーション能力」が最も高く、『男性』49.3%、『女性』52.8%で、これに男女とも「自ら考え判断する力」が『男性』45.9%、『女性』49.4%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『70歳以上』を除くすべての年齢で「自分の考えを的確に相手に伝える力などのコミュニケーション能力」が5～6割台と最も高く、『18～19歳』では「自ら考え判断する力」、「豊かな心、人権や多様性を尊重する心」が同率の44.4%、『70歳以上』では「豊かな心、人権や多様性を尊重する心」が48.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』では「自ら考え判断する力」が5割台と最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『主婦・主夫』では「自分の考えを的確に相手に伝える力などのコミュニケーション能力」が5割台と最も高く、『無職』では「豊かな心、人権や多様性を尊重する心」が49.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『小豆圏域』、『西讃圏域』では「自分の考えを的確に相手に伝える力などのコミュニケーション能力」が5割台と最も高く、『東讃圏域』では「自分の考えを的確に相手に伝える力などのコミュニケーション能力」、「自ら考え判断する力」が同率の53.1%と最も高く、『中讃圏域』では「自ら考え判断する力」が48.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』を除くすべての居住年数で「自分の考えを的確に相手に伝える力などのコミュニケーション能力」が4～6割台と最も高く、『20年以上』では「豊かな心、人権や多様性を尊重する心」が47.6%と最も高くなっている。

図表3-(9)-2 【子どもたちに必要な資質・能力について】

	全体	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	無回答	
		自分の考えを的確に相手に伝える力などのコミュニケーション能力	自ら考え判断する力	豊かな心、人権や多様性を尊重する心	自分と異なる考え方を理解し受け入れる態度	健康と体力	読み・書き・計算などの基礎的な学力	国際感覚や語学力	豊かな創造性、新しい価値を生み出す力	主体的に学習に取り組む態度	情報活用能力	郷土への理解、郷土愛	その他		
		【表の見方】 比率(%) 網掛け=		1位	2位										
全体	1,484	51.5	47.8	46.4	33.9	30.1	28.4	20.1	13.7	6.9	6.4	4.7	0.5	1.6	
性別	男性	619	49.3	45.9	45.1	31.8	32.6	31.7	20.5	16.3	7.3	5.8	6.3	0.3	1.0
	女性	818	52.8	49.4	47.7	35.5	29.1	26.0	20.2	11.9	6.7	6.5	3.7	0.7	1.8
年齢別	18～19歳	9	22.2	44.4	44.4	11.1	33.3	33.3	22.2	33.3	11.1	33.3	11.1	-	-
	20～29歳	62	50.0	38.7	46.8	38.7	29.0	27.4	25.8	9.7	12.9	11.3	4.8	1.6	-
	30～39歳	123	61.8	48.0	46.3	36.6	26.8	29.3	17.1	8.1	9.8	10.6	1.6	0.8	-
	40～49歳	211	60.2	56.4	35.5	35.5	29.9	26.1	17.5	13.7	8.5	9.5	0.5	1.4	-
	50～59歳	259	53.7	49.8	45.9	33.2	31.7	26.3	16.2	15.4	8.9	6.6	5.8	1.2	-
	60～69歳	350	51.7	49.1	50.9	34.0	30.6	26.9	22.3	13.4	4.6	6.6	4.9	-	0.9
	70歳以上	453	44.2	43.3	48.3	33.1	30.2	31.8	22.1	14.8	5.3	2.4	6.6	-	4.0
職業別	農林漁業	40	45.0	52.5	47.5	25.0	37.5	25.0	17.5	17.5	7.5	-	15.0	-	-
	商工業、サービス業、自由業など	183	49.2	55.2	42.1	32.8	35.0	24.6	21.9	11.5	8.7	6.0	4.9	1.1	0.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	659	56.4	49.2	46.9	34.1	29.1	27.9	17.6	13.5	8.2	7.9	3.0	0.9	0.5
	主婦・主夫	291	54.3	47.8	46.4	36.4	27.5	24.7	21.6	14.4	6.2	5.5	3.8	-	2.1
	無職	279	39.1	39.8	49.1	33.3	31.5	35.5	24.7	14.7	3.6	5.4	8.2	-	3.6
圏域別	高松圏域	737	52.6	47.2	48.0	33.9	29.6	28.1	19.9	12.8	7.1	6.6	4.1	0.4	1.8
	東讃圏域	113	53.1	53.1	42.5	36.3	27.4	24.8	18.6	10.6	7.1	6.2	6.2	0.9	1.8
	小豆圏域	40	55.0	42.5	37.5	35.0	32.5	22.5	25.0	20.0	10.0	5.0	5.0	-	2.5
	中讃圏域	411	48.4	48.7	44.3	32.1	31.9	31.4	20.0	16.3	7.3	6.1	5.1	0.5	1.5
西讃圏域	183	52.5	46.4	48.6	36.1	29.0	26.8	20.8	12.0	4.9	6.6	5.5	1.1	1.1	
居住年数別	3年未満	81	48.1	44.4	46.9	39.5	29.6	33.3	17.3	11.1	11.1	8.6	2.5	1.2	-
	3年以上～10年未満	168	64.9	51.2	42.3	38.1	25.0	21.4	17.9	17.9	6.5	8.9	1.8	1.2	0.6
	10年以上～20年未満	233	59.2	49.4	43.8	31.8	27.9	27.0	22.3	11.6	8.6	7.3	1.7	0.4	0.9
	20年以上	983	47.5	47.2	47.6	33.6	31.6	29.5	20.4	13.9	6.3	5.6	6.2	0.4	1.8

(10)子どもたちの教育環境で大切なものについて

問24 子どもたちの教育環境で大切だと思うものを3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】 ※回答数の多い順に並び替え

1 教員がゆとりをもって子どもと向き合えるような体制を整えること	59.4%(59.6%)
2 人権や多様性が尊重され、安心して学ぶことのできる学校(園)の環境づくり	46.8%(46.3%)
3 教員の資質や指導力を向上させること	28.7%(28.1%)
4 保護者の教育費の負担を少なくすること	21.2%(23.0%)
5 パソコン・タブレット端末や電子黒板などのICT環境を整備すること	20.0%(19.6%)
6 学校の施設や設備を整備すること	18.8%(20.8%)
7 障害のある子どもへの適切な指導や必要な支援が行われること	17.2%(16.9%)
8 学校と家庭や地域のつながりを深めること	17.0%(16.0%)
9 学科・コースの新設など魅力ある高校づくりを進めること	14.7%(14.3%)
10 多様なニーズ(夜間中学校、県外生受入れ、学びの多様化学校等)に対応した教育環境の提供	12.8%(12.1%)
11 家庭での教育が充実できるようにすること	10.5%(10.5%)
12 校種間(例えば小・中学校、中学・高校、高校・大学)をまたぐ一貫した教育環境	6.1%(6.3%)
13 その他	1.1%(1.2%)
(無回答)	2.1%(1.9%)

子どもたちの教育環境で大切なものについて、「教員がゆとりをもって子どもと向き合えるような体制を整えること」59.4%が最も高く、次いで「人権や多様性が尊重され、安心して学ぶことのできる学校(園)の環境づくり」46.8%、「教員の資質や指導力を向上させること」28.7%、「保護者の教育費の負担を少なくすること」21.2%などとなっている。

図表 3- (10) -1 子どもたちの教育環境で大切なものについて

		回答数
全 体	100.0	1,484 人
(1) 教員がゆとりをもって子どもと向き合えるような体制を整えること	59.4	882 人
(2) 人権や多様性が尊重され、安心して学ぶことのできる学校（園）の環境づくり	46.8	695 人
(3) 教員の資質や指導力を向上させること	28.7	426 人
(4) 保護者の教育費の負担を少なくすること	21.2	314 人
(5) パソコン・タブレット端末や電子黒板などのICT環境を整備すること	20.0	297 人
(6) 学校の施設や設備を整備すること	18.8	279 人
(7) 障害のある子どもへの適切な指導や必要な支援が行われること	17.2	255 人
(8) 学校と家庭や地域のつながりを深めること	17.0	252 人
(9) 学科・コースの新設など魅力ある高校づくりを進めること	14.7	218 人
(10) 多様なニーズ（夜間中学校、県外生受入れ、学びの多様化学校等）に対応した教育環境の提供	12.8	190 人
(11) 家庭での教育が充実できるようにすること	10.5	156 人
(12) 校種間（例えば小・中学校、中学・高校、高校・大学）をまたぐ一貫した教育環境	6.1	91 人
(13) その他	1.1	16 人
無回答	2.1	31 人

グラフ単位：（%）

子どもたちの教育環境で大切なものについて、性別にみると、男女とも「教員がゆとりをもって子どもと向き合えるような体制を整えること」が最も高く、『男性』57.5%、『女性』61.7%で、これに男女とも「人権や多様性が尊重され、安心して学ぶことのできる学校（園）の環境づくり」が『男性』41.0%、『女性』51.3%と続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で「教員がゆとりをもって子どもと向き合えるような体制を整えること」が5～6割台と最も高く、『18～19歳』では「人権や多様性が尊重され、安心して学ぶことのできる学校（園）の環境づくり」が66.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「教員がゆとりをもって子どもと向き合えるような体制を整えること」が5～6割台と最も高く、『主婦・主夫』で65.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「教員がゆとりをもって子どもと向き合えるような体制を整えること」が5～6割台と最も高く、『小豆圏域』で67.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「教員がゆとりをもって子どもと向き合えるような体制を整えること」が5～6割台と最も高く、『3年未満』で63.0%と最も高くなっている。

図表3-(10)-2 【子どもたちの教育環境で大切なものについて】

	全体	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	無回答
		教員がゆとりをもって子どもと向き合えるよう な体制を整えること	人権や多様性が尊重され、安心して学ぶこと のできる学校(園)の環境づくり	教員の資質や指導力を向上させること	保護者の教育費の負担を少なくすること	ICT環境を整備すること	学校の施設や設備を整備すること	障害のある子どもへの適切な指導や必要な支 援が行われること	学校と家庭や地域のつながりを深めること	学科・コースの新設など魅力ある高校づくり を進めること	多様なニーズ(夜間中学校、県外生受入れ、 学びの多様な学校等)に対応した教育環境の 提供	家庭での教育が充実できるようにすること	校種間(例えば小・中学校、中学・高校、高 校・大学)をまたぐ一貫した教育環境	その他	
【表の見方】 比率(%) 網掛け=		1位	2位												
全体	1,484	59.4	46.8	28.7	21.2	20.0	18.8	17.2	17.0	14.7	12.8	10.5	6.1	1.1	2.1
性別															
男性	619	57.5	41.0	25.5	24.7	26.7	19.7	15.2	19.4	14.4	11.5	11.1	7.9	1.0	1.3
女性	818	61.7	51.3	30.9	18.6	15.4	18.3	18.1	15.4	15.4	14.1	10.0	4.8	1.2	2.3
年齢別															
18~19歳	9	33.3	66.7	22.2	44.4	22.2	33.3	11.1	-	11.1	11.1	-	22.2	-	-
20~29歳	62	64.5	38.7	22.6	41.9	17.7	33.9	12.9	12.9	11.3	3.2	16.1	6.5	3.2	-
30~39歳	123	65.0	43.9	29.3	25.2	14.6	30.1	20.3	19.5	11.4	10.6	10.6	4.9	0.8	-
40~49歳	211	59.2	42.7	29.4	19.9	22.7	28.9	13.7	13.3	15.2	13.7	8.5	9.0	2.8	-
50~59歳	259	56.0	49.0	27.0	17.8	19.7	19.3	13.1	16.2	17.8	16.6	11.6	3.5	1.2	0.4
60~69歳	350	58.6	49.1	31.4	19.1	22.0	12.6	17.4	22.6	14.9	13.7	11.7	6.9	0.6	1.7
70歳以上	453	62.0	47.2	28.3	21.4	19.6	13.5	20.1	15.5	13.9	11.9	9.3	5.5	0.4	4.4
職業別															
農林漁業	40	60.0	35.0	30.0	17.5	22.5	12.5	22.5	20.0	15.0	10.0	2.5	7.5	-	2.5
商工業、サービス業、自由業など	183	56.3	37.7	31.7	21.9	24.6	19.7	16.4	23.0	11.5	16.9	8.7	6.6	0.5	1.1
会社、商店、官公庁などに勤務	659	58.7	47.5	28.2	22.3	18.5	23.4	13.5	17.9	15.6	12.3	12.3	6.1	1.7	0.6
主婦・主夫	291	65.6	50.2	31.6	14.8	18.6	12.0	22.7	14.1	15.8	14.4	9.6	5.8	1.4	2.7
無職	279	58.4	48.7	26.2	26.2	23.7	15.8	19.0	14.0	13.3	10.8	9.3	6.1	-	3.9
圏域別															
高松圏域	737	61.2	43.6	30.4	20.1	19.9	18.2	17.9	17.1	14.1	12.2	12.2	6.5	1.4	2.3
東讃圏域	113	59.3	41.6	17.7	25.7	16.8	20.4	18.6	18.6	22.1	15.9	9.7	6.2	-	1.8
小豆圏域	40	67.5	62.5	17.5	27.5	17.5	12.5	17.5	10.0	22.5	20.0	2.5	2.5	-	2.5
中讃圏域	411	56.9	52.3	31.4	20.2	20.0	19.2	14.6	15.8	13.9	13.4	9.5	6.3	1.0	2.2
西讃圏域	183	56.3	47.5	25.1	23.5	23.0	20.8	19.1	19.7	12.6	10.4	8.2	4.9	1.1	1.1
居住年数別															
3年未満	81	63.0	53.1	23.5	29.6	18.5	18.5	18.5	16.0	14.8	13.6	11.1	1.2	1.2	1.2
3年以上~10年未満	168	61.9	49.4	28.6	23.8	20.8	26.2	15.5	11.9	16.1	7.7	9.5	7.7	3.0	0.6
10年以上~20年未満	233	58.4	46.4	31.8	20.2	21.5	24.9	14.2	17.6	14.6	14.2	7.7	4.3	0.9	0.9
20年以上	983	59.6	46.0	28.7	20.3	20.0	16.3	17.8	18.0	14.3	13.4	11.3	6.6	0.8	2.3

(11)生涯学習の充実に必要なものについて

問25 生涯学習を充実させるために必要だと思うものを3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】※回答数の多い順に並び替え

1	学習についての情報提供を充実する	45.1%(45.1%)
2	住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす	44.9%(43.4%)
3	生涯学習関係施設の利便性を高める（夜間・休日利用や学校施設の開放等）	35.1%(34.4%)
4	職業や資格取得などに役立つような高度な内容の講座を増やす	33.7%(34.4%)
5	乳幼児などを抱える親や障害をもつ人が学習活動に参加できるようにする	30.5%(30.3%)
6	交流機能や学習相談など、さまざまな機能を備えた施設の充実を図る	26.9%(27.2%)
7	学習の成果を生かせる機会(人材バンク、学習指導・発表の場等)を充実する	23.5%(23.8%)
8	その他	1.3%(1.8%)
	(無回答)	4.3%(4.2%)

生涯学習の充実に必要なものについて、「学習についての情報提供を充実する」45.1%が最も高く、次いで「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」44.9%、「生涯学習関係施設の利便性を高める（夜間・休日利用や学校施設の開放等）」35.1%、「職業や資格取得などに役立つような高度な内容の講座を増やす」33.7%などとなっている。

図表 3- (11) -1 生涯学習の充実に必要なものについて

		回答数
全体	100.0	1,484 人
(1) 学習についての情報提供を充実する	45.1	669 人
(2) 住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす	44.9	667 人
(3) 生涯学習関係施設の利便性を高める（夜間・休日利用や学校施設の開放等）	35.1	521 人
(4) 職業や資格取得などに役立つような高度な内容の講座を増やす	33.7	500 人
(5) 乳幼児などを抱える親や障害をもつ人が学習活動に参加できるようにする	30.5	453 人
(6) 交流機能や学習相談など、さまざまな機能を備えた施設の充実を図る	26.9	399 人
(7) 学習の成果を生かせる機会(人材バンク、学習指導・発表の場等)を充実する	23.5	348 人
(8) その他	1.3	19 人
無回答	4.3	64 人

グラフ単位：(%)

生涯学習の充実に必要なものについて、性別にみると、『男性』では「学習についての情報提供を充実する」が48.1%と最も高く、『女性』では「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が45.4%と最も高くなっている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「交流機能や学習相談など、さまざまな機能を備えた施設の充実にを図る」が55.6%と最も高く、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「学習についての情報提供を充実する」が4～5割台と最も高く、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が4～5割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』を除くすべての職業で「学習についての情報提供を充実する」が3～5割台と最も高く、『主婦・主夫』では「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が50.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』では「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が4割台と最も高く、『東讃圏域』では「職業や資格取得などに役立つような高度な内容の講座を増やす」が41.6%と最も高く、『小豆圏域』、『西讃圏域』では「学習についての情報提供を充実する」が4～5割台と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』を除くすべての居住年数で「学習についての情報提供を充実する」が4割台と最も高く、『20年以上』では「住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす」が46.4%と最も高くなっている。

図表3-(11)-2 【生涯学習の充実に必要なものについて】

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	
		全体	学習についての情報提供を充実する	住民の希望にあう講座・教室・イベントなどを増やす	生涯学習関係施設の利便性を高める（夜間・休日利用や学校施設の開放等）	職業や資格取得などに役立つような高度な内容の講座を増やす	乳幼児などを抱える親や障害をもつ人が学習活動に参加できるようにする	交流機能や学習相談など、さまざまな機能を備えた施設の充実を図る	学習の成果を生かせる機会（人材バンク、学習指導・発表の場等）を充実する	その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=			1位	2位							
全体		1,484	45.1	44.9	35.1	33.7	30.5	26.9	23.5	1.3	4.3
性別	男性	619	48.1	45.2	36.5	35.7	24.2	27.0	24.2	1.0	3.7
	女性	818	43.8	45.4	33.5	33.0	35.1	26.3	23.3	1.5	4.4
年齢別	18～19歳	9	33.3	44.4	22.2	44.4	44.4	55.6	33.3	-	-
	20～29歳	62	46.8	37.1	27.4	45.2	25.8	24.2	22.6	8.1	1.6
	30～39歳	123	52.8	30.1	35.0	35.0	33.3	24.4	22.8	3.3	0.8
	40～49歳	211	45.5	34.6	36.0	38.4	29.9	29.4	27.0	1.9	0.9
	50～59歳	259	42.5	50.6	37.1	42.1	30.5	19.7	22.8	1.2	1.2
	60～69歳	350	46.9	51.4	36.0	34.3	33.7	27.1	20.9	0.6	2.3
	70歳以上	453	43.5	47.2	34.2	24.7	28.0	30.0	24.5	0.2	9.9
職業別	農林漁業	40	50.0	45.0	35.0	27.5	17.5	22.5	15.0	-	5.0
	商工業、サービス業、自由業など	183	38.8	37.2	33.9	38.3	31.7	21.9	27.9	1.1	3.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	659	45.7	43.9	36.4	36.9	31.7	28.2	24.3	2.1	1.5
	主婦・主夫	291	41.9	50.2	34.7	28.2	34.4	27.8	21.0	1.0	6.5
	無職	279	52.0	48.7	33.7	31.5	25.1	26.5	22.6	-	6.8
圏域別	高松圏域	737	45.0	45.5	35.4	34.2	30.4	26.9	25.1	1.4	4.3
	東讃圏域	113	38.9	38.9	34.5	41.6	35.4	27.4	20.4	-	3.5
	小豆圏域	40	50.0	40.0	40.0	40.0	20.0	30.0	22.5	-	5.0
	中讃圏域	411	45.7	46.0	36.5	31.4	29.2	25.5	22.9	1.0	5.6
	西讃圏域	183	46.4	45.4	30.1	30.6	33.3	29.0	20.2	2.7	1.6
居住年数別	3年未満	81	45.7	35.8	33.3	35.8	33.3	25.9	27.2	4.9	1.2
	3年以上～10年未満	168	49.4	41.1	34.5	28.0	31.5	29.2	26.8	2.4	2.4
	10年以上～20年未満	233	48.5	45.9	33.9	40.3	27.0	23.2	24.9	1.3	3.9
	20年以上	983	43.8	46.4	35.6	33.2	31.0	27.5	22.4	0.8	4.6

(12)運動やスポーツ活動の充実に必要なものについて

問26 運動やスポーツ活動を充実させるために必要だと思うものを3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】 ※回答数の多い順に並び替え

1	気軽に参加できるスポーツクラブやサークルの育成	47.0%(47.6%)
2	スポーツ施設の整備や使用しやすい利用料金の設定	39.2%(39.5%)
3	一緒に運動やスポーツを行う仲間との出会いや交流の促進	34.8%(35.8%)
4	スポーツ教室やスポーツイベントの開催や、トップレベルの選手と触れ合える機会の提供	34.6%(34.5%)
5	年齢層にあったスポーツ・レクリエーションプログラム (運動量の基準等)の開発・普及	33.4%(30.9%)
6	スポーツ指導者の養成	21.4%(20.5%)
7	県内スポーツ選手の活躍や様子を情報発信し、応援する活動	15.7%(15.8%)
8	スポーツに伴う事故・外傷・障害の防止に関する対策	8.2%(8.3%)
9	スポーツボランティアの支援・促進	7.5%(7.4%)
10	トップアスリートの育成	6.6%(6.8%)
11	地域プロスポーツチームとのかかわりと支援	6.3%(6.6%)
12	障害者のスポーツ・レクリエーション活動の推進	4.9%(5.4%)
13	スポーツに関する科学的研究の促進	2.1%(2.1%)
14	その他 (無回答)	1.1%(1.3%) 3.0%(2.8%)

運動やスポーツ活動の充実に必要なものについて、「気軽に参加できるスポーツクラブやサークルの育成」47.0%が最も高く、次いで「スポーツ施設の整備や使用しやすい利用料金の設定」39.2%、「一緒に運動やスポーツを行う仲間との出会いや交流の促進」34.8%、「スポーツ教室やスポーツイベントの開催や、トップレベルの選手と触れ合える機会の提供」34.6%などとなっている。

図表 3- (12) -1 運動やスポーツ活動の充実に必要なものについて

		回答数
全体	100.0	1,484 人
(1) 気軽に参加できるスポーツクラブやサークルの育成	47.0	697 人
(2) スポーツ施設の整備や使用しやすい利用料金の設定	39.2	582 人
(3) 一緒に運動やスポーツを行う仲間との出会いや交流の促進	34.8	516 人
(4) スポーツ教室やスポーツイベントの開催や、トップレベルの選手と触れ合える機会の提供	34.6	513 人
(5) 年齢層にあったスポーツ・レクリエーションプログラム（運動量の基準等）の開発・普及	33.4	495 人
(6) スポーツ指導者の養成	21.4	317 人
(7) 県内スポーツ選手の活躍や様子を情報発信し、応援する活動	15.7	233 人
(8) スポーツに伴う事故・外傷・障害の防止に関する対策	8.2	122 人
(9) スポーツボランティアの支援・促進	7.5	111 人
(10) トップアスリートの育成	6.6	98 人
(11) 地域プロスポーツチームとのかかわりと支援	6.3	94 人
(12) 障害者のスポーツ・レクリエーション活動の推進	4.9	73 人
(13) スポーツに関する科学的研究の促進	2.1	31 人
(14) その他	1.1	17 人
無回答	3.0	44 人

グラフ単位：（％）

運動やスポーツ活動の充実に必要なものについて、性別にみると、男女とも「気軽に参加できるスポーツクラブやサークルの育成」が最も高く、『男性』44.9%、『女性』49.1%で、これに男女とも「スポーツ施設の整備や使用しやすい利用料金の設定」が『男性』37.6%、『女性』41.4%と続いている。

年齢別にみると、『30～39歳』を除くすべての年齢で「気軽に参加できるスポーツクラブやサークルの育成」が4～6割台と最も高く、『30～39歳』では「スポーツ施設の整備や使用しやすい利用料金の設定」が52.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「スポーツ施設の整備や使用しやすい利用料金の設定」が45.0%と最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『無職』では「気軽に参加できるスポーツクラブやサークルの育成」が4～5割台と最も高く、『主婦・主夫』では「年齢層にあったスポーツ・レクリエーションプログラム（運動量の基準等）の開発・普及」が45.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』を除くすべての圏域で「気軽に参加できるスポーツクラブやサークルの育成」が4～5割台と最も高くなっており、『東讃圏域』では「スポーツ施設の整備や使用しやすい利用料金の設定」が44.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』を除くすべての居住年数で「気軽に参加できるスポーツクラブやサークルの育成」が4～5割台と最も高く、『3年未満』では「スポーツ施設の整備や使用しやすい利用料金の設定」が45.7%と最も高くなっている。

図表 3- (12) -2 【運動やスポーツ活動の充実に必要なものについて】

	全体	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	無回答
		の気 成に 参加 できる スポ ーツ クラ ブや サー クル	の スポ ーツ 施設 の整 備や 使用 しや すい 利用 料金	や一 緒に 運動 やス ポ ー ツ を 行 う 仲 間 と の 出 会 い	ト ス ポ ー ツ 教 室 や ス ポ ー ツ イ ベ ン ト の 開 催 や、 選 手 と 触 れ 合 え る 機 会 の 提 供	年 齢 層 に あ つ た ス ポ ー ツ ・ レ ク リ エ ー シ ョ ン の 基 準 等 の 開 発 ・ 普 及	ス ポ ー ツ 指 導 者 の 養 成	し、 県 内 ス ポ ー ツ 選 手 の 活 躍 や 様 子 を 情 報 発 信	ス ポ ー ツ に 伴 う 事 故 ・ 外 傷 ・ 障 害 の 防 止 に 関 する 対 策	ス ポ ー ツ ボ ラ ン テ ィ ア の 支 援 ・ 促 進	ト ッ プ ア ス リ ー ト の 育 成	地 域 ブ ロ ス ポ ー ツ チ ー ム と の か か わ り と 支 援	障 害 者 の ス ポ ー ツ ・ レ ク リ エ ー シ ョ ン 活 動 の 推 進	ス ポ ー ツ に 関 する 科 学 的 研 究 の 促 進	そ の 他	
		【表の見方】 比率(%) 網掛け=		1位	2位											
全体	1,484	47.0	39.2	34.8	34.6	33.4	21.4	15.7	8.2	7.5	6.6	6.3	4.9	2.1	1.1	3.0
性別																
男性	619	44.9	37.6	34.9	30.2	30.5	26.2	18.9	8.2	9.2	9.0	7.3	3.9	3.2	1.0	2.1
女性	818	49.1	41.4	35.1	38.4	35.2	18.2	13.3	7.9	6.2	4.6	5.7	5.5	1.3	1.2	3.2
年齢別																
18～19歳	9	66.7	44.4	33.3	33.3	11.1	22.2	22.2	11.1	-	22.2	11.1	11.1	-	-	-
20～29歳	62	56.5	37.1	45.2	33.9	12.9	14.5	17.7	6.5	8.1	4.8	8.1	9.7	3.2	3.2	-
30～39歳	123	45.5	52.0	37.4	47.2	16.3	15.4	13.0	7.3	5.7	8.9	7.3	7.3	0.8	2.4	-
40～49歳	211	51.2	41.2	35.1	37.9	24.6	23.2	16.1	6.6	6.2	7.6	10.0	2.4	4.7	1.4	0.9
50～59歳	259	47.5	45.2	32.4	37.1	30.5	17.4	13.5	7.3	8.5	9.7	6.6	6.9	1.2	1.9	1.2
60～69歳	350	48.3	38.6	30.6	38.3	38.9	26.0	16.0	6.0	6.9	6.9	6.0	4.0	2.3	0.3	2.0
70歳以上	453	43.0	32.7	37.3	26.3	42.6	22.3	16.8	11.5	8.4	3.5	4.0	4.4	1.5	0.7	6.2
職業別																
農林漁業	40	37.5	45.0	35.0	32.5	42.5	17.5	15.0	15.0	5.0	-	7.5	2.5	-	-	2.5
商工業、サービス業、自由業など	183	45.4	40.4	34.4	38.3	24.6	23.5	16.9	8.2	7.7	6.6	7.7	3.8	1.6	1.1	1.6
会社、商店、官公庁などに勤務	659	50.1	41.0	35.1	37.9	29.1	20.9	16.5	6.1	7.0	8.0	7.6	5.0	2.7	1.5	1.5
主婦・主夫	291	43.0	41.2	29.2	36.1	45.4	20.6	10.7	11.3	6.5	2.7	3.4	6.9	1.0	1.0	3.1
無職	279	48.0	32.6	40.1	24.7	35.1	23.3	17.9	9.3	9.7	7.9	5.7	3.9	2.2	0.7	5.4
圏域別																
高松圏域	737	45.9	39.3	35.8	33.2	35.0	22.1	15.1	7.2	6.0	7.2	6.9	4.7	1.9	0.9	3.3
東讃圏域	113	43.4	44.2	25.7	34.5	30.1	20.4	11.5	10.6	10.6	6.2	5.3	8.0	2.7	1.8	2.7
小豆圏域	40	52.5	32.5	27.5	27.5	37.5	25.0	22.5	10.0	5.0	7.5	5.0	2.5	-	-	7.5
中讃圏域	411	50.1	38.7	36.5	35.3	30.7	20.4	16.5	8.5	9.5	6.3	6.3	4.9	2.7	0.7	2.7
西讃圏域	183	45.4	38.3	33.9	39.9	33.9	20.2	17.5	9.8	7.7	4.9	4.9	4.4	1.6	2.7	1.6
居住年数別																
3年未満	81	39.5	45.7	34.6	43.2	18.5	12.3	25.9	4.9	2.5	8.6	11.1	6.2	3.7	2.5	1.2
3年以上～10年未満	168	50.6	44.0	36.9	38.7	25.0	23.8	11.9	5.4	7.1	8.9	7.7	6.5	3.6	2.4	1.8
10年以上～20年未満	233	54.5	44.6	36.1	31.3	26.2	22.3	15.5	7.3	5.6	9.0	6.9	3.4	1.7	0.4	1.7
20年以上	983	45.3	36.8	34.2	34.3	37.7	21.7	15.7	9.2	8.3	5.6	5.6	5.0	1.8	1.0	3.3

(15)教育に関する意見・要望について

問27 その他教育に関するご意見、ご要望を、自由にご記入ください。

※162件中20意見を抜粋

「1. 家庭の教育力の向上」

- ・保護者も子どもとゆっくりかかわりたいとは思っているが、なかなか余裕がもてない。働き方など、ゆとりのある社会になってほしい。家庭教育は大切だと思うので、ゆとりをもって家庭教育の時間が作れるようになりたい。学校や地域やいろいろな人とかかわって、子どもの居場所がたくさんできるとよいと思った。子どもが安心してすごせる場所があったり、頼ったり、助けあったりして、生きていくことを子どもたちに知ってほしい。
- ・学校現場に求めるものが多くなっていると感じます。本来、家庭の中で学んでいけるもの（友人トラブル（学校外）の対応やルール、マナー）を家庭内で伝えられるよう、家庭での教育が充実するように工夫してほしいです。

「2. 教育環境の充実」

- ・個性豊かに伸びていけるよう教育に従事するものは、子どものつぶやきに耳をしっかりと貸してあげて欲しい。一束にまとめないで下さい。
- ・私は小学生の時に陸上で全国2位になったことがあります。だけど、住んでいる地域は陸上を続けることができない環境で、中学生になってから陸上を続けるにはJRで1時間かけた場所まで行かないと続けることができませんでした。ですので、これからの子どもたちには私のような思いをさせてほしくありません。どこに住んでいてもどんな子どもも好きなことを好きなだけ続けられる環境を作ってあげてほしいです。

「3. 教員の資質向上、職場環境の改善」

- ・幼・小・中・高いずれも現場の職員数の基準を改善して欲しいです。ゆとりがあれば優しく生きられると思います。
- ・教職員の方の労働環境が気になります。教職員の方が過重労働になっていると子どもたちへの影響もあるかと思しますので、PTA や保護者の有志等で分担が可能なことがあれば働きかけていただき、学校任せにならない教育環境が必要かと思えます。ただ、保護者にもそれぞれ事情や都合があるかと思しますのであくまで義務にならない、「できる方」と学校との担いあいという形がよいかと。
- ・教員の働き方を見直してください。そのために、地域学校協働活動を積極的に推進するなど、教員が本来業務に専念できる環境をつくる必要があります。
- ・質の高い教員の確保と育成。
- ・放課後や休日にまで部活動を先生に担当させるのは、あまりに気の毒。外部の有資格者を招聘すべきだと思う。

「4. 豊かな心の育成」

- ・子どもがいない事もあり、良く分からないですが、勉強の成績が良いとか、とても大切と思う一方で、豊かな心、認め合う・許し合える人間力が不可欠と感じています。
- ・人として生きることの大切さ。人との関わり、思いやり、善悪、敬愛などを知ってほしい。
- ・若い人の自死のニュースを見聞きします。心が痛みます。いじめられた子ども達は、私には、自分の考えや感じた事を話さないでいる子どものように見えます。自分の思っている事、感じた事を自由に話せる環境、無条件に愛してくれる人の存在がどの子どもにも必要です。小さい頃から、自由に発言できるように、受け入れられるように、どの子どもも幸せに生活して欲しい。

「5. その他」

- ・子どもたちだけでなく、親をはじめ教員ら、子どもにたずさわる方々全てがネットリテラシーについてもっと学ぶべきだと思う。生まれた時から情報を得やすい環境である子どもたちが、その情報を適切に使えるよう支援する必要がある。子どもは大人が思っているよりもずっとかしこく、良くも悪くも知恵が働く。
- ・昔とくらべて子どもの遊び方が変わりました。しかしスマホ・ゲーム等、もはや病的に長時間熱中して遊んでいます。健康的に取り扱うように何か対策を講じる必要があります。よい指導をお願いします。
- ・通学路が整備されるとありがたい。(カーブミラー、側溝に網をかけて落ちないようにする、自動車や自転車への啓蒙など)
- ・金融教育に力を入れることが将来的には、老後の福祉や生涯に係る税の支出を抑えるカギになる。香川県の世界に向けての発信力と思考の向上に役立つであろう。
- ・やり直し、学び直すことに遅いことはないという観点、発想から、そのような人達向けの学校や講座の拡大充実をしていただきたい。地方の学校だから、というレベル差の課題に対して、教員、指導者、施設、設備を充実し、またそのことをアピールすることで、優秀な人材を集めるような努力工夫がほしい。
- ・幼少期から語学を取り入れて将来困らないようにして欲しい。
- ・スポーツなどに興味を持てる場を増やす。
- ・家庭、学校、子どもと三位一体となって、コミュニケーションを取り、連携し、常に情報を共有し、問題があったら、すぐに相談し、解決、改善していける環境を作っていければと思います。

4. 県政の重要度と満足度について

県では、令和3年度からの新たな香川づくりの指針として、『人生100年時代のフロンティア県・香川』実現計画[※]を策定しています。

この計画を着実に推進し、県民の皆さまのニーズ（要望）に対応した県政を進めるために、この計画で示している26の分野を対象に、皆さまが考える重要度と満足度についてお伺いします。以下の質問にお答えください。

※「人生100年時代のフロンティア県・香川」実現計画

本県のめざす基本的方向とそれを実現するための方策を明らかにした県政運営の基本指針となる総合計画で、計画期間は令和3年度から令和7年度の5年間です。

【香川県ホームページ】<https://www.pref.kagawa.lg.jp/seisaku/sogo/sogokeikaku/minaoshi/keikakuminaoshi.html>

(1)安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』(重要度)

問28 計画の基本方針「安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』」の実現に向けて展開している[1]～[13]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

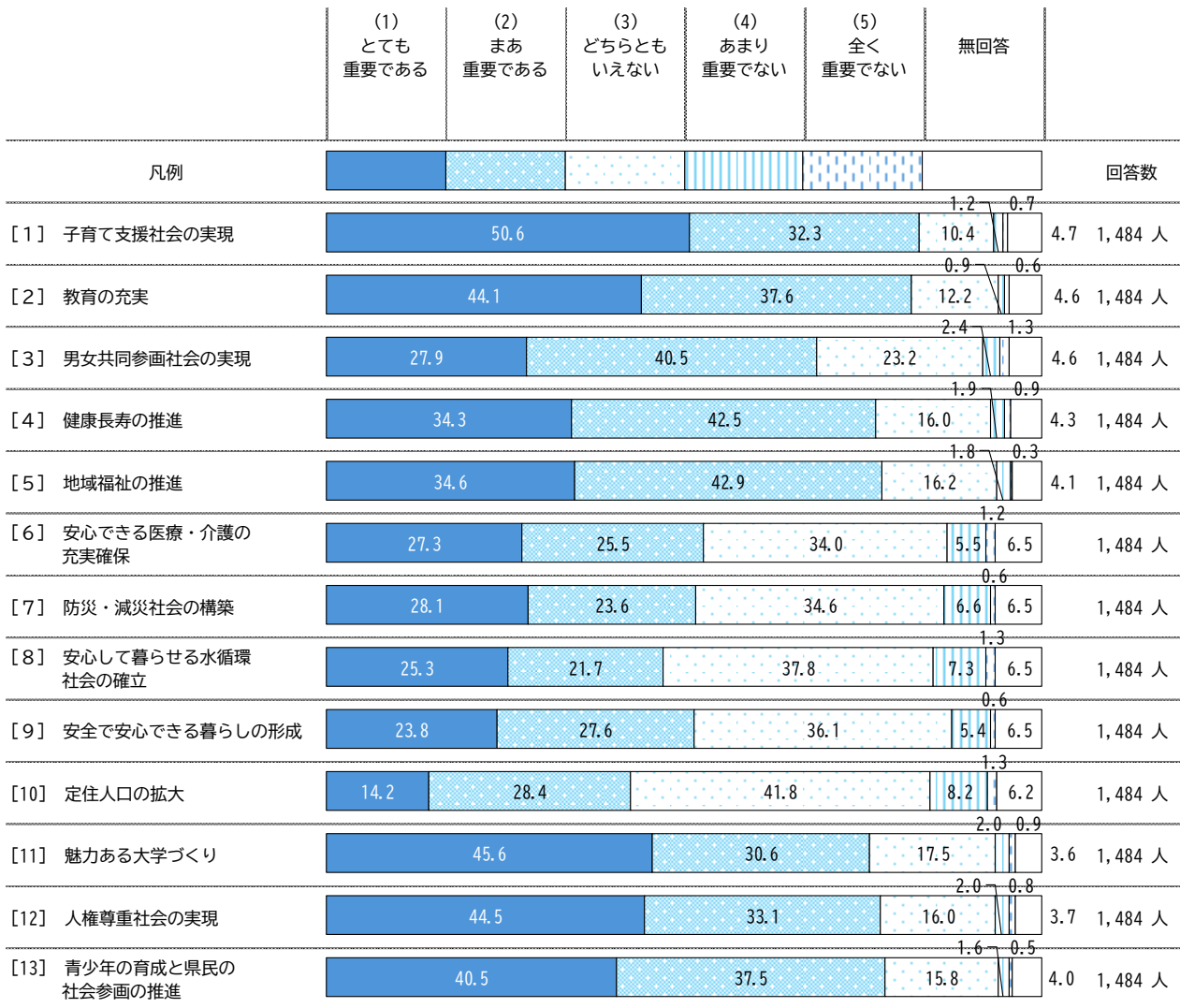
【回答者数=1,484】

(単位：%)

分 野	重要度					無回答
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	
[1] 子育て支援社会の実現	50.6 (53.8)	32.3 (30.6)	10.4 (9.5)	1.2 (1.1)	0.7 (0.6)	4.7 (4.4)
[2] 教育の充実	44.1 (47.0)	37.6 (35.9)	12.2 (11.5)	0.9 (0.8)	0.6 (0.5)	4.6 (4.3)
[3] 男女共同参画社会の実現	27.9 (30.1)	40.5 (39.8)	23.2 (22.2)	2.4 (2.3)	1.3 (1.3)	4.6 (4.3)
[4] 健康長寿の推進	34.3 (36.0)	42.5 (41.1)	16.0 (15.4)	1.9 (2.3)	0.9 (1.3)	4.3 (3.9)
[5] 地域福祉の推進	34.6 (35.7)	42.9 (42.2)	16.2 (15.6)	1.8 (2.2)	0.3 (0.5)	4.1 (3.8)
[6] 安心できる医療・介護の充実確保	27.3 (29.3)	25.5 (25.4)	34.0 (32.2)	5.5 (5.8)	1.2 (1.3)	6.5 (6.1)
[7] 防災・減災社会の構築	28.1 (31.0)	23.6 (23.5)	34.6 (31.9)	6.6 (6.8)	0.6 (0.6)	6.5 (6.1)
[8] 安心して暮らせる水循環社会の確立	25.3 (27.1)	21.7 (21.7)	37.8 (36.4)	7.3 (7.3)	1.3 (1.3)	6.5 (6.1)
[9] 安全で安心できる暮らしの形成	23.8 (25.9)	27.6 (27.8)	36.1 (34.4)	5.4 (5.2)	0.6 (0.6)	6.5 (6.1)
[10] 定住人口の拡大	14.2 (16.0)	28.4 (28.9)	41.8 (39.9)	8.2 (8.2)	1.3 (1.2)	6.2 (5.8)
[11] 魅力ある大学づくり	45.6 (46.2)	30.6 (30.4)	17.5 (16.9)	2.0 (2.1)	0.9 (1.1)	3.6 (3.3)
[12] 人権尊重社会の実現	44.5 (46.3)	33.1 (31.8)	16.0 (15.1)	2.0 (2.4)	0.8 (1.0)	3.7 (3.4)
[13] 青少年の育成と県民の社会参画の推進	40.5 (41.6)	37.5 (36.6)	15.8 (15.6)	1.6 (1.9)	0.5 (0.6)	4.0 (3.8)

「安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「子育て支援社会の実現」82.9%が最も高く、次いで「教育の充実」81.7%、「青少年の育成と県民の社会参画の推進」78.0%などとなっている。

図表4- (1) 安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』(重要度)



グラフ単位：(%)

(2)安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』(満足度)

問28 計画の基本方針「安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』」の実現に向けて展開している[1]～[13]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

(単位：%)

分 野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
[1] 子育て支援社会の実現	28.5 (28.4)	31.1 (30.0)	28.6 (28.8)	5.3 (6.5)	1.3 (1.5)	5.1 (4.7)
[2] 教育の充実	16.6 (16.3)	34.3 (33.4)	37.5 (38.8)	5.5 (5.7)	1.5 (1.6)	4.5 (4.2)
[3] 男女共同参画社会の実現	11.2 (11.4)	28.0 (27.1)	43.9 (44.4)	9.6 (9.9)	2.4 (2.5)	5.0 (4.7)
[4] 健康長寿の推進	12.8 (13.0)	31.8 (31.8)	42.8 (42.7)	6.5 (6.6)	1.3 (1.5)	4.7 (4.4)
[5] 地域福祉の推進	12.9 (13.1)	31.3 (30.5)	43.5 (44.1)	5.7 (5.9)	1.5 (1.7)	5.1 (4.7)
[6] 安心できる医療・介護の充実確保	1.7 (1.8)	29.1 (29.4)	42.7 (42.5)	16.0 (16.2)	4.6 (4.5)	5.9 (5.7)
[7] 防災・減災社会の構築	1.7 (2.6)	17.0 (17.3)	56.3 (54.7)	14.6 (15.0)	4.1 (4.4)	6.3 (6.0)
[8] 安心して暮らせる水循環社会の確立	6.1 (7.0)	38.2 (38.2)	39.9 (39.0)	6.9 (7.2)	1.8 (1.8)	7.1 (6.8)
[9] 安全で安心できる暮らしの形成	2.4 (2.9)	27.2 (27.0)	49.7 (49.2)	10.6 (11.0)	2.8 (3.1)	7.3 (6.9)
[10] 定住人口の拡大	1.2 (2.0)	11.6 (12.6)	62.9 (61.1)	12.9 (13.3)	5.0 (4.9)	6.4 (6.0)
[11] 魅力ある大学づくり	1.5 (2.3)	11.5 (11.5)	67.1 (65.5)	9.7 (10.5)	2.8 (3.2)	7.3 (6.9)
[12] 人権尊重社会の実現	1.5 (2.2)	16.6 (17.6)	67.3 (65.8)	6.1 (6.1)	1.7 (1.7)	6.9 (6.5)
[13] 青少年の育成と県民の社会参画の推進	1.3 (2.1)	15.4 (16.1)	69.9 (68.9)	5.1 (4.9)	1.2 (1.3)	7.0 (6.8)

「安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』」の満足度について、「防災・減災社会の構築」、「定住人口の拡大」を除くすべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、特に「子育て支援社会の実現」の満足度が高くなっている。

図表4-（2） 安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』（満足度）

	(1) とても 満足している	(2) まあ 満足している	(3) どちらとも いえない	(4) やや 不満である	(5) とても 不満である	無回答	
凡例							回答数
[1] 子育て支援社会の実現	28.5	31.1	28.6	5.3	5.1	1.3	1,484 人
[2] 教育の充実	16.6	34.3	37.5	5.5	1.5	4.5	1,484 人
[3] 男女共同参画社会の実現	11.2	28.0	43.9	9.6	5.0	2.4	1,484 人
[4] 健康長寿の推進	12.8	31.8	42.8	6.5	1.3	4.7	1,484 人
[5] 地域福祉の推進	12.9	31.3	43.5	5.7	5.1	1.5	1,484 人
[6] 安心できる医療・介護の 充実確保	1.7	29.1	42.7	16.0	5.9	4.6	1,484 人
[7] 防災・減災社会の構築	1.7	17.0	56.3	14.6	6.3	4.1	1,484 人
[8] 安心して暮らせる水循環 社会の確立	6.1	38.2	39.9	6.9	7.1	1.8	1,484 人
[9] 安全で安心できる暮らしの形成	2.4	27.2	49.7	10.6	7.3	2.8	1,484 人
[10] 定住人口の拡大	1.2	11.6	62.9	12.9	5.0	6.4	1,484 人
[11] 魅力ある大学づくり	1.5	11.5	67.1	9.7	7.3	2.8	1,484 人
[12] 人権尊重社会の実現	1.5	16.6	67.3	6.1	6.9	1.7	1,484 人
[13] 青少年の育成と県民の 社会参画の推進	1.3	15.4	69.9	5.1	7.0	1.2	1,484 人

グラフ単位：（％）

(3) 活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』(重要度)

問29 計画の基本方針「活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』」の実現に向けて展開している[14]～[23]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

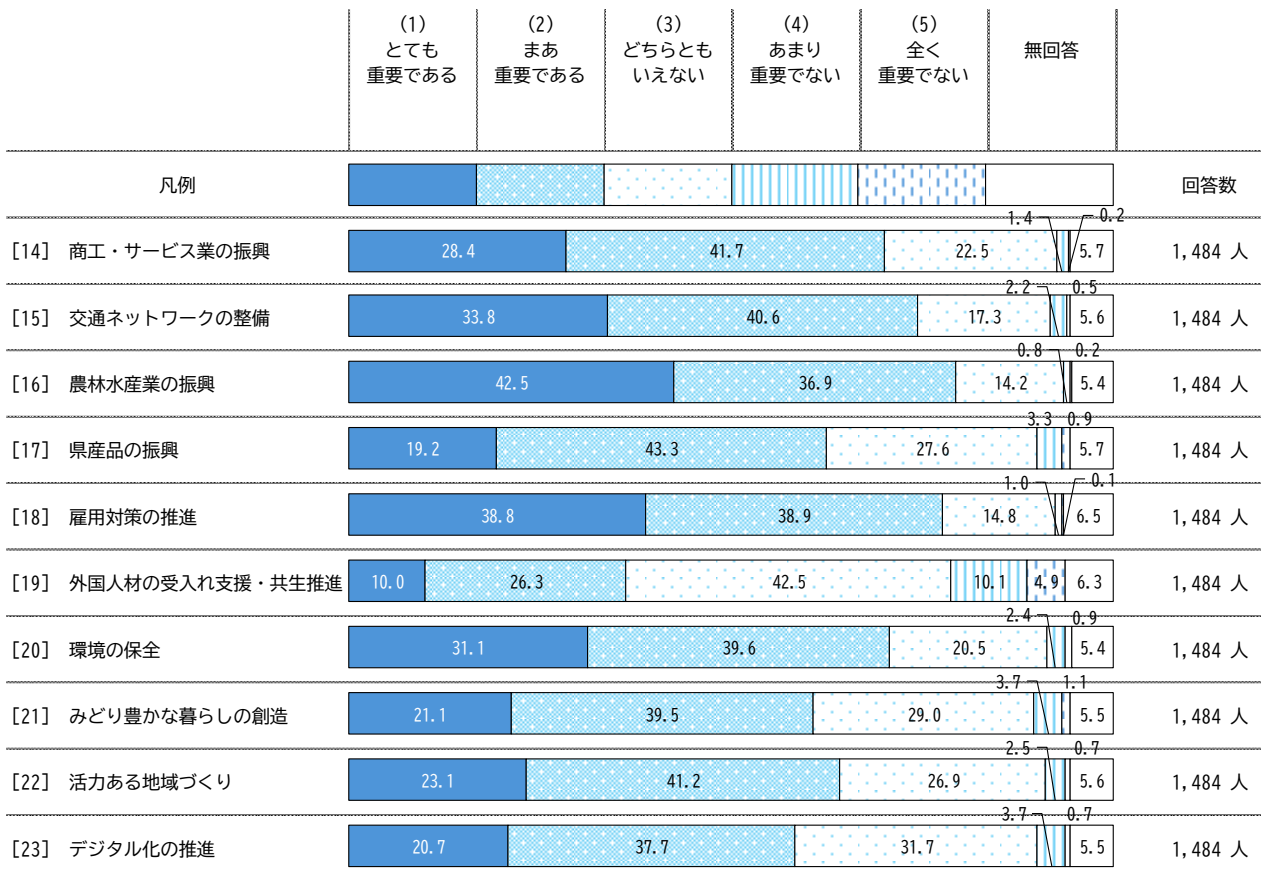
【回答者数=1,484】

(単位：%)

分 野	重要度					
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答
[14] 商工・サービス業の振興	28.4 (30.6)	41.7 (40.8)	22.5 (21.5)	1.4 (1.5)	0.2 (0.2)	5.7 (5.3)
[15] 交通ネットワークの整備	33.8 (35.3)	40.6 (39.8)	17.3 (16.9)	2.2 (2.2)	0.5 (0.6)	5.6 (5.3)
[16] 農林水産業の振興	42.5 (44.3)	36.9 (36.0)	14.2 (13.8)	0.8 (0.7)	0.2 (0.2)	5.4 (5.1)
[17] 県産品の振興	19.2 (20.5)	43.3 (42.6)	27.6 (27.0)	3.3 (3.4)	0.9 (1.1)	5.7 (5.4)
[18] 雇用対策の推進	38.8 (41.4)	38.9 (37.5)	14.8 (14.0)	1.0 (0.9)	0.1 (0.1)	6.5 (6.1)
[19] 外国人材の受入れ支援・共生推進	10.0 (11.3)	26.3 (25.9)	42.5 (40.5)	10.1 (10.5)	4.9 (5.8)	6.3 (6.0)
[20] 環境の保全	31.1 (33.0)	39.6 (38.8)	20.5 (19.4)	2.4 (2.7)	0.9 (1.0)	5.4 (5.1)
[21] みどり豊かな暮らしの創造	21.1 (23.4)	39.5 (37.8)	29.0 (28.2)	3.7 (3.8)	1.1 (1.4)	5.5 (5.2)
[22] 活力ある地域づくり	23.1 (24.8)	41.2 (40.7)	26.9 (25.9)	2.5 (2.7)	0.7 (0.6)	5.6 (5.3)
[23] デジタル化の推進	20.7 (23.0)	37.7 (36.4)	31.7 (30.6)	3.7 (4.1)	0.7 (0.7)	5.5 (5.2)

「活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「農林水産業の振興」79.4%が最も高く、次いで「雇用対策の推進」77.7%、「交通ネットワークの整備」74.4%などとなっている。

図表4-（3） 活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』（重要度）



グラフ単位：（％）

(4) 活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』(満足度)

問29 計画の基本方針「活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』」の実現に向けて展開している[14]～[23]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

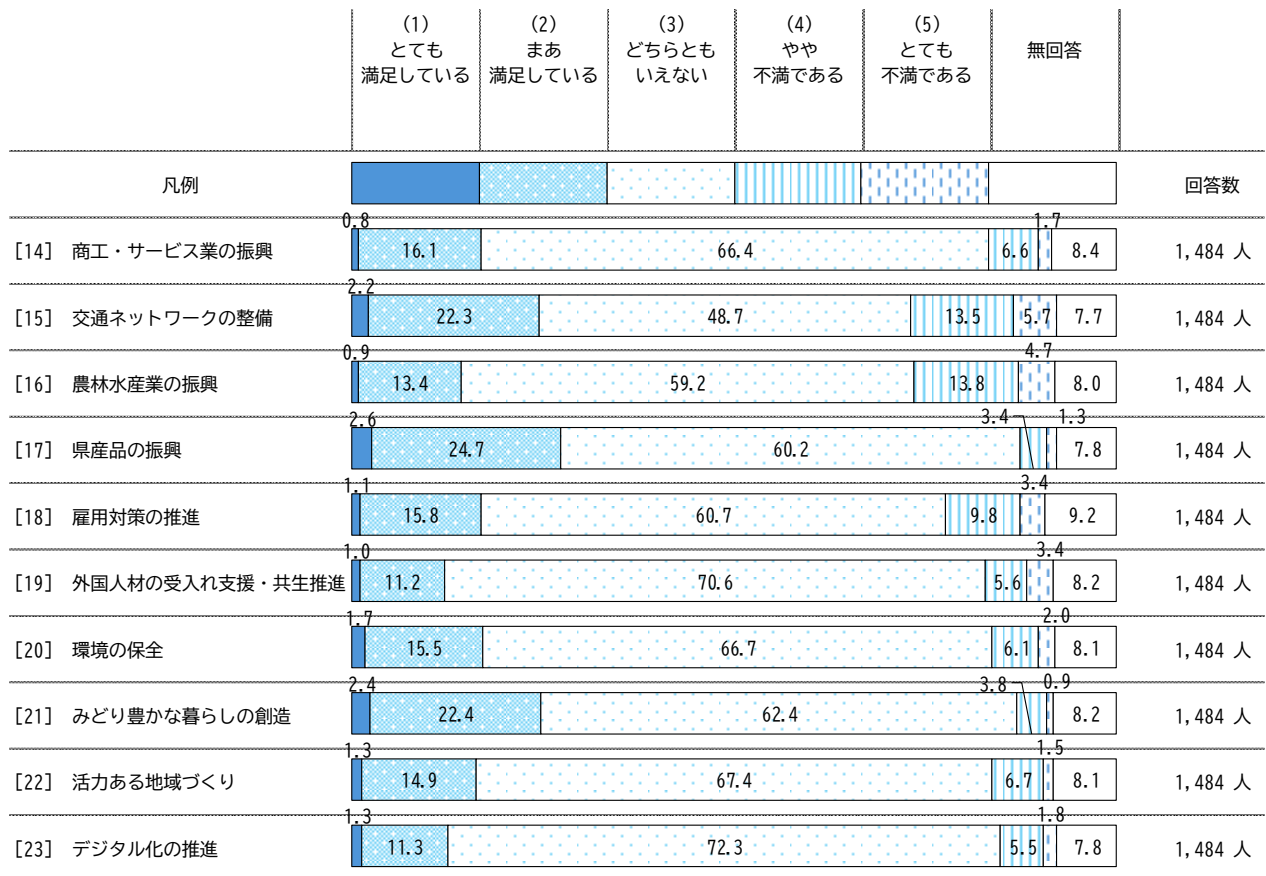
【回答者数=1,484】

(単位：%)

分 野	満足度					無回答
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	
[14] 商工・サービス業の振興	0.8 (1.2)	16.1 (16.9)	66.4 (65.6)	6.6 (6.6)	1.7 (1.9)	8.4 (7.9)
[15] 交通ネットワークの整備	2.2 (2.6)	22.3 (23.3)	48.7 (48.2)	13.5 (12.8)	5.7 (5.8)	7.7 (7.4)
[16] 農林水産業の振興	0.9 (1.1)	13.4 (14.2)	59.2 (57.8)	13.8 (14.2)	4.7 (5.0)	8.0 (7.6)
[17] 県産品の振興	2.6 (3.4)	24.7 (25.8)	60.2 (58.3)	3.4 (3.5)	1.3 (1.6)	7.8 (7.5)
[18] 雇用対策の推進	1.1 (1.3)	15.8 (16.6)	60.7 (59.0)	9.8 (10.2)	3.4 (4.1)	9.2 (8.9)
[19] 外国人材の受入れ支援・共生推進	1.0 (1.9)	11.2 (11.6)	70.6 (68.1)	5.6 (6.7)	3.4 (3.9)	8.2 (7.9)
[20] 環境の保全	1.7 (2.4)	15.5 (16.2)	66.7 (65.3)	6.1 (6.3)	2.0 (2.0)	8.1 (7.8)
[21] みどり豊かな暮らしの創造	2.4 (3.4)	22.4 (22.3)	62.4 (61.6)	3.8 (3.7)	0.9 (0.9)	8.2 (8.0)
[22] 活力ある地域づくり	1.3 (2.0)	14.9 (16.0)	67.4 (66.1)	6.7 (6.4)	1.5 (1.6)	8.1 (7.8)
[23] デジタル化の推進	1.3 (2.0)	11.3 (12.2)	72.3 (71.0)	5.5 (5.2)	1.8 (2.0)	7.8 (7.6)

「活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』」の満足度について、「農林水産業の振興」を除くすべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、特に「みどり豊かな暮らしの創造」の満足度が高くなっている。

図表4-(4) 活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』(満足度)



グラフ単位：(%)

(5) 多くの人が行き交い訪れたくなる香川をつくる『にぎわい100計画』(重要度)

問30 計画の基本方針「多くの人が行き交い訪れたくなる香川をつくる『にぎわい100計画』」の実現に向けて展開している[24]～[26]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

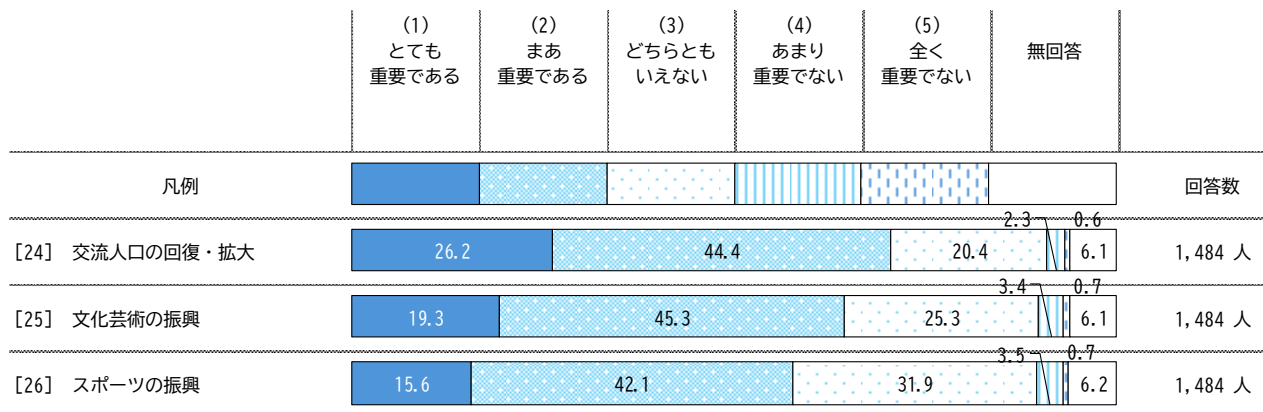
【回答者数=1,484】

(単位：%)

分 野	重要度					
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答
[24] 交流人口の回復・拡大	26.2 (27.7)	44.4 (43.1)	20.4 (20.5)	2.3 (2.4)	0.6 (0.6)	6.1 (5.7)
[25] 文化芸術の振興	19.3 (20.7)	45.3 (44.7)	25.3 (24.5)	3.4 (3.6)	0.7 (0.7)	6.1 (5.7)
[26] スポーツの振興	15.6 (17.0)	42.1 (41.6)	31.9 (31.1)	3.5 (3.6)	0.7 (0.9)	6.2 (5.8)

「多くの人が行き交い訪れたくなる香川をつくる『にぎわい100計画』」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「交流人口の回復・拡大」70.6%が最も高く、次いで「文化芸術の振興」64.6%、「スポーツの振興」57.7%などとなっている。

図表4- (5) 多くの人が行き交い訪れたくなる香川をつくる『にぎわい100計画』(重要度)



グラフ単位：(%)

(6) 多くの人が行き交い訪れたいくなる香川をつくる『にぎわい100計画』(満足度)

問30 計画の基本方針「多くの人が行き交い訪れたいくなる香川をつくる『にぎわい100計画』」の実現に向けて展開している[24]～[26]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

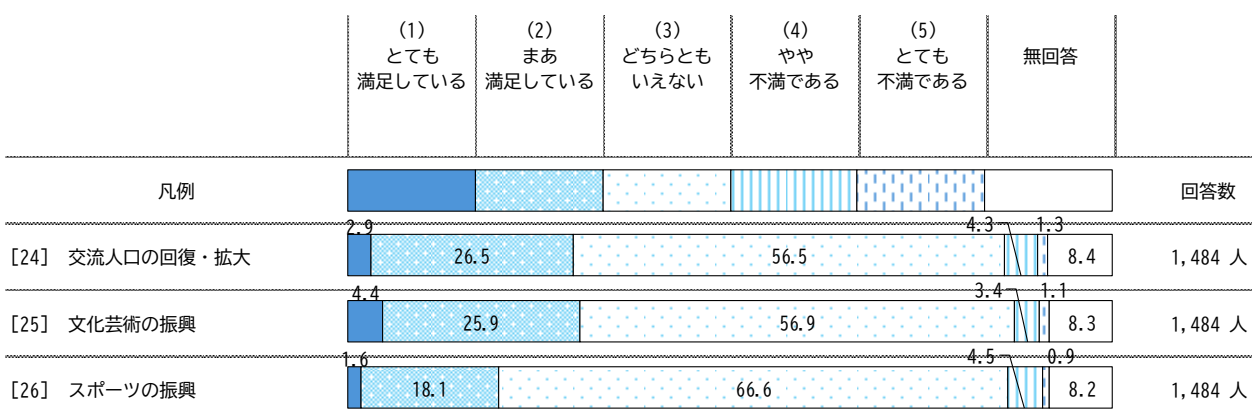
【回答者数=1,484】

(単位：%)

分野	満足度					無回答
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	
[24] 交流人口の回復・拡大	2.9 (3.6)	26.5 (27.1)	56.5 (55.8)	4.3 (4.2)	1.3 (1.4)	8.4 (7.9)
[25] 文化芸術の振興	4.4 (5.1)	25.9 (27.3)	56.9 (55.3)	3.4 (3.3)	1.1 (1.0)	8.3 (7.9)
[26] スポーツの振興	1.6 (2.0)	18.1 (18.6)	66.6 (66.1)	4.5 (4.6)	0.9 (0.9)	8.2 (7.8)

「多くの人が行き交い訪れたいくなる香川をつくる『にぎわい100計画』」の満足度について、すべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、特に「文化芸術の振興」の満足度が高くなっている。

図表4-(6) 多くの人が行き交い訪れたいくなる香川をつくる『にぎわい100計画』(満足度)



グラフ単位：(%)

子育て支援社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』83.4%、『女性』83.5%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において86.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『西讃圏域』において88.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年以上～10年未満』において91.7%と最も高くなっている。

子育て支援社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』55.3%、『女性』63.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』7.9%、『女性』5.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

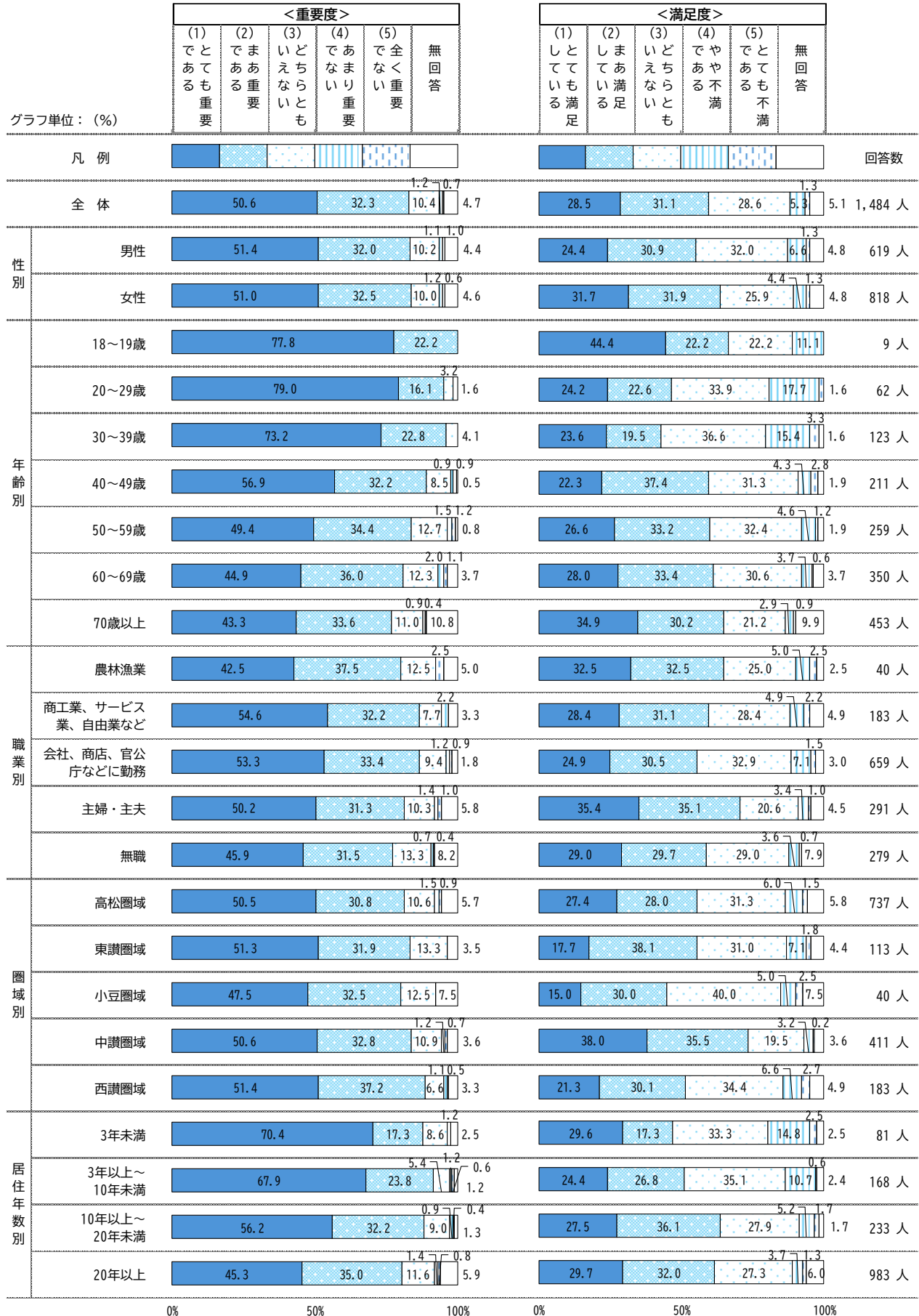
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 5- (1) 【子育て支援社会の実現】



教育の充実の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』81.3%、『女性』83.1%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において84.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『小豆圏域』において85.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』において88.1%と最も高くなっている。

教育の充実の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』50.6%、『女性』51.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』7.1%、『女性』7.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

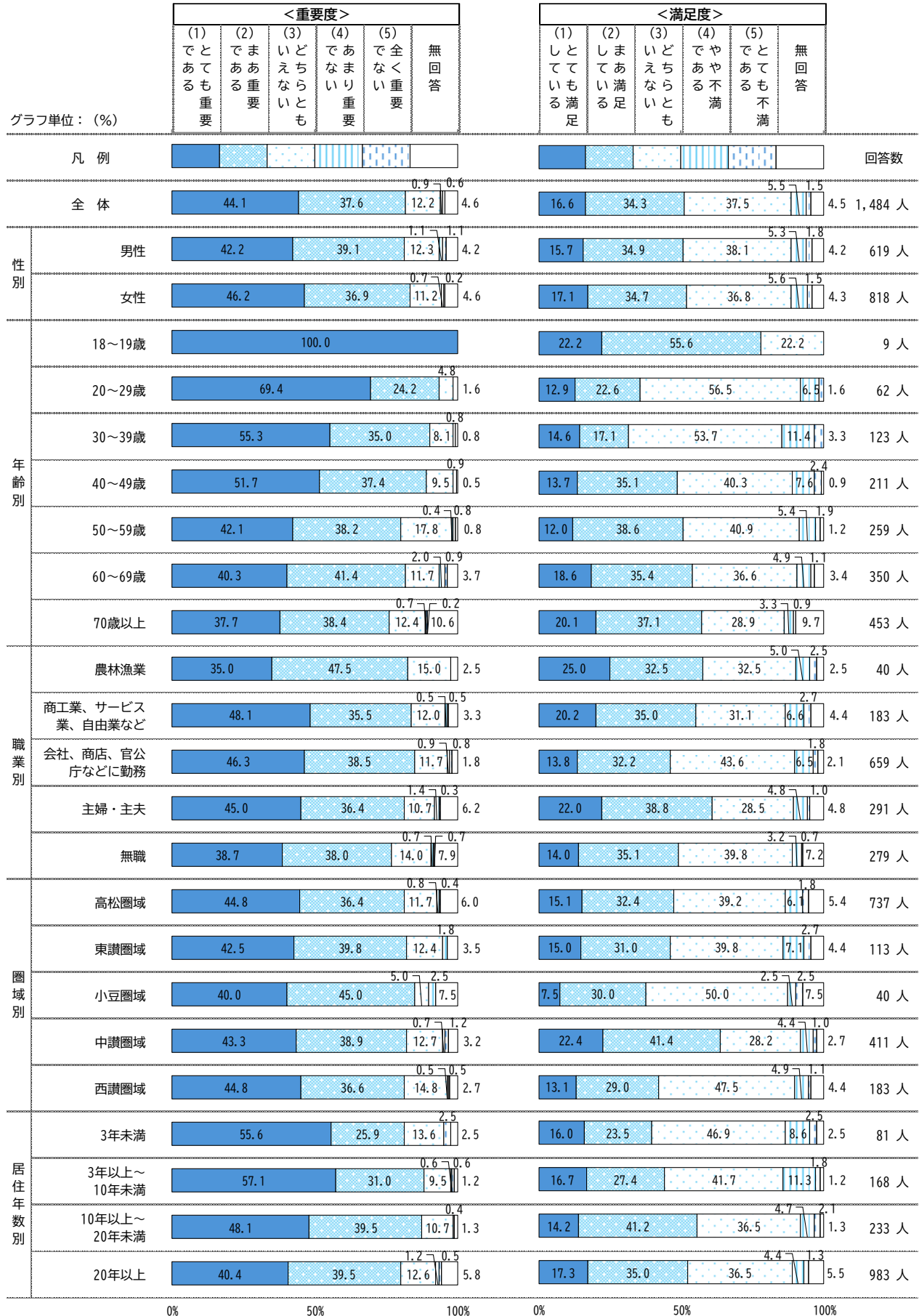
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 5- (2) 【教育の充実】



男女共同参画社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』63.9%、『女性』72.0%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において72.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『西讃圏域』において71.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年以上～10年未満』において76.2%と最も高くなっている。

男女共同参画社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』36.4%、『女性』41.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.3%、『女性』11.8%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

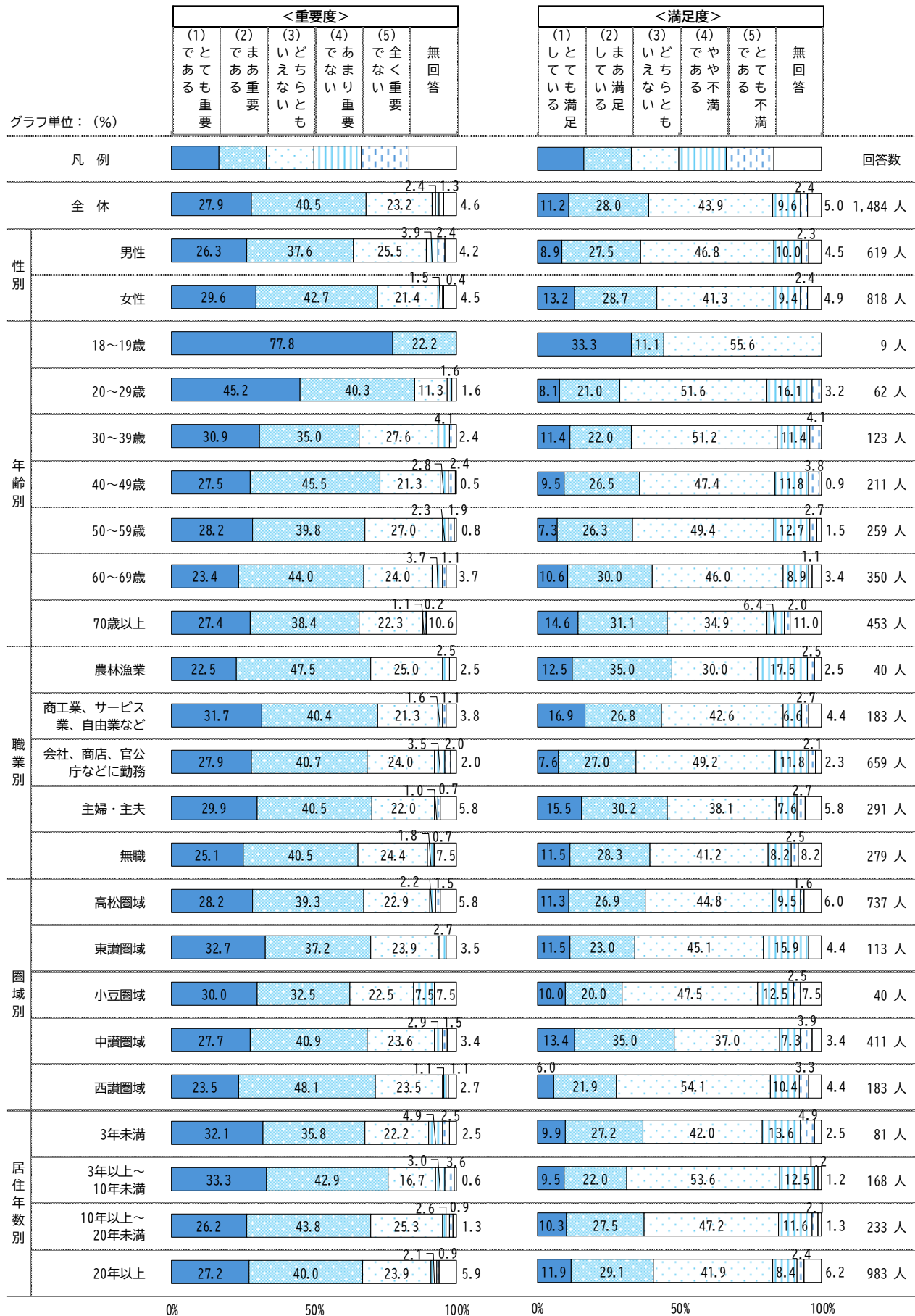
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表5-（3） 【男女共同参画社会の実現】



健康長寿の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』73.1%、『女性』80.4%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において81.1%最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『小豆圏域』において82.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』において81.6%と最も高くなっている。

健康長寿の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』41.8%、『女性』47.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』8.6%、『女性』7.4%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

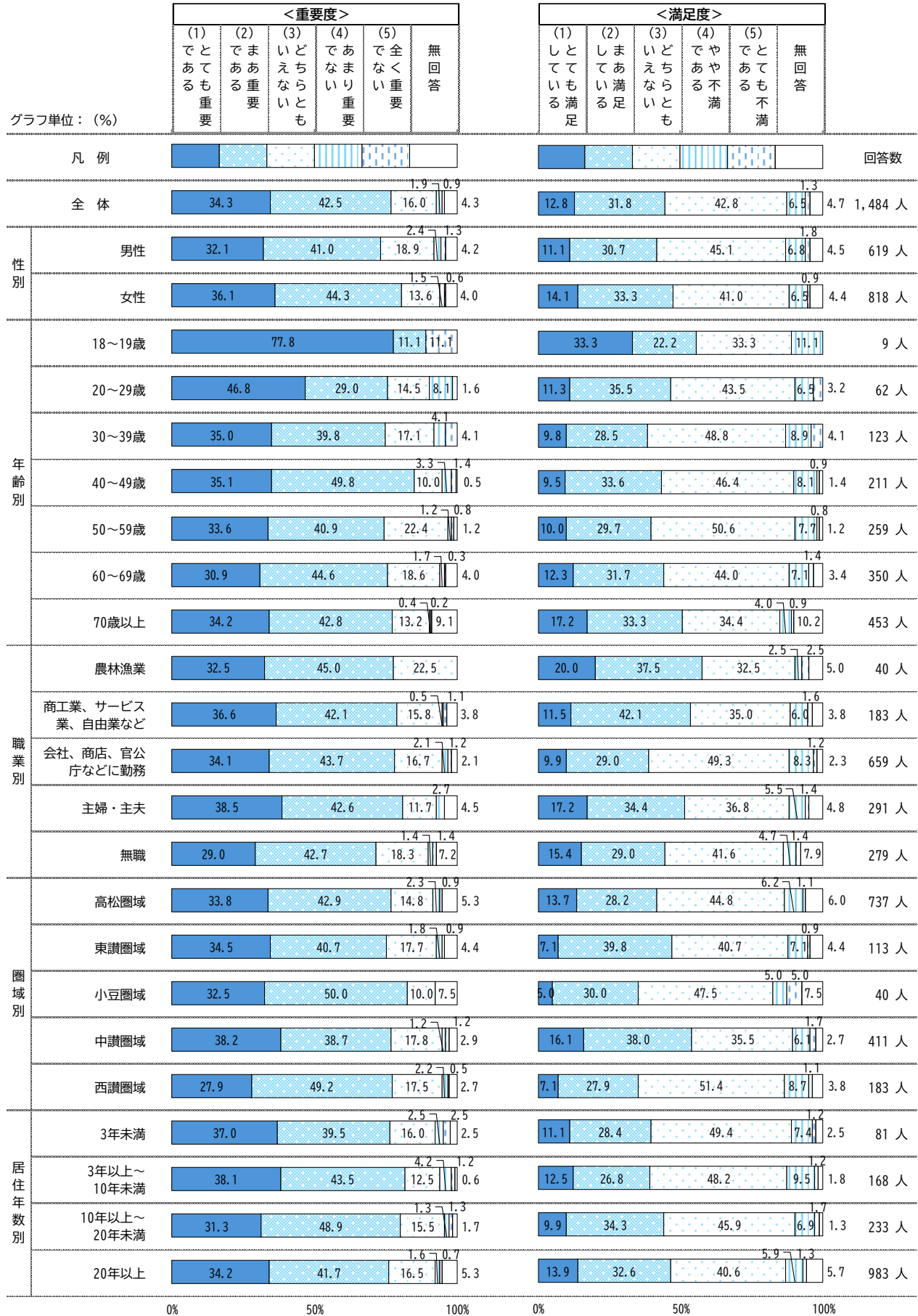
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表5-（4） 【健康長寿の推進】



地域福祉の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』76.1%、『女性』79.4%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『40～49歳』において83.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において82.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『小豆圏域』において85.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『10年以上～20年未満』において80.7%と最も高くなっている。

地域福祉の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』41.2%、『女性』47.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』8.3%、『女性』6.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

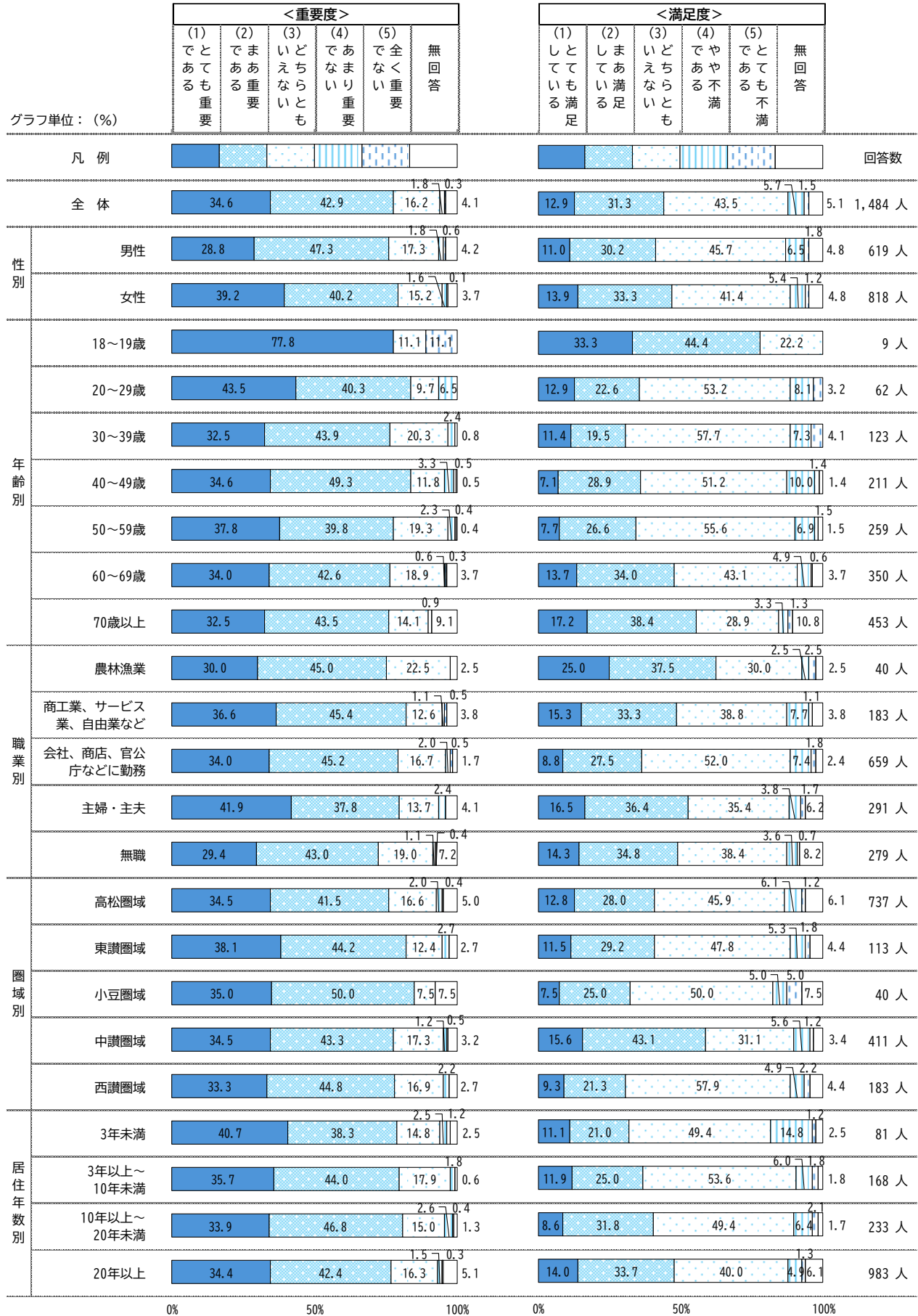
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表5- (5) 【地域福祉の推進】



安心できる医療・介護の充実確保の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』54.8%、『女性』52.3%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『18～19歳』において77.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において58.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも3割を超え、『小豆圏域』において70.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『10年以上～20年未満』において61.8%と最も高くなっている。

安心できる医療・介護の充実確保の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』33.5%、『女性』29.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』20.2%、『女性』20.9%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

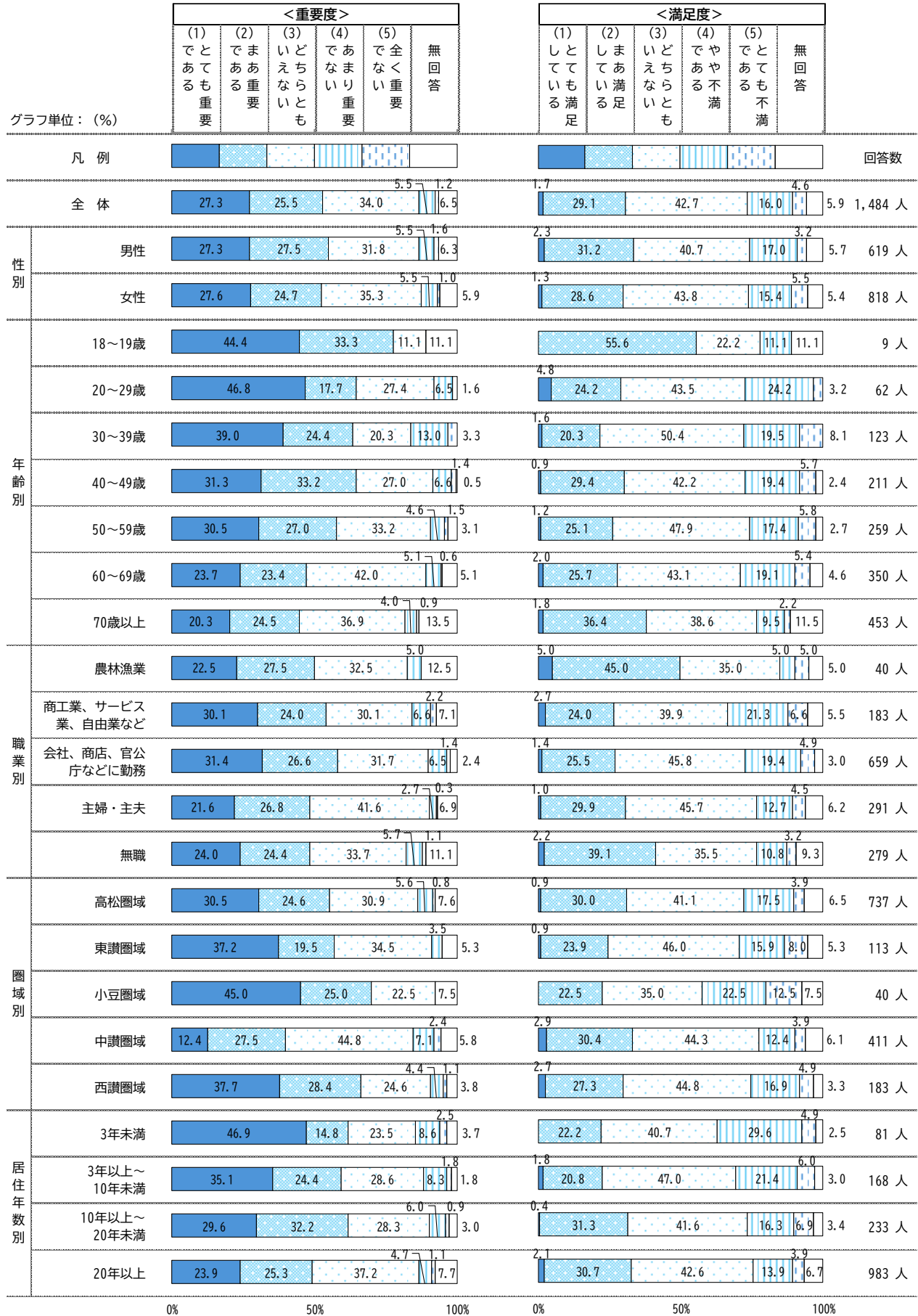
年齢別にみると、『30～39歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『30～39歳』では【不満である】の割合27.6%が【満足している】の割合21.9%を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』を除くすべての職業で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『商工業、サービス業、自由業など』では【不満である】の割合27.9%が【満足している】の割合26.7%を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『小豆圏域』では【不満である】の割合35.0%が【満足している】の割合22.5%を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表5-（6） 【安心できる医療・介護の充実確保】



防災・減災社会の構築の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』53.5%、『女性』51.2%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『18～19歳』において77.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において58.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『小豆圏域』において62.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『3年未満』において62.9%と最も高くなっている。

防災・減災社会の構築の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』21.1%、『女性』17.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』19.2%、『女性』18.3%となっており、『男性』は【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『女性』は【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

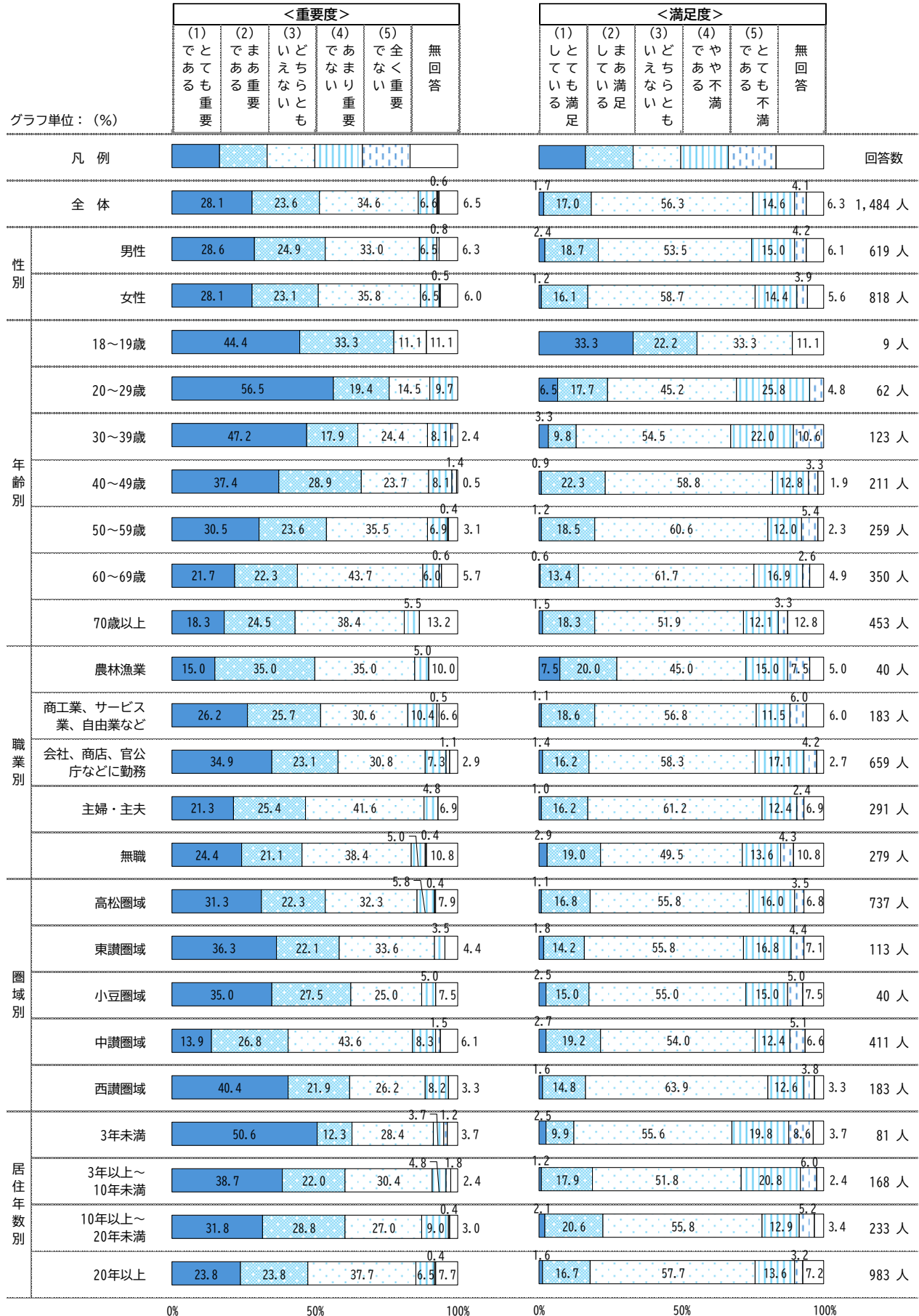
年齢別にみると、『18～19歳』、『40～49歳』、『50～59歳』、『70歳以上』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『20～29歳』、『30～39歳』、『60～69歳』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』を除くすべての職業で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』、『小豆圏域』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『中讃圏域』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『西讃圏域』では【満足している】、【不満である】の割合が同率の16.4%となっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 5- (7) 【防災・減災社会の構築】



安心して暮らせる水循環社会の確立の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』50.7%、『女性』44.4%と、いずれも4割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも3割を超え、『20～29歳』において62.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも3割を超え、『農林漁業』において60.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも3割を超え、『小豆圏域』において62.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『3年以上～10年未満』において55.9%と最も高くなっている。

安心して暮らせる水循環社会の確立の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』45.8%、『女性』44.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』9.9%、『女性』7.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

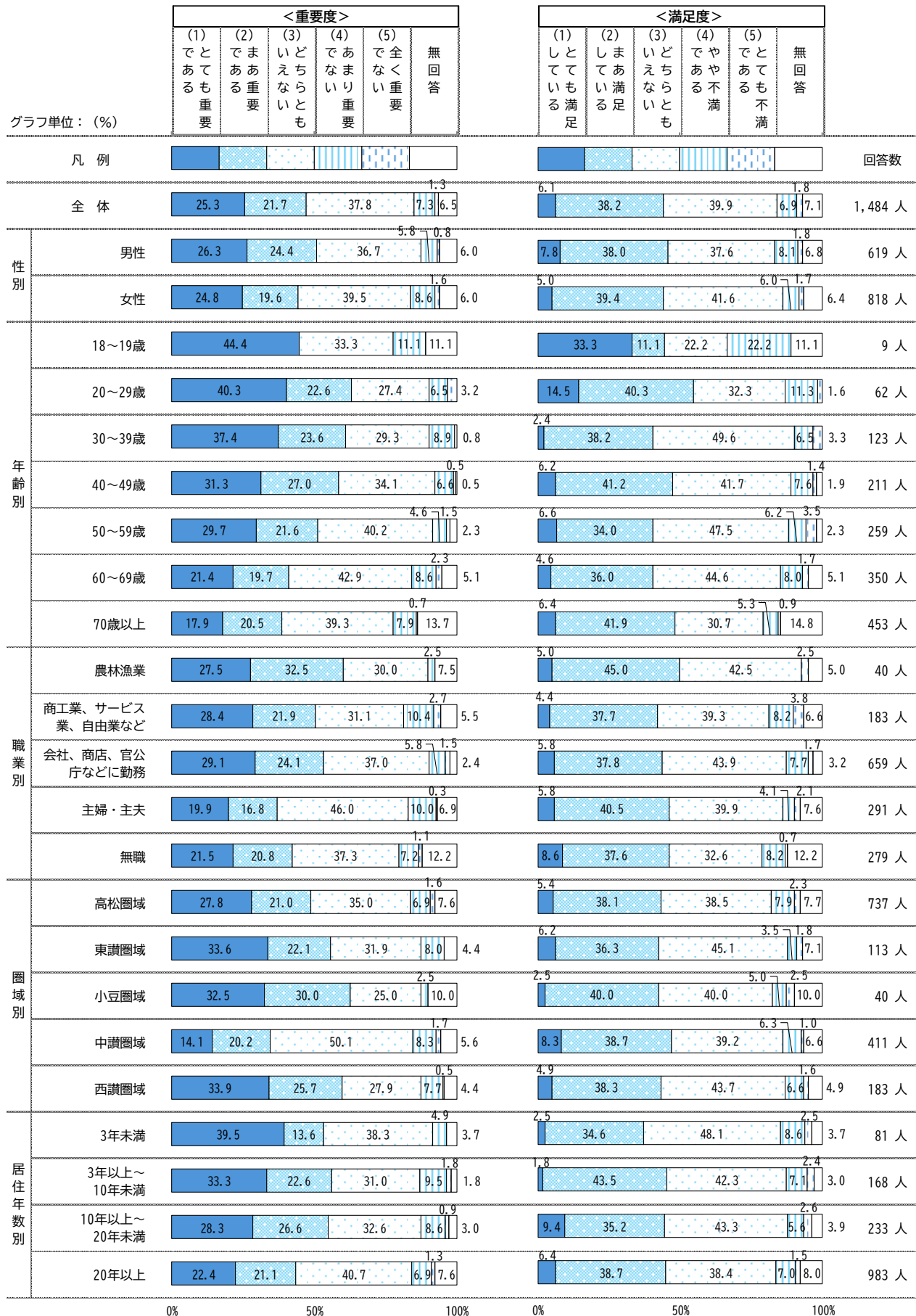
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表5- (8) 【安心して暮らせる水循環社会の確立】



安全で安心できる暮らしの形成の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』51.8%、『女性』51.6%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『18～19歳』において77.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において55.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『小豆圏域』において67.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『3年未満』において58.0%と最も高くなっている。

安全で安心できる暮らしの形成の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』31.0%、『女性』29.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』14.2%、『女性』12.9%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

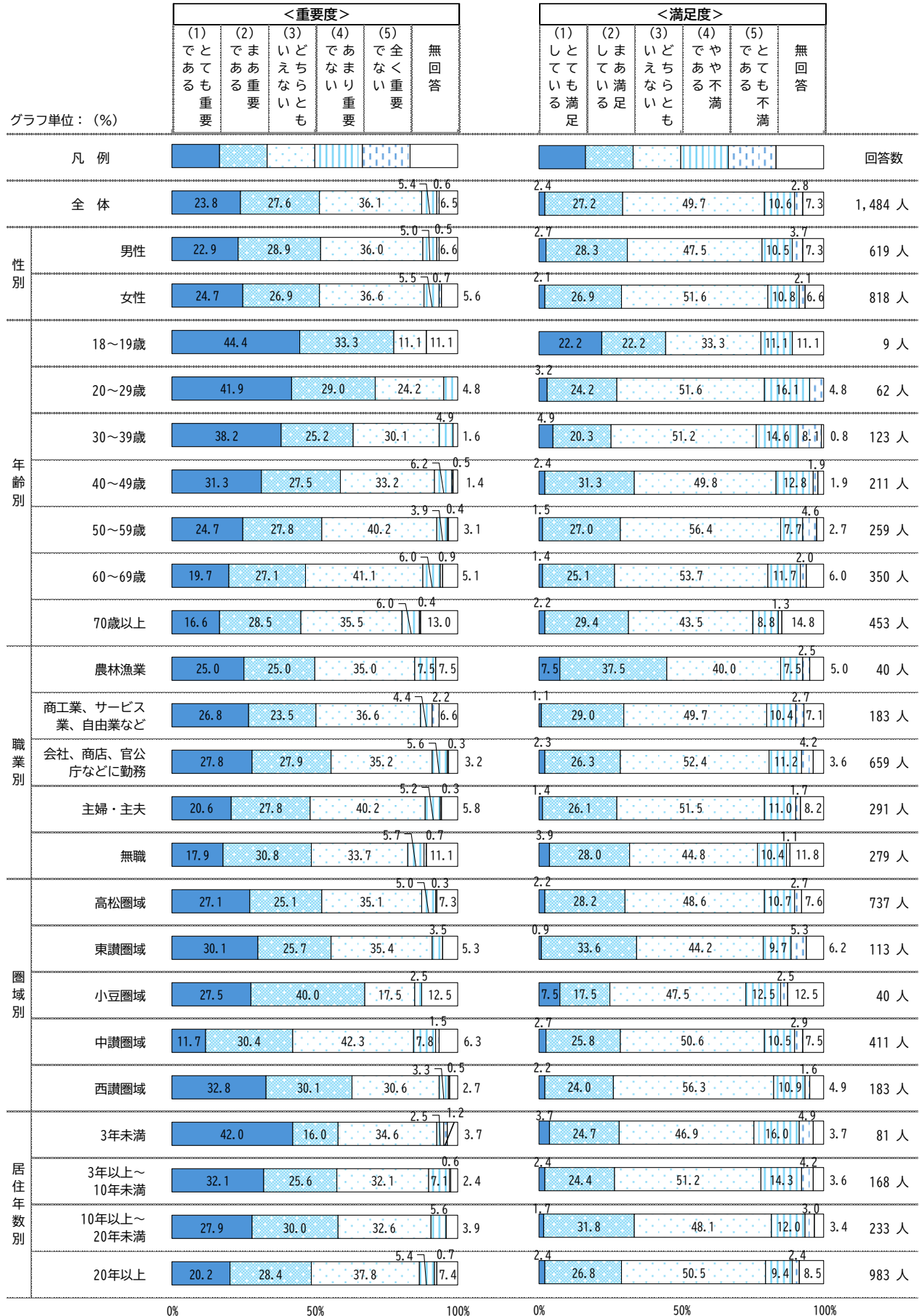
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表5-(9) 【安全で安心できる暮らしの形成】



定住人口の拡大の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』43.9%、『女性』41.0%と、いずれも4割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも3割を超え、『18～19歳』において66.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも3割を超え、『農林漁業』において52.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも3割を超え、『小豆圏域』において60.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも3割を超え、『3年未満』において49.4%と最も高くなっている。

定住人口の拡大の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』14.5%、『女性』11.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』19.8%、『女性』16.3%となっており、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

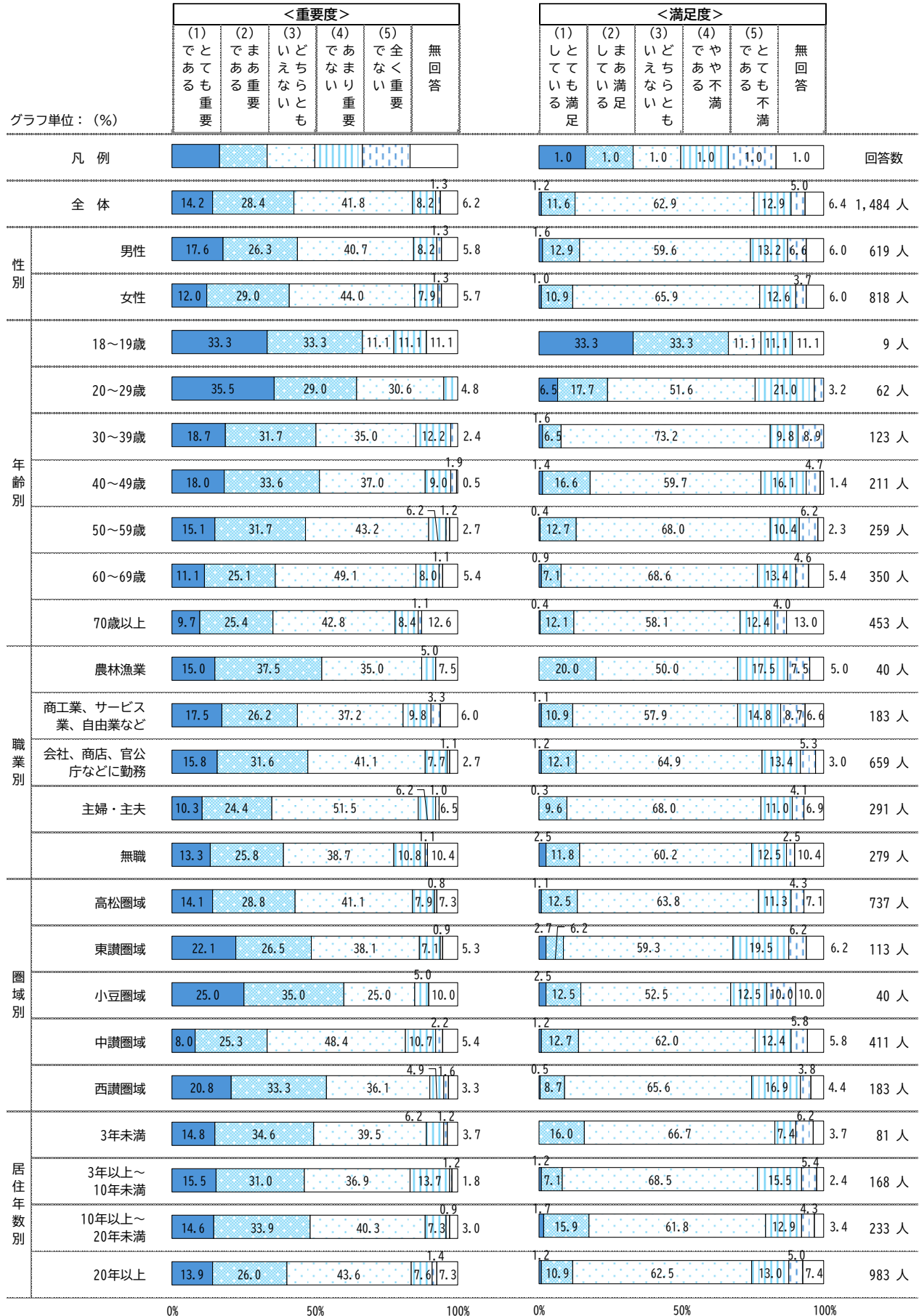
年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』を除くすべての年齢で【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『18～19歳』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『20～29歳』では【満足している】、【不満である】の割合が同率の24.2%となっている。

職業別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『10年以上～20年未満』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『3年以上～10年未満』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 5- (10) 【定住人口の拡大】



魅力ある大学づくりの【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』73.8%、『女性』78.2%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において82.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『中讃圏域』において85.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』において78.5%と最も高くなっている。

魅力ある大学づくりの【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』15.9%、『女性』11.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.8%、『女性』12.4%となっており、『男性』は【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『女性』は【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

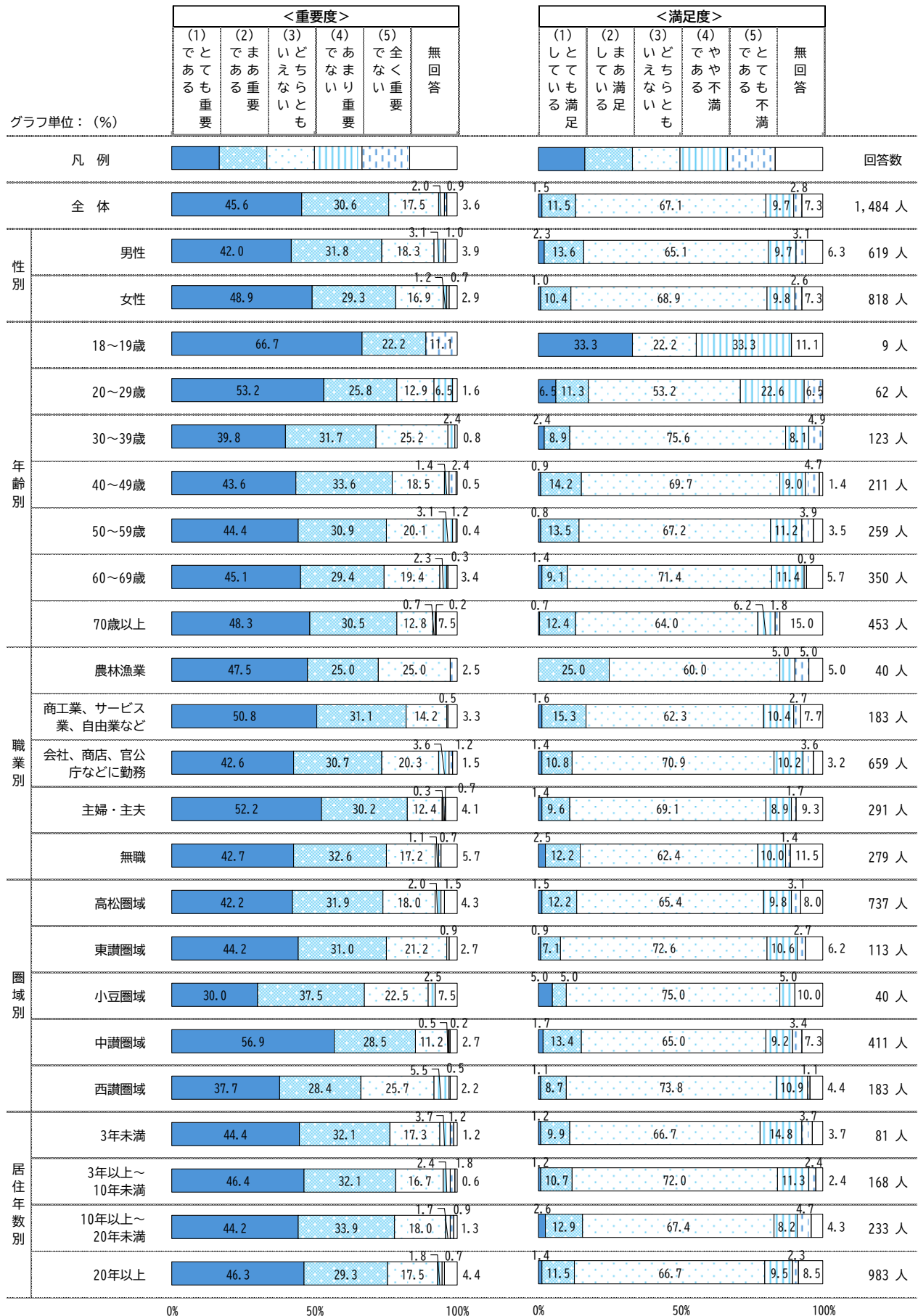
年齢別にみると、『18～19歳』では【満足している】、【不満である】の割合が同率の33.3%となっており、『20～29歳』、『30～39歳』、『50～59歳』、『60～69歳』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『40～49歳』、『70歳以上』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』を除くすべての職業で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『西讃圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『東讃圏域』、『西讃圏域』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表5-(11) 【魅力ある大学づくり】



人権尊重社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』75.4%、『女性』79.5%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『20～29歳』において87.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において82.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『中讃圏域』において84.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』において82.1%と最も高くなっている。

人権尊重社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』19.7%、『女性』17.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』8.9%、『女性』6.9%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

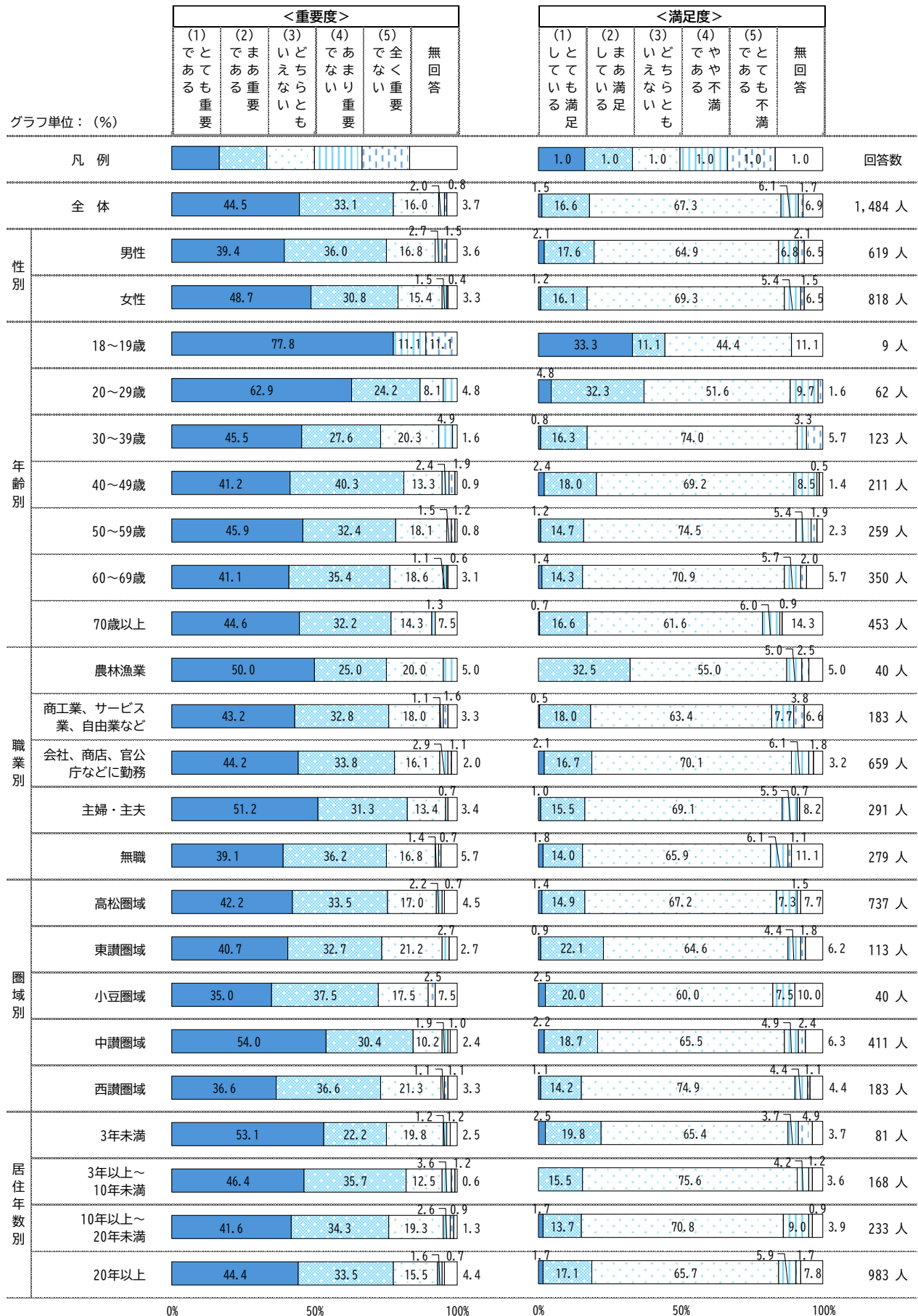
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表5-(12) 【人権尊重社会の実現】



青少年の育成と県民の社会参画の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』75.9%、『女性』80.2%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において84.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『中讃圏域』において84.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『20年以上』において79.2%と最も高くなっている。

青少年の育成と県民の社会参画の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』18.3%、『女性』16.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』7.5%、『女性』5.4%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

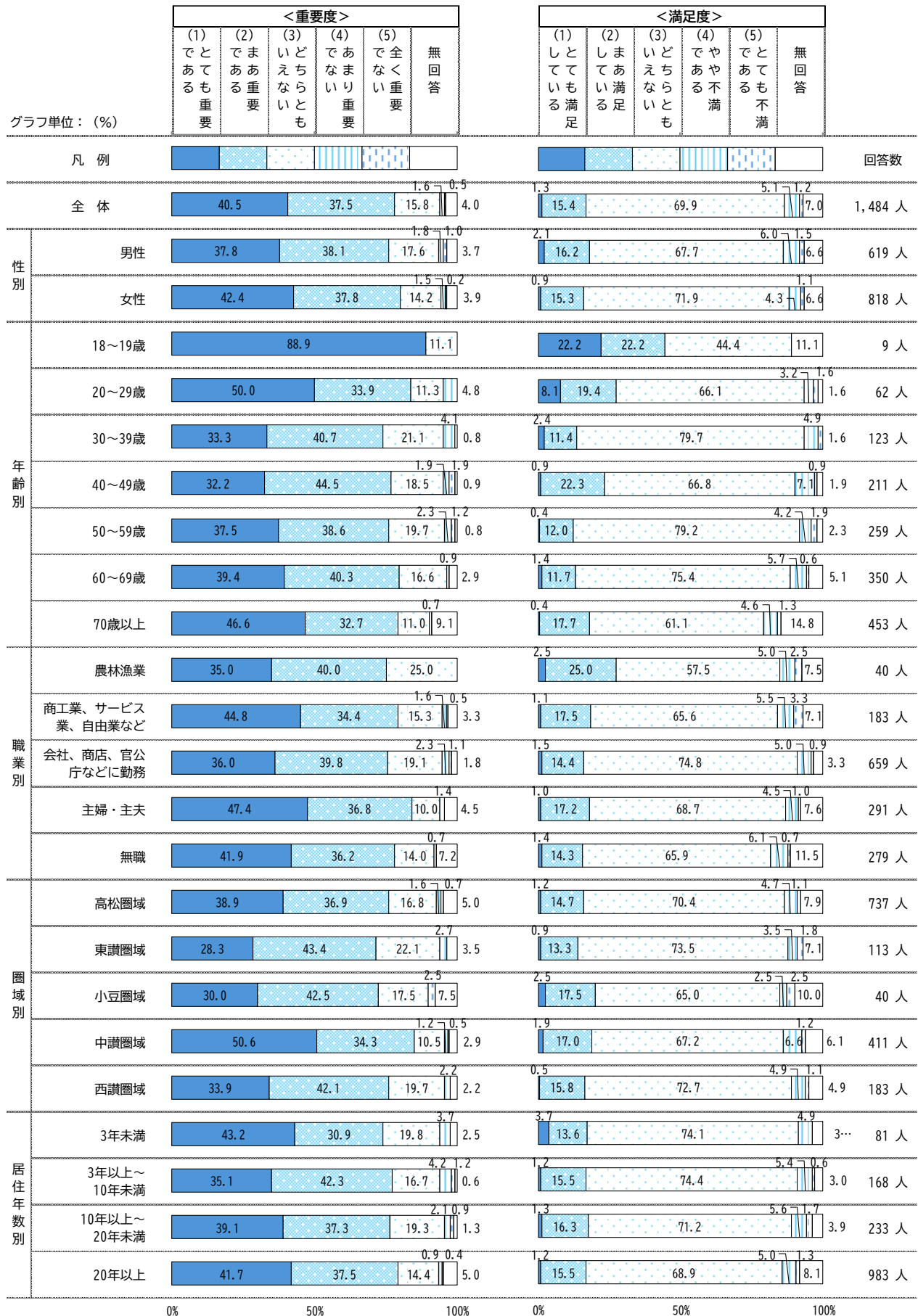
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表5- (13) 【青少年の育成と県民の社会参画の推進】



商工・サービス業の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』74.2%、『女性』68.2%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において77.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『小豆圏域』において72.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年未満』において79.0%と最も高くなっている。

商工・サービス業の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』19.4%、『女性』15.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』9.3%、『女性』7.5%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

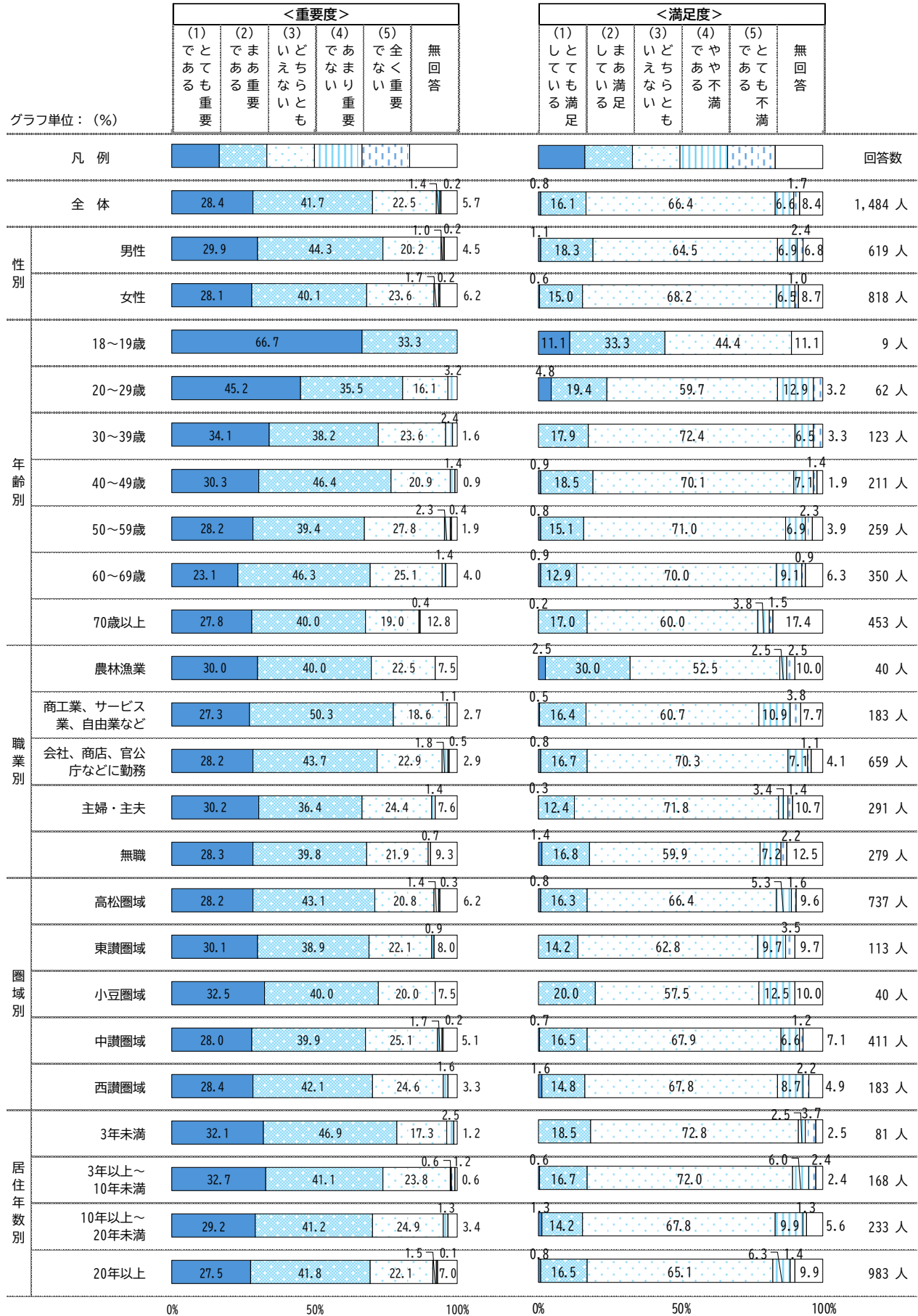
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】割合を上回っている。

図表5- (14) 【商工・サービス業の振興】



交通ネットワークの整備の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』73.2%、『女性』75.4%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において76.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『高松圏域』において76.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において82.7%と最も高くなっている。

交通ネットワークの整備の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』28.6%、『女性』22.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』17.3%、『女性』20.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

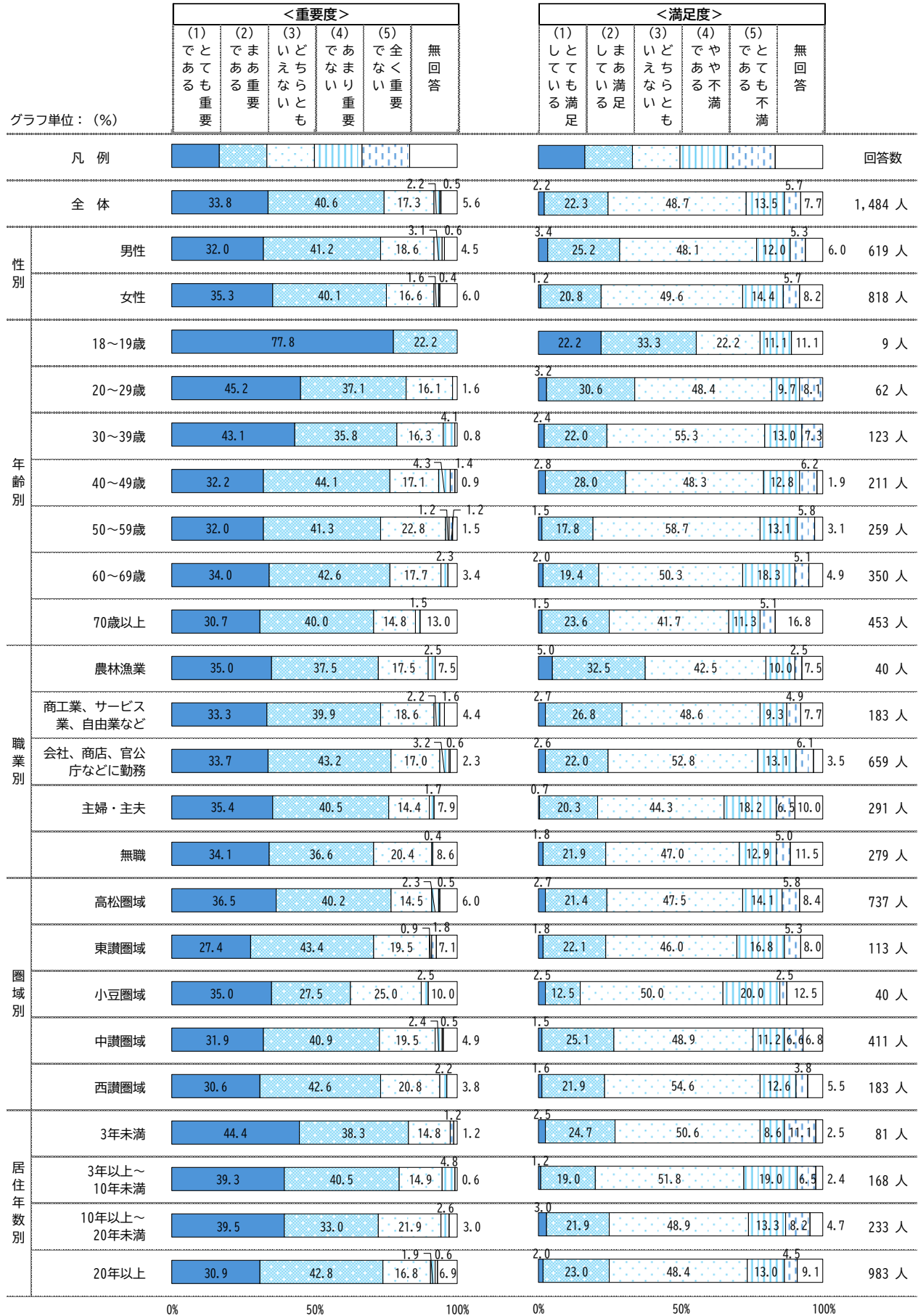
年齢別にみると、『60～69歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『60～69歳』では【不満である】の割合23.4%が【満足している】の割合21.0%を上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『主婦・主夫』では【不満である】の割合24.7%が【満足している】の割合21.4%を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『小豆圏域』では【不満である】の割合22.5%が【満足している】の割合15.0%を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』を除くすべての居住年数で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『3年以上～10年未満』では【不満である】の割合25.5%が【満足している】の割合20.2%を上回っている。

図表5-（15）【交通ネットワークの整備】



農林水産業の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』80.7%、『女性』79.5%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『18～19歳』において88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『農林漁業』において85.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『高松圏域』において80.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において88.9%と最も高くなっている。

農林水産業の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』17.0%、『女性』12.7%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』21.0%、『女性』17.4%となっており、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

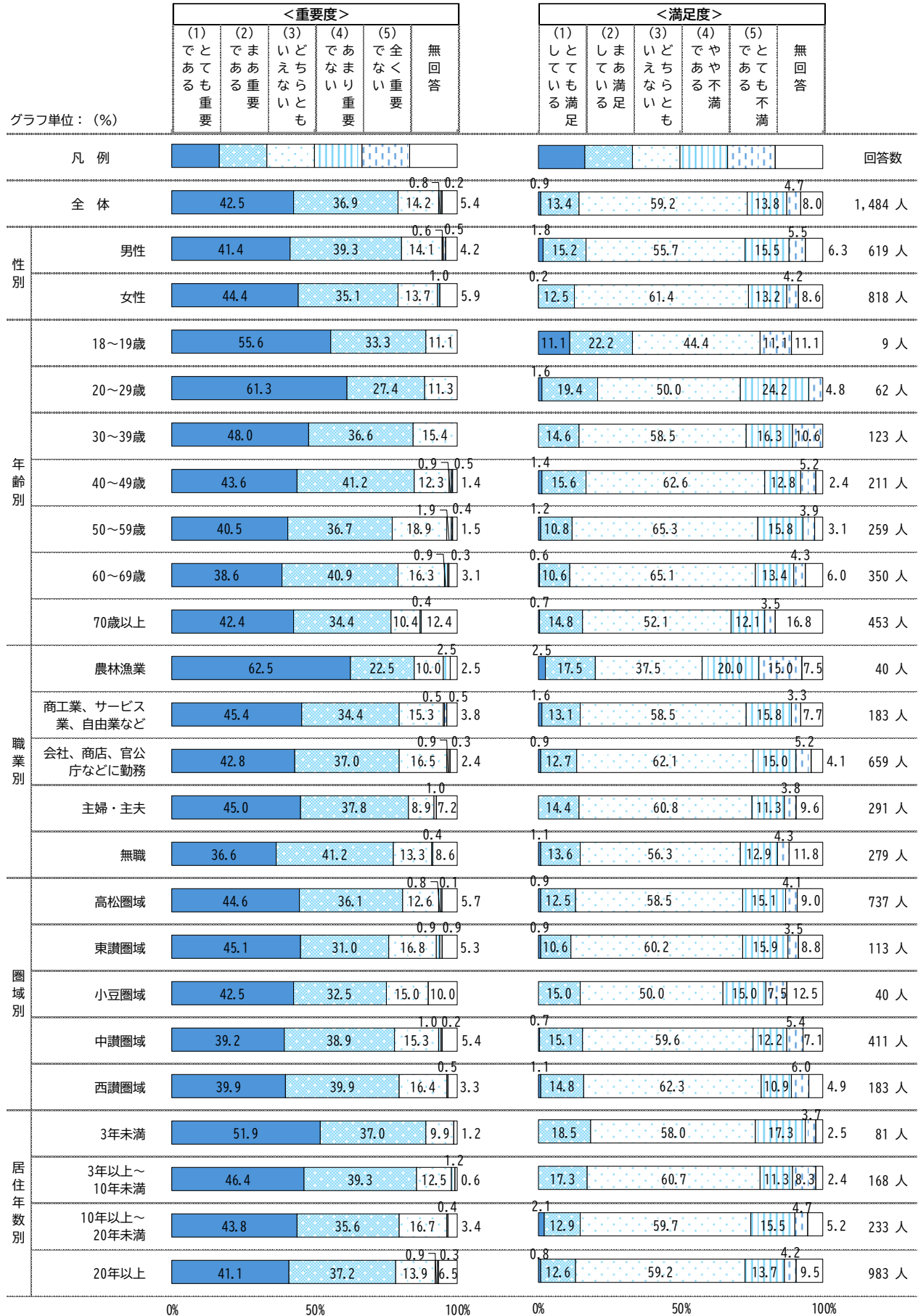
年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『18～19歳』では【満足している】の割合33.3%が【不満である】の割合11.1%を上回っている。

職業別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】割合を上回っている。

図表5-（16） 【農林水産業の振興】



県産品の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』60.5%、『女性』64.6%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『主婦・主夫』において65.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『小豆圏域』において72.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『3年未満』において66.7%と最も高くなっている。

県産品の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』25.2%、『女性』30.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』4.9%、『女性』4.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

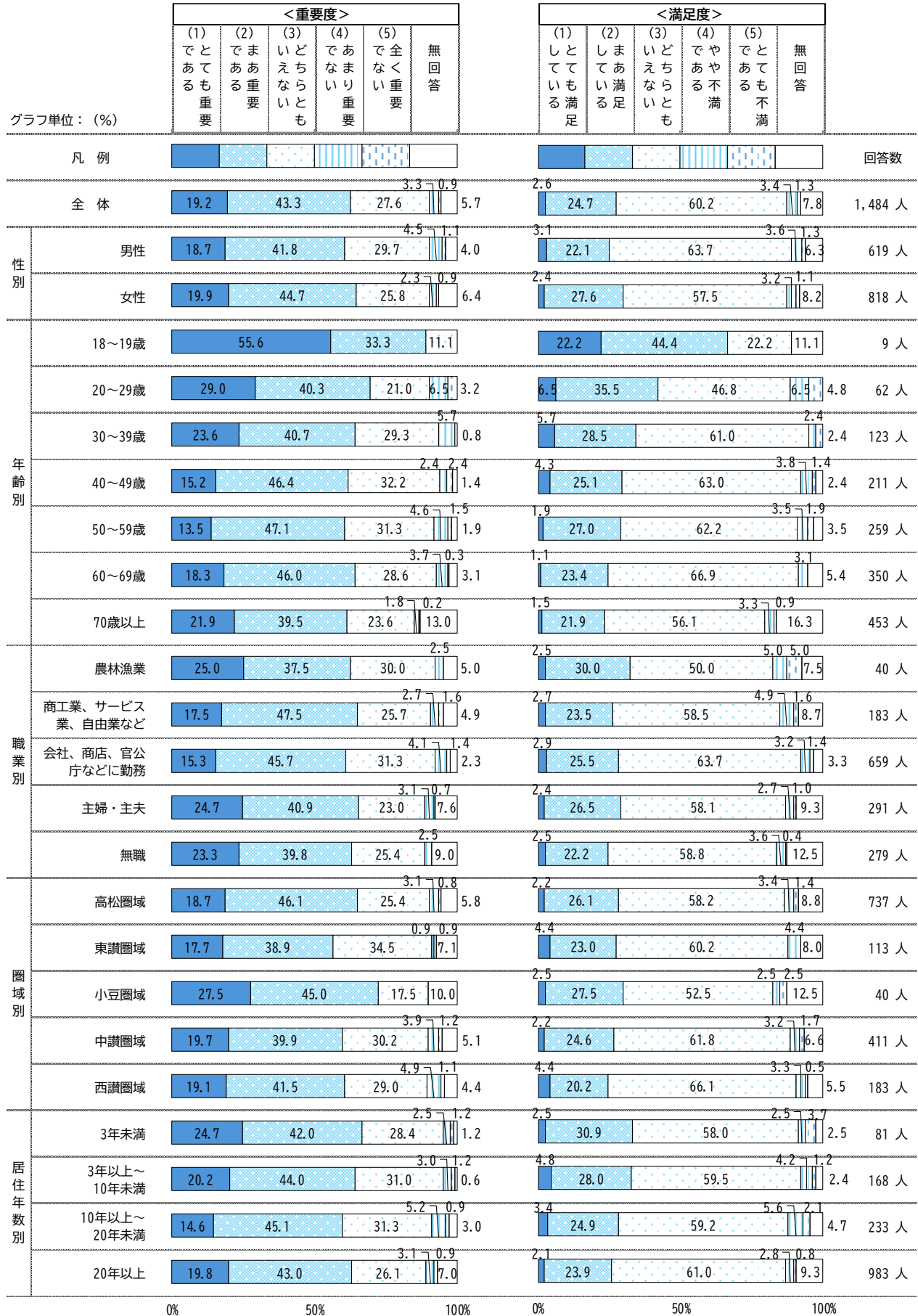
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表5- (17) 【県産品の振興】



雇用対策の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』76.9%、『女性』78.9%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において83.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『小豆圏域』において80.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において85.2%と最も高くなっている。

雇用対策の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』19.3%、『女性』15.4%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』13.7%、『女性』13.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

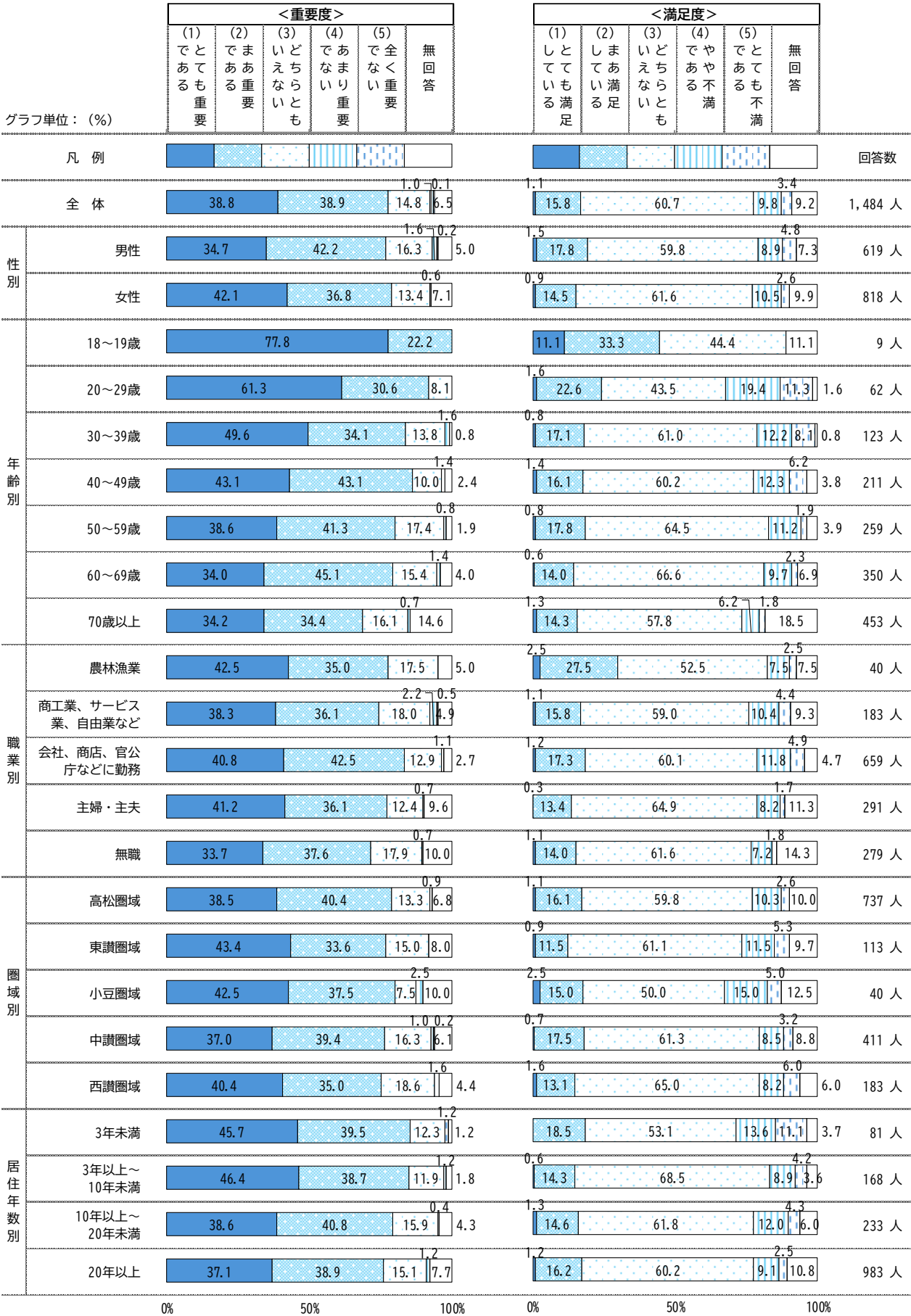
年齢別にみると、『18～19歳』、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『東讃圏域』、『小豆圏域』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『10年以上～20年未満』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『3年以上～10年未満』、『20年以上』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 5- (18) 【雇用対策の推進】



外国人材の受入れ支援・共生推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』37.5%、『女性』35.9%と、いずれも3割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも3割を超え、『18～19歳』において55.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも3割を超え、『農林漁業』において47.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも3割を超え、『中讃圏域』において37.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも3割を超え、『10年以上～20年未満』において40.3%と最も高くなっている。

外国人材の受入れ支援・共生推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』14.4%、『女性』10.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』10.0%、『女性』8.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

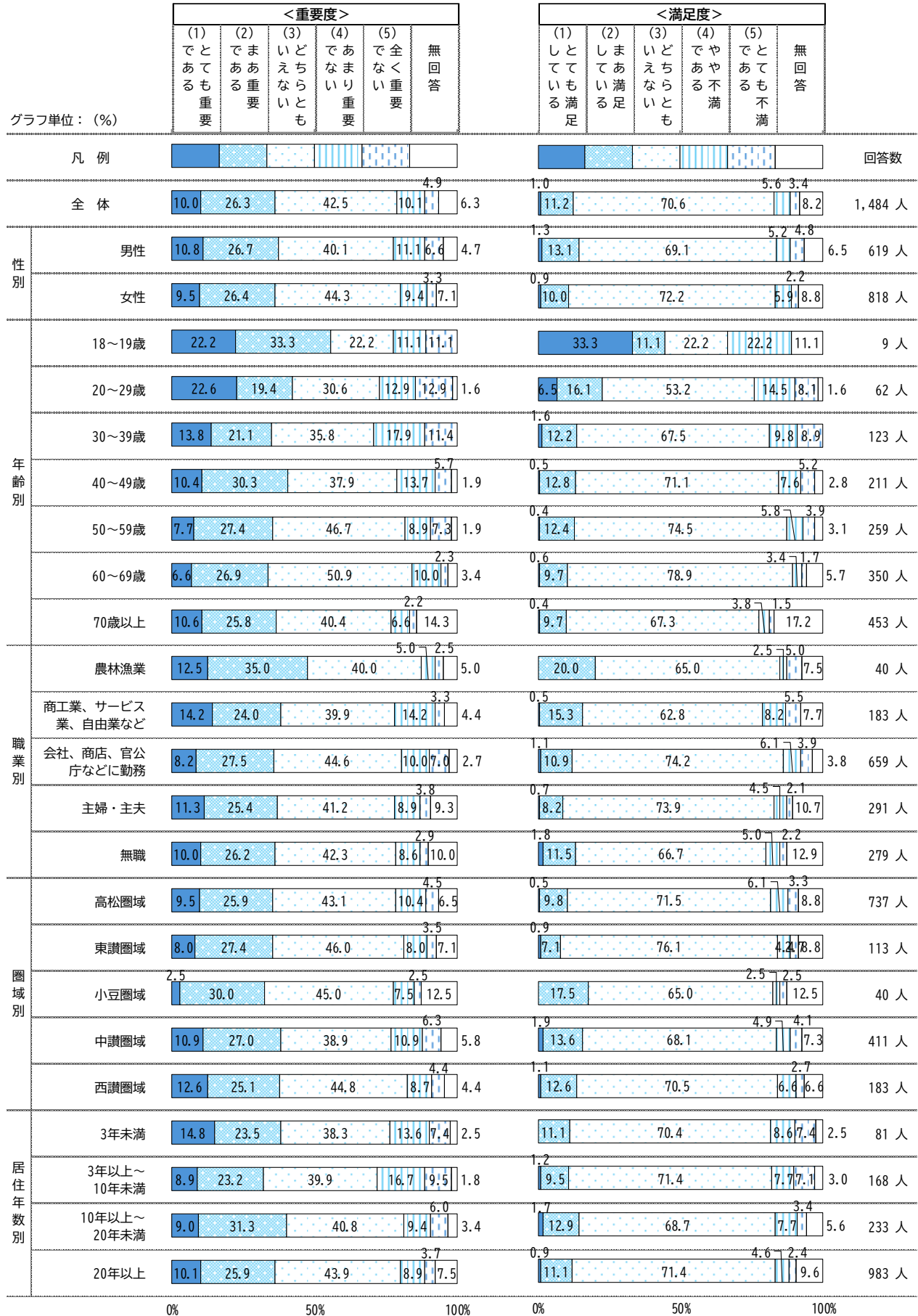
年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『20～29歳』では【満足している】、【不満である】の割合が同率の22.6%となっており、『30～39歳』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っており、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表5-(19) 【外国人材の受入れ支援・共生推進】



環境の保全の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』67.1%、『女性』73.7%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『主婦・主夫』において73.2%が最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『小豆圏域』において75.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年以上～10年未満』において79.2%と最も高くなっている。

環境の保全の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』18.4%、『女性』16.7%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』7.6%、『女性』8.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

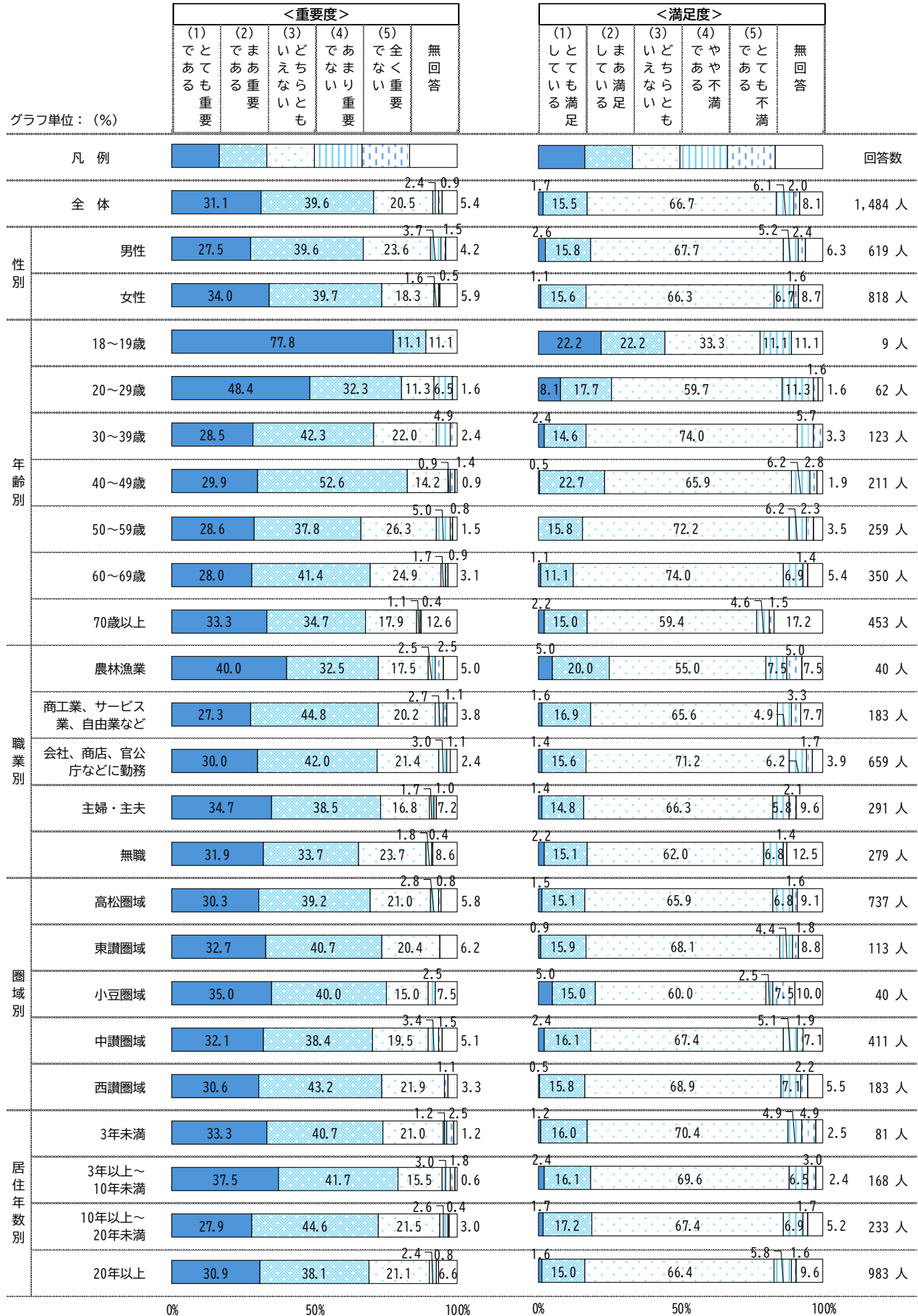
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 5- (20) 【環境の保全】



みどり豊かな暮らしの創造の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』56.4%、『女性』64.2%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において68.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『中讃圏域』において60.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『3年以上～10年未満』において64.3%と最も高くなっている。

みどり豊かな暮らしの創造の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』24.1%、『女性』26.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』5.8%、『女性』3.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

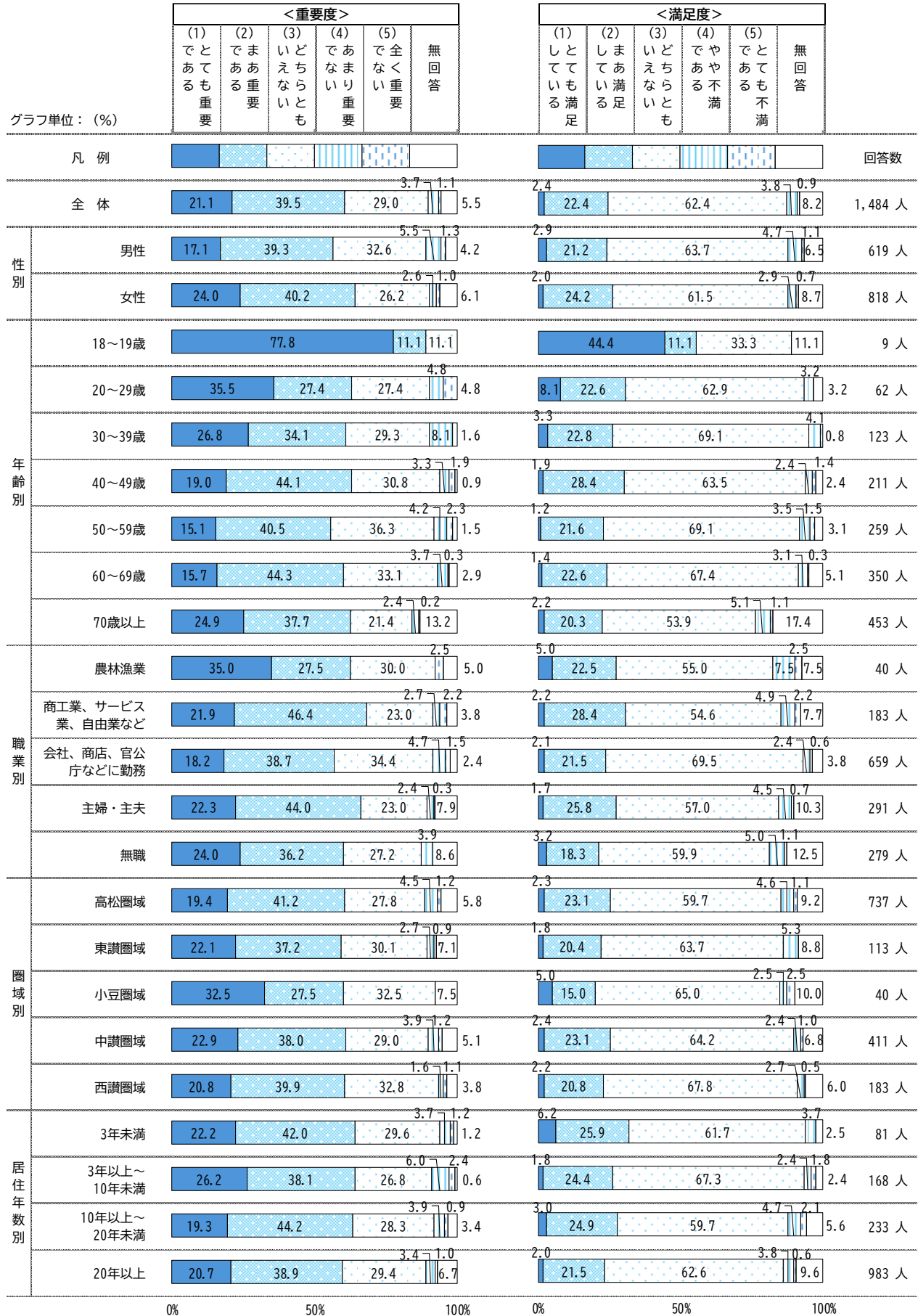
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表5- (21) 【みどり豊かな暮らしの創造】



活力ある地域づくりの【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』62.6%、『女性』66.4%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『主婦・主夫』において68.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『小豆圏域』において77.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年未満』において75.3%と最も高くなっている。

活力ある地域づくりの【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』18.0%、『女性』15.5%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』9.0%、『女性』7.8%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

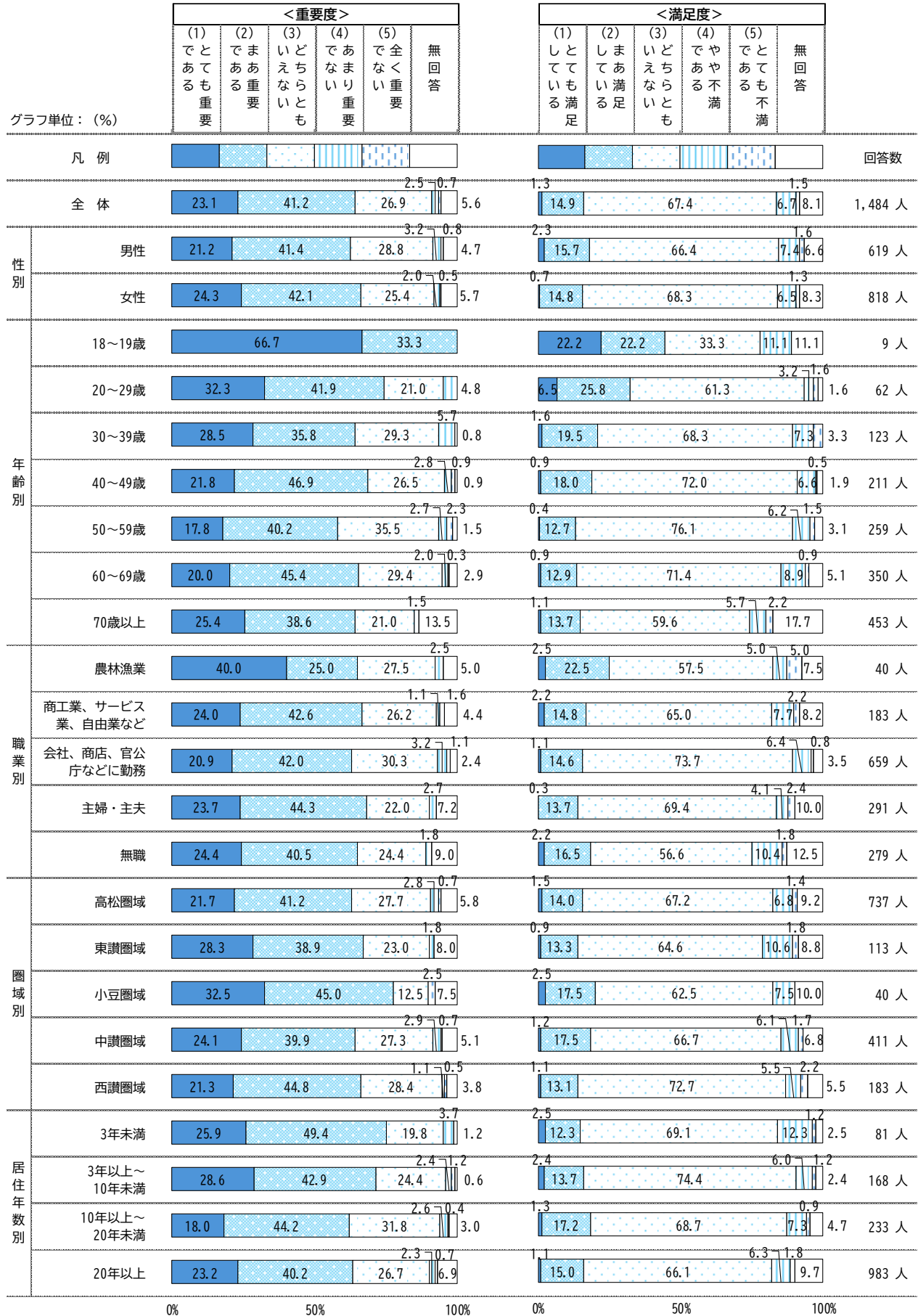
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表5-(22) 【活力ある地域づくり】



デジタル化の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』61.9%、『女性』56.3%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において77.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『無職』において59.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『小豆圏域』において65.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『3年未満』において67.9%と最も高くなっている。

デジタル化の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』13.5%、『女性』12.1%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』8.9%、『女性』6.2%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

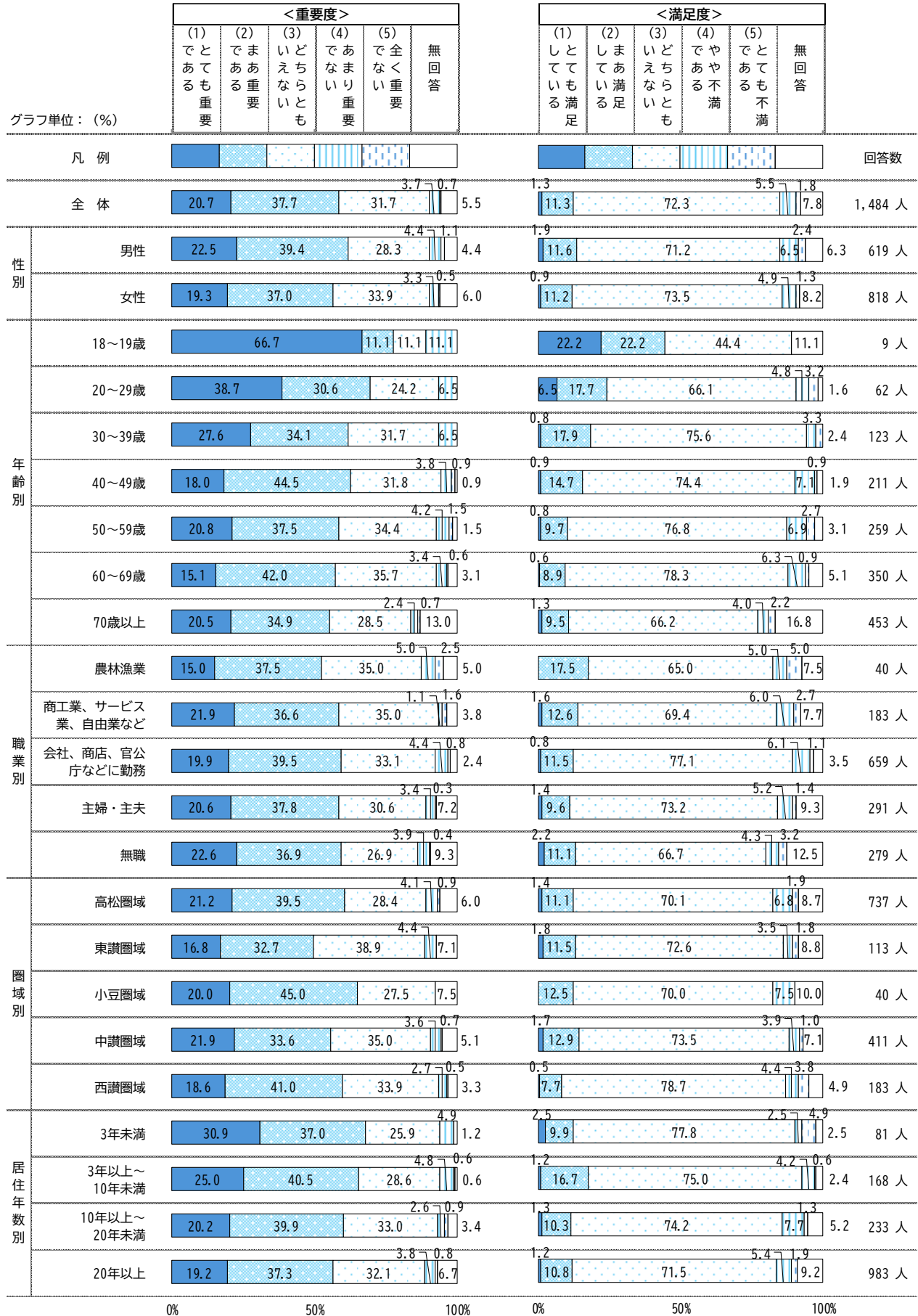
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『西讃圏域』を除くすべての圏域で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、『西讃圏域』では【満足している】、【不満である】の割合が同率の8.2%となっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表5-（23）【デジタル化の推進】



交流人口の回復・拡大の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』71.4%、『女性』71.2%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において88.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『農林漁業』において85.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『小豆圏域』において77.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』において74.4%と最も高くなっている。

交流人口の回復・拡大の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』30.5%、『女性』30.1%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』6.4%、『女性』5.2%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

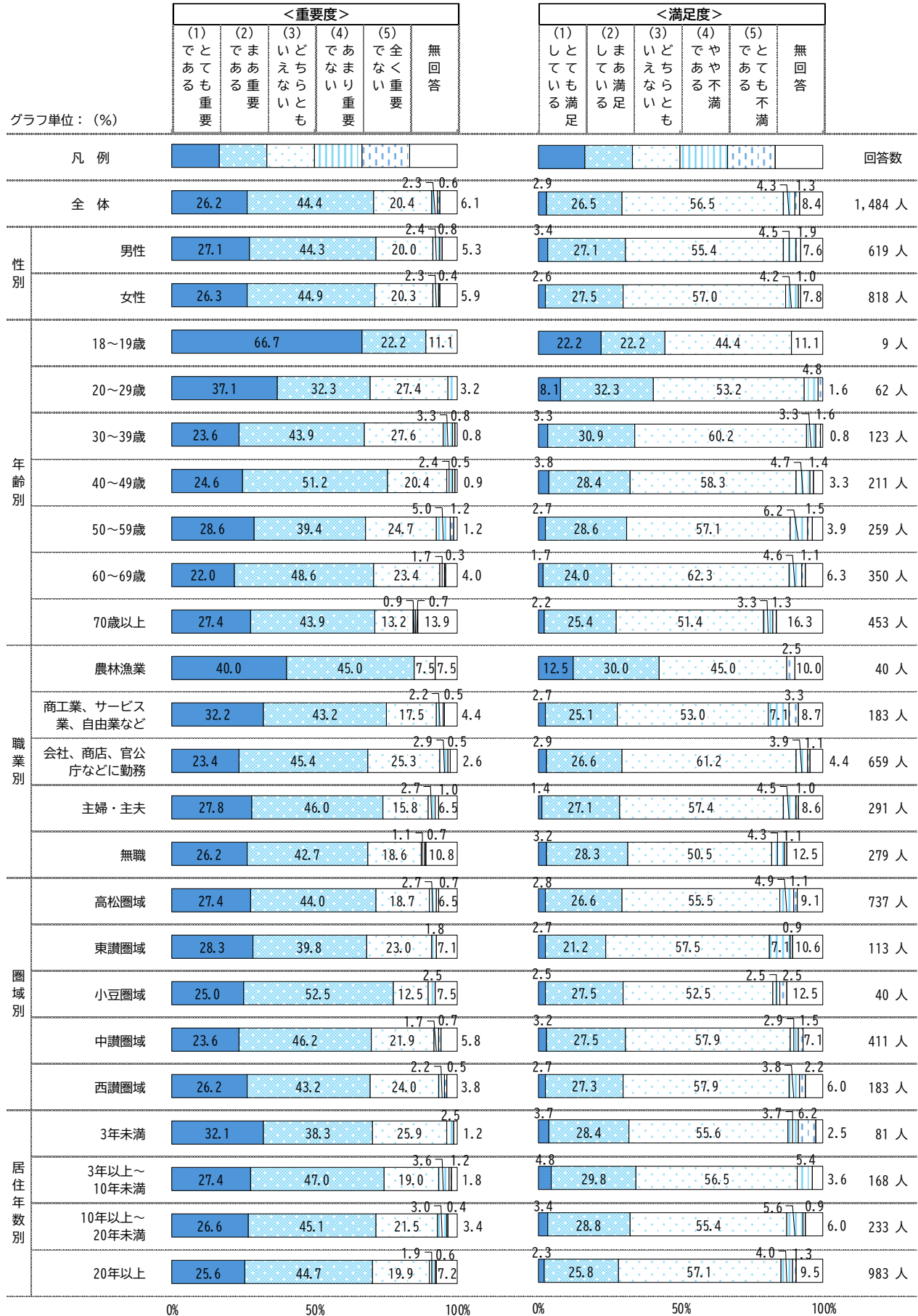
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表5- (24) 【交流人口の回復・拡大】



文化芸術の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』63.8%、『女性』66.4%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『農林漁業』において70.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『高松圏域』において67.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年未満』において67.9%と最も高くなっている。

文化芸術の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』31.2%、『女性』31.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』5.0%、『女性』4.2%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

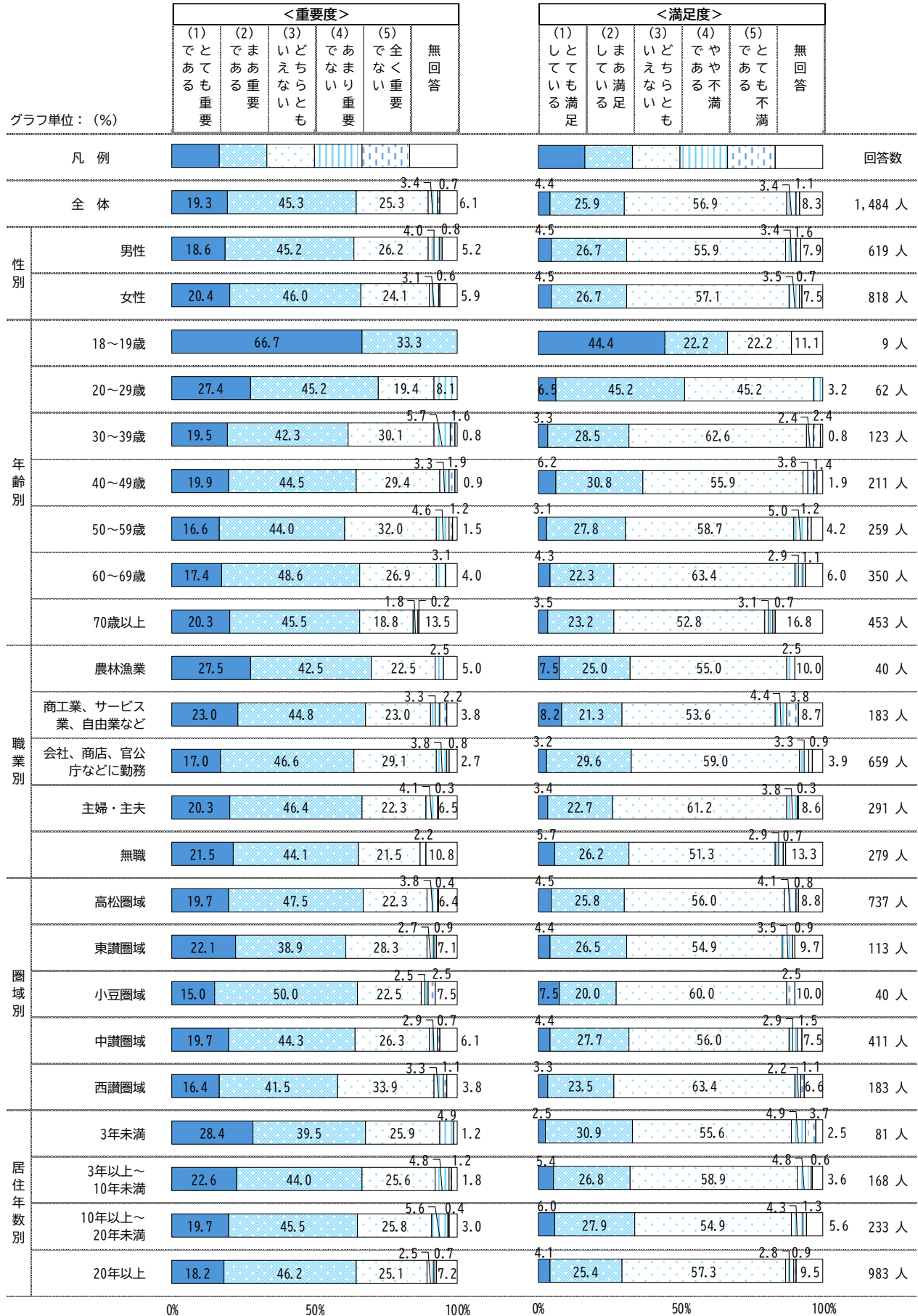
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 5- (25) 【文化芸術の振興】



スポーツの振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』55.9%、『女性』59.8%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において64.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも4割を超え、『小豆圏域』において62.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『3年未満』において62.9%と最も高くなっている。

スポーツの振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』20.8%、『女性』19.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』5.8%、『女性』5.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

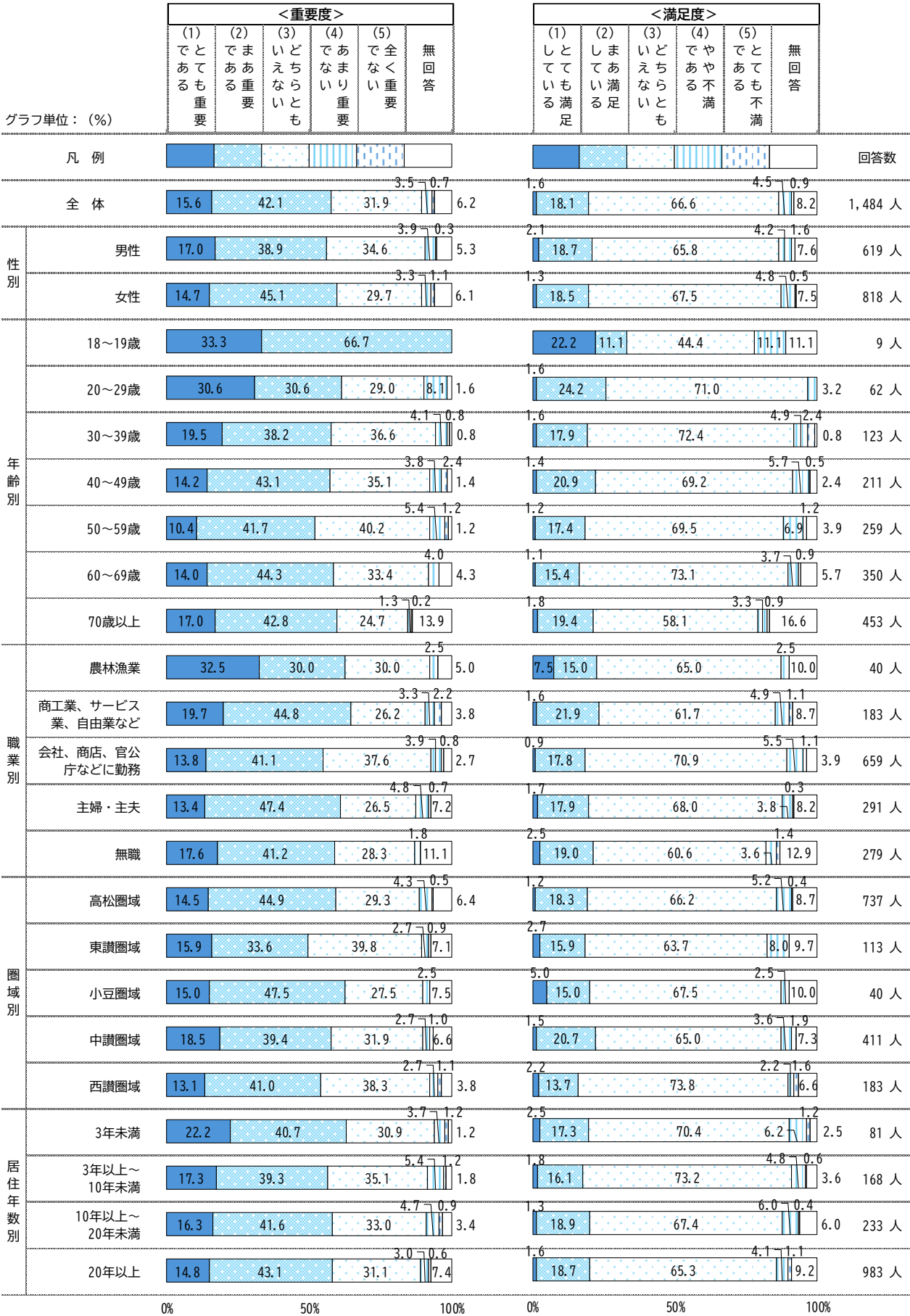
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 5-(26) 【スポーツの振興】



(7) 不満とと思っている具体的な内容

付問 13～15 問 28～30 で＜満足度＞が「やや不満である」または「とても不満である」と答えた方は、よろしければ、不満とと思っている具体的な内容と、どのような改善が必要であるとお考えかをお答えください。

※記載いただいた内容は、『人生 100 年時代のフロンティア県・香川』実現計画で定めた施策体系（26 分野）に沿った形に整理し、要約・抜粋した意見を記載しています。

【1. 子育て支援社会の実現】（59 件中 20 意見を抜粋）

経済的負担を減らすべき。
子どもと向き合う時間がとりたいのに、お金が足らず仕事を沢山しなければならない。
0～2歳児の保育料の負担軽減。時短勤務を3歳までではなく伸ばしてほしい。
様々な負担が家族に任されていると感じる場面が多い。
子どもを2人・3人と育てるのには経済的に厳しい。保育園や学童保育に途中入所が難しい。
少子高齢化を防ぎたいのなら、学費免除、保育費免除など、するべき。
非課税世帯だけでなく課税世帯にも援助してほしい。
保育料など経済的負担が大きい為、給付金などの支援が少ないと少子化が進む。
共働きが当たり前となっているのに、子育て世帯の金銭的・精神的・体力的負担が多すぎる。
金銭面的な補助や子育てできる環境をもっと充実させて欲しい。
保育料が高すぎる。香川県内でも市町村により金額差がある。0歳児から無償化して欲しい。非課税世帯が優遇されすぎ。
大学無償化など、多子世帯や母子家庭だけがしんどいわけじゃない。みんな平等にして欲しい。
子どもを産んで子育てがしたいと思える環境を作ってほしい。
保育園に入れなくて働けない姉が困っている。
住んでいる所の「子育て拠点」がどこにあるのかよく分からない。公報が不足では？
学童のキャパが少な過ぎる。
0歳児から保育施設を無料利用できるようにしてほしい。
希望する保育所に入所することがなかなか困難だ。
保育園など親が産休、育休中時間を短くされて時間通りみてもらえない。
子育て支援社会の実現とは違うかも知れないが、子育てする前の若者支援を実現して欲しい。この若者支援をすることで更に子育て支援を充実させる必要があると思う。

【2. 教育の充実】（47件中16意見を抜粋）

まず学校自体が安全であることの保障をしてほしい。いじめ撲滅。教員の犯罪率低下。
小学校も選んで行ける選択や行きたいと思える学校がつくられて、もっともっと増えればいいのになと思う。
学習塾に行かなくても良いように学校で完結できる教育を。
先生の人数を増やして土曜日も月1回でも授業した方が良い。
学校の生徒数が多すぎて教員の手が間に合っていない。一点に集中させず、もっと他の学校に分散させてほしい。
子どもが小学校でタブレットを使用しており、デジタル機器の重要性は理解できるが学校でも家でも長時間使用し、すぐにタブレットで調べ、辞書を使わなくなった。家では使用するように声をかけているが、あまり自分で考えようとせず、すぐタブレットを使う。
学校教育だけでは、学力の差があるので、ついていけない子はそのまま放置される感じがする。それを無くす取り組みがあれば良い。
教育については教員を再教育すべき。（体罰やモラハラなど教師がゆがんでいる。）
個々にあった教育、学習を行い、興味があることを伸ばしていける環境等を充実して貰いたい。
県立高等学校のレベルが（全国において）年々低下していると思われる。子どもにとって高い教育は必要であり、また子どもにあった教育が必要だと考える。トップが下がってくると全体のレベルダウンになると心配している。
家庭や地域との連携した教育機会をもっと増やして充実させてほしい。
どの中高も、都心部に比べて競争環境になく、良くも悪くものんびりしすぎている。多少は偏差値重視の教育も必要。
社会に役立つ（貢献する）人材を育てるための教育ではなく思いやりや自己、人格形成に力を入れるべきだと思う。
地域の教育力の向上を担っている主体がだれなのかわからない。広報が不足では？
共働きを強要する社会の割に家庭教育を求める割合が多い。
家庭の教育力には差がある。保護者が子どもの教育にあてる時間がない。

【3. 男女共同参画社会の実現】（36件中11意見を抜粋）

女性の負担はまだ大きいし、社会の理解もともなっていない。
高学歴、スキルレベルの高い女性が大勢居るのに家庭に入ったらず育てのために能力が全く活かされていない人が多い。
香川県の企業はおもに男性中心の役職者となっているのでは。
教職員の男女平等のようにあらゆる職種で平等になってほしい。
まだまだ女性の活躍が少ない。

議員や公的な審議会等での女性の割合が少ない。
能力ある女子が重んじられない。家庭に入ると仕事のことが任せられない。
田舎であるほど、まだまだ女性が軽視されていると感じることがある。
仕事と家庭の両立の確保ができてにくい。
男性の生きづらさにも目を向けてほしい。
女性の活躍を推進していくための支援策で、現在取り組んでいる内容の紹介が必要では？

【4. 健康長寿の推進】(24件中5意見を抜粋)

健康に関して関心は大きいですが、個人の努力によるので行政がどこまで関与するのか。
高齢化が進む中で、フレイル予防や高齢者が社会でもっと活躍できる場所を増やしてほしい。
女性の体調不良にもっと対応できたほうがいいと思う。
広報的には目には入るものの、参加しようとは思わない。
具体的に活動内容を知らない。

【5. 地域福祉の推進】(19件中6意見を抜粋)

高齢者の母が1人で住んでいるから、行政で声かけをしてほしい。
昭和時代のように地域の方と挨拶を交わすことにより、高齢者・子どもを地域で見守ることが大切と思う。
高齢者の危険な交通事情への対策をもっとしてほしい。
お年寄りがひとりで大道路を横断しているのを見かける。
県内公共交通機関が悪い。その為高齢者の免許離れは悪いだろう。
障害者、高齢者への支援がまだまだ弱いと感じる。施設やサービスを充実させて欲しい。

【6. 安心できる医療・介護の充実確保】(80件中17意見を抜粋)

過疎化の地域に対しての取り組みがない。
病院で診察を受けても自分の症状にあう先生に会えない。
医療機関により質がバラバラ、個人医療機関ならまだしも2次以上は整備してほしい。
待ち時間が長い。特に夜間・休日。本当に必要な人が早急に受診できるような場所・人員が必要。
医師、看護師不足に力を入れてほしい。
医療、介護の質が人員不足のために低いのではないかと思う。
小児科が少なく、先生の高齢化も進み心配。
休日夜間等確実に医師が不足している。命の重さが都会に比べて低く思われている。

離島のため、高度な医療を受けにくい。
休日当番医の数が少ない（特に年末年始）、一人暮らしの高齢者への介護サービスの充実。
地域の総合病院に対して、救急の受け入れ態勢や通院時の対応などが破綻しているように感じる。
介護職員が不足している。募集しても集まらない。
適切な介護サービスや医療の提供や確保が困難。提供する医療や介護側の問題もあれば、受ける側にも様々な問題がある。制度をうまく利用し、必要以上のサービスを受ける人もいれば、様々な理由でサービス利用しない、できない人もいるなど。
介護職員が少ない為、充実したサービスが出来ない。
いままでの所得に応じて大きな額をかけたはずなのに、定年後要介護がついた場合負担額も大きくなっている。
医療介護職に対する給与が低い。
介護士、保育士の給料が本当に少ない。

【7. 防災・減災社会の構築】（60件中13意見を抜粋）

実際、大地震や津波がくることを考えると不安。
これから先「南海トラフ」と言われている中、避難経路など知らない人が多い。
南海トラフ情報が流れる中、他府県に比べ県・市の訓練・避難所対策が進んでいない。素人の地域に丸投げしている感じがする。
南海トラフが起きた時、真夏なら熱中症にならない対策はできているか？プライバシーが守られるテントなどの準備は十分か。諸外国の情報をもとに日本でも取り入れるべき。
南海トラフ地震に対してもう少し具体的な対策をわかりやすく提示してほしい。
他県の災害を踏まえ香川県での対策はどうなっているのか不安。
南海トラフ地震の地域でありながら訓練すらやった事がない。
行政が防災に関してどのような対策を行っているか、また今後行う予定等、危機管理体制の強化、物理的に準備していることは何か、よく分からない。
災害対応が非常に不十分である。防災庁を誘致するべき。
自身の居住する自治体での防災対策が十分だとは全く思えない。不十分であるし意識の低さを感じる。
香川県は災害が少ないため、災害に対する準備がほとんどできていない。例えば、近所の自治会館は市の防災マップで避難所に指定されているが、耐震されていない古い建物で、地震がくれば真っ先に倒壊するとおもわれる。県として最低でも避難所の耐震を確認して対応すべきと考える。
災害はいつおこるかかわからないので自主防災に力を入れてほしい。
防災対策の不足（防災士が少ない）。

【8. 安心して暮らせる水循環社会の確立】(23件中5意見を抜粋)

古い水道管の入替が進んでいるのか不安である。
ダム貯水量が60%を切らずとも、早くから節水を呼びかけるとか実践を行う。
全国の事故などのニュースを見るにつけ、インフラ設備の老朽化に対して準備ができていないように感じる。
毎年水不足が心配で、台風頼みになっている。
水の無駄遣い多すぎる。トイレの水は再利用水で流すなど義務付ける必要。

【9. 安全で安心できる暮らしの形成】(47件中6意見を抜粋)

深夜のバイクの音がうるさい。
車の運転のみならず、歩行者、自転車のマナーも悪い。
生活道路でも制限速度をオーバーしている車があるので、スピード違反の取締りをしてほしい。
防犯カメラの設置を推進してほしい。
ネット犯罪についてももっと取り組んでほしい。
詐欺などの電話がよくかかってくる。

【10. 定住人口の拡大】(86件中7意見を抜粋)

大型企業の誘致やかがわ移住PRが少ない。
日本の人口が減少している中、100万人の実現はかなり難しい。移住者を増やすことよりも今住んでいる人の生活向上を重要視してほしい。
遊べる場所が少ない。
定住促進の活動が不十分。
地域による格差を感じる。山間部の交通や購買の利便性を支援してほしい。
現時点で人口が毎月かなり減っている。とにかく子どもが産まれていない。若者が定住したくなるような仕事が少ないから仕事場が大事。香川県は南海トラフを除けば災害が少なく住みやすい地なので、そこをもっとアピールすべきだと思う。
空き家を放置せず、移住や若者の定住に利用すべき。

【11. 魅力ある大学づくり】(44件中6意見を抜粋)

大学の設備が古く、魅力を感じられない。キャンパスも汚い。
県内の大学では選択肢が少なく、県内での就職にもつながらない。
専門的な大学の充実強化してほしい。
四国の大学にはない学部の創設等、大学の知名度を上げる。

大学の持つ魅力や強みが地域に良く伝わっているようには思えない。大学が地域に貢献できるような場をもっと増やす必要があると思う。

県外の大学へ進学する子が多い。大学近辺の街作りなど工夫。

【12. 人権尊重社会の実現】（14件中3意見を抜粋）

会社やネットにおける人権の保護がまだまだ足りない。

令和の時代にも、生まれた地域を調べる方がいる。

子どもへの人権教育や道徳教育は充実してきているが、そのバックにいる大人への人権教育や道徳教育が今さら遅いかもしれないが大いに必要である。発言や行動から。

【13. 青少年の育成と県民の社会参画の推進】（9件中3意見を抜粋）

青少年の犯罪が多いから。

NPO・ボランティア活動の促進は全くできていないと思うので、もっと幅広く対応すべきだと思う。

生涯学習の窓口を広くしてほしい。

【14. 商工・サービス業の振興】（24件中7意見を抜粋）

目指すべきまちづくりの推進のため、どのような企業を誘致したいのかを明確にする必要がある。

重厚長大産業からの転換が遅れている。地域のDX推進につながる企業誘致が必要である。

もっと有名なお店等を増やしたら人も集まってくると思う。

人口が減少して商工業や農業の後継者不足が顕著にあらわれている。

全国から来られた人を買ってもらえる地域特産品を充実させる必要がある。

デジタル化しても使用できる人材がいないと意味がない。

中小企業の景気がよくなったと思えない。

【15. 交通ネットワークの整備】（132件中10意見を抜粋）

四国新幹線を実現して他県との交流を増やして欲しい。

免許返納後の交通手段が確立されていない。

公共交通機関が不便で車が無いと生活できない。バスも高い。

電車代・バス代が高い。

学生がバスの減便で困っている。

バスと船の時間調整が全然出来てない。小豆島。

交通機関の路線や便数が減っている。

道路を拡大するのでもいいが現状の道路が老朽化や狭いままのところが多いので将来を見据えて真に必要な補修工事や拡張工事を行ってほしい。
自動運転（A I）島から実績を上げ実用化、運転者不足（働く時間が定められている）。
新幹線整備より地域交通に注力すべき。

【16. 農林水産業の振興】（53 件中 10 意見を抜粋）

土地があるので米を作ってほしい。
農業は法人化を進め、安定した生産を収入、福祉につなげるべき。
休耕地がどんどん増えている。若い人の担い手育成。
香オリ3号、5号のメディアへのPRを強化すべき、やる気を感じない。
漁業、農業の人材育成が出来ていないと思う。
人口が減少して商工・農業の後継者不足が顕著にあらわれている。
農業の効率を上げる方法をもっと考え、時間とお金に余裕をもつにはどうするか考える。
放棄地が多い。JAと連携して放棄地を活用していけるよう考えてほしい。
生産性を高める農業の基盤整備。
個人の農業者では生計が成り立たない。

【17. 県産品の振興】（20 件中 5 意見を抜粋）

うどん以外にもっと力を入れるべき。
アンテナショップの場所もよく分からないし、うどんの知名度は抜群だが、その他にも追従できる県産品の認知度を高める必要があると思う。
行政と生産者との共同で販路及び認知度の向上に努力することが必要（特に都市部）。
うどん、骨付鳥、和三盆、そうめんぐらいしか知らない。お土産にできそうな県産の品を、質のよいものなどさらに増やしてほしい。
県産品（特に伝統工芸品）のアピールを充実させ、若者が伝統を次の世代に繋げるような取り組みをして欲しい。

【18. 雇用対策の推進】（51 件中 12 意見を抜粋）

まだまだ非正規雇用の人が多い。安定した雇用が約束され、安心して暮らせるようになって欲しい。
高齢者の雇用の支援をもっとすすめてほしい。
1次、2次産業を重点的に対策が必要。

働き方改革の推進と言いながら、職種によってかなり進んでいるところとそうでないところの差が大きいと思われる。
子育てしながら働くには厳しい。時短可能な期間の延長などあれば嬉しい。
多様な働き方にはまだ寛容になりきれない風土があるように思う。
いまだに労働時間が長い人の話を耳にする。労働時間の短縮とフレックスタイム勤務を企業に働きかけることはできないだろうか。
他県に比べて働き方改革がされていない。残業を少なくしたり、給料を上げる。
田舎は働く場所が限られており、働く場所がない。シフトへのしぼりが多い。
パート先に障害施設の人達が居ますが、その人達に対して労働環境がとても悪いと感じる。
どのライフステージでも働けるような環境が必要。
東京で働いている子どもが香川には働きたい会社がないので帰らないと。

【19. 外国人材の受入れ支援・共生推進】(52件中4意見を抜粋)

文化の違い、考え方など互いに理解できるよう交流を増やす。
外国人が地域のマナーを守らない(ゴミ出しなど)。生活の基準を教え込む。
日本語や日本で生活するためのマナーやルールの理解が不十分な外国人が働いている。
パート先に外国人が多数いるが、考え方の違いが大きく、とても大変。

【20. 環境の保全】(23件中6意見を抜粋)

CO ² の削減に向けて、もっと緑を増やしてほしい。
犬の殺処分がワースト2のニュースを見て、憤り、行政の遅れを感じたので譲渡活動を推進してほしい。
ごみ捨てをもっと厳しく取り締まるべき。
近頃、イノシシが近所で目撃されるようになり不安。
取り組みは様々あるようだが成果を感じない。
野良猫が多く、困っている。なんとかしてほしい。

【21. みどり豊かな暮らしの創造】(8件中3意見を抜粋)

街中に緑が少ない。
狭い土地の県ではあるが、もっと緑との接触のできる公園を！
県民の意識を高める必要がある。

【22. 活力ある地域づくり】（19 件中7意見を抜粋）

大型商業施設を誘致してほしい。あと、服を買うお店が少ない。
街中や商店街の活性化がもっと必要。デパートの活性化が1番必要。
商業施設の後退が大きい。
気軽に参加できる場が少ない。
高齢化により減少している祭りなどの復活。
集落機能の向上。
海外の方が香川で旅行しやすくなるよう、交通の便や案内表示（英語に）など充実させた方がよいと感じる。

【23. デジタル化の推進】（35 件中10意見を抜粋）

DXについては浸透しているとはいいがたい。もっと発信と推進を強化してもよいのでは。
情報ネットワーク網を網羅し、情報化時代に子どもから高齢者まで活用できる環境を整備し、気軽に利用できるようにしてほしい。
それを促進したり、他の県で成功事例を持つ特定の企業だけが儲かっている。県内にデジタル化を促進できる人材は限られ、無理があるので県内だけでどうかしようと思わず、県外の企業や成功例にアプローチすべき。四国全体で取り組むなど。
教育関係はもっとデジタル化が進んでもいいのではないかな。
子ども世代のネットリテラシーや使い方の指導も必要だが、親世代や高齢者も知識をアップデートしなければならないと思う。
もっと触れる機会が出来ればよいと思う。
高齢デジタル難民に対するサポートを地域や行政が積極的に行ってほしい。
歳をとった親はマイナンバーカードさえ持ってない。作れない。使えない。
何でもデジタル化させればよいわけではないと思う。もっと昔ながらの方法もうまく取り入れてすべき。
DX推進をするだけでなく、誰にも情報が正しく行きわたり、暮らしやすい社会の創造に目を向けてほしい。

【24. 交流人口の回復・拡大】（36 件中9意見を抜粋）

インバウンドに対するアピール、広告が弱いと感じる。自然での体験を押ししたい。
観光客はある程度確保できているようだが、大半が昼のみで宿泊しないため経済効果が低いように思える。
ここはすごいと思うような観光名所がない。
観光地となる場所が少ない。インスタやT i k T o kをもっと取り入れ宣伝する。宿の確保や交通の便をよくする！
栗林公園や瀬戸芸、アリーナなどの魅力をもっといろんな方法で発信すべき（インターネット、ユーチューバーなど）。

スポーツ観戦などへのアクセスが悪い。

上手でない人が楽しめるクラブチームが少ない。

香川県民、スポーツに対してあまり興味ない人が多い。

スポーツを志す若者が県外に出てもどってこない。香川県でも活躍してほしい。

(8)「子育て費用の社会的支援」について

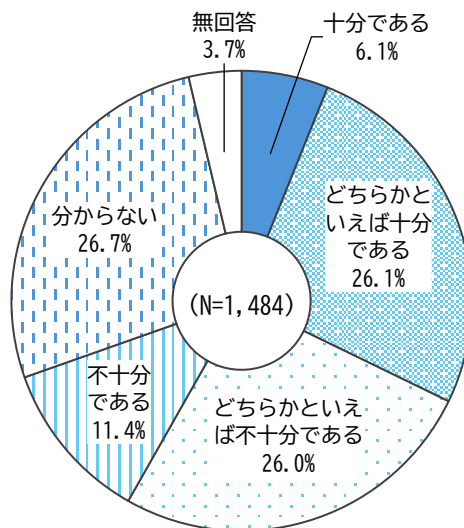
問31 あなたは、子育てにかかる費用について、社会的支援がなされていると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 ※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

1 十分である	6.1%(5.7%)
2 どちらかといえば十分である	26.1%(25.0%)
3 どちらかといえば不十分である	26.0%(26.7%)
4 不十分である	11.4%(12.9%)
5 分からない	26.7%(26.2%)
(無回答)	3.7%(3.5%)

「子育て費用の社会的支援」について、「分からない」26.7%が最も高く、次いで「どちらかといえば十分である」26.1%、「どちらかといえば不十分である」26.0%、「不十分である」11.4%となっている。

図表 6- (1) -1 「子育て費用の社会的支援」について



「子育て費用の社会的支援」について、性別にみると、「十分である」と「どちらかといえば十分である」を合わせた【十分である】の割合は『男性』30.5%、『女性』34.6%で、「どちらかといえば不十分である」と「不十分」を合わせた【不十分である】の割合は『男性』40.6%『女性』35.7%となっており、男女とも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、【不十分である】の割合は『60～69歳』を除くすべての年齢で【十分である】の割合を上回っており、『60～69歳』では【十分である】の割合が【不十分である】の割合を上回っている。

職業別にみると、【不十分である】の割合は『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』を除くすべての職業で【十分である】の割合を上回っており、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『無職』では【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、【不十分である】の割合は『東讃圏域』、『小豆圏域』を除くすべての圏域で【十分である】の割合を上回っており、『東讃圏域』では【十分である】、【不十分である】の割合が同率の34.5%となっており、『小豆圏域』では【十分である】の割合が【不十分である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【不十分である】の割合が【十分である】の割合を上回っている。

図表6- (1) -2 【「子育て費用の社会的支援」について】

	(1) 十分である	(2) どちらかといえ ば十分である	(3) どちらかといえ ば不十分である	(4) 不十分である	(5) 分からない	無回答		
凡 例							回答数	
全 体	6.1	26.1	26.0	11.4	26.7	3.7	1,484 人	
性別	男性	6.3	24.2	27.5	13.1	26.5	2.4	619 人
	女性	6.0	28.6	26.0	9.7	26.8	2.9	818 人
年齢別	18～19歳	11.1	11.1	22.2	33.3	22.2		9 人
	20～29歳	1.6	14.5	30.6	22.6	29.0	1.6	62 人
	30～39歳	2.4	25.2	31.7	24.4	16.3		123 人
	40～49歳	7.1	30.8	31.3	14.2	16.1	0.5	211 人
	50～59歳	7.3	26.6	26.3	10.8	27.0	1.9	259 人
	60～69歳	7.1	29.4	23.1	8.9	28.9	2.6	350 人
	70歳以上	5.7	24.3	24.3	7.3	33.1	5.3	453 人
職業別	農林漁業	7.5	30.0	12.5	10.0	40.0		40 人
	商工業、サービス業、自由業など	8.2	28.4	24.6	15.3	19.1	4.4	183 人
	会社、商店、官公庁などに勤務	6.4	26.6	29.1	13.2	23.2	1.5	659 人
	主婦・主夫	4.8	31.3	23.4	8.6	29.9	2.1	291 人
	無職	5.7	20.1	26.5	9.0	34.1	4.7	279 人
圏域別	高松圏域	6.6	25.0	26.6	10.4	27.7	3.7	737 人
	東讃圏域	3.5	31.0	24.8	9.7	24.8	6.2	113 人
	小豆圏域	7.5	22.5	17.5	10.0	40.0	2.5	40 人
	中讃圏域	6.6	27.7	25.1	12.7	25.1	2.9	411 人
	西讃圏域	3.8	25.1	28.4	13.7	24.6	4.4	183 人
居住年数別	3年未満	6.2	22.2	35.8	13.6	22.2		81 人
	3年以上～10年未満	4.8	21.4	31.0	17.9	24.4	0.6	168 人
	10年以上～20年未満	6.9	29.6	27.9	13.7	20.2	1.7	233 人
	20年以上	6.2	27.0	24.3	9.6	29.4	3.6	983 人

グラフ単位：（％）

(9)「男女共同参画」について

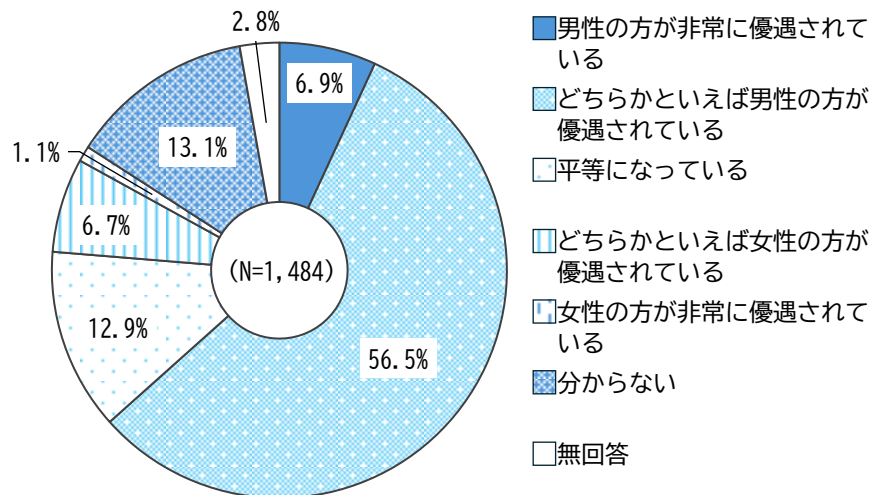
問32 あなたは、社会全体における男女の地位について、平等になっていると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 ※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

1 男性の方が非常に優遇されている	6.9%(6.7%)
2 どちらかといえば男性の方が優遇されている	56.5%(55.5%)
3 平等になっている	12.9%(13.3%)
4 どちらかといえば女性の方が優遇されている	6.7%(7.3%)
5 女性の方が非常に優遇されている	1.1%(1.2%)
6 分からない	13.1%(13.2%)
(無回答)	2.8%(2.7%)

「男女共同参画」について、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」56.5%が最も高く、次いで「分からない」13.1%、「平等になっている」12.9%、「男性の方が非常に優遇されている」6.9%などとなっている。

図表 6- (2) -1 「男女共同参画」について



「男女共同参画」について、性別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた【男性の方が優遇されている】の割合は『男性』53.4%、『女性』72.1%で、「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が非常に優遇されている」を合わせた【女性の方が優遇されている】の割合は『男性』12.6%『女性』4.2%となっており、男女とも【男性の方が優遇されている】の割合が【女性の方が優遇されている】の割合を上回っている。

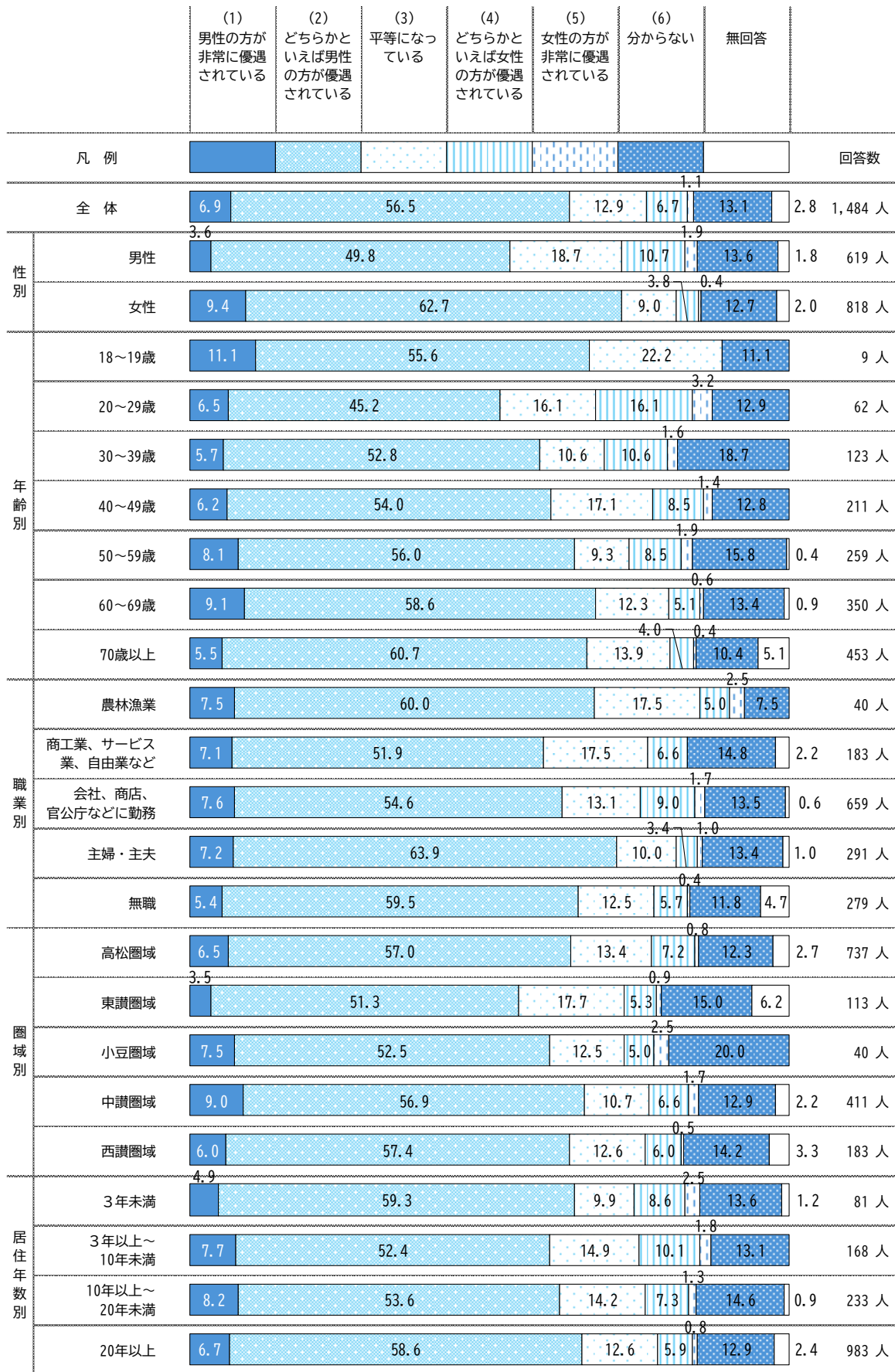
年齢別にみると、【男性の方が優遇されている】の割合は、いずれも【女性の方が優遇されている】の割合を上回っており、『60～69歳』で67.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【男性の方が優遇されている】の割合は、いずれも【女性の方が優遇されている】の割合を上回っており、『主婦・主夫』で71.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【男性の方が優遇されている】の割合は、いずれも【女性の方が優遇されている】の割合を上回っており、『中讃圏域』で65.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【男性の方が優遇されている】の割合は、いずれも【女性の方が優遇されている】の割合を上回っており、『20年以上』で65.3%と最も高くなっている。

図表6-(2)-2 【「男女共同参画」について】



グラフ単位：(%)

(10)「配偶者等からの暴力」について

【事実婚や別居中の夫婦、生活の本拠を共にしている交際相手などを含む配偶者等からの暴力（身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、生活費を渡さないなど経済的暴力）を受けた経験のある方にお聞きします】

問33 あなたは、あなたの配偶者等から暴力を受けたとき、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】※回答数の多い順に並び替え

1 身近な人に相談した	8.0%(7.9%)
2 公的な相談機関等に相談した	2.2%(2.3%)
3 民間の専門家や専門機関に相談した	1.2%(1.1%)
4 医療関係者に相談した	0.6%(0.7%)
5 学校関係者に相談した	0.5%(0.4%)
6 その他	2.0%(2.0%)
7 どこ（だれ）にも相談しなかった （無回答）	5.2%(5.1%) 83.6%(83.7%)

「配偶者等からの暴力」について、「身近な人に相談した（家族、友人、知人、職場の同僚など）」8.0%が最も高く、次いで「どこ（だれ）にも相談しなかった」5.2%、「公的な相談機関等に相談した」2.2%、「民間の専門家や専門機関に相談した」1.2%、「医療関係者に相談した」0.6%などとなっている。

図表 6- (3) -1 「配偶者等からの暴力」について

		回答数
全体	100.0	1,484 人
(1) 身近な人に相談した	8.0	119 人
(2) 公的な相談機関等に相談した	2.2	33 人
(3) 民間の専門家や専門機関に相談した	1.2	18 人
(4) 医療関係者に相談した	0.6	9 人
(5) 学校関係者に相談した	0.5	7 人
(6) その他	2.0	29 人
(7) どこ（だれ）にも相談しなかった	5.2	77 人
無回答	83.6	1,241 人

グラフ単位：（%）

「配偶者等からの暴力」について、性別にみると、男女とも「身近な人に相談した」が最も高く、『男性』6.5%、『女性』9.5%で、これに男女とも「どこ（だれ）にも相談しなかった」が『男性』5.7%、『女性』5.1%と続いている。

年齢別にみると『18～19歳』、『20～29歳』を除くすべての年齢で「身近な人に相談した」が最も高く、『18～19歳』では「公的な相談機関等に相談した」、「身近な人に相談した」が同率の11.1%と最も高く、『20～29歳』では「身近な人に相談した」、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が同率の4.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、『無職』を除くすべての職業で「身近な人に相談した」が最も高く、『無職』では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「身近な人に相談した」が最も高く、『小豆圏域』では「その他」、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が同率で最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』を除くすべての居住年数で「身近な人に相談した」が最も高くなっており、『3年未満』では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高くなっている。

図表 6- (3) -2 【「配偶者等からの暴力」について】

		全体	(1) 身近な人に相談した（家族、友人、知人、職場の同僚など）	(2) 福祉事務所など） かかわる男女共同参画相談プラザ、警察、市・町役場、	(3) 公的な相談機関等に相談した（子ども女性相談センター、性的暴力被害者支援センター、オリブかわわら、	(4) 民間の専門家や専門機関に相談した（弁護士、カウンセラーなど）	(5) 医療関係者に相談した（医師、看護師など）	(6) 学校関係者に相談した（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）	(7) その他	どこ（だれ）にも相談しなかった	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位							
全体		1,484	8.0	2.2	1.2	0.6	0.5	2.0	5.2	83.6	
性別	男性	619	6.5	2.1	1.5	1.0	0.8	2.1	5.7	84.2	
	女性	818	9.5	2.2	1.0	0.4	0.2	1.6	5.1	82.9	
年齢別	18～19歳	9	11.1	11.1	-	-	-	-	-	77.8	
	20～29歳	62	4.8	-	-	1.6	-	3.2	4.8	87.1	
	30～39歳	123	7.3	3.3	0.8	0.8	-	-	4.9	85.4	
	40～49歳	211	10.4	2.8	1.9	0.9	0.5	1.9	5.7	80.6	
	50～59歳	259	10.8	4.2	1.9	0.4	1.2	1.9	5.0	81.5	
	60～69歳	350	7.7	2.0	1.4	0.6	0.3	1.4	5.4	84.0	
	70歳以上	453	6.4	0.9	0.7	0.4	0.4	2.9	5.3	84.5	
職業別	農林漁業	40	7.5	-	-	2.5	-	2.5	5.0	85.0	
	商工業、サービス業、自由業など	183	10.4	2.7	1.6	2.2	1.1	1.6	4.4	82.0	
	会社、商店、官公庁などに勤務	659	8.2	2.6	1.2	0.3	0.3	1.4	4.6	85.0	
	主婦・主夫	291	9.6	2.1	1.7	0.3	0.7	1.7	5.5	81.1	
	無職	279	5.0	1.8	0.7	0.4	0.4	3.9	7.5	82.4	
圏域別	高松圏域	737	7.2	2.3	1.2	0.8	0.3	1.8	5.2	84.9	
	東讃圏域	113	8.0	1.8	4.4	-	-	0.9	3.5	85.8	
	小豆圏域	40	2.5	-	2.5	-	-	5.0	5.0	85.0	
	中讃圏域	411	10.5	2.2	0.5	0.5	0.7	2.4	6.1	80.0	
	西讃圏域	183	7.1	2.7	0.5	0.5	1.1	1.6	4.4	84.7	
居住年数別	3年未満	81	4.9	3.7	-	-	-	-	9.9	81.5	
	3年以上～10年未満	168	6.0	0.6	0.6	1.2	-	1.2	3.0	89.9	
	10年以上～20年未満	233	10.7	3.0	1.7	0.4	-	2.1	4.7	80.7	
	20年以上	983	8.1	2.2	1.3	0.6	0.7	2.2	5.3	83.2	

(11)「節水」について

問34 あなたは、普段の生活で節水をしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

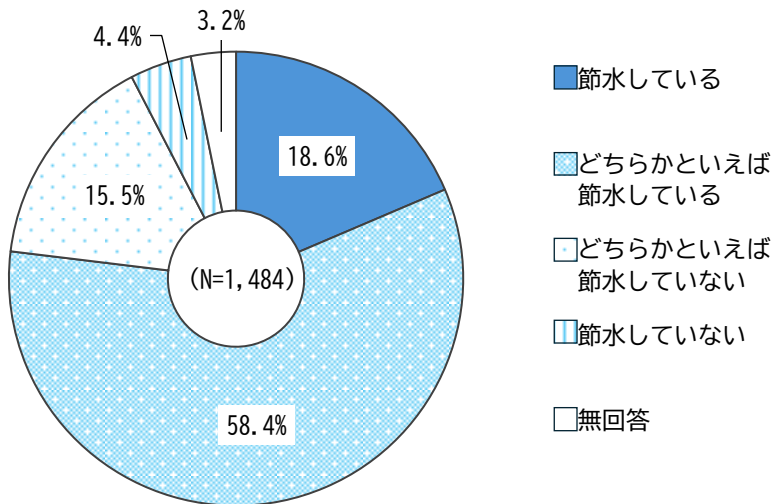
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

1 節水している	18.6%(18.4%)
2 どちらかといえば節水している	58.4%(57.6%)
3 どちらかといえば節水していない	15.5%(16.1%)
4 節水していない	4.4%(4.9%)
(無回答)	3.2%(3.0%)

「節水」について、「どちらかといえば節水している」58.4%が最も高く、次いで「節水している」18.6%、「どちらかといえば節水していない」15.5%、「節水していない」4.4%となっている。

図表 6- (4) -1 「節水」について



「節水」について、性別にみると、「節水している」と「どちらかといえば節水している」を合わせた【節水している】の割合は『男性』74.8%、『女性』79.6%で、「どちらかといえば節水していない」と「節水していない」を合わせた【節水していない】の割合は『男性』22.6%『女性』18.5%となっており、男女とも【節水している】の割合が【節水していない】の割合を上回っている。

年齢別にみると、【節水している】の割合は、いずれも【節水していない】の割合を上回っており、『70歳以上』で83.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、【節水している】の割合は、いずれも【節水していない】の割合を上回っており、『農林漁業』で90.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【節水している】の割合は、いずれも【節水していない】の割合を上回っており、『小豆圏域』で85.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【節水している】の割合は、いずれも【節水していない】の割合を上回っており、『20年以上』で79.5%と最も高くなっている。

図表 6- (4) -2 【「節水」について】

		(1) 節水している	(2) どちらかといえば 節水している	(3) どちらかといえば 節水していない	(4) 節水していない	無回答		
凡 例							回答数	
全 体		18.6	58.4	15.5	4.4	3.2	1,484 人	
性別	男性	19.1	55.7	17.1	5.5	2.6	619 人	
	女性	18.1	61.5	14.8	3.7	2.0	818 人	
年齢別	18～19歳	11.1	66.7	11.1	11.1	4.8	9 人	
	20～29歳	19.4	48.4	25.8	4.8	1.6	62 人	
	30～39歳	8.1	55.3	22.0	13.0	1.6	123 人	
	40～49歳	13.7	62.6	16.1	7.6	3.1	211 人	
	50～59歳	18.5	59.8	18.1	3.1	0.4	259 人	
	60～69歳	16.9	60.9	15.7	3.4	3.1	350 人	
	70歳以上	25.6	57.6	11.0	2.0	3.8	453 人	
職業別	農林漁業	32.5	57.5	10.0			40 人	
	商工業、サービス業、自由業など	19.7	53.0	14.8	8.2	4.4	183 人	
	会社、商店、官公庁などに勤務	15.0	59.6	19.4	5.2	0.8	659 人	
	主婦・主夫	20.6	62.5	12.7	2.4	1.7	291 人	
	無職	22.6	58.4	11.5	3.2	4.3	279 人	
圏域別	高松圏域	18.5	58.9	16.1	3.9	2.6	737 人	
	東讃圏域	11.5	59.3	15.9	5.3	8.0	113 人	
	小豆圏域	17.5	67.5	7.5	2.5	5.0	40 人	
	中讃圏域	18.5	58.9	15.1	5.4	2.2	411 人	
	西讃圏域	24.0	52.5	15.3	3.8	4.4	183 人	
居住年数別	3年未満	19.8	55.6	18.5	6.2	81	人	
	3年以上～10年未満	15.5	57.1	19.6	6.0	1.8	168 人	
	10年以上～20年未満	12.4	62.7	18.0	6.0	0.9	233 人	
	20年以上	20.8	58.7	14.2	3.6	2.7	983 人	

グラフ単位：（％）

(12)「運動・スポーツ」について

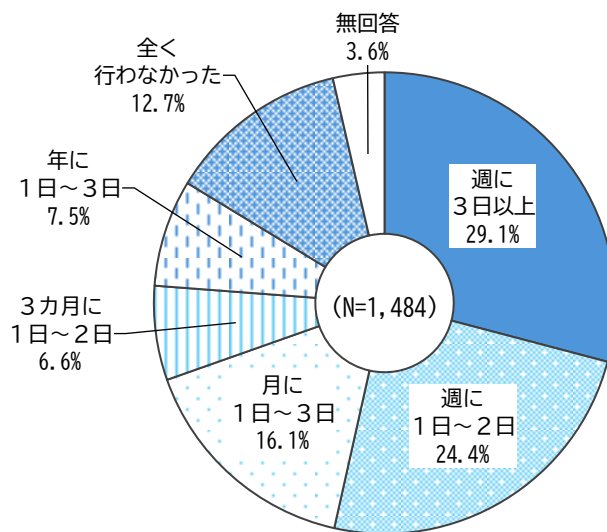
問35 過去1年間に、運動やスポーツ（ウォーキング（例：散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩き）、階段昇降、軽い体操（例：ラジオ体操・職場体操・美容体操）、野外活動（例：登山・キャンプ・釣り）などを含む。）を行った日数はどのくらいありますか。次の中から1つだけ選んでください。
 ※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,484】

1 週に3日以上	29.1%(29.3%)
2 週に1日～2日	24.4%(24.3%)
3 月に1日～3日	16.1%(16.8%)
4 3カ月に1日～2日	6.6%(6.4%)
5 年に1日～3日	7.5%(7.5%)
6 全く行わなかった	12.7%(12.1%)
(無回答)	3.6%(3.5%)

「運動・スポーツ」について、「週に3日以上」29.1%が最も高く、次いで「週に1日～2日」24.4%、「月に1日～3日」16.1%、「全く行わなかった」12.7%などとなっている。

図表 6- (5) -1 「運動・スポーツ」について



「運動・スポーツ」について、性別にみると、男女とも「週に3日以上」が最も高く、『男性』32.5%、『女性』27.0%で、これに男女とも「週に1日～2日」が『男性』22.3%、『女性』26.4%と続いている。

年齢別にみると、『30～39歳』、『40～49歳』を除くすべての年齢で「週に3日以上」が2～6割台と最も高く、『30～39歳』、『40～49歳』では「週に1日～2日」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「全く行わなかった」が最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『無職』では「週に3日以上」が最も高く、『主婦・主夫』では「週に1日～2日」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「週に3日以上」が2～3割台と最も高く、『小豆圏域』では「週1日～2日」が32.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「週1日～2日」が最も高く、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「週に3日以上」が最も高くなっている。

図表 6- (5) -2 【「運動・スポーツ」について】

		(1) 週に3日以上	(2) 週に1日～2日	(3) 月に1日～3日	(4) 3カ月に1日～2日	(5) 年に1日～3日	(6) 全く行わなかった	無回答	回答数	
凡例										
全体		29.1	24.4	16.1	6.6	7.5	12.7	3.6	1,484人	
性別	男性	32.5	22.3	14.7	8.2	6.6	12.6	3.1	619人	
	女性	27.0	26.4	17.5	5.5	8.3	13.0	2.3	818人	
年齢別	18～19歳	66.7					11.1	22.2		9人
	20～29歳	30.6	27.4	24.2	1.6	8.1	6.5	1.6	62人	
	30～39歳	23.6	24.4	18.7	8.9	5.7	17.1	1.6	123人	
	40～49歳	16.1	25.6	22.7	10.9	11.8	12.3	0.5	211人	
	50～59歳	27.0	21.2	18.5	9.3	11.2	12.0	0.8	259人	
	60～69歳	31.4	25.4	14.9	5.4	5.7	14.0	3.1	350人	
	70歳以上	35.8	25.6	11.3	4.4	5.5	12.6	4.9	453人	
職業別	農林漁業	22.5	22.5	15.0	5.0	10.0	25.0		40人	
	商工業、サービス業、自由業など	24.0	21.9	15.3	7.1	7.7	20.2	3.8	183人	
	会社、商店、官公庁などに勤務	26.9	22.2	18.8	9.6	9.7	11.5	1.4	659人	
	主婦・主夫	27.1	36.1	13.7	3.8	5.8	11.0	2.4	291人	
	無職	41.2	22.2	14.0	2.9	2.9	11.8	5.0	279人	
圏域別	高松圏域	31.9	24.7	14.2	7.1	6.9	12.2	3.0	737人	
	東讃圏域	24.8	22.1	13.3	6.2	14.2	10.6	8.8	113人	
	小豆圏域	15.0	32.5	20.0	7.5	12.5	12.5		40人	
	中讃圏域	26.0	24.8	17.3	5.8	7.8	14.6	3.6	411人	
	西讃圏域	30.6	21.9	21.9	6.6	3.8	11.5	3.8	183人	
居住年数別	3年未満	24.7	28.4	19.8	9.9	7.4	9.9		81人	
	3年以上～10年未満	23.8	25.0	20.2	8.3	10.1	9.5	3.0	168人	
	10年以上～20年未満	30.5	22.3	18.5	6.4	9.9	11.6	0.9	233人	
	20年以上	30.4	24.9	14.9	6.2	6.6	13.7	3.3	983人	

グラフ単位：(%)

